

は大差はない。
黨ビユーロー東亞地方の各洲、チタ
洲、イルーツク洲も又上述の如き組織を
有してゐる。
ブリヤート蒙古ではアイマク（旗）の
下に區同様の組織を持つてゐる。

最近の政治情勢

一九二五年わが北樺太保障軍の引揚げ
が行はれてから、ソ聯東亞は完全に現ソ
聯政權下の政治、經濟システムの中に入
り、一九二八年にはソ聯東亞開發第一
次五年計畫を迎へた。

然し第一次五年計畫の終り頃から第
二次五年計畫にかけてソ聯東亞には重
大問題が起きてきた。即ち滿洲事變の勃
發一九三一年とそれ以後の日滿對ソ聯關
係の險惡な政治關係がそれである。

滿洲事變後、ソ聯邦は公然とソ聯東亞
を「大洋沿岸における社會主義の前哨基
地」であると共に又「ソ聯東正面の防備
第一線」と稱して、歐洲方面より兵力を
ソ聯東亞に向けて移動しはじめた。かく

て殆んど無防備状態だつたソ聯東亞も今
日では約八〇萬の大軍を擁した武装のソ
聯東亞に變つた。

ソ聯當局がソ聯東亞を如何に重視して
ゐるか、かの一九三七—三八の血の肅清
時代に於けるソ聯東亞地方黨委員會書記
の頻々たる交代及びブリユツヘル將軍の召
還、行方不明の事實を見ても理解できる。

共產黨員と主腦陣

ソ聯東亞の政治的意義の重要性は、ま
た人口中における黨員の高比率のうちに
も現はれてゐる。一九三九年三月現在、
全邦聯平均人口一千人當り正の員數は九
人であるが、沿岸地方では人口千人に對
し二四人、ハバロフスク地方は約一五人
である。

なほ一九三九年三月現在の沿海地方の
正黨員數は二萬二千人、ハバロフスク地
方のそれは二萬一千人であつたが、それ
以後一九四一年二月に至る期間中の黨員
の増加率は全邦聯平均約五七%を示し、
また正黨員に對する黨員候補の比率は五
四%であるから、これ等を採用して四一

年二月現在の沿海地方及びハバロフスク
地方の黨員數はほゞ一〇萬といへよう。

ソ聯東亞の各行政區劃の黨委員會第一
書記は左の如くである。

沿海地方黨委員會書記

エヌ・エム・ベゴフ

ハバロフスク地方黨委員會書記

ゲ・ア・ボルコフ

チタ洲地方黨委員會書記

イ・ア・クズネツォフ

ブリヤート蒙古自治共和國地方
黨委員會書記

エス・デ・イグナーチエフ

ソ聯東亞經濟概観

第一次五年計畫

(一九二八—三二年)

一九二二年十一月十八日「東亞共和國」
がロシヤ・ソヴェート共和國に合併し、
その不可分の有機體の一部となつて以
來、東亞の經濟建設のコースは勿論、全
聯邦の國民經濟發展の基本コースに結
つけられて發展してきたのである。だが

第一次五年計畫時代にはソ聯邦東部地
方の開發は主として歐羅巴部分に接した
ウラル、西部シベリヤ地帯の工業化に主
力が注がれ、東亞の大部分はまだ資源調
査及び開發準備の時代であつた。

このことは第一次五年計畫原案に於け
る投資計畫により明かである。

即ちソ聯邦の總投資額は最大限案で約
一九〇億留、最少限案一六〇億留であつ
たが、當時の行政區劃におけるシベリヤ
地方は約六億留で、ブリヤート蒙古自治
共和國は一四〇〇萬留舊東亞地方（現在
の沿海、ハバロフスク地方）は約二億留
にすぎなかつた。

左にソ聯東亞第一次五年計畫の原案骨
子を示せば左の如くである。

- 1、移民八〇萬五千人
- 2、交通

イザバイカル、ウスリー鐵道の強化
ロ、延長八〇料の鐵道新線建設
ハ、尼港、浦鹽港、アレクサンドロ
スク、ペトロパウロフスク港の強
化

3、工業

イ、操業中の炭礦の強化、ブガチャ
チカ及び北樺太炭礦の開發
ロ、北樺太油田の開發
ハ、沿海、ハバロフスク、チタ各地
方の發電所建設

ニ、ザバイカル冶金工場、浦鹽造船
所、アムール河造船所の建設

ホザバイカル木材化學工場、ドロ
ニ曹達工場の新設

4、農業

イ、農業機械總額五〇〇萬留、ト
ラクター四五〇〇臺の導入
ロ、米の作付面積を八萬ヘクタール
とし、二萬七千ヘクタールの土地
を干拓し、一萬七千ヘクタールの
土地に灌漑を施す。

ハ、ソフホーズを創設し、その土地
を一八萬ヘクタールとする等々あ
る。

次にその實積を見ると、一般的に言つ
て計畫の未遂行に終つてゐるが、この五
年間の生産の増加は東亞地方に於ては金

屬工業七倍、燃料工業二倍、東部シベリ
ア（現在のイルクーツク州、チタ州）地
方においては發電業四倍、石炭業、鑛
業、製材、食糧品工業それぞれ二倍と
いふ數字となつて現れてゐる。

第二次五年計畫

(一九三三—三七年)

第二次五年計畫原案作成當時の東亞
に關すロシヤ共和國人民委員會會議の決議
によれば、

- 一、社會主義經濟及び文化の基礎の設
定並にその發展
- 一、右目的の遂行に際しこの障礙の除
去

一、新經濟部門の建設と大電力を基礎
とする第三次五年計畫への下準備
一、東亞地方に於ける原料、燃料等の
自給自足を確保するため、石炭業の
製鐵業林業、金鑛業、罐詰工業、農
産物加工業の工業化を實施する、と
いふ五項目からなつてゐた。
即ち東亞地方に於てこの五年間に四

○億五九〇〇萬留の投資が豫定され、實積は原案の約二倍の七七億八〇〇〇萬留にのぼる、全聯邦の總投資額の十五分の一が投資されたのである。然しこの第二次五ヶ年計畫の課題があまりにも龐大過重にすぎたために、一般的に見てその實積は未遂行に終つたが、イルクーツク州の工業生産額は一九三二年の八三〇〇萬留から一九三七年の二億四〇五〇萬留に増加を示し、またブリヤート蒙古自治共和國においては全國民經濟中に占める工業の比重は第一次五年計畫當時の一二%より七一%に躍進してゐる。更にハバロフスク地方においては採炭は五倍、採油は二倍、鐵道の貨物輸送は三倍以上、河川運輸は三倍以上、漁獲高は二倍、商業流通高は約五倍近く増加した。

第三次五ヶ年計畫

(一九三八—四二年)

一九三九年三月第十八回黨大會においてスターリンは「東亞の第三次五年計畫においては經濟的、支化的建設はすべて

國防力強化の見地から決定すべきである」と述べてゐるが、全く東亞の第三次五ヶ年計畫は「對日攻勢の五ヶ年計畫」の觀があり、東亞を名實共に完全に獨立作戦單位に化することを期したものでありと見られる。今日までのところ、その計畫の全貌は未だ明かにされてゐないが、第十八回黨大會において示されたものから綜合すれば大體左の如くである。

- 一、新建設の地理的配置に關しては原料産地及び消費地區への近接を考慮し、且經濟的に立ちおくれた地區の開発を圖ること
- 二、ソ聯全投資額の一〇%即ち一八〇億留を東亞地方に投資し、生産力を三倍以上に擴張する。即ち電力生産を三倍乃至四倍に、採炭二・七倍に増加し、製鐵基地及び自動車工場を新設、燃料及びセメントを自給の域に達せしめる等。
- 三、舊東部シベリアに於ては電力生産を二・八倍、採炭を二・三倍に増加し、製鐵基地を新設、セメント及び

バルブ工業の發展を圖る。

- 四、バム鐵道の建設續行
 - 五、重量貨物、容積貨物の可及的現地生産と自給自足
 - 六、農業及び工業移民の大量誘致
 - 七、地質特に埋藏資源調査の擴充強化
- 而してこれらの計畫も第一次、第二次五年計畫の實積から推して、その完全なる遂行はおそらく不可能と思はれるが、極東の獨立作戦單位化を目ざす急躍進ぶりは充分注目に値ひする。
- 地方別第三次五年計畫の概要を示せば左の如くである。

- 沿海地方
- 一、石炭業 スーチヤン、アルチョム、タヴリチヤンカ炭坑の擴張。
- ヴォロネーロフ、スラジエフカ、ペーラヤ、バーヂ、モルチャーフカ、モロトフ、バラバンシェフ等の新炭坑の開発着手。
- かくて總産額を二・五倍とし、石炭の自給自足をはかる。
- 二、電力業

高壓の配電網を有する電力環を設け、一發電所の運轉休止の際にも他の發電所が必要電力を供給しうるやうに整備する。

このためにアルチョム發電所、ソプガワニ發電所、テチュヘ發電所を擴張すること。

三、製鐵及び機械工業

オリガの鐵礦とスーチヤン炭を結合して冶金業を建設する。

機械工業では浦鹽、ウオロシロフ、ルージノ等の鐵道車輛修理工場を増設する。

四、林業

一九三九年沿海地方林業トラストを組織し、林業機關所屬の全トラクタを四二年までに瓦斯燃料に變へる。

五、漁業

浦鹽に造船所、ソヴェート・ガワニに大冷蔵庫を建設する。

六、農コルホーズ品の激増を豫想し、強力な移民事業管理機關を創設し、

それに製材工場、營林署を從屬させ、移民收容のための住宅を多數建築する。

ハバロフスク地方

一、石炭業

採炭量を一九三七年の一八四萬噸から七八〇萬噸に増大。

更に多年の懸案だつたプレーヤ炭田の開発を事務的にやり、總出炭能力二五五萬噸の一〇箇の炭坑を建設し、これと同時に地方的需要に應ずるために總出炭能力六一萬五千噸の十八箇の小炭坑を開發する。

二、石油業

採油量を三・六倍に増加、このために北樺太エヘビ油田の開発を強力する。

更に北樺太油田と尼港間に送油管を敷設し尼港に石油分解工場を建設する。

三、製鐵業

コムソモリスクのアムール製鋼所に

鑄鐵爐を二基新設し、銑鋼一貫作業を実施する。

四、建設材料工業

「歐露より東部向けのセメント移出を清算すべし」といふ第十八回黨大會の決定に従ひ、現地の原料によりロンドコ(ユダヤ人自治洲)、チエゴヤン(アムール洲)、ハバロフスク、コムソモリスク等にセメント工場を建設し、自給自足を確立する。

五、林業

一九四二年の木材調達總高を加工用材で一六〇〇萬立方メートル(三七年に對し一九〇%の増加)に達せしめる。またコムソモリスクに年産四萬噸の製紙コムビナートを建設する。

六、漁業

三七年の製品高一八一萬ツェントネルより三〇〇萬ツェントネルに増加。

七、食料品工業

總生産額を三七年の三八〇〇萬留より約三倍の一〇〇〇萬留に増加さ

す。即ち肉の生産を八八・四%、腸詰製品を二〇四・八%、パン製造を一三一・四%ウオツカを五九・八%増産する。

八、農業

總作付面積を五四萬三千ヘクタールより八〇萬ヘクタールに擴張し、馬三五%、牛四二五%、豚一〇〇%、緬羊及び山羊を一一二・八%増加の豫定

九、運輸

尼港を修築して貨物船及び碎氷船の大基地とする。またスレチエンスクより下流の黒龍江水路を浚渫し、東行貨物を船舶輸送して鐵道の過重負擔を軽減する。なほ三千軒以上の道路を建設して奥地と連絡を密にする。

チタ洲

一、石炭業

チルノフスキー、クルバガタイ、ブガチャチカ炭坑の採炭量を倍加し、

トルバガル等の開發を行つて年産五〇萬噸に増加する。

二、電力業

地方經營の發電所二〇箇以上、合計出力約三萬キロワットの建設。

三、製鐵業

ペトロフスク・ザバイカリスキー製鐵コムビナートに鑄鐵爐二基を建設し、平爐四基、壓延工場、ガス發生爐、中央發電所を有する鐵鋼一貫の製鐵所を完成する。

四、非鐵金屬冶金業

シエロツヤ・ガラの錫製煉コムビナートの強化。

五、輕工業及び食料品工業

チタ製革コムビナートに鞣皮製造能力二二萬五千枚の新工場、年産一〇〇萬足の製靴工場を新設する。また食料品工業は總生産高を一倍乃至四倍に増加する。

六、農業

總作面積(約六〇萬ヘクタール)を五〇%擴張す。特に穀數の作付面積

を四八萬ヘクタールより六二萬ヘクタールに擴張し、農産物の自給自足をはかる。

ブリヤート蒙古自治共和國

一、石炭業

採炭量を一九三七年の三〇〇萬噸より二倍の六〇〇萬噸に増産し、州内の需要に應ずるばかりでなくモロトフ、アムール兩鐵道に補給する。

このためにチエレムホヴォ炭坑の採炭量を約二倍に増加するほか、デリユーリ、バルハトフ、カンシュタクの三坑を開發し合せて計三三萬噸を得る。

二、電力業

イルクーツク・チエレムホヴォ新重工業地帯へ電力を供給するために、チエレムホヴォ炭を燃料とする第一期出力三・五萬キロワット(總出力一五萬)の發電所を建設する。

三、製鐵業

イルクーツク・チエレムホヴォ重工

業地帯のボロヴィンナに鉄鐵五五

萬噸、銅五五萬噸、壓延鋼三七萬噸

の製鐵所を建設する。

四、化學工業

同じくイルクーツク・チエレホヴォ重工業地帯に年産能力一三萬噸の石炭液化工場及び年産三千噸の合成ゴム工場を新設する。

五、農業

總作付面積を三七年の七四萬ヘクタールより九六萬ヘクタールに擴張し、コムバインは四八一臺より二五八四臺に、トラクターは二八四六臺より七六六臺に増加する。

資源及重工業

革命前の極東には家内工業を除くと製粉醸造その他若干の日常品工業があるにすぎなかつた。第一次五年計畫期に極東の工業は著しい發展を示したが、重工業乃至軍需工業を中心とする大々的な工業建設が開始されたのは第二次五年計畫に入つてから、先づ滿洲事變以後のこと

ある。

工業の發展狀態を重工業への投資額について見ると、三二年の五八〇〇萬留から三六年度の三億三四〇〇萬留、三六年度の六億留計畫へ、同生産額は夫々四九〇〇萬留、二億八八〇〇萬留、三億六千萬留計畫へと著しい増加を示してゐる。しかし工業の發達は資源の豊富さに比較するとなほ緒についたと程すべき狀態で、發達顯著なものは動力の電化採炭、採油、産金及び金屬工業の一部、窯業並びに漁業干燥工業で、食料品工業、木材工業は發展が遅く、被服工業その他輕工業は最も後れた部分である。

製鐵業

埋藏量三十一億噸の豊富な鐵礦資源を有しながら、ザバイカル地方に僅か鐵鋼材數萬噸の生産があるに過ぎない。しかも鐵材消費量は三七年の一ヶ年に八〇萬噸に上る狀態である。

こゝに於て既存設備の再建及び製鐵所の新設が盛んに行はれてゐる。

一、ペトロフスク冶金工場

チタ洲にあり、一七八九年の創設で一九三七年に擴張工事が一部完成した。鑄鐵爐が一基、アルチル爐二基が活動中で四〇年度にアルチル爐二基が新に据付けられたはずである。鐵鋼一貫作業を行つてゐる。燃料はチエレムホヴォ炭を用ひ、バレ、ギンスコエの鐵礦を用ひてゐる。

二、クイブイシエフ金屬工場

イルクーツクにあり。現在アルチン爐二基を有し、ソ聯屈指の鑄山機械工場。三七年の生産額は一萬六千噸、壓延鋼一萬七千噸である。

三、アムール製鐵所。コムソモリスク

市郊外にあり。三五年起工、第三次五年計畫期間中に完成のはず。鋼材八〇萬噸の生産が目標で、第三次五年計畫末(四年まで)には鑄鐵爐(二一立方米)二基を備え、年産五〇萬噸の鉄鐵を生産し鐵鋼一貫作業を行ふことになつてゐる。現在アルチン爐二基に壓延工場が活動を行つてゐるようである。コークス炭はチエ

レンムホーヴォ炭、原鑛はニコラエフスク鑛床より供給されてゐるが、將來はブレイヤ炭と小興安嶺鐵鑛を使用することゝなつてゐる。

二、錫
ザバイカル地方に産出され、三十八年度生産高五千噸で全ソ聯産額の一〇〇%を占めてゐる。ハブチエランガ、シルローヴァヤ・ガラ、及びオノンの各錫コンビナートその他の鑛山がある。

産金業

非鐵冶金業

産金業は東亞地方鑛業の先驅者で、河川は悉く砂金を産し、また鑛金も多い。埋藏量は六千一萬噸で全ソ聯埋藏量の六〇%を占めてゐる。主要な産地は黒龍江上流、ゼーヤ、ブレイヤ、ヒンガン、コルイマ、バレ、ダラスル、レナ、ヴァイ

亜鉛、鉛、錫、アンチモン、アルミニウム、ニッケル、モリブデン、ヴォルフラム等の非鐵金屬の埋藏量が多く、新鑛の発見も行はれてゐるが、現在はその一部が開發されたにすぎない。

ブリヤート蒙古ジグダ鑛床の埋藏量は全ソ聯埋藏量の六〇%を占め、ジダのヴォルフラム・コンビナートは八〇〇噸の生産を有し、全ソ聯需要量の三〇―四〇%を供給してゐる。またチタ州ハダ・ブライクにもザバイカル・ヴォルフラム・コンビナートがある。

四、モリブデン

ソ聯東亞の生産高は一七〇噸で全ソ聯産額のほゞ一〇〇%を占めてゐる。主要産地はブレイヤ河上流ウマリタ鑛

床で同名のモリブデン・コンビナートが經營開發に當つてゐる。三五年選鉛工業が完生し、三七年には數百噸を生産する豫定であつた。ザバイカルのチコイカ上流でもクラスノチコイ・モリブデン・コンビナートが經營を行つてゐる。

五、砒素

キタ洲がソ聯第一の埋藏地で、アルガチ鑛山の産額は二六〇噸。全ソ聯に供給してゐる。チタ洲アギンスキー鑛山若干ある。

つて補つてゐる状態である。その産額約一三一萬噸に上つてゐる。主要炭鑛左の如し。
一、スーチャン炭鑛
埋藏量一〇億噸、現在東亞地方唯一の瀝青炭及び半無煙炭。三十八年度採炭高四一萬噸。東亞海軍關係が主要な供給先である。

二、アルチヨム炭鑛

埋藏量一五億噸。褐炭鑛、三十九年度採炭量一九一萬噸。機械化の程度は東亞隨一である。

三、ライチハ炭鑛

埋藏量五億噸。三十七年度採炭高一〇七萬噸、ブレイヤ驛に出しアムール鐵道その他の需要に當てる。

四、キツダ炭鑛

ブレイヤ河下流にあり、三十七年度採炭高四一萬噸、褐炭鑛である。

五、北樺太諸炭鑛三十九年度採炭高四〇萬噸で採炭の機械化が進歩してゐる。

六、ブカチャヤ炭鑛

チタ洲唯一の瀝青炭。埋藏量一億噸で

東亞には現在四十六ヶ所に炭田が発見されて居る。地質學的埋藏量二三〇〇億噸といふ驚くべき數量に上るが、確定埋藏量は一六億噸である。それは探鑛事業が充分行はれてゐないことを示すものと言ふべきであらう。三九年度のソ聯東亞の總採炭高は一八〇萬噸である。需給關係よりみて自給のできるのはイルクーツク州のみで、他の地方はその不足分をイルクーツクのチエレムホーヴォ炭によ

コークス化可能。三十七年度採炭高八五萬噸、東亞、モロトフ鐵道に供給してゐる。
褐炭鑛で埋藏量一億噸。三十七年度採炭一三六萬噸。
八、チエレムホウヴォ炭鑛
總埋藏量の一五億噸といはれる同名の鑛區の中心炭鑛で、埋藏量六億噸と程され瀝青炭鑛である。一八九一年より開發され、二八年度採炭高六五萬噸、三三年一五〇萬噸三八年三三七萬噸と増加してゐる。三二年に機械化に着手され、最新式の裝備を備へてゐる。

石油業

石油の産地としては北樺太、カムチャツカ、バイカル湖岸が知られてゐるか、現在稼行中のものは北樺太のみである。北樺太油田は東海岸に沿つて三五〇軒に互つて延びてゐて、總埋藏量約三億四千萬噸確定埋藏量一三〇〇萬噸である。サハリン石油トラストが經營採油に従つてゐる。三九年度採油高四七萬噸、現

在採油の中心地はオハからエハビに移つてゐる。原油はオハから送油管で西海岸モスカリゾオに送り、同港からハバロフスクの精油工場に輸送される。ソ聯東亞の石油需要高は東亞地方四〇萬噸、東部シベリヤ三〇萬噸、ブリヤート蒙古一〇萬噸、これにストックその他を合計して約一〇〇萬噸と見られる。不足はバクイ方面より移入されてゐる。

なほ三十年よりイルクーツク附近にチエレムホウヴオ炭を原料とする生産能力三六萬噸の石炭液化工場の建設が開始されてゐる。

發 電 業

一九二〇年レーニンが提唱した全國電化計畫により「ロシア電化國家委員會」が設置され、電化計畫實現のため協力が續けられ、第二次五ヶ年計畫期間には全國の電化は著しく進んだ。殊に東亞に於ては電化は急激な發達を見、三七年現在の發電設備容量約三〇萬キロワットに達し、第一次五ヶ年計畫期から第二次五ヶ

年計畫期にかけての労働者一人當電力量の増大率は三一・九%に上つて、全ソ聯平均六九%を遙かに越えてゐる。しかし前記の發電設備容量は全ソ聯の僅か三・六%にすぎず、發展水率はなほ著しく低い現状である。

ソ聯東亞の發電量は約七億七千萬キロワット時で、殆んど全部が火力發電であり、燃料は主に石炭を用ひ一部重油が使用されてゐる。
水力資源は極めて豊富で年平均六三〇萬キロワットの起電力がある。第三次五年計畫では工業の増大する動力需要に應ずるためゴリユン、バイカルの他多數の水力發電所建設が豫定されてゐる。前者は重工業都市コムソモリスクに電力を供給せんとするもので、計畫出力七・五萬キロワットと云はれ、四一、二年には運轉開始のはずである。後者はバイカル湖一帯に製鐵、合金化學、人造ゴム、石炭液化綜合企業を起さうとする計畫の第一歩たるものであるが、その完成は未定である。

機 械 工 業

東亞ソ聯に於ては、從來、浦鹽附近の兵器關係工業以外に見るべきもの殆んどなかつたが、第二次五ヶ年計畫以後兵器、造船、自動車、車輛、機關車、鑛山及び農業機械工業が急激な建設發達を見せようとしてゐる。これは一に東亞における軍備擴充と産業建設の要請によるものである。第二次五年計畫におけるソ聯東亞の總投資額八〇億、その四分の一は重工業に向けられ、重工業に投ぜられた資金の四分の一は機械工業に投ぜられてゐるといはれるから、この期間の機械工業への投資額は約五億留と見て誤りなからう。生産高は三一年度の五七〇萬留から三五年度の八〇〇萬留へと顯著な増加を示してゐる。

しかし、ソ聯東亞に於ける機械工場の大部分は組立または修繕工場であつて大型機械及び精密機械の製作に従ふ大規模な工場は極めて少い。技術水準の低さと、冶金工業の未發達がその主因をなす

ものであらう。しかし資源の開發と冶金工業の建設計畫が遂行せられた曉には、現地の需要と相待つて機械工業も飛躍的成長を遂げることゝ想像される。現在發達しつつある機械工業中心地は浦鹽、ヴォロシロフ、ハバロフスク、コムソモリスク、イルクーツク、ウラン・ウデである。

現在製作される機械中、大部分を占めるものは農具であるが、トラクター・コムバイン等の製造はなほ行はれてゐない。

一、兵器、航空工業

性質上明かではないが、浦鹽、ヴォロシロフ、ハバロフスク、コムソモリスク、ウラン・ウデ等には大規模な設置されてゐるものと思はれる。

二、造船業

浦鹽、コムソモリスク、ソフガザニ、ニコラエフスク、ペトロハヴロフスク、ブラゴヴェンチエンスク、スレテンスク、ウラン・ウデ等には河川及び海洋船舶の修理工場があり、この内には建艦工

場のある處もある模様である。

三、車輛工場

鐵道輸送が非常に増加したのに伴つて既存工場の擴張、新工場の開設が行はれてゐる。新設工場中大規模なものはウラシウデの鐵道工場で、機關車貨車の修理を行つてゐる。既存工場中の主要なものはイルクーツク車輛製造工場、チタ機關車修繕工場、ミハイロチエフスキー車輛修繕工場、ヴォロシロフ機關車修繕工場等である。各工場ともまだ機關車及び客貨車の製造は行つてゐないやうである。

四、自動車工業

浦鹽、ニコラエフスク、ハバロフスク、コムソモリスク、イルクーツクその他には相當の組立修理工場があり、トラクター修繕も行ひ、小部分品の製作に當つてゐる。

五、食料品工業

浦鹽、ハバロフスク、ブラゴヴェンチエンスク、チタ、ウラン・ウデ、イルクーツク等に大規模の製粉綜合工場があ

る。ソ聯東亞の全生産高一二〇萬噸見當である。

またソ聯東亞の魚類罐詰工場は各地にあり、現在年産額六五〇〇萬函に上つてゐる。その他チタ、ウラン・ウデ、イルクーツク、チエレムホウヴオの製肉綜合工場、ヴォロシロフには製糖工場、浦鹽、ブラゴヴェンチエンスクの製菓工場、ヴォロシロフのニコヤン綜合油脂工場、ブラゴヴェンチエンスクの製油工場、浦鹽、イルクーツクの製茶工場及び浦鹽に煙草工場がある。

六、窯業、石灰石、耐火粘土、その他

從來各地で煉瓦、石灰が製造されてゐたが、ソ聯東亞建設の強行の結果、建築材料の不足を來たし、遂年特に煉瓦、セメント工業の確立を急いでゐる。

煉瓦工場は浦鹽、ヴォロシロフ、コムモリスク、イルクーツクその他の新式工場が建設され、總生産高は三七年年度の計畫は六億箇となつてゐる。

石灰工業はユダヤ人自治州のロンドコ及びウスリー州スペースクに大規模のもの

があるほか、浦鹽、ウラン・ウデ其他にある。

セメント生産高は三二年の三・六萬噸から三七年の一六・四萬噸へ引上げられたが、三二年の消費高三八萬噸と推算されるから自給は出来ない。現在製造は大部分スパスク工場で行はれてゐるが、第三次五ヶ年計畫中にロンドコ工場の擴張を完成し、チエゴヤン、ハバロフスク地、北樺太等に工場新設の豫定である。硝子工場はウラン・ウデ工場を最大として、キパリソゾオ等にもある。

農 業

概 観

ソ聯東亞はその開發が主として農業移民によつて行はれた關係上、農業は極東の産業中もつとも重要な地位を占めてゐるが、その廣大な地域（滿洲國の三倍半以上）も沿海、アムール地方を除けば餘の大部分が經濟的價値の乏しいツンドラ地帯或は密林に閉ざされてをり、加ふ

るに積年に互る農業勞働力の不足、革命、國內戰による内亂等の悪影響をうけて農業の發達は遅々として進まず、殊に革命直後は一時甚だしき衰退さへも示した。だがその後積極的移民奨励、農業振興政策等が徐々に功を奏して一九二七年、一九二八年の頃には大體革命前の水準に回復し、更に第一次及び第二次五年計畫における農業の社會化、機械化運動を経て、作付面積も著しく擴大しつゝあるが、今なほ峻厳苛酷な自然條件には打ち克てず、その可耕地面積（約八〇〇萬ヘクタール）も滿洲國の可耕地面積約四〇〇〇萬ヘクタールの約二割にすぎない。しかもその大部分が未耕地であり、既耕地（三〇〇萬ヘクタール）は滿洲國の一七〇〇萬ヘクタールに比し一割八分弱にしか當らない。また穀物の作付面積は約一六〇萬ヘクタール、その總收穫高は一七〇萬噸（一九三八年）で、滿洲國のそれに比して同じく一、二割程度である。

つぎに作物について月れば、東亞の自

然條件からして穀物栽培が絶對優位を占めてをり、工藝作物に適する土地は比較的狭小である。穀物も冬季の酷寒と除雪量が少いために春蒔を主とし、秋蒔の割合が少い。

穀物の内小麦、燕麥、ライ麥が多く、蕎麥、大麥黍、米等も産する。

なほ米については、沿海地方は中央アヂヤのカザクスタンに次ぐソ聯第二の米産地（水田適地三〇〇萬ヘクタールと云はれてゐる）である。だが従來この米作を一手に引き受けてきた東亞在住の朝鮮人（約一五萬人）が、一九三七年九月、當局の國防政策の犠牲となり中央アヂヤ方面へ強制的へ移住させられたために、それ以後米の作付面積は激減（即ち一九二八年の一萬四四〇〇ヘクタールから三七年の四三〇〇ヘクタール）を示してゐる。なほ地域別に農業大勢を示せば次の如くである。

一、沿海地方

沿海地方の氣候の特殊性は夏季に風が南・東より吹いて海の熱と溫度をもたら

し、冬季は反對の方向に吹いてヤクイト及びザバイカルの乾燥をもたらす定期的ムンスーンのあることである。

この風のために夏季は非常に暑く熱量の點ではウクライナの南部諸地方にも劣らないほどで、これが農作物の發育に好影響を與へてゐる。

なほ當地方の農耕作業は四月上旬から十月末まで行はれ、植物發育期間は約一七〇日である。

農業の中心地はウスリー江上流及び興凱湖綏芬河附近一帯であるが、利水設備が不完全なためにしばしば水害を蒙る。

一九三九年六月一日現在の資料によれば、沿海地方のホルホズ数は五〇二、ソフホーズは三四あり、集團化率は全農家の九六%、ホルホーズの作付面積は全作付面積（約二六萬ヘクタール）の九九・七五%を占めてゐる。

また機械化の水準は非常に高く、トラクター數千臺を擁するMTS（機械トラクター配給所）が四五あり、單位作付面積當りトラクター數では米國を凌駕し、

五六・九ヘクタールにつき一五馬力のトラクター一臺といふ割合である。コムバイン總數は英、獨、佛の合計より四倍も多い。

穀物の收穫は大體一九日間に行はれ、全面積の八三はコムバインにより、残りの一七は單純刈取機で收穫されてゐる状態である。

なほ當地方における一九三八年の穀物生産高は八萬噸、消費高は三〇萬噸であり、自給率は二七%にすぎない。

二、ハバロフスク地方

當地方のゼーヤ、ブレイヤ、セレムジヤ及び黒龍江流域は廣大な平野をなし、地味、氣温ともに農業好適地であるのでソ聯東亞のうちで最も農業の盛んな地方である。

當地方の作付面積は五〇萬ヘクタールで、その九九・七%は七一のホルホーズと三〇のソフホーズに屬し、個人農に屬するのは僅かに〇・三%である。

また機械化水準はソ聯邦の第一位を占めてゐる。即ち一九三八年ソ聯邦の春蒔

總作付面積におけるトラクターの平均使用率は四〇%であつたが、當地方は九〇%、更に收穫作業についてもトラクター使用率は前者が四五%に對して後者は九四%である。MTSの數は一を備へてゐる。

なほ當地方における一九三八年の穀物生産高は一九萬二千噸、消費高は四三萬五千噸で自給率は四四%である。

三、ザバイカル地方（チタ州及びブリヤート蒙古自治共和國）

當地方は滿洲國に接する草原地帯以外は山岳地帯で、農業適地は少い。また氣候も著しく大陸性で農業に適しない。

そのため當地方の農業植民の歴史は前記二地方よりも古いにも拘らず、近年まで住民は主として牧畜を營んで來た。

しかしセレンガ河流域と黒龍江上流地方は古くから穀作が行はれ、殊に第一次五ヶ年計畫以來の遊牧民たるブリヤート蒙古人の強制定住化及び農業の社會化及び機械化が強行されてから耕地は著しく擴張しつゝある。

即ち一九一三年には二八萬七二〇〇ヘクタールであつた作付面積は三九年には約六三萬ヘクタールとなり、二倍餘の増加を示してゐる。

農業の集團化は九七・一%で六萬七七一三の農家が七七六のホルホーズに結合され、二四のソフホーズが組織されてゐる。またホルホーズは全作付面積の八九・二ソフホーズは四%を占め、個人農の占める割合は僅か〇・〇二%にしかすぎない。

なほ一九三八年におけるザバイカル地方の穀物生産高は五七萬五千噸、消費高は五一萬八千噸で、差引約六萬噸の過剰を示してゐる。

畜産業

概観

ソ聯東亞の牧畜業は

一、ロシア人及びブリヤート蒙古人による牛、馬、豚、綿羊、山羊等の一般家畜の飼養と、

二、古代アヂヤ族、ツングース族等の土着人による馴鹿、犬の飼養の二つに大別することが出来る。

而して前者は主としてザバイカル地方及び沿海・アムール地方に發達し、後者はカムチャツカ州及び北樺太を中心として行はれてゐる。

なほその他に駱駝(ザバイカル)、狐(ブレイヤ附近)等も飼養されてゐる。

左にこれを地域別に見ると

一、ザバイカル地方

當地方は山岳丘陵が多く氣候も大陸性で農業に適しないが、牧畜には當地の酷烈な大陸性氣候もさして障害にならず、高燥な土地と放牧地(五七〇萬ヘクタール)並に採草地(二二〇萬ヘクタール)に恵まれてゐるので寧ろ畜産に有利な條件をもたらしめてゐる。

しかもこの地方は古くから蒙古と密接な交渉をもち、また牧畜を唯一の生業とする蒙古系のブリヤート人が多數この地方に住んでゐるために、彼らの影響をうけてソ聯隨一の畜産地帯となつてゐる。

〇%である。

二、沿海及びアムール地方

當地方はたゞ僅に沿海地方の南部地帯(浦鹽、ヴォロシロフ附近)とアムール州のザヴィタヤ及びブレイヤ附近に純粹の畜産地帯を有するのみで、もとゞ當地方の畜産農業は附隨する副業的なものとして發達してきた。

しかし天然草、乾草等の飼料が豊かで、その他に飼草及び飼料穀物の栽培も行はれてゐるし、その上ザバイカルの畜産業に比して經營もより集約的に行はれてゐるから、將來は大いに發展する可能性がある。

一九三八年度の沿海地方の畜産業による總収入は一五〇〇萬留(ホルホーズ總収入の三〇%)で、三七年度に比して二一二%の増加を示してゐる。たゞ當地方畜産業の發展を阻止するものは、一般に氣候が濕潤で、しかも牧野が森林、沿線地に多く散在してゐるため各種の傳染性獸疫を媒介する蛇、蚊、ダニ等の繁殖が夥しいことである。

なほ當地方の獸肉の生産高は二萬噸、消費高は三萬六千噸で自給率は約五五%である。

三、北部地方(カムチャツカ州、北樺太州)

當地方では土着民間に馴鹿、犬の飼育が盛に行はれてゐる。

殊にカムチャツカは苔生濕地が多いので世界屈指の馴鹿飼育地帯であり、全世界の馴鹿總數の五分の一は當州に屬する。

これらの馴鹿及び犬は土民の主要食料、衣類、運輸手段を提供し、土民にとつては重要な家畜である。

毛皮業

ソ聯邦の一九三七年(一一十二月)の皮革及び其の製品の輸出額は(單位千留)

- 一、毛皮及同製品
- 一、七八 輸出金額 一五、六三
- 一、皮革
- 四、六三 輸出金額 一三、二四七
- 一、皮革製品

わけても東南部アギンスキー地方及び西南部セレンガ河右岸一帯は天然の良牧地をなしてゐるので最も盛んである。

家畜頭數は少し資料が古いが一九三六年において馬三四萬頭、牛九六萬頭、綿羊及び山羊一二八萬頭、豚三二萬頭を示してゐる。駱駝は三、四千頭にすぎない。

飼養法は極めて粗放的で殆んど畜舎を有せず、多くは放牧のみである。また飼養は僅かに役畜に使役時だけ少量の濃厚飼料(燕麥)が與へられるにすぎない。羊は四季を通じて放牧のままの状態なので、従つて野草の發育の悪い年とか降雪の多い冬季には斃死する家畜が非常に多い。

だが、かくの如き粗放經營もすでに限界點に達したものの如く、近年ソ聯當局は飼草の栽培及び舍飼の奨励を行ひ、ホルホーズ共營牧場の強化による集約經營への移行を積極的に企圖してゐる。

なほ當地方の獸肉生産高は約二萬七千噸、消費高は二萬一千噸で自給率は一七

二〇八 輸出額 三、二四

で、世界毛皮總取引高の約三分の一に及んでゐる。

狩獵毛皮はソ聯國民經濟上重大な意義をもつてゐるが、わけてもソ聯東亞は特に重要な狩獵地で、黑貂、獺、狐、獵鼠、獵虎、臘肭獸等の高價な毛皮獸の繁殖が著しい。

帝政ロシアは「毛皮のあるところは即ちロシア領である」といふスローガンの下に、十七世紀の初頭以來コザツクを先導として東亞進出を開始したほどである。

だが近年は極東の開發、工業化の進展に伴ひ且つまた多年の濫獲の結果、當局による禁獵期及び禁獵區の設置、その濫獲防止策の斷行にも拘らず、東亞の毛皮獸は漸減の傾向をみつゝある。

また毛皮の調達は帝政時代には個人商等の手によつて分散的に行はれてゐたが、今日では東亞國家貿易部(ダリゴストルグ)、東亞狩獵組合(ダリオホートサコーズ)、カムチャツカ株式會社、北樺太

株式會社等の諸機關によつて集中的に行はれてゐる。これ等の調達毛皮は從來その大部分が生皮のまま歐米諸國に輸入せられ、そこで精製加工されて逆輸入を見てゐたが、第一次五ヶ年計畫以來、精製加工業もまた發達しつつある。

漁業

ソ聯東亞の海面はオホーツク海、ベーリング海、日本海北部に亘つて面積一三〇萬平方哩を越え、うち漁業上重要な水深二〇〇米以内の淺海は五三萬平方哩である。

この海面には魚類の食料である浮游微生物の繁殖が夥しいので漁類も極めて豊富である。

革命前の東亞漁業

ソ聯邦第二（第一は裏海）の大漁業地たる東亞漁業も帝政ロシア時代に地勢上本國より遠く隔絶せると、交通の不便なることと、人口稀少なること等により政

府當局の關心は極めて稀薄であつた。當時は僅かに少數企業家が河川に於て漁業に従事し、而して其の多くは日本人の資本に依存してゐた。ソ聯政府は一九一〇年六月十日附法律をもつて特惠的條件、即ち長期低率使用料、特定運賃等にて河川漁區を自國人に貸下げ、これによつて露人漁業は稍々活況を呈するに至つたが、多數の者はイクラ（魚卵）製造を主としてゐた。此頃最初の露人罐詰工場が勘察加に創設され、西海岸ペラン河口にエツケルマン又、勘察加河口にビリチ、其後海面漁區にグリシエツキイ商會、又勘察加河口附近にデムビー商會等の工場が建設せられた、後年デムビーと三菱の提携によつて大北漁業株式會社が生まれ、現露領水産組合田中丸組長は此の會社の専務取締役となり大に采配を振つたものであつた。此の會社は後日魯漁業會社に合併せられた。一九二〇年迄に六ヶ所の露人罐詰工場が開設せられ、其の製造高は一九一〇年

には僅か九、三〇〇函であつたものが、一九一六年には一躍二四七、三二九函に達した。これは歐洲戦争で需要が増加した爲めである。當時の漁業労働者、即ち漁夫の大半は日本人であつた。一九一〇年の日本人漁夫は六、八六九名で當時の勘察加半島住民は總數僅かに九、五〇〇名に過ぎなかつた。一九一四年に於ける勘察加全河川及海面漁區の労働者數は一〇、六二八名、此内日本人は八、八八六名、露人は一、五六九名、残りの一七三名は朝鮮人であつた。一九二二年には露人漁場に働らく漁夫は日本人及朝鮮人合計二、〇〇〇名、露人は一、五三二名であつた。

革命後の東亞漁業

昭和三年一月二十三日モスクワに於て日ソ間に新漁業條約が締結せられて、此の結果ソ聯は日ソ基本條約第三條の「兩締結國政府ハ本條約實施の上ハ一九〇七年ノ漁業協約締結以後、一般事

態に付き發生シタルコトアルベキ變化ヲ考慮シ右漁業協約ノ改訂ヲ爲スベキコトヲ約ス」との條項を有效確實にしたが、これは抑も何を意味するものであるか、新事態とは「國營漁業」である、此の結果當時の現有漁區二と八の割合を以て、即ち國營は無競賣に二〇%の一定數の漁區を占有收得することになつたのである。換言すれば日本側はソ聯邦國營企業を認めたとになつたのである。

斯くてソ聯邦東亞漁業は邦人驅逐の政策に依り漸次進出し來たり、昭和三年ソ聯邦側現有漁區は四二ヶ所であつたものが、昭和四年には一躍一六五ヶ所となり、更らに個人名義を以て毎年浦潮競賣に於て日本人優良漁區を奪取したものである。

一九三六年（昭和十一年）國營漁區は四一九ヶ所と増加するに至つた。尙ほソ聯邦は第一、第二次五ヶ年計畫に於て東亞漁業を新技術の基礎の上に再建を計り今や家内工業より一大産業化せんとして

つある。

海上漁業に對する資金は一九三二年（昭和七年）に比し一九三七年（昭和十二年）には一六九%の増額を見た。従業員即ち労働者は年々増加し一九三

七年度五八、三六〇名に達し労働賃銀は一九三三年（昭和八年）一人當り平均年收三、三八留が一九三六年（昭和十一年）には四、四六二留に高まつた。同年度豫算に現はれたる社會保險の豫算額は三三、二〇〇、〇〇〇留が確認せられ、其内實行額は二、一三〇、〇〇〇留であつた。労働婦人妊娠補助、哺育、看護等にも多額の豫算を計上して居るが、一九三六年度には一、四二五、〇〇〇留であつたものが、一九三七年度には二、七〇〇、〇〇〇留に増額せられた。

其他漁場の衛生、労働保護、安全施設には相當巨額の豫算が計上せられたが、併し實際に於ては其割合に実績が上らな

蟹工船

現在勘察加西海岸に出動する蟹工船は

左記の九隻であつて、昭和三年に初めて創業し、相當の成績を擧げて居る。罐詰職工は大多數が女工であり、漁夫はソ聯邦に國籍を有する支那人及朝鮮人である。尙蟹罐詰製造高は發表せられないが、相當の好成績を擧げつゝあり。最近は日本工船と網の争奪紛糾はなく極めて平和裡に双方操業しつつあるのは喜ばしい現象である。

勘察加西海岸の蟹工船

船名	噸數
コリヤーク	四、三七二噸
第三 クラボロフ	四、二四八
第四 クラボロフ	三、九三一
第五 クラボロフ	三、九九六
ツングース	三、六〇七
ラムート	二、六九三
フセウオロド、シビリツエフ	七、〇〇〇
ミコヤン	五、〇〇〇
ギリヤーク	四、九〇〇
捕鯨業	

ソ 聯邦國營捕鯨船の北洋出現は一九三二年で、本國より一七、〇〇〇海里を二百十日をもつて東亞に廻航せられ、創業當初は教官として獨逸人及ノルウェー人を乗船せしめ、今日ではソ 聯邦人に依り毎年相當の成績を上げて居る。

捕鯨母船アレウト號(一一、〇〇〇噸)一隻

捕鯨船はアワンガルド號、トルドフロント號、エントジラスト號の三隻の外に曳船一隻ブリユツフェル號

其捕獲數 一九三三年一、二〇四頭、一九三四年一、三三九頭、一九三五年一、四八七頭、一九三六年一、五〇一頭、一九三七年一、五〇一頭、一九三八年一、三〇〇頭、一九三九年一、四七三頭、一九四〇年七月中旬迄一、五〇〇頭。

一九四〇年度現在經營漁區

一九四〇年現在國營、個人及漁業コルホーズ經營漁區數は合計三百九十ヶ所、其の標準漁獲高は鮭鱒九五五、六七九ツエントネル、蟹罐詰一〇五、五〇〇函で其の内譯は左の通りである。

一、鮭 鱒 漁 區	漁區數	借區料	標準高
沿 海 區	六八	三一、三〇〇	四九、一五四
薩 哈 噠 區	一八	一四、七〇〇	六、五三九
ニコラエフスキー區	二	五五二、二〇三	六、七九三
オホトスキ区	二九	一三三、二五〇	二〇、五〇〇
タウイススキー區	一〇	一三九、二五〇	一四、七〇〇
ギツギンスキー區	三八	三四二、〇九二	九五、〇九四・八
イチチンスキー區	二六	七二、五〇〇	一四九、六三八・一
キクチンスキー區	二五	二二七、一五〇	一七七、三二九・一
ボリシエレツキー區	二二	二九三、四七一	八七、六四五
東 堪 察 加 區	一〇	三七九、三五〇	一六、九〇〇
カラギンスキー區	四	二一七、一五〇	一六、九〇〇
キチギンスキー區	四	二九三、四七一	八二、九五九
オリユートルスキー區	五	三七九、三五〇	一四八、八七〇
アナドイルスキー區	七	二一七、一五〇	二二、七〇七・六
計	三六七	二、一七〇、五六六	九五五、六七九・六

二、蟹 漁 區

沿 海 區	漁區數	借區料	標準高
イチチンスキー區	一	二六四、三〇〇	(不明)
キクチンスキー區	一	一一一、七〇〇	三七、五〇〇
ボリシエレツキー區	二	二二、一〇〇	二四、〇〇〇
東 堪 察 加 區	二	七六、〇〇〇	一六、〇〇〇
オリユートルスキー區	四	一二六、四五四	一〇、〇〇〇
計	二四	六〇〇、五五四	一〇五、五〇〇

一九三九年度實績

一九三九年度東亞ソ 聯邦側漁業は事業停滯の克服、漁獲増加、製品向上等に關する第十八回黨大會の決議履行に努力し、三八年度に比し二八四、〇〇〇ツエントネル(七・一%)の増獲を挙げ、製品の品質も著しく改良せられ東亞及サハリ兩漁業トラスト及アコ會社も品質改良計畫を超過遂行した。殊に昨年度はサードンの漁獲擴張されたが漁船、漁港に於ける作業、漁獲物の積卸作業、容器の供給状況等に於て不備缺陷が尠なくなつた模様である。

尙東亞漁業は一九三九年十一月一日既に年次計畫を遂行し、年末迄の漁獲高は三百四十萬ツエントネルとなり、勸察加漁業は初めて年次計畫を遂行したといふ。因みにソ 聯邦全國の漁獲高は一九三八年一千四百五十萬ツエントネル、一九三九年一千五百萬ツエントネルである。

哈府地方漁業工場

アムール、サハリン及オホーツク沿岸諸地方に於ける一九四〇年度漁業企業建設費は一六・五百萬留にして前年に比し百萬七留の増大で其内二・五百萬留はハバロフスクに於ける漁業綜合企業建設を完成する爲に投資せられ同企業は現在冷蔵裝置を終了し本年第三・四半期に操業を開始する豫定である、「サハリン」に於ては本年中に漁船の造船所竣工し又「オホーツク」沿岸、「サハリン」の「ルイブノエ」區に工費百萬留の大冷蔵企業建設の豫定である。

東亞トロール漁業

東亞に於ける大規模な「トロール」漁業の開発は最初の「トロール」船が浦潮に到着した一九二九年乃至一九三〇年に初まる、「トロール」船が到着するや直に東亞の三海面全部に魚族の群棲地搜索の爲、派遣せられ「トロール」漁場として重要な三ヶ所(鰈漁場)即ち「ビョートル」大帝灣、韃靼海峡及西堪察加が発見され充分收支償ふに足る漁場と信ぜられ

て充分念入に搜索されたが、「トロール」船の主目的と云はるべき鱈は夏期に於ては採算に引合ふ程度の數量を發見されなかつた、そして鰈のみが東亞に於ける「トロール」漁業の主要なる對象であるとされた、其の後「トロール」船は大部分既に發見された漁場に於ける操業をなし、僅かに一部分が新漁場發見に参加した、斯くて年毎に新漁場探査に費す時間は縮少され、之と共に平均漁獲高は漸次増加して行つた。

堪察加西海岸の水域には頗る莫大な鰈の群棲を認めるが廣大な大陸棚の全部に於ける其の分布状況は均一ではない、調査船や「トロール」漁船の多數の航海及可成多數の調査作業に基き(クリウオボク)一九三〇年、「ボルトフ」一九三一年及一九三二年、「スワオロフ」一九三三年「モイセーフ」(一九三四年)現在西堪察加海岸の夏季に於ける鰈の分布に付ては相當完備した圖面が作成されてゐる、鰈の大群の存在する地方は西海岸中二地方だけである、即ち魚群最大にして漁場面積

最大なるは「オゼルナヤ」川區、「オゼルノフスコエ」集合と稱す）で他の一つは之に比べると大分劣るが「ハリウゾフ」岬區（「ハリウゾフスコエ」集合と稱す）である。

漁族及海獸

魚族中産業的にみて價値の高いのは鮭、鱒、蟹で、前者に屬するものに紅鮭（罐詰用）、銀鮭（罐詰用）、鮭（新巻用）、鱒（罐詰、鹽魚用）、鱒ノ助（鹽漬用）があり、後者は主にトラバ蟹である。鱒、鱒、鱒の經濟的價値が劣つてゐることは云ふまでもない。

海獸とは鯨、海驢、鰮鰓獸がある。

林業

森林

ソ聯東亞は中北部の凍土地方を除く全地域は森林で蔽はれてゐる。その森林面積は二億一千萬ヘクタール、立木面積一億三千萬ヘクタール、立木蓄積量は一九一一—二五億立方メートルといはれてゐる。

樹種	單位百萬立方公尺
紅松	三六〇
蝦夷松	一、五三〇
根松	六一二
落葉松	二、〇〇〇
赤松	三八〇
針葉樹合計	四、八八二
闊葉樹	二、四〇〇
總計	七、二八二

しかし經濟的に利用される森林は黒龍江本支流、太平洋沿岸及びバイカル湖地方のもので、スタノヴォイ及びヤブロノヴィ兩山脈の北斜面の森林は經濟的利用價値が少い。

森林面積中、針葉樹の占める割合は八〇%、闊葉樹のそれが二〇%となつてゐて、經濟的に重要な樹種は朝鮮松、赤松、蝦夷松、根松、落葉松及び檜、胡桃、白樺、白楊、樺等である。

舊東亞地方（現沿海、ハバロフスク兩地方）の樹種別の立木總蓄積量は左の通りである。

木材採取業

ハバロフスク地方、ウスリー地方ブレヤー河、ゼーヤ河流域、バイカル湖南部地方は木材採取業の最も盛んな地方である。

東亞ソ聯の木材産出高を見ると三四年度に一一六〇萬立方メートルで、内用材八四〇、薪材三二〇萬立方メートルであり、三八年には一四〇〇萬立方メートルに達してゐるが、この二、三年木材採取業の不振が叫ばれてゐるので、その後もさして増加してゐないと思はれる。

ソ聯東亞で主に木材生産に當るものは木材工業人民委員部であるが、交通人民委員部（枕木）、重工業關係人民委員部（鑛山、炭坑用枕木）、漁業人民委員部（箱材、樽材）、木材工業協同組合、公共團體等も木材の採取を行つてゐる。

三八年年度の木材工業人民委員部木材産出高は左の通りである。

トラスト別	採取	高	搬出	高
東亞トラスト	六四九		六〇七	
アマールトラスト	六五〇		三八九	
ハバロフスクトラスト	二、〇〇七		一、九〇九	
チタトラスト	五三三		六三七	
東部シベリアトラスト	一、六六七		一、七四四	
ブリヤート蒙古トラスト	一、六六七		一、四〇七	
古トラスト	六、五七五		六、六九三	
合計				

第二次五ヶ年計畫以後採取業（主に搬出）の機械化が行はれ、多数の新式器具、トラクター、自動車を使用され、始めたが、輸送は九〇%まで流送され、ウスリー江、黒龍江、ブレイヤ、ゼーヤ、シルカ、アンガラ河等はその主なものである。

木材加工業

ソ聯東亞建設の進展ともに木材加工業も漸次發達し、製材工場約一五〇、製材機械約二九〇臺を有してゐる。

挽材生産高は三四年度に一七九萬五千

立方メートル上つてゐる。製材業中心地はヴオロシロフ、イマン、ビギン、ハバロフスク、コムソモリスク、ブラゴヴェンチエンスク、浦鹽等その他であるが、これ等は流筏河川と鐵道の會合地、經濟的中心、海港等にある。

林業管理機構

木材工業人民委員部は全聯邦の木材工業を管理するため、採取部門では地域別管理局を設けてゐる。ソ聯東亞には東部シベリアに東亞總管理局があり、その下に沿海、ハバロフスク、アマール、チタ、ブリヤート蒙古、東シベリアの六木材トラストがあり、各トラストは林業所、機械化林場、流送事務所等をもつてゐる。

以上の如くソ聯東亞には豊富なる森林資源を擁してゐるのであるにもかゝらば、その開發は微々たるものであり、ソ聯東亞はなほ木材の自給を行ひ得ない状態にあり、林業の發展は將來に屬してゐる。

鐵道

ソ聯東亞の鐵道は軍事上、政治上又經濟上極めて重要な意義を持つてゐる。

それはこゝがソ聯國防の東正面であること、又經濟的に自給自足が出来ず、従つて歐露に依存してゐる現状にあるためである。

第一次、第二次五ヶ年計畫におけるソ聯東亞の經濟建設で最も力を注がれたものの一は鐵道であつた。これをもつてもソ聯東亞に於ける鐵道の重要性を立證して余りがある。

管理機構

バイカル湖以東の鐵道總延長は約五二〇〇軒で、浦鹽方面から西へ沿海、東亞、アマール、モロトフの四鐵道局によつて管理されてゐる。

従來この五千軒以上の鐵道はウスリー、ザバイカルの二鐵道局が管理してゐたが、一九三六年以後、四鐵道局に分割された。各鐵道局の受持軒程は左の如く

である。

鐵道別	區	間	料程	局所在地
沿海鐵道	浦鹽—クベローウオ		九〇六	ウオローロフ・ウスリスキー
ソ聯東亞鐵道	オクベローウオ—アルハラ		一一五二	ハバロフスク
アムール鐵道	アルハラ—クセニエフソカヤ		一、五三三	スウオボドヌイ
モロトフ鐵道	クセニエフソカヤ—ペトロフスキー・サ		一、五三〇	チダ

鐵道網

シベリア鐵道の東部區間を主要幹線とし、これと十二、三線の支線とから成つてゐる。このうち四三五〇軒は革命前の建設で、革命以後新設されたものは七五〇軒にすぎない。然し革命後には三〇〇〇軒の複線工事が行はれてゐる。

即ち革命前に複線化されたのはカルイムスカヤまでであつたが、滿洲事變の翌年、一九三二年からアムール鐵道の複線化に着手し、三七年末にはハバロフスクまで、次いで四〇年中には浦鹽まで複線工事を終へたものゝやうである。

この他に一九三九年三月十四日の第十

八回黨大會に於てカガノウイチはバム鐵道に言及し、「バイカル、アムール」幹線の建設に着手しつゝあると言ひ、又モロトフは「第三次五ヶ年計畫期に於て東亞地方と西伯利とに新に有力なる連絡を廣す右幹線は一部既に運行するに至るべし」と述べてゐるが、このバム鐵道は延長四〇〇〇軒に及ぶもので、これが運行は奥地資源の開発と共に、戦時輸送力の強化、輸送の安全と戦備の深さを大ならしめるのがこの線建設の狙ひと思はれる。

大體この線は三八年頃から建設が始められ今日どの程度に進行したかは不明である。

線路

建設當時使用されてゐた二四軒軌條及び三〇軒軌條は、革命後幹線では三三軒軌條に改められ、三二年以來の複線工事には全部三八軒軌條が使用されたやうである。

道床も最初の砂のみのものは現在殆んどなく、砂利か碎石が全線に撒布されてゐて、線路はかなり良くなつてゐる。

又驛は給水施設のあるものを停車場、これのないものを待避驛とすると、停車場は一九〇、待避驛三三五あり、五二〇〇軒の鐵道網には比較的多いが、現在使用中の停車場及び待避驛は三五〇位で、その他は使用されてゐない。

給水施設としては給水能力は一晝夜四〇本の列車を豫定して設備され、機關庫所在驛には容量二四〇立方メートル、中間驛には七五立方メートルの給水塔があるものと推定される。

從業員

る。

ソ聯東亞海運における船舶群は水運人民委員部所屬船のほか、外國船、食料工業人民委員部、重工業人民委員部、東亞建設局所屬船等をもつて構成されてゐる。

いまソ聯東亞の主要港灣を掲げれば左の如し。

- 一、浦潮斯德、
- 二、ニコラエフスク
- 三、アレクサンドロフスク
- 四、デカストリ
- 五、ソウエトスカヤ・ガワニ
- 六、テチューヘ
- 七、オホーツク
- 八、オダ
- 九、ウスチ・カムチャツカ
- 一〇、アヤン
- 一一、ボシエツト
- 一二、シヂミ
- 一三、オリギ
- 一四、カンガウス
- 一五、ブレオブラヂニエ

東亞鐵道の從業員は十萬人以上と推定されてゐる。營業料に比し從業員が非常に多いことは、その質の優秀でないことと思はれる。

婦人從業員も多く、機關助手、助役、轉轍手等として婦人が活動してゐる。

ハバロフスクに鐵道大學が開設され、高等鐵道技術員の養成を行つてゐる。

水運

河川運輸

ソ聯東亞には豊富な天然資源がありながら、人口稀薄と交通、特に鐵道網の密度が疎いため、その開發が著しく遅れてゐる。

經濟開發上、河川の演ずる役割は大きい。最近ソ聯東亞の河川運輸には異常な關心が拂はれてゐて、こゝ十年間の輸送量はバイカルセレンガ水系、レナ河が各五倍餘、アムール河は七倍餘に増加してゐる。

海運

ソ聯東亞海運は全體として向上線を進めてはゐるが、ソ聯政府が計畫經濟に於て意圖した如き実績は擧げてゐないと見るべきであつて一九三八年度上半期における実績は輸送量三三%、輸送噸哩三八%の計畫遂行率を示したのみであり、海運發達の指標ともいふべき遠洋外國航路輸送が大部分外國に依存してゐる一事をもつても頷ける、現在に於ける海運不振の原因は概ね次の三點に歸する。

- イ、船舶並に從業員の低質
 - ロ、軍事中心主義の影響
 - ハ、東亞經濟ブロック樹立の影響
- ソ聯邦の海運は一九二四年までドブロフロイト(義勇艦隊)の掌る所であつたが、一九二四年初、交通人民委員部及貿易人民委員部を船主とする株式會社ソウトルグフロイト(ソヴェート商船隊)が新設され、爾後ソ聯の海運は専ら同商船隊の運営に委ねられたが、現在では水運人民委員部の中に解消したものと見られ

一六、オリガ
一七、ヌイスク

なほソ聯邦政府は沿海州に於ける生産力の急速なる開發を計畫し同地方をして經濟上獨立せしむるのみならず更に太平洋に於ける強大なる前哨を築かんとしつつあり浦潮港は北樺太、勘察加、チユクチ、太平洋諸島、北極地方、亞細亞沿岸及黒海に至る航路の基點である。太平洋に於ける海運業は第二次五年計畫に依て倍大し貨物取扱数は六〇%の増大を示し商船隊の爲に甚大の資源を有する沿海地方は急速の發展を示し日本海、「オホツク」海「ベリリング」海及太平洋沿岸航路の延長合計一五、〇〇〇に達してゐる。尙極東商船隊に於ては新船を建造することとなり目下電氣タービン装置快速優秀旅客船の建造中にして之に依りて浦潮、ペトロパウロフスク間に更に正確且急速なる連絡を爲し得べく又浦潮には強力なる碎氷船隊を必要とするであらう。太平洋沿岸には二五〇の荷役地點を有するも何れも未だ順調なる作業を爲すに

足らず只浦潮、ナガエヴォ、ペトロパウロフスク及ソヴ・ガワニに於てのみ繋船岸に於て貨物の積卸を行ふことが出来る。尙船舶は最近五年間に倍加したるも修理地は未だ僅少にして一九四〇年迄にソヴ・ガワニに船舶修理工場建設及浦潮工場の改造豫定せられて居る。

道路・自動車運輸

帝政時代のソ聯東亞の道路は自然道と異なる處がなかつたが、革命後着々と道路建設が行はれ、バイカル以東の自動車路は六、六〇〇に及んでゐる。主要道路は左の如くである。

區 間(又は名稱)	料	區 間(又は名稱)	料
ハバロフスク—浦鹽	七五〇	ウラン・ウデ—キヤフタ	二三四
ツヤリンダ—ヤクーツク	一、〇〇〇	ザビタヤ—ボヤルコウヴ	七〇
ハバロフスク—コムソモリス	三六七	チユイ・トラクト	六〇三
イルクーツク—シガロヴオ	四二	アヤン・トラクト	一、〇〇〇
イルクーツク—カチユイグ	二五五	チタ—アクシヤ	三〇五

自動車運用率は五五—六五%で非常に低く、平均走行料も二・五—三萬料で全ソ聯の五〇%である。これは道路建設が立ち遅れてゐる證據で、ソ聯東亞の一九四〇年初頭に於ける自動車總数は七萬五千有餘臺で、その内譯は、乗用車八、一七四臺、貨物自動車六五、〇五七臺、バス六〇六臺、特殊自動車一、六七二臺となつて居り一輛當り人口の割合は六三である。燃料はハバロフスクで精油された北樺太油のほか大部分は歐露より輸送されてゐる。代用燃料は主に薪ガスが用ひられてゐる。

製作工場は皆無で、完成車または部品を歐露より輸送し、組立てゐる。修繕工場五七。

航 空

民間航空が開設されたのは一九三〇年であるが、漸次發展し、三八年には航空路延長七九〇〇料、三七年度の輸送旅客數四九〇五人。

航空郵便五三五施、貨物輸送量一四一施に達した。三八年以後は新幹線の延長とともに輸送量は更に増大した見込である。

定期航空路幹線はモスクワ—ノヴォシビルスク—イルクーツク—ハバロフスク—浦鹽間で、この距離八、一九〇料である。第三次五ヶ年計畫では、モスクワ—浦鹽間の晝夜運航と高速多座式機による二晝夜飛翔、モスクワ—浦鹽線東部區及びアムール北樺太線の施設完備、ハバロフスク—ペトロパウロフスク線の完備、ソ聯東亞航空路延長を三萬二七〇料に達せしめることが計畫されてゐる。

社會・文化

教育施設

帝政ロシア時代の住民の教育水準は極めて低く、一八九七年における全人口中の識字能力者の比率は僅かに二四%、農村においては一九・六%にすぎなかつた。

まして當時の「流刑囚と移民のソ聯東亞」における住民の教育水準は思ひ半ばにすぎたものがあつた。だが今日のソ聯東亞は所謂「文化革命」の二十數年を経て、少くとも外見的には昔日の無智昧の面貌を一變した。

即ち一九三九年現在で中等専門學校數一二三、その生徒數一萬八千人、また高等専門學校(大學、インスチテュート、アカデミーの總稱)數二五、その學生數約九千人を算へてゐる。

しかし一方、學校設備の不完全、教師の不足、その質の低さといふやうな事實も覆ひがたく、今にいたるも十數萬の住

民が文盲乃至半文盲の状態におかれてゐる。

カムチャツカ州は過去に於て、帝政ロシアの最も立遅れた地方であり殆んど全面的といつてよい程文盲、殆んど皆無といつてもよい學校が、此地方の過去の特徴的な面貌であつた。次の様な事實と數字が極めて明白にこれを實證してゐる。

舊カムチャツカ縣内の人口は、一八九七年度國勢調査の資料によれば、三三、三二四人に上つてゐたが、そのうち讀み書きの出来る者僅かに一、六七三人に過ぎなかつたのである。また一九二六年度國勢調査の資料によれば現カムチャツカ州内の人口は三四、九五八人であつたが、そのうち讀み書きの出来る者は僅かに六、四九八人に過ぎなかつた。

尙一九二六年當時、カムチャツカ及びチユコトカに存住した遊牧民一四、五〇九人のうち、これ等の出来るものは、四七人といふ少數であつた。

カムチャツカにソヴェト政權が樹立されてから、この事態は著しく變化した。

即ち、この地方には學校、農村圖書室、圖書館が廣汎に建設され、數萬の勞働者が文化に接觸することが出来るやうになつた。極北の諸民族のために開かれた學校で、コリヤーク、チュクチ、エスキモーの子供達は、その民族語による読み書きを學び得るようになつたのである。

現在カムチャツカ州には二二三校の學校があり、その就學者數一四、六〇四人に上つてゐる。

即ち小學校が一六四校で児童數四、六五九人、準中等學校が三七校で生徒數四、三三六人、また中學校が一校でその生徒數五、六〇九人となつてゐる。

カムチャツカ州には現在師範學校が三校あり、一四一名の生徒が就學してゐる。チギーリ及びアナドイルの兩師範學校は、専ら民族學校向けの教師を養成してゐる。

またペトロパウロフスクには、州立の政治教育學校があり、現在八二名の北方民族代表者が訓練をうけてゐる。

學齡前兒童教育にも多大の考慮が拂はれ現在州内に二二の幼稚園があるが、其の收容者總數は七一一名である。

文化施設

ソ聯東亞の各種文化施設の現状は一九三八年より一九三九年を一括して示せば

- 一、大衆圖書館……………一八二一館
 - 一、その藏書數……………五三三二九〇〇冊
 - 一、住民千人當……………三九四四冊
 - 一、書籍數……………三〇二八個所
 - 一、クラブ數……………九六六八八
 - 一、一クラブ當……………二二館
 - 一、博物館數……………三三館
 - 一、劇場數……………三九六種
 - 一、新聞數……………三九六種
- カムチャツカ州に於ては近年政治教育施設の擴充が計られ、現在農村圖書室六二、圖書館二四、クラブ六、映畫映寫裝

置八六（内トーカー装置五七）、映畫館一、劇場一を有してゐる。

尙、十五の區中心地のうち十一は既にラジオ聴取設備を有してゐる。

新聞は、州機關紙が二種、管區機關紙が二種、區機關紙が八種、政治部機關紙が十八種を發行されてゐる。

カムチャツカに於ける國民教育費支出は一九一三年には總額九三、七九二留、即ち住民一人當り約三留であつたが、一九四〇年には總額二六、七二二、二〇〇留、即ち住民一人當り二一七留となつてゐる。

次にカムチャツカの國民保健の概況を見るに、醫療施設は病院五五、其の設備病床數五七一、醫療相談所七八、其の設備病床一〇四、齒科診療所一二、兒童健康相談所一、救急車二臺を有してゐる。また托兒所は五七あり收容兒一、〇一〇名である。醫師の總數は九三名であるが、其の他二九六名の見習醫師が働いてゐる。

保健費支出額は、一九一四年には三

六、七六五留で、住民一人當り支出額約一留二〇カベイクであつたが、一九四〇年度カムチャツカ州豫算によれば、支出總額一三二八二、四〇〇留、住民一人當り一〇九留となつてゐる。

商業

商業の趨勢

ソ聯邦政府の發表する處に依れば同國の國內商業は第一次五ヶ年計畫に依る生産力増進の結果第二次五ヶ年計畫期に入るに及んで急速なる發展を遂げ一九三一年に於ける商品流通總額は小賣値段に於て二七・一億留であるが一九三三年に於て四二・九億留を示し尙一九三五年は六〇〇億留の豫定である。(此の中、都會に於ける流通額は農村に於ける額の約二、四倍)尙此處に注意すべきは此の兩三年來消費組合(コオペラチヴ)が商品流通額に於て占めた率が次第に減少し國營商業機關の占めた率が著しく増大した事實である。即ち消費組合の占めた率は一九三二年に五七・三%、一九三三年に四五・六%であるが國營商業は一九三二年前半

期に三〇・七%、一九三四年前半期に四七・〇%を示し、茲に於て國營商業の任に當れる供給人民委員部の事業は著しく増大した。元來供給人民委員部なるものは會て外國貿易又國內商業(革命當初の食料人民委員部)の兩人民委員部を合併した内外商業人民委員部を一九三二年再び二分して外國貿易人民委員部と供給人民委員部とした際成立したものに於て、其の管掌事項中には同年解體せられたる最高經濟會議の管掌事項であつた食料品工業をも含むを以て其の職能は食料品工業と國內商業とに二大別し得るものなるが般前記の如く事業の増大に鑑みソ聯邦政府は能率上下二大職能を分離して更に國內商業人民委員部を再設し食料品工業人民委員部を新設した。

ソ聯邦商業の特質

私有財産制と自由競争主義とを基調とし労働の商品化に依り利潤を生産する資本主義社會に於る商業は本質的なる要素であるが、社會主義を標榜して政權を握つた共産黨政府は最初國內商業を否定し生産及分配を國家に於て行ふこととし、然れども内外諸般の情勢は斯る戰時共産主義の永續を許さず、一步退却して新經濟政策を布くに及び國內商業は一定條件の下に個人にも認むることとなつた。ソ聯邦政府の言分に從へばソ聯邦は完全なる社會主義經濟に至る過渡期に在るを以て、過渡的現象として商業を認むるものであり他國の商業に比し特殊の性質を有するもので一般に之をソ聯邦商業(ソヴェートスカヤ、トルゴウリヤ)と稱してゐる。

ソ聯邦商業は國營商業、協同組合商業及私營商業の三種に分つことを得る。ソ聯邦政府は十月革命後實施せる戰時共産主義の行詰りを打開せん爲、一九二一年

所謂新經濟政策を採用し國內に於ける私的商業の自由を認めたる爲私營商業盛んとなり所謂ネツプマンなる小成金階級を生ずるに至つた。茲に於て政府は國內商業の資本主義化を恐れ漸次私的商業の彈壓政策を採る一方、商業の國營化に進む手投としてコオペラチヴ商業を奨励した其の結果一九三〇年ソ聯邦商業に於ける商品流通額は九九%迄國營商業及協同組合商業に依り占めらるゝに至り、私的商業は殆ど全滅に頻するに至り民法上認められたる個人商人以外の營利私人たる合名會社、合資會社、有限責任組合及株式會社等は單なる空文に過ぎざるものとなり現在ソ聯邦に於ては實質的に云へば國營商業と協同組合商業の二つを存するのみとなつた。

ソ聯邦の國營商業

國營商業は、國營工業國營農業と共に國營企業を構成する。依て國營商業を述ぶるに先ち國營企業に付説明する。國營企業は經營が聯邦なりや、共和國なりや

地方なりやに依り行政的に三種の別ありて其の何れに該當するやに依りて聯邦、共和國又は地方自治共和國及自治洲の人民委員部を以て其最高經營機關とするけれども共和國地方の人民委員部に對しては聯邦政府之が監督の地位にあるを以て國營企業の全部は結局聯邦政府の統制下に置かれて居るが、但し、各企業個々の結合體は民法上法人と見做され一定の獨立權を認められ、露西亞民法第十九條に依れば獨立會計(ホズ、ラシヨット)主義を採用し國家豫算に依り融資を受けざる國營企業及其結合體は取引の點に於て獨立にして且國庫と關係なき法人として行動するものであり、其債務に對しては其の自由處分に置かれたる財産即第二十一條及第二十二條に依り取引より除外せられたる以外の財産を以て其責に任ずることとなつてゐる。

國營企業の最小單位機關は數個合してトラストを形成し、トラストは合してオプエデニエーニエ(合同)を形成し、合同は各人民委員部に直屬する。最小單位

機關が直接合同を形成する場合も有り、國營企業の資本は固定資本、即ち土地、建物、機械等と流動資本、即ち金錢生産物燃料、原料、有價證券等の如きものとに區別される。固定資本は重要産業の國有化に依り國有化され原則として民法第二十一條乃至第二十二條に依り取引より除外せられ居るを以て法人としての國營企業は固定資本を以て債務の辨濟に當つることを得ず、唯流動資本のみに依り其責に任ずるを原則とする。

國營商業は其作用により對外貿易及國內商業に分つことを得、對外貿易の最高機關は貿易人民委員部にして外國に於て貿易に従事する其機關は通商代表部である。

外國より輸入せる商品をソ聯邦各共和國内に於て供給し、又聯邦共和国内に於て國營企業、協同組合、個人商等により商品を買占め之を海外に輸出す可き任務を有する者は各共和國政府附聯邦貿易人民委員部派遣員で其の下にゴストルグ(外國貿易事務所)の設置があつて之に従

事する。

國內商業は主として國內商業人民委員部が管掌する。國內商業人民委員部は國內に於ける商品流通状況を統制し、國營商業のみならずコオペラチヴ商業、個人商業を調整し物資の配給方、商品の販賣方に關し之を按配するの權を有し、國營商業は右人民委員部に直屬し一般に商品を提供する機關にして各種國營企業によりて生産せられる商品はゴスプランの計畫に従つて國內商業人民委員部によつて一定價格にて購入せられ、而して國營商業機關を通じて國民又は各種機關に販賣される。トラストは國營商業の各地方に於ける實務機關であり、各地方に商店を經營する。トラストは數個合同してオペエデニエーニエ(合同)を形成、合同は國內商業人民委員部に直屬しトラストの計畫的統制を行ひ、トラストに對し生産物の配給及販賣及トラストの金融を統制するのみならず、幹部の養成及び配屬を爲し又特別に技術の合理化及科學的研究の特別機關を設く、右を例示せば國內商業

人民委員部は重工業人民委員部、林業人民委員部其他の人民委員部の生産物、鐵材、セメント、木材をゴスプランの計畫の下に購入し、之を直屬する各合同即大建築物材料供給合同(ソユズ、スナブ、ストロイ)に分配しソユズ、スナブ、ストロイは管下の各トラストにゴスプランの下に之を分配し、トラストは又計畫に従つて之を一般に販賣する。各トラスト又は合同は各々其地方に依り固有の名稱を有する。例へばモスクワ市に於てはモストルグと云ふが如くである。

協同組合經營の商業

ソ聯邦に於ける協同組合は聯邦全國國民を組合員とする建前の下に組織せられたる公共團體的傾向を有するものにして、他國に於けるが如き私的組合でなくて、

協同組合は國營企業と相提携し聯邦の計畫經濟上大なる役割を演じて居るもので、協同組合には消費組合、農業組合、手工業組合、農業信用組合等あり同一種類の協同組合の最小單位聯合して夫々の區聯合會となり、地方、州、共和國聯合會となる。又共和國聯合會は合して聯邦最高機關たる中央聯合會となる。各中央聯合會は各人民委員會議と協議し國家計畫委員會のプランの下に、聯合會相互間又は國營企業との間に物資配給に關する契約を結ぶものとす、協同組合中商業を營むものは消費組合にして國民に對する物資配給の大部分は消費組合に依つて行はる。

消費組合の成立には同地方に三十人以上の組合員あるを要し、斯くして成立せる組合は獨立して商店又は配給所に設くることを得、尙選舉權を有する市民は何人たりとも組合員たることを得、組合へ登記後法人たるの權利を取得す配給は組合員に非ざる者にも及ぼす趣旨なるも、物資不足の場合は組合員に限り之を行ひ

組合員にはカード制度に依る配給券を交付し尙組合員中勞働階級に屬するものは普通組合員に比し優先權を與へられてる上勞働者消費組合(ラボチヤヤ・コーペラツィヤ)なるものありて更に配給上の優先を受けてゐる。

次に消費組合に依る商品流通額を見るに一九三〇年に於ては百二十億留であり全國商品流通額の六十六パーセントを占めた。

尙消費組合の利潤は組合の事業の爲に使用するを原則とし組合員に分配されることは無いが其の出資額は漸次利潤より償還せらるゝこととなり、換言すれば利潤は右償還額を除き協同組合其のもの、財産となるわけだソ聯邦民法第五十二條には

財産を分ちて(イ)國有、(ロ)協同組合有、(ハ)私有の三と爲す。

との規定あり、斯の如く協同組合の財産は組合員出資額の償還に伴ひ次第に増加の社會主義化せられたる財産を形成する。

尙消費組合中には特に營利を以て人民一般に賣捌を爲すもの有り、之をコムメルチエスキー・マガデン(營利商店)と稱し、其の目的は貨幣吸收にある。

個人賣店及販賣

社會主義の國是の下に經濟機構を公共化したるソ聯邦に於ても猶一定の私有財産制を有する外、小規模の私的經濟及個人取引もある、それは左の如き雇傭勞働を有せずして手工業を爲す者、靴磨夫の營む靴附屬品賣店、鐵道驛内の賣店、小舟による物品販賣等である。

一 雇傭勞働を有せずして手工業、手職的生業、馬車運送業及住民の個人的及經濟的私生活上の需要に應ずべき業務を營む者(例一 大工、指物師、塗師、煖爐師、屋根職、水道工、鍛冶職、電氣工、硝子工、煙突掃除夫、床磨夫、塗匠、給水夫、洗濯職、荷物運搬人、製本職、理髮師、寫眞師、眼鏡師、靴磨夫及磨夫の營む靴附屬品賣店(尙地方により砥師、空瓶賣等)

二 職業コオペラチーヴ、アルテリ及廢疾者コオペラチーヴ、アルテリ員にしてアルテリ外に於て勞働する者並に課業時間外に於て注文を受けて手工業及手職的生業を組織的に營む勞働者及勤務員

三 業務の性質上雇傭勞働一人を有するも之が爲法律に依り選舉權を剝奪せられざる手工業者及手職的生業者

四 法律に依り禁止せられず且農業税を課せらるゝ手工業、手職的生業又は馬車運送業を營むコルホーズ員及勤勞個人農

五 住居の家庭經濟に奉仕する者(例一 薪の挽割、特殊の設備を有せずして行ふ衣類の洗濯、兒童及病人の看護)

六 コルホーズ員、勤勞個人農、副業として農業を營む勞働者、勤務員及其他の勤勞者にして原料として又は加工して自己の農産物を販賣する者並にコルホーズ員及近隣の勤勞住民にして鐵道停車場及埠頭に於て賣店、小舟に依り又は自ら携帶して農産物を販賣する者

第三次五ヶ年計畫と商業

一九三九年三月發表第三次五ヶ年計畫モロトフ案の説明によれば、勤勞者の生活の物質的水準を向上せしむる目的を以て此期間に極力國內商業を發展せしめ、これに準じて左の如き決定を見た。

(イ) 國營協同組合の商品取引高を一九四二年には、初年度たる一九三七年年度の一二六〇億留に對して、二〇六〇億留まで増加せしめ、それと共に食堂、レストラン、カフェ及び賣店の取引高を倍加する。

(ロ) 國營協同組合の小賣商業取引網をば二六%の擴張をなし、商業取引(冷蔵經營、營業機關と倉庫の建設、商品の配給と輸送)を全體的に改善し、急激に發展しつゝある農業地方に於ては、農民の成熟しつゝある日常生活、修理及び建設上の必要に應ずべき商品の販賣店網を特に發達せしむ。

一九三七年度実績と一九三八年度課題

一九三七年に於ける商品流通高は約千二百五十億留に達し、前年の千六十億留に比較して百九十億留餘の増大となつてゐる。一年間に開設された各種商店数は五萬餘となり、その内六〇%は都市に新設された。又商業従業員のスタハーフ運動も著しく普及し、モスクワのみでも商業スタハーフツイは一萬五千人に達した。

然して商業に於ける計畫の遂行状態は餘り芳ばしからず、商品取引、商店の増設、主要なる建設、商店設備の改善等に關する計畫の遂行は決して満足すべきものではなかつた。

斯うした商業の不振は次の數字に現はれてゐる。即ち、昨年度商品取引計畫千三百十億留に對して実績は千二百五十億留であり、投資計畫二萬五千留であつたのに對して、實際に投資された額は一萬六千留であつた。又重要な地方に於て

一六〇〇の社會給養施設が閉鎖された。消費組合商業の成績は殊に悪く年度計畫の八〇%を遂行したに過ぎず、國營商業系では全國百貨店及び第一地方トルグ關係の機關の成績は悪かつた。

一九三七年度の商業の不振に鑑み、一九三八年度に於ける重要な商業の課題として次の諸點が擧げられてゐる。

一、商業従業員の教育の向上を圖り、先づ人的要素の改善を期すること。從來商業勞働者は他の部門に比して教育程度等が劣つてゐたのであるが、教育の向上には特に力を入れる必要のある事が強調されてゐる。

二、商品生産物の地方的調達及び買付を奨励し、各商業機關の事業計畫に於て地方的生産に關する商品の流通の役割を擴大すること。

三、商業の文化性の向上を圖ること。從來この方面の成績は特に芳しくなかつたのであるが、従業員の眞の向上と、施設の改善とによつて之を行ふこと。

四、商店網を擴大すること。

五、所謂社會主義競争とスタハーフ運動を昂揚すること等。

一九三八年の商業取引

本年度における商品取引は總額千四百五億留と計畫されてゐる。即ちその取引額は都市に於ては八六、五〇〇百萬留、農村に於ては四二、九五〇百萬留、社會給養施設に於ては一、〇五〇百萬留であつて、これを前年度に比較すれば夫々一一・〇%、一四・二%、一四・五%の増加となり、總體に於ては一二・二%の増加となる譯である。

然して商品群別の豫定量計畫についてみるならば、工業品の所謂商品豫定量は五一、八一九百萬留で前年に比して一四・九%増、食料品は八九、五八一百萬留で同じく一〇・一五%増、合計一四一、五〇〇百萬留で一・八%の増加である。

斯くの如く本年度計畫に於て前年度よりも商品豫定量に於て一一・八、取引額に於て一一・二%増加する豫定であるが商品豫定量の増加率が少いのは、前年よ

りも商品の在庫を減少し、商品廻轉を急速ならしむる爲である。

即ち消費者に對して商品を急速に流通せしめる事——これを本年度の計畫の重要な課題となつてゐる。

總商品豫定量一四一、五〇〇百萬留の内、中央的豫定量は一一一、四七二百萬留、地方的豫定量は三〇、〇二八百萬留となつてゐる。右の如く地方的商品豫定量が總取引高の二一・三%を占める(前年度は二〇・八)ことは商品の地方的調達並に購買が商品取引計畫に於て重要な意義を有するに至つてゐることを示すものである。

昨年度に於ては工業製品の取引は概して成績不良であつたが、本年度は工業品豫定量は昨年比して一四・九%増加する計畫であり、その中でも綿織物は二六・三%、ゴム靴は二一・六%、糸類は三四・五%、フェルト製長靴は三四%と云ふ如く著しい増加をみることになつてゐる。

文化的商品の豫定量は携帯用蓄音器二

四・五%、レコード三二%、樂器二一%、ラヂオ受信機一〇%が増加する筈である。

又食料品中取引増加の顯著なるものは、獸脂の二二・一%、植物性油二九・二%、卵五八・三%、練一六・四%、罐詰三六・七%等である。本年度に於ては農産物の地方的調達に特に擴張される豫定で、昨年比して蔬菜類二六・三%、馬鈴薯二九%、果實類二二・三%、乳類及乳製品四八%の増加となる。

本年度に於ては商品取引計畫は各地方の産業の重要性、住民の所得高、需要の特殊性等を充分考慮して作成されてゐる筈であるが、計畫によれば、スヴェルドロフスク、チェリヤビンスク、ヤロスラフスク、チチンスク、ノヴォシビルスク等の各州及びカザクスタン、キルギズ共和国等の如き重要地方、更に極東地方の商品取引が振興されることになつてゐる。

次に商業組織別の取引計畫を示せば次の通りである。

ソ 聯 邦 商 業 の 發 達

(單 位 十 億 留)

項 目	1929 年	1933 年	1938 年 (概數)	1933年度分に 對する1938年 度分の百分比
小賣取引	14,6	43,4	126,2	290,8
社會給養企業網の取引	0,6	6,4	12,4	193,7
コルホーズ農民市場商業	—	11,5	24,4	212,2
合 計	15,2	61,3	163,0	265,9

商 業 網 の 發 達

網 種 類	1934 年 1月 1日	1938 年 10月 1日 (概數)	1933年度に對 する1938年 度分の百分比
國營工業の卸賣基地	718	2 046	285,0
國營及コオペラチーフ商業 の小賣網(單位千)			
商店	22,7	239,7	107,6
屋臺店	62,6	354,0	183,7
合 計	285,3	354,7	124,3

商業人民委員部小賣 百億留 對前年比
 プロドスナグ並トルグピト 六六、二〇〇 一一一・七
 一〇、九七〇 一一〇・八
 各工業人民委員部關係の小賣 九、八八〇 一〇三・七
 消費組合 三二、九〇〇 一一六・一
 全露産業協同組合 一、六五〇 一一七・〇
 全露廢兵協同組合 一、四〇〇 一一〇・二
 全露林業協同組合 一八〇 一一二・四
 其他 六、二七〇 一〇九・五
 計 一二九、四五〇 一一二・〇
 社會給養施設 一一、〇五〇 一一四・五
 總取引額 一四〇、五〇〇 一一二・二

商業人民委員部關係では地方小賣部の取引高の増大が最も著しく一三%乃至一六%となり、百貨店聯合の取引高は昨年度と殆んど同水準に止まる。金屬製品、建築材料販賣聯合の取引高は食器類が昨年より若干減少するが、他の商品は著しく増加する。小間物、編物販賣聯合の取

引は増加率八%であるが、取引商品の構成は一變する。

計畫商品並に規則商品の取引は地方小賣店本部關係の分が殊に増加する計畫であるが、この事は是等の商品の各地方的分配或は都市内に於ける分配計畫が、合理的に調整されてきたことを物語るものである。

商業人民委員は現在、商品發送計畫を再検討し、取引計畫作製に於ける地方機關の發言權を伸張することを認め、計畫の個々の要素間の矛盾、殊に商品取引計畫と商品豫定量計畫との矛盾の除去に努力しつゝある。商品取引計畫が整備すれば、それだけ商品取引に關する國家の任務の實行もより一層保證される譯である。

小 賣 取 引 額

一九三八年第三・四半期に於ける小賣取引額は計畫の三百二十三億留に對して、實取引額三百十四億留(社會給養を除く)であつて、計畫の遂行率は(社會

給養を含めて)九八%であつた。是を商業組織別に示せば、ガストロム、百貨店、休養地商品供給等の各總管理局下にある聯邦所屬企業の計畫遂行率は九八・八%第一乃至第四地方トルグ、露西亞纖維工業品トルグ、ロシア文化商業品トルグ等の管下にある(露西亞)共和國所屬企業に於ては九五・六%、ウクライナ共和國所屬企業に於ては九五・九%、社會給養機關では一〇九・六%の計畫遂行率を示した。

商業人民委員部並に消費組合中央會、その下級機關たる地方トルグ並に州消費組合は概して官僚主義的指導方法を脱せず、從つて需要の測定並にそれに應ずることや、地方的生産に關する商品を積極的に利用して取引を盛んにすることが出来なかつた。その爲め多くの商品に於て商品不足し、或は卸賣所には商品のストックがあるに反して、小賣店に於ては品不足を招來するが如き状態であつた。

第四・四半期に於ては取引計畫を各下級機關に徹底せしめ、各下級機關は計畫

遂行の具體的な事務上の計畫を各々作製、實施すべきことを嚴命すると共に、計畫方法を改善し地方生産に關はるところの商品を可及的に利用し、更に商業機關の設備その他の改善を實行すべきことが主要なる方針となつてゐる。

商業人民委員部改組

一九三八年四月三日聯邦人民委員會議に於て確認された新官制により、商業人民委員部の構成は廣範圍に改造されることとなつた。

改組の要點は聯邦人民委員部の地方トルグ總管理局を廢して、之をロシア、ウクライナ、白露、ウズベク、及びカザクスタンの各共和國商業人民委員に委管した事、食料品商業部及び工業品商業部を新設して、兩商品群の取引に關する業務を總括したこと、蔬菜果實商業部並に地方的調達部の新設、近年に於けるコルホーズ商業部を新設した事、商業に於ける大建設の重要なものも拘らず、最近その業績不振なるに鑑み大建設總管理局を新

設し、又商業基幹部員養成が最近その重要性が増大してきたため、商業労働者基幹部員を新設せる事、商業人民委員部の直營の商店の数を縮小せること等である。

次に新官制による商業人民委員部の構成の概要は左の通りである。

一、聯邦商業人民委員は各共和国の商業人民委員部を通じて商業々務を指導し、又他の人民委員部の行ふ商業を調整する。

二、聯邦商業人民委員部は各共和国商業人民委員部の業務を指導する。

三、商業人民委員部の主要なる業務は左の如し。

- (一) 卸小賣取引及び商店網に關する計畫の作製
- (二) 商品の配分計畫の作製及び配分せられた商品の取引に關する業務
- (三) 小賣價格に關する業務
- (四) コルホーズ商業の普及及び改善
- (五) 商業法規に關する業務
- (六) 商業金融

(七) 商業労働及び賃銀
(八) 商業企業の建設
四、聯邦商業人民委員部には次の如き部が設置せらる。

食料品商業部、工業品商業部、蔬菜果實取引、地方的調達部、コルホーズ商業部、商業組織部、食堂・レストラン、列車食堂・カフェ部、計畫・經濟部、財政・金融部、中央簿記部

五、聯邦商業人民委員部内の總管理局は次の如し。

ガストロノム・バカレヤ商店總管理局、百貨店總管理局、食堂、レストラン・カフェ總管理局、蔬菜果實調達販賣總管理局、列車食堂總管理局（これは中、南、東部に分る）、水運・港内食堂總管理局、療養地商店總管理局、陸海軍商業總管理局、裝備品商業總管理局、建設總管理局、學校總管理局。

六、總管理局には次の如き部、課が設置せられる。

商業調査部、商品部、大建設部、計畫部、金融部、簿記部、従業員基幹部

七、聯邦商業人民委員部の課は次の如く分れる。

従業員基幹部選抜登録課、従業員基幹部賃銀課、統計課、大建設課、監督課、運輸部、動員部、發明課、調停部、法規課、俸給課、庶務課、秘書課。

八、商業人民委員部内に國家審査會が設置され、業務に關する諸種の審査統制を行ふ。

九、商業人民委員部直屬の事務所には次の如きものあり、これは特殊の法規に據つて活動する施設である。

食料品卸賣事務所、裝身具、編物類卸小賣事務所、毛皮製品卸小賣事務所、寶石・貴金屬取引事務所、金屬製品卸賣事務所、商業廣告事務所。

一〇、聯邦商業人民委員部には參與會及び聯邦商業人民委員部會が組織され、前者は定例會議を開いて商業指導の實際に計畫遂行狀態の審査、従業員基幹部の選抜、地方従業員の提出する報

告、重要な指令につき審査を行ふ。又後者は地方との連絡を鞏固にし且つ事業上の經驗を交換するため、二ヶ月に一回人民委員會直屬の會議を開いて商業に關する諸問題を討議する。

消費組合商業改善

二月中消費組合中央聯合は各地方、州及び各共和国の商業管理機關の幹部を召集し、消費組合商業の改善に關して協議した。同會議に於て中央聯合の計畫部及び財政部は商業従業員賃銀のリミットを確認し、消費組合商業機關の定員増加、管理機關の縮小を決定して討議に入つた。

席上消費組合は中央聯合の合同即ち仲介機關を経ずして直接組合の卸小賣施設に商品を引き渡すべきことを主張し、合同側はその仲介機關を増加すべきことを主張した。

又消費組合聯合は商業の組織方法が適切でなく、豊富な地方資源を全的に利用してゐない事が指摘され、中央聯合が工

業製品の管理が殊に不充分であることが批判された。

會議に於て一聯の重要な提案がなされ、中央聯合の合同はトランジット（商品流通に於て仲介機關を可及的に縮小すること）による取引を展開すること、農村に必須な商品について一層考慮を拂ふこと、商品配達人及び販賣人を熟練者たらしめる爲に補助金を支出すべきこと等が決定された。

農村の店舗増設

一九三七年末に於けるウクライナ共和国の農村の店舗及び賣店数は二千七百であつた。この内百貨店は二百、食料専門店は百であり、百貨店の賣上高は四億三千萬ルーブルであつた。本年度内に新たに百貨店二百、食料専門店百、賣店五百が新設された。

一九三九年の商業課題

一九三九年の小賣高と社會食堂網賣上高は一九三八年度の一千三百八十五億留

より一千五百四十億留に達する豫定で、一九三八年に比較して一二・四%増加の見込である。之を各構成共和国別に見れば、アゼルバイジャン共和国は一三・六%、カザツクスタン共和国は、一五・五%、ウズベク共和国は、一六・一%、トルクメン共和国は一八%、キルギス共和国は一八・八%、タヂク共和国は一九・一%増加である。

ソ聯邦商業の擴大と改善には商業機構内にありし害敵分子の清掃が役立ち、年少氣鋭なる幹部が入り、一般國力と文化が昂揚した爲に一九三九年、第一・四半期の計畫は過去四年來始めて超過遂行せられた。

第一・四半期の計畫は全聯邦的に、一九三八年には九四・四%の遂行に止つたに對し、一九三九年には一〇四・六%を遂行した。

本年度に於ける第一・四半期の取引高は年度計畫の二四・六である、ソ聯邦商業の國家豫算收入に於ける役割は大きく又國家豫算に於ける收稅計畫の遂行は、

商業従事員の努力に俟つ所が多い、一九三八年には商業機關の不充分なる活動の爲豫算収入は非常に不足であつた。僅かパン製品の販賣計畫の不遂行に依るだけでも、十億留以上の歳入不足を來してゐる。

一九三九年度の計畫は充分に商品に依つて保障せられ、特にパン製品、麥粉製品の販賣は第一・四半期に於ては超過遂行せられ、取引税収入の増加は現實性を帯びるに至つた。

斯くて一九三九年度の商品販賣計畫は超過遂行するものと確信せられたのである。

第一・四半期に於ける計畫

一九三九年第一・四半期に於ける、販賣高は昨年度に比較すると、肉は五五・八%、バターは一四六・三%、カルパス製品は一七・八%、鳥禽類は一六五%、罐詰類は一五四%菓子製品は一二五%であり、其他綿糸布、羅紗、履物類の販賣計畫も遂行せられた。

然し商品流通計畫の超過遂行は、大衆の需要を緩和したとは必ずしも云ふを得なく、大衆の物質的水準の向上は益々需要の増加を伴ふ事であつて充分なる満足は與へてをらなす。

全聯邦的には第一・四半期の計畫は超過遂行せられたが、各共和國に於ける不遂行の事實は、グルヂヤ共和國は九七・八%、カザツクスタン共和國は九七・八%、ウズベツク共和國は九八・二%、トルクメン共和國は僅々九四・七%を遂行したに過ぎぬ事に依つて認められる。

一九三八年には國營商業は計畫に對し七億一千萬留の蓄積不足を生じ、蓄積計畫は六〇・六%の遂行で、聯邦的商業機關は九〇・六%地方的商業機關は四三%の遂行に止つた、本年度第一・四半期に於ける蓄積は昨年よりは稍良好で特にロシア共和國、グルヂヤ共和國の地方トルグは蓄積計畫を超過遂行してゐる。

財務人民委員部は商業機關に對し取引に於ける商業機關勘定の資金の使用割當額の一時輕減を許して之を救済し、一九

三九年度中に商業企業の財政的障害を一掃、國家蓄計畫を企圖したのであつた。一九三九年第一・四半期に於ける、商業人民委員部關係の建設投資計畫遂行率五八・二%

(イ)聯邦商業人民委員部管理局及卸小賣事務所關係 五五・四%

(ロ)地方下ルグ關係 六一・三%

第一・四半期に於て着手すべき企業建設の進行状態は左の通りである。

(イ)レストラン管理局關係 九〇・一%

(ロ)食料品専門店管理局關係 八七・〇%

(ハ)百貨店管理局關係 未了

聯邦商業人民委員部管理局關係の企業建設費は六八〇萬留の計算なるが投資實績五一六萬留にして七五・八%の遂行率を示してゐる。

第二、四半期の小賣計畫 狀況

第二、四半期に於ける露西亞共和國人民委員部管下國營商業の計畫遂行狀況は

左の如くである。

第一トルグ總管理局管下の商業企業	
計畫超過遂行	一九
同未遂行	一五
第二トルグ、同	
計畫超過遂行	二三
同未遂行	八
第三トルグ、同	
計畫超過遂行	三一
同未遂行	七
第四トルグ、同	
計畫超過遂行	一九
同未遂行	

第二、四半期に於ける消費組合商業の遂行成績は消費組合中央評議會管下五五消費組合に付一〇八・三%である。

第三・四半期小賣販賣計畫

各種商業機關の第三・四半期に於ける小賣販賣計畫の遂行率は次の如くである
地域別 遂行率%
ロシア共和國 八八・五

ウクライナ共和國	八七・八
白ロシア共和國	九〇・二
アゼルバイヂヤン共和國	八七・〇
グルヂヤ共和國	八九・九
アルメニヤ共和國	九四・七
トルクメン共和國	八五・三
ウズベリ共和國	八四・八
タヂツク共和國	八二・二
カザツク共和國	八四・四
キルギス共和國	八七・〇
ソ聯邦通算	八八・二

小賣商店従業員の新賃金 規程

ソ聯邦人民委員會議附屬經濟會議は一九三九年八月五日、小賣商店従業員に對する新賃金規程を確認した。同規程は聯邦商業人民委員部に所屬する各種小賣店の従業員のみ適用されるものである。

制定の目的は從來の賃金率を整備し販賣高の増加と購買者へのサービス改善を促進するにある。規定本文は十二條から成り、小賣店の支配人、各係主任、簿記

係、出納係、販賣員に至る迄、夫々計畫高又は規準額の超過遂行分に對し割増歩合制度を設けてゐる。

支配人、副支配人等の店主脳部に對しては各四半期毎の計畫遂行率如何に依つて固定賃金に對する割増額が算定され、其他販賣員に對しては特定額の販賣規準を設けて割増額が算定され、會計係では亦特別の方法で増率が規定されてゐる。各従業員は夫々固定賃金率が定められてゐるが、固定率は各商業機關に直接送付されることになつてゐる。同規程は特殊な事情(タヂツク共和國、ヤクーツ自治共和國、ハバロフスク地方、沿海地方、極北諸地區等)にある商業従業員に對しては聯邦商業人民委員部が聯邦勞動組合中央會議の同意を得て賃金率を二〇%迄増減し得ることを認めてゐるが、其他の變更は禁止してゐる。

外國貿易

ソ聯邦の對外貿易

外國貿易の特質

ソ聯邦外國貿易の特質は國家の獨占事業にある點で、一九一七年革命直後、將來の經濟計畫を準備し、未だ若かつたソ聯邦經濟を外國との競争より保護せんため、同年十二月二十九日附の決定を以てソ聯邦政府は外國貿易の嚴重な許可制度を確立し、翌一九一八年四月二十八日附布告を以て始めて確定されたのである。然し右の原則が實現されたのはずつと後のことで一九二〇年六月十一日附法令、一九二一年二月十七日附及三月十七日附法令に依り外國貿易人民委員部に依る外國貿易の遂行、獨占經營の基礎が確立されたのである。

ソ聯邦貿易の意義

ソ聯邦は計畫經濟を實施し、貿易を含む經濟の主要部門を國家の手中に獨占し自給自足目的とする工業化、工業の技術的完成を主要目標とする、第三次五ヶ年計畫を施行してゐる、この經濟的及技術的獨立達成のためにソ聯邦貿易は次の如き役割を演じてゐる。

此れ即ち短期間にソ聯邦國內に於て生産し自給し得ない物資即ち過去に於ては工業化と農業の機械化に必要な機械及原料、現在に於ては生産の技術的完成に必要な技術、新式機械及諸原料を外國より輸入し、之れを國家經濟諸部門に供給すると云ふのが基本的役割であり輸出は輸入を保障するための一資金獲得手段である。

外國貿易人民委員部

一九二五年に外國貿易人民委員部及內國貿易委員部の二つを併合して設けた內國貿易人民委員部は五年後即ち一九三〇年十一月二十二日の法律に依り、再び元の二箇の獨立した機關に分立された。斯くして外國貿易人民委員部は再生したが、內國貿易人民委員部は給糧委員會と稱せらるゝに至つた。斯くの如く監督權を分轄した原因は、外國貿易及國內商業が夫々別々の方向に發展し、従つて之を

統制する方法も獨立したものでなければならぬと云ふにある。國內商業にあつては資本的要素は卸賣業に於て全く見られず、小賣業に於ても全く限られた範圍に過ぎない、殊に産業化が一層進展し、その中心地に多數の人口が集まるに連れ之等の人口に食糧品其他の日常品供給は、日に日に恐るべき數量に達する爲め、之には特殊の政府機關が不斷の監督を行ふ必要がある。他方外國貿易は、資本主義的要素を多分に含んで行はれ、而も國際的競争を避けることが出来ない。外國貿易の兩者に關する問題は今や全く別箇のものとなり、之を同時に監督することは最早不適當と考へられるに至つた。

外國貿易人民委員部は、國營主義の下に全ソ聯邦の外國貿易を統制し、國內及國外を問はず、外國貿易に従事する凡べの機關の活動を監督するものである。

外國貿易人民委員部の主要機能は、一、輸出入貿易政策の確立、二、自ら又は特に外國貿易を目的として結成された團體の手を通じて前記政策の實施の支配

三、關稅事務の取扱、四、外國貿易を行ふ團體會社の結成の四項で此等の機能は各部署に分割され、各々の活動は外國貿易部の統制する機關と協力して行はれる。而して此等部署の中、主なるものは管理局、計畫部、貿易政策部、稅務部、輸出入部、輸入部、通貨取扱部、外國貿易損失防止局、合理局、輸出品品質國家監督局である。

ソ聯邦貿易人民委員部首腦部

ソ聯邦人民委員會議は一九四〇年六月十四日附聯邦貿易人民委員部參與會の構成を左の如く確認した。

- | | | |
|----|----------|----------------|
| 委員 | 人民委員第一代理 | ミコヤン(アー・イー) |
| " | 人民委員代理 | クルチコフ(アー・デー) |
| " | 人民委員代理 | スチエパノフ(エム・エス) |
| " | 人民委員代理 | カガノウイッチ(ユー・エム) |
| " | 人民委員代理 | クシヤロフ(ウエー・イー) |

委員部の内外代表機關

ソ聯邦内に於ては外國貿易人民委員部を代表するものは、各組合及自治共和國内の人民委員若くは必要と認められた團體に附屬の特別の派遣員で、外國にあつてはソ聯邦の名に於て商取引を指揮監督する目的を以て設立された通商代表部が代表してゐる。此等通商代表部は外國貿易人民委員部の一支部であると同時に國外に於けるソ聯邦外交機關の一要素となつてゐる。各加盟及自治共和国内の委員部代表派遣員の任務は、主として各地方の外國貿易機關が委員會の命令を實行するや否やの監督、輸出入貿易策の作成及地方に於ける輸出入原料品資源の開發等であ

第六	(一) 咖啡	從價	五〇割	
	(二) 「ココア」豆	"	三割七分	
第七	(一) 本條(第四)記載外ノ茶葉及磚茶 (每一貯容器共)	一七割		一〇〇留
	(イ) 太平洋諸港及北支陸路國境經由	一〇割		
	(ロ) 其他諸港及國境經由	一六割		
	(三) 綠磚茶			
	(イ) (一) イニ同シ	一四割		
	(ロ) (一) ロニ同シ	二二割		
	(四) 「タチク」「トウルクメン」「ウズベク」			
	諸共和國經由ノ紅茶及綠磚茶	五割五分		
	備考 包裝一貯ニ對スル最低關稅率ハ三倍ニ引上ク			
第八	蔗糖及甜菜糖	八割		
	原料	一五割		
	其他	一五割		
第九	(一) 「チョコレート」	每 貯容器共	二〇留	
	(二) 「チョコレート」	每 貯容器共	六〇留	
第二	(一) 素麩、「マカロニ」肉及肉「エキス」		一〇留	
	(二) 「チーズ」、「人造バター」		二留	
	(三) 酢		五留	
	(四) 腸詰、「ハム」、「ベーコン」類			二五留
	(五) 「チエール・アルコール」酒精飲料、麥酒及其他酒類			一二留
	第三 皮革原料	從價	一分	
	(一) 「キッド」、「ラック」塗リ「キッド」		四〇割	
	(二) 其他精製皮革	從價	六割	
	(三) 馬具類	從價	二〇割	
	(一) 研磨用材料	從價	一分	
	(二) 工業用金剛石	每一貯	一〇〇留	
	(三) 金屬縁付同製品	從價	一〇割	
	(一) 生「ゴム」	從價	一〇割	
	(二)(三) 以外ノ「ゴム」製品	從價	一五割	
	(三) 「タイヤ」、「タイヤチューブ」	從價	一〇割	
	第四 「メチル・アルコール」、醋酸粉末	每一貯	一〇割	
	第五 「アンチモニー」、同製品	從價	一分	
	加里「クサンタート」		一分	
	第六 「シアン・バリウム」、加里、		四割	

第四	「ナトリウム」、砒素等	"	一分	二割五分
	硝酸、「キルチル」酸、硼酸等	"	一分	三〇割
第五	「フェナツエチン」	"	一分	三〇割
	「アスピリン」、「ウロトロピン」	"	一分	三〇割
	「ベンゾナフトル」等	"	一分	二〇割
	「コカイン」、「ストリキニーネ」	"	一分	二〇割
	「ピロカルピン」、「プロマリン」等	"	一分	二〇割
第六	沃度「キニーネ」	"	無稅	二割五分
	各種容器包裝ノ寫眞用顔料	每一貯容器共	二〇留	五〇留
第七	洋紅類	從價	一分	二割五分
	(一) 香料「コスメチック」製品	每一貯容器共	二五〇留	三〇〇留
	(二) 石鹼	"	二五留	三〇〇留
	(一) 「エーテル」油	從價	一分	三〇〇留
	(二) 香料	"	二〇割	三〇割
	樟腦	"	一分	三〇割
第八	(一) 有機無機合成物「アニリン」染料	"	一分	一〇割
	(二) 塗油、「インキ」、糊	"	一〇割	一〇割
第九	第六十五條記載外ノ凡テノ針金、電線「コード」被覆線	"	一〇割	一〇割
	備考 本條ニハ幅員或ハ直徑五耗以下ノ鐵鋼、幅員或ハ直徑一二、五耗以下ノ其他金屬類合金類ヲ除ク			
	(一) 安全剃刀ノ刃 每一貯容器共		一五〇留	五〇〇留
	(二) 各種剃刀及調髪器	"	五〇留	三〇〇留
	(三) 其他ノ刃類	從價	一分	五割
	狩獸及「スポーツ」用銃	從價	一〇割	二〇割
	同部分品、銃彈等	"	一分	三割二分
	(一) 特記サレザル機械裝置	從價	一分	三割二分
	同部分品	"	一分	三割二分
	(二) 特記サレザル金屬製品	從價	一分	三割二分
	第七ノ一 「ボール」及「ローレルベヤリング」	"	三割二分	三割二分
	各種草條	"	一分	一割一分
	(一) 光學、物理學、醫療用器具	每一貯	一分	二〇留
	(二) 其他	從價	一分	七割五分
	映寫機、複寫機	"	一分	二〇割
	陰陽畫「フィルム」焼付用紙	"	一分	一〇割
	(一) 計算器	每一貯容器共	三〇留	五〇留
	(二) 其他	從價	一分	二割五分
	(一) 時計	"	三〇割	三〇割
	(二) 同部分品	"	五割	二〇割

第八六	眼鏡、雙眼鏡、「プリズム」 擴大鏡 對物「レンズ」其他光學「レンズ」	每一疋	一〇〇留	一〇〇留	(二)生絲 從價	三割
第八九	各種電氣機械及同部分品	每一疋	一〇〇留	一〇〇留	(三)紡績絲及紡絲 從價	一八割
第九〇	「エレクトロリック・トランスフォーマー」 「オート・トランスフォーマー」同部分品	從價	一分	六割	(四)絹、半絹、人絹織物 每一疋	二〇割
第九一	蓄電池(乾、油、濕)同部分品	每一疋	一分	五割	第八八條記載外「ロープ」類、 麻及其他植物性織物ノ袋	五〇〇留
第九二	「ラヂオ」受信及發信機同部分品	每一疋	一分	五〇留	「パッキング」類	一五割
第九三	(一)「エレクトロロード」 (二)其他	從價	二分五分	一〇割	第九五(一)婦人及男子用靴下	一分
第九四	其他電氣機械、裝置器具 同附屬品及部分品(硝子ヲ含ム)	從價	一分	一〇割	(二)第百十三條記載外ノ其他製品	一五割
第九五	綿織物、毛織物、其他織物(第百五條第四項記載ヲ除ク) 「フェルト」絨氈、手巾、掛蒲團	每一疋	一分	一〇割	第二〇 敷布、食卓布、肌衣、衣服製品 (一)絹及人絹ノモノ (二)(一)ニアラサルモノ	七五留
第九六	人絹屑、スキ屑及綿	每一疋	一〇割	三〇〇留	第二三 寶石類、男子及小兒用靴、手袋類 婦人用靴、手提靴	一五〇留 一五〇留 三五〇留

歐洲戰とソ聯の對外貿易
順位

一九三九年八月ソ獨通商協定に次ぎソ聯邦は對ブルガリヤ、イラン、アフガン、米國と通商協定又は改新協定を結び戰時貿易の強化に努めてゐる。歐洲交戦國間の戰時禁制品の發動により對歐輸出の複雑且つ困難性の擴大に伴れて一時減退を豫想されたソ米貿易は、最も安全とされ増大し、去る一九三九年九月中におけるソ聯邦の對米買付は本年の最高記録で一千五百万ドルを突破した。主なるものは機械類、鐵礦及同製品、電氣機械及電線非鐵金屬等である。而して昨年度におけるソ聯邦の對外貿易につき、ソ聯邦側の發表するところによると第一位は英との取引で米國、白耳義、和蘭、獨逸、イラン、佛國、外蒙、西部支那等の順序で左表の通りである。(數字は一九三八年一月—十一月、以後ソ聯邦は貿易統計を發表せず、單位千留)

ソ聯邦對外貿易順位(1938年)

國 別	輸 出	輸 入	輸出入計
英 國	353.331	206.446	559.777
米 國	79.327	373.218	452.545
白 耳 義	124.850	54.966	179.810
國 別	ソ聯邦より輸出	ソ聯邦へ輸入	輸出入計
和 蘭	84.510	84.483	168.993
獨 逸	85.588	59.244	144.832
イ ラ ン	57.259	63.479	120.738
佛 國	57.698	36.636	94.334
外 蒙	59.282	30.464	89.746
支 那	38.363	32.507	70,870
其 他	—	—	—
總 計	1,189.968	1,252.135	2,442.103

對外貿易(單位百萬留)

年 次	輸 出	輸 入	輸出入計
1933年	495.6	348.2	843.8
1934年	418.3	232.4	650.7
1935年	367.2	241.4	608.6
1936年	1,359.1	1,352.5	2,711.6
1937年	1,728.6	1,341.2	3,069.8
1938年	1,189.9	1,252.1	2,442.1

但し一九三八年は1月-11月

即ち此表の示す如くソ聯邦の對外貿易は一九三一年より一九三五年にかけて逐年落潮を辿り、一九三六年より再び一九三〇年の水準に戻つてゐる、併しそれにして世界大戰前の一九一三年に於ける舊ロシアの外國貿易總額二十八億留に比較すれば貿易方面ではソ聯邦は何等發展を示してゐない、況んや現在の留價の價値を一留對邦貨僅かに十錢と換算(田中前駐ソ聯邦商務官の計算に據る)するに於ては其の總額と雖も極めて微々たるものである、一九三八年度の如きソ聯邦當

局は一月以降九月末日迄の貿易統計を發表したが、十月以後年度末に至る迄の統計數字を發表しない、これは昨年度におけるソ聯邦の外國貿易が餘り芳しくない證據であると見られてゐる。今次の第十八回全聯邦共產黨大會においてもモロトフ首相は産業經濟各部門に互り廣汎な第三五ヶ年計畫を發表したが、貿易に就ては全然觸れるところなかつたのは貿易部門がソ聯邦の經濟に現在大なる役割を演じてゐないことを示すものといへよう

次ぎにソ聯邦近年における輸出入貿易

の内容について検討するに先づ輸出に就いていへばソ聯邦輸出品中農産物の地位が逐年急速に低下し、工業製品がこれに代りつゝあり。一九三六年度に於ける農産物の輸出の割合は僅か二〇・三%に過ぎないが一昨年度(一九三七年)に於ては農産物の輸出増大、全輸出額中その占める割合は三一・七%に達した、これは主として穀物輸出が増大したためである。(一九三六年度の三四・九百萬ルーブルに比し一九三七年二四七・六百萬ルーブル)但し穀物輸出が増大したことは、決してソ聯邦新聞が吹聴してゐる様にソ聯邦國內に於て穀物が潤澤に存するものではない、この点につき一九三七年度コルホーイズ員に對する所得配分が今日に至る迄完全には行はれてゐないことに注意すべきである。イズヴェスチヤ紙(一九三八年四月二日)に發表された數字によれば、前年度に於ける所得配分は七五、九四六のコルホーイズに於て行はれたに過ぎない(コルホーイズの總數二四三七、〇〇〇)大多數のコルホーイズに於ては勞働日に對し

幾何の穀物配分が割り當てられてゐるかは未だ不明である。既に穀物の配分が行はれたとすれば果して穀物が多量に存するかどうかは疑はしい。イズヴェスチヤ紙は農民の一勞働に對する穀物報酬の豊富なる事について述べた際、一勞働日當り七乃至十キログラムの粒穀が割り當てられてゐるコルホーイズの數が増大したことを述べてゐるが、然らばその數が幾何であるかについては全然沈黙してゐる。これはかゝるコルホーイズの數が決して多くないことを意味するものである。然らずとすれば、イズヴェスチヤがかゝる幸福なコルホーイズの數を發表しない筈がないからである。

他方に於て、同紙は最も豊沃なる南部諸地方に於ける勞働日當り報酬が平均五・四キログラムであることを指摘してゐるが、これを戦前價格標準たる金ルーブルで計算すると約三二・五金コペイカに當る。かゝる勞働日収入は決して充分なものとは言へない、尙ヴオロネジ、リクザンスク、サラトフ、カザクスタンその他

の地方では勞働日に對してなほ一錢も交附されてゐない、このことはイズヴェスチヤ及びブラウダ(一九三九年四月二日)が指摘して憤怒してゐる所である、若し本當にコルホーイズの農産物が豊富ならば、それは販賣のため市場に振り向けられ、かくして得られた金額がコルホーイズ員の間に分配されるべき筈である、然るにそれがなされないとはいふことは、必要な貨幣量が存してをらぬこと、即ち農産物の餘剰の存してをらぬことを意味するものである。かくて農村に於ける穀物の餘剰分が輸出に向けられたわけではなく、國營倉庫に於ける穀物、貯蔵が輸出に向けられたのである。なほ昨年度の穀物輸出が非常に大きかつたについては、政府の外貨政策及び外國貿易政策とも關聯がある。この点につき注目すべきは重要輸出品たる、石油生産の輸出が更に一層減少したことである、石油生産物の輸出が減少の傾向を辿り始めたのは既に以前からであるが、昨年度に於てはそれが一五〇・一百萬ルーブルに迄減少した(一

九三六年一六〇・八百萬ルーブル)『外國貿易』誌(一九三八年第二號)はこれを國內に於ける自動車及びトラクターの石油生産物需要の増加によつて説明してゐる、この説明は一般的に言つて正しいが、なほその外に石油工業の經營が旨くいつてゐないことも一の原因をなしてゐる。

ソ聯邦貿易内容に於てその外に注意すべきは、木材の輸出(三五八・四百萬ルーブルより四三六・四百萬ルーブルへ)及び綿花輸出(三・三百萬ルーブルより五五・九百萬ルーブルへ)の増大せることである、砂糖、肥料、魚類、皮革原料、電氣器械及びその部分品、剛毛、綿織物、農業機械及びその部分品等の輸出増加は一般に微々たるものである、滿庵鐵、自動車(トラクターを含む)機械及び工場裝備の部分品は幾分増大の傾向を示してゐる、然し分量からいへばこれ等の品物の輸出は僅かなもので、主要輸出品は何といつても木材、石油及び毛皮で昨年度に於てはこれに小麦が加はる。

『外國貿易誌』(一九三八年第二號)はソ聯邦の經濟的獨立のための鬭争の成果として輸出超過の事實並に從來外國貿易に於て重要な地位を占めてゐた商品の輸入減少の事實を力説してゐる。同誌に據ればソ聯邦當局は技術的に進歩せる裝備各種の新發明品國內に缺如せる若干の原料(護謨、黃麻、マニラ麻、コ、ア、藥味等)を外國より獲得することに努めてゐる模様で、かゝる政策の結果左の如く若干の商品の輸入が減少を見るに至つた。

機 械	三二・九%
精 密 器 械	二九・九%
化 學 製 品	三九・七%
電氣機械及び附屬品	二一・四%
船 隻	二九・一%
黒 色 冶 金	一三・三%

また輸出及び輸入國の夫々についてその順位を示すと左の如くなる。

輸 出 國	
英國—合衆國—白耳義—和蘭—獨逸—	
西班牙—イラン—佛蘭西—蒙古—西部	

支那—土耳其—瑞典—日本

輸 入 國	
合衆國—獨逸—英國—和蘭—イラン—	
白耳義—日本—蒙古—土耳其—佛蘭西—	
西部支那—西班牙—瑞典	
若干の東洋諸國がソ聯邦の外國貿易に於て、殊に輸入に於てフランスの如き國よりも重要な地位を占めてゐることは注意すべきである、フランスの地位は社會主義國家に敵對的なドイツよりも更に低い、次にソ聯邦とスペインとの貿易關係について少し吟味して見よう、戦前及び最近年に於ける兩國の貿易關係は左の如くであつた(輸出總額乃至輸入總額に對する%にて示す)	

年度別スペインへの輸出	
一九一三年	〇・六%
一九二九年	一・三%
一九三〇年	一・二%
一九三一年	〇・三%
一九三二年	一・四%
一九三三年	一・一%
一九三四年	一・八%

一九三五年
一九三七年

〇・八%
五・三%

スペインからの輸入

極めて微々たるものなのでソ聯邦の統計では『その他の諸國』といふ項に一括されてゐたが一九三七年には一・五%となつてゐる、即ちスペイン内亂の勃發と共にソ聯邦からスペインへの輸出が俄然増大したことがわかる、且つソ聯邦とスペインとの貿易関係はソ聯邦の受取勘定になつてゐることも注目すべきである。
(ソ聯邦からの輸出九二・四百萬ルーブル、輸入二二・七百萬ルーブル)即ち輸出超過六九・七百萬ルーブル)ソ聯邦貿易の買手國をソ聯邦の方が輸出超過となつてゐる國と輸入超過となつてゐる國に分けて列記して見ると左の如くである。

輸出超過(百萬ルーブル)	三七四・一
英國	六九・七
西班牙	六二・二
白耳義	五八・九
佛蘭西	三二・一
外蒙	八・九
支那	

輸入超過(百萬ルーブル)	一〇九・八
獨逸	九二・八
日本	四二・六
和蘭	六・九
土耳其	六・五
瑞典	五・二
希臘	二・〇

『外國貿易』誌一九三八年第二號の述ぶる所によれば、ソ聯邦の外國貿易政策の変更はソ聯邦の經濟的地位に基いてゐる。即ちソ聯邦は機械や企業の諸裝置を外國より輸入することに依り工業化の過程を促進し、國民經濟を輸入への依存から解放することに努力して來たのであるが、今や輸入との一層決定的な闘争を行ふことが愈々重大なる任務とされるに至つた。蓋しソ聯邦の諸機關は從來餘り熱心にこの任務を遂行せず、國內で生産され得る様な品物迄も輸入に仰がんとする傾向があつたからである。かくて外國貿易人民委員部は事實上輸入の統制を行はうとしてゐるが、それは左の如き方法で行はれる。

- (一) 外國貿易人民委員部は、ソ聯邦工業により生産され得るものを知悉し、輸入の要求のあつた際、國內に存するものや國內で生産され得るものは棄却しなければならぬ。
 - (二) 外國貿易人民委員部は一切の輸入許可請求書を研究し輸入許可請求者より輸入せんとする品物が國內には存せず、さしあたり其れを生産することが不可能であることの證明を要求しなければならぬ。又輸入の許可を請求するに當つては品物の分量及び外國に於ける其の價格を明記する必要がある。
 - (三) 又、外國貿易人民委員部は輸入品の國內生産を組織する爲に工業に積極的な援助を與へなければならぬ。
- 同志はかゝる貿易政策に關し左の如く述べてゐる。
- 『外國貿易人民委員部輸入管理處は輸入を極度縮少のためその日常活動に於て必要なる一切の處置を取るべきことを諸輸入團體の任務として提起した、この任務遂行のため最も重要な

ことは我國の工業に諸種の裝備、器具及び商品を一層速かに供給し、且つ供給されたる裝備の生産力を擴大せしめるにある』

輸入との闘争に於て今日迄に得られた結果は未だ充分であるとは看做されず、一層斷乎たる闘争が要求されてゐる。以上の如き次第だからソ聯邦へ商品を買込むことは今後益々困難となると見なければならぬ。

ソ聯邦の對外貿易輸送経路
各税關管區別統計

歐洲戰亂下に締結された獨ソ、英ソ、米ソ、ソ支新通商條約は何れも其の輸送路を如何にすべきか問題になつてをり、現在最も安全性のある極東經由の輸送が論議されてゐると傳へられた。而してソ聯邦の對外貿易は從來如何なる経路をとり行はれるかを此際研究の對象となすことは意義なしとしないであらう。なほソ聯邦の對外貿易の發表方法は秘密主義をとつてゐるから調査には相當困難な

ソ聯邦税關管區別輸出入
(1938年1月—11月) (單位千留)

税關管區	輸出	輸入	合計	比率
白海	147,394	7,763	155,157	6%
ムルマンスク	54,209	259,717	313,925	13%
フィンランド灣	7,068	16,416	23,484	1%
バルト海	268,832	606,172	875,004	33%
エストニヤ	39,248	5,904	45,152	2%
ラトヴィヤ	24,650	22,148	46,798	2%
ポーランド	5,541	9,701	15,251	1%
黒海	438,603	104,007	542,610	22%
アゾフ海	19,601	—	19,601	
ルーマニヤ	423	2,266	2,689	
トルコン	2,625	4,407	7,032	
イラ	11,861	24,293	36,154	1.7%
カスピ海	41,664	37,935	79,599	3%
アフガニスタン	11,224	12,305	23,529	
西部支那	38,363	32,505	70,868	3%
外蒙及トウワ	64,739	32,784	97,523	4%
東部支那	—	—	—	
極東沿岸	8,866	70,559	79,425	3.2%
ハリソ州	5,357	2,974	8,331	
カムチャツカ	—	279	279	
計	1,189,968	1,252,135	2,442,103	

ることを一言附添えてをく。右表は(一)一九三八年一月—十一月)月で丁度十二年になるので政府は同月二十日此の間の成績について左の如く發表した。

一、貿易總額 八〇、二二一、七〇〇千留
一、輸入總額 四一、三二五、六〇〇千留
この中半分以上は機械類諸設備品であ

二十年間の對外貿易実績

ソ聯邦の外國貿易は一九一八年四月二十二日國營となつて以來、一九三八年四

ソ 聯 邦 の 經 濟 的 獨 立 性

生 産 品 別	年 次	消費に對する純輸入の百分比	生産に對する純輸入の百分比	1913年に於ける生産高に對する比例(倍)
機械製造	1913	43,6	77,3	—
	1928	30,4	43,4	2,3
	1932	12,7	14,5	10,2
	1933	4,4	4,7	12,1
	1937	0,9	0,9	30,7
石炭、骸炭、煉炭、無煙炭	1913	19,8	24,0	—
	1927/28	0	0	1,2
	1937	0	0	4,4
トラクター(十五馬力標準型)	1913	—	—	—
	1927/28	63,4	173,3	—
	1936	0	0	176,4
自動車	1913	100,0	—	—
	1927/28	68,2	214,3	—
	1937	0	0	286 ¹
綿	1913	46,9	88,2	—
	1927/28	37,2	59,3	1,1
	1937	0	0	3,8
護謨	1913	100,0	—	—
	1927/28	100,0	—	—
	1932	99,6	204,5	—
	1937	23,9 ³	31,5	618 ²
紙及厚紙	1913	26,3	35,8	—
	1927/28	21,1	26,8	1,5
	1937	0	0	4,5
過燐酸鹽	1913	63,1	171,3	—
	1927/28	28,0	38,9	2,4
	1937	0	0	22,8
アルミニウム	1913	100,0	—	—
	1927/ 8	100,0	—	—
	1932	92,9	1177,8	—
	1937	4,9	5,1	54,4 ²
自動車	1913	100,0	—	—
	1927/28	57,8	137,0	—
	1937	0	0	50 ¹
懐中及手巻時計	1913	100,0	—	—
	1927/28	100,0	—	—
	1932	10,8	12,1	—
	1937	2,3	2,4	8,2 ²

1. 1927/28年との比較
 2. 1932年との比較
 3. 消費に對する、純輸入の割合、再生護謨を含む

るが、近年國內工業の發展でこれ等は減少の傾向にある。一九三七年は機械類の輸入額は二九・八パーセントで鋼鐵、鐵、各有色金屬、綿布、絹、ゴム等の輸入が特に減少した。

一、輸出總額 三八、八九六、一〇〇千留
 これも國內の發展で内容が變化した。かつては農産物輸出多く一九二五年及一九二六年度は工業品の輸出額は全體の四〇・二%であつたが最近では七〇%以上となり、單に原料品のみならず、木材、石油、石炭、金屬、機械綿布毛皮類及化學製品が増加した。尙、右貿易内容の躍進に關して、前外國貿易人民委員チヴィヤレフ氏は四月二十一日附ブラウダ紙上で述べて曰く

ソ聯邦は過去二十年間に機械類の輸入國から輸出國へと發展したが、その間國營の外國貿易が果たした役割は實に大きい。今やソ聯邦工業が生産し得ない機械は一つもない。國防工業は陸海空赤軍に對して良質の機械類を提供した。我國は過去二十年に於て過般發表

ソ 聯 邦 外 國 貿 易 の 構 成 (百 分 率)

項 目	1913年	1932年	1937年
輸 出			
農産物	56,1	30,6	27,0
工業品	43,4	68,9	72,4
内			
重工業品	8,1	22,2	24,8
輕工業品	7,6	14,5	13,4
木材工業品	10,8	14,2	25,3
食料工業品	16,9	18,0	8,9
其の他	0,5	0,5	0,6
輸出全體	100	100	100
輸 入			
生産財	70,6	89,1	90,9
消費財	29,4	10,9	9,1
輸入全體	100	100	100

されたが如き成績をあげ得た。その内容を見ても我國が農業國から高度の工業國へと轉換したことが窺はれる。又ソ聯邦商船隊の發展は第二次五ヶ年計畫の最終年度以來、外國船舶の備船を激減させるに至つた。即ち第一次五ヶ年計畫の四年間に於てソ聯邦船舶は僅か六百五十萬噸の貨物しか運搬し得なかつたに對し、第二次五ヶ年計畫の四年間に於ては一千七百萬噸を運送し得

るに至つた。出超による貿易尻の好轉と全生産額の増加により、通貨準備を更に豊富にした。對外債務は一九三五年末迄に大部分償還し、現在ではとるに足らぬ少額となつた。我々は最早外國のクレジットを必要としない。現金で買ふ方がはるかに有利である。ソ聯邦國民經濟に於て輸出が極めてその少部分しか占めて居らない事は、ソ聯が技術的にも經濟的にも先進資本主義市場に依存してゐない事を端的に示すものであるが同時に、ソ聯邦は外界との聯關を完全に絶つて孤立政策を採用せんとするものでは決してなく、國際協調精神に基いて今後とも諸國との經濟的並に文化的關係の擴大強化に努めてゆく方針である。

アスベスト及同製品	入.....	1 958	753	67
	出.....	—	—	9 143
	バランス...	-1 958	-753	+9 076
鹽	入.....	5 882	26	4
	出.....	696	2 037	2 836
	バランス...	-5 186	+2 011	+2 832
雜詰	入.....	16 320	355	524
	出.....	368	25 833	15 389
	バランス...	-15 952	+25 478	+14 865

1. 1936年4月1日外國貿易決裁の爲設定せられたる時價留に據る

英ソ貿易(單位千磅)

	ソ聯邦ノ英國向輸出	英國ノソ聯邦向輸出	英國側入超額
1932年	17,436	4,257	13,179
1934年	17,326	7,505	9,821
1935年	21,765	9,725	12,040
1936年	18,934	12,975	5,977
1937年	29,097	19,516	9,581
1937年1-7月	11,350	10,350	—
1938年1-7月	7,750	11,050	—

一九三八年一月より七月に至る間英國のソ聯邦向輸出額は一一・〇五百万磅にして前年に比し増加してゐる、然し英國自治領植民地産の工業原料及非鐵金屬の

ある。一九三八年上半年期の對英輸出は前年に比較して激減してをり、他面英國よりの輸入増加せる結果一九三四年度、英ソ暫定通商協定の規定比率を漸次均衡に至らしめる目的は略々達成せられたる様である。

對英貿易の近況

ソ聯邦向再輸出は九・〇六百万磅より七・六六百万磅へ減少してゐる。一九三四年の英ソ暫定通商協定成立以來の英ソ貿易發展狀況は左の如くである

對英貿易

ソ聯邦より英國への輸入

(單位千磅)

	1936年	1937年	1938年
バ 穀	1,643	1,258	—
其 内	549	4,465	4,187
(大) 一粒麥	314	509	931
(小) 豆類	56	3,901	3,055
(豌豆)	113	21	不明
肉 魚類(鹽漬、乾物、雜詰)	281	249	83
棉	1,231	1,312	1,442
皮革毛皮及同製品	—	725	不明
亞木豚材及同製品	2,869	4,539	4,164
白 金及同製品	1,253	1,146	375
石 油及同製品	7,719	11,153	6,338
其 他	259	171	125
輸 入 合 計	463	969	543
	1,461	1,701	1,415
	1,173	1,436	871
	18,903	29,124	19,543

輸入品の輸出品への轉化(單位千留)

品 別	輸出入	1913年	1927/28年	1937年
石炭、無煙炭、骸炭	入.....	383 176	2 724	412
	出.....	3 539	19 360	30 950
	バランス...	-376 637	+16 636	+30 538
鉄鐵	入.....	13 508	1 813	1
	出.....	61	727	16 260
	バランス...	-13 447	-1 086	+16 259
農業機械器具(トラクターを除く)	入.....	180 583	48 780	107
	出.....	—	1 332	4 161
	バランス...	-180 583	-47 448	+4 054
トラクター	入.....	—	45 587	223
	出.....	—	—	1 051
	バランス...	—	-45 587	+828
自動車、オートバイ	入.....	78 695	38 934	1 803
	出.....	—	—	24 059
	バランス...	-78 695	-38 934	+22 256
ミシン	入.....	44 308	13 223	477
	出.....	—	—	1 901
	バランス...	-44 308	-13 223	+1 424
電球	入.....	21 217	407	30
	出.....	—	—	439
	バランス...	-21 217	-407	+409
肥料	入.....	49 906	43 436	75
	出.....	7 656	2 348	28 997
	バランス...	-42 250	-41 088	+28 922
綿	入.....	499 500	675 462	33 936
	出.....	—	—	55 766
	バランス...	-499 500	-675 462	+21 830
毛皮	入.....	32 202	416	—
	出.....	—	59 993	47 310
	バランス...	-32 202	+59 577	+47 310
莫大小	入.....	40 445	4 875	138
	出.....	—	—	1 629
	バランス...	-40 445	-4 875	+1 491

對 獨 貿 易

獨逸よりソ聯邦への輸出

(單位千馬克)

品 目	1936年	1937年	1938年
鐵合金物(半成品)	10,726	3,544	2,119
鐵銅	971	481	82
染料	1,842	1,828	450
ゼラチン、煤藥材料	2,035	2,350	1,182
以外ノ化學半成品			
鋼管	307	2,740	1,309
鐵棒	2,601	2,724	609
鐵板	2,795	3,375	98
鐵線	2,219	2,148	3,075
其他鐵半成品	4,898	8,293	1,547
工作機械	45,328	47,784	7,449
紡績及皮革用機械	5,122	2,318	227
動力機械	3,681	2,678	958
ポンプ、壓搾機械及	2,217	3,284	338
之類			
印刷機械	4,397	7,815	370
事務用機械	1,651	443	115
食品及嗜好品製造機	872	1,256	16
械			
其他機械類	9,694	6,689	1,121
自動車飛行機械	1,107	1	268
力裝置及機械	8,044	4,589	1,253
精密及光學機械	7,327	6,705	4,911
藥劑	1,336	184	162
其他化學製	873	1,085	592
其對ソ輸出合計	6,171	5,089	3,524
對ソ輸出合計	126,124	117,403	31,771

ソ聯邦より米國への輸入

(單位千弗)

	1936年	1937年 (1-9)
筋子	392	306
罐詰食品	842	41
バター	356	18
腸詰	738	402
毛皮	9,473	10,155
皮革	542	856
衣服	492	558
襪	475	661
木材	747	656
石炭	1,325	464
アスベスト	407	342
滿俺鑛	1,746	3,788
其他ノ鑛	3,523	13
鐵鋼	338	—
藥草	238	299
肥料	213	175
其他	1,400	1,049
對米輸入合計	26,018	21,519

對獨貿易の近況

對獨貿易は一九三八年度上半期に於て前年に比し輸出入共減少して獨逸よりのソ聯邦向輸出は、一四〇・七百萬留より二九・八百萬留に激減してゐる。過去數ヶ年に亘り獨逸はソ聯邦に對する機械の主要供給國であり、今後増加するものであらうが、對獨貿易は著しく減少の状態を辿つたのである。

然るに一九三九年八月の獨ソ新通商協定は、全歐洲の悪化に伴ひ急速に進捗を見て成立され、更に獨ソ不可侵條約の締結は一轉して兩國貿易の上に進展が見られるに至つたのであり、その全貌は左の通りである。

- 一、獨逸は總額二億マルクに上る對ソ、クレヂット中第一年目に一億二千萬マルクを供與する。
- 一、獨逸はソ聯邦に對し工作機械、石炭、化學、電氣各業の設備を供給す
- 又獨逸人技師をソ聯邦に派遣する。
- 一、ソ聯邦は獨逸に對し木材製品、原

英國よりソ聯邦への輸出 (單位千磅)

	1936年	1937年 (1-9)	1938年	
普通輸出	3,507	3,085	6,434	
羊毛	358	410	495	
機械及同部分品	689	818	3,353	
内譯	金屬工作工具	325	215	1,715
	紡績機械	80	181	136
起重裝置	2	2	15	
	鐵鋼及同製品	596	407	326
ニツケル及同製品	720	583	635	
錫及同製品	6	373	350	
運搬手段	433	20	122	
生動物	105	4	不明	
其他	593	464	953	
再輸出	9,838	16,420	10,986	
茶	573	543	533	
タンゲステン鑛	126	250	255	
生護	2,819	2,611	1,056	
樹脂	204	202	230	
羊毛	609	1,115	995	
非鐵金屬	銅及同製品	1,905	5,101	3,878
	鉛及同製品	385	1,055	3,119
ニツケル及同製品	1,362	1,851		
錫及同製品	1,317	3,164	786	
其他	538	458	134	
對ソ輸出合計	13,346	19,505	17,420	

對米貿易の近況

米ソ貿易は從來ソ聯邦側の入超を以て終始して居たが、一九三八年度上半期貿易はソ聯邦の米國向輸出の減退、米國のソ聯邦向輸出の倍加を示して入超の傾向は顯著となつた。現在米ソ貿易の基礎は一九三七年の新通商協定にして對米發註

は激増し、一九三六年度の三千五百萬弗に對し一九三七年には七千五百萬弗に増加してゐる、之は主として各種工業裝置品、工作機械である。一九三八年上半期に於ても米よりの輸入は前年に比し著しき増加を示してゐる然し對米輸出は前年に比較し、五七・三百萬留より、三五・五百萬留へ減少して

ゐる。

對米貿易

米國よりソ聯邦への輸出

(單位千弗)

	1936年	1937年 (1-9)
石油製品	1,162	2,457
研磨材料	872	538
鐵鋼及同製品	5,510	4,965
非鐵金屬	2,581	6,515
電氣機械及電線	4,108	4,475
其他機械類	24,491	12,533
化學藥品染料	284	295
科學用器具	790	513
大麻、マニラ麻	289	112
其他	1,718	4,428
對ソ輸出合計	41,800	36,831

對 白 貿 易

白耳義よりソ聯邦への輸出
(單位千法)

品 名	1936年	1937年	1938年 (1-5)
動物性製品	25,607	20,739	4,520
植物性製品	6,026	3,549	27
化學製品	6,736	16,869	10,793
紡績製品	10,705	10,270	3,499
金屑類	229,929	355,567	191,618
機械類	10,462	21,865	14,820
運搬手段	4,880	12,562	31
其他	3,181	746	772
對ソ輸出合計	297,526	442,167	226,080

ソ聯邦より白耳義への輸入(單位千法)

品 名	1936年	1937年	1938年 (1-5)
動物性製品	18,113	28,399	4,411
植物性製品	193,280	296,967	88,729
礦物性製品	147,153	141,979	42,272
食料品	16,910	2,767	2,120
化學製品	23,044	16,980	1,448
木 材	158,571	202,047	52,449
石 製 品	28,219	23,375	15,851
其 他	46,688	34,296	473
對白輸入合計	631,978	746,810	207,753

佛國よりソ聯邦への輸出

(單位千法)

品 名	1936年	1937年	1938年 (1-9)
毛皮(加工セザ ルモノ)	6,254	3,631	939
羊毛及羊毛屑	4,641	11,312	3,442
揮發油,植物性油 合成及人造香油	2,976	5,681	6,912
鐵 化 合 物	24,814	21,189	15,055
鐵 及 鋼 鐵	10,044	1,621	145
ニ ッ ケ ル	11,930	5,792	7,378
化 學 製 品	10,348	12,155	11,517
染 料	7,369	5,703	5,529
染料,繪具,鉛筆	2,300	2,026	2,351
動力機械及其他	12,671	6,784	26,764
機 械 部 分 品	915	1,650	9,683
金 屬 製 品	12,622	13,922	12,541
其 他	20,117	21,126	28,026
合 計	127,001	112,592	130,462

萬留で、前年度に比し三億五千八百三十萬留の増加を示してゐる。尙、右内譯を示せば輸出五十七億二千八百六十萬留、輸入十三億四千三百三十萬留で、差引三億八千七百三十萬留の出超となつてゐる。

輸出品目別に動向を見ると、木材輸出高は四億三千六百四十萬留に上り、前年度に比し七千八百萬留の増加を示してゐる。

粒穀物輸出高は二億四千七百六十萬留(前年に比し二億二千七百七十萬留増)、棉花輸出高は五千五百八十萬留(前年度は三百三十萬留)トクタター、自動車及其の部分品輸出高は二千五百六十萬留(前年度は千四百萬留)、工場設備品及機械類の輸出高は千三百二十萬留(前年に比し八百十萬留増)となつてゐる。尙、工業製品の輸出高は前年に比し九千七百三十萬留の増加を示してゐるが、石油製品の輸出高は國內採油量及精油量が著しく増大したにも拘らず、前年度に比し若干減少したと傳へられてゐる。即ち一九三六年には一億六千八十萬留の石油製品が輸

對 佛 貿 易

ソ聯邦より獨逸への輸入

(單位千馬克)

品 目	1936年	1937年	1938年
腸 詰	549	704	603
家畜飼用莢果	17	2	684
食用莢果	1,105	177	20
羊毛及其他動物毛 (粗、加工)	752	918	294
亞麻、大麻 (粗、加工)	952	6,673	2,320
毛 皮 (粗)	3,018	3,162	1,344
ベツト用羽毛	879	1,094	1,280
木材(切り出シタ ルモノ)	22,529	10,389	551
用 材 (丸太)	1,504	—	435
マンガン鐵	933	2,930	2,883
磷酸鹽(粗)	1,629	1,561	3,152
其他化學用原料品	1,873	1,778	1,648
建築用材(扱キタ ルモノ)	26,396	13,669	18,587
工業用油脂	—	3	1,272
燃料及滑油	16,608	14,918	4,778
羊毛及其他動物毛 製品(完成品)	791	587	1,163
毛皮(加工セラレ タルモノ)	2,254	894	1,470
ベニヤ板其他	2,095	364	1,151
木 綿(粗、加工)	248	1,381	470
其 他	9,029	3,943	3,243
對獨輸入合計	93,161	65,147	47,354

ソ聯邦より佛國への輸入

(單位千法)

品 名	1936年	1937年	1938年 (註二)
毛皮(加工セザ ルモノ)	25,512	34,378	23,285
砂 糖	—	26,516	—
木 材	84,555	201,758	103,097
亞麻、大麻	65,660	93,015	45,262
工業用鑽石 及土壤	10,654	23,876	19,531
石 炭	25,896	41,388	25,775
石 油	68,032	76,648	37,957
金及白金、 白金塊	19,202	27,199	29,299
各種礦物	22,916	50,314	50,524
コールター ル分溜物	20,545	28,441	36,566
加工毛皮	53,433	54,911	32,201
其 他	60,651	60,948	57,670
合 計	457,046	719,392	461,077

料及び半製品就中石油製品を供給する。

一、對ソ、クレジットに依る物資の交易は獨ソ間の現行貿易に追加するものとす。

從つて獨ソ間の貿易總額はクレジットによる交易額だけ増加を見る譯である。

對佛貿易の近況

一九三四年一月の佛ソ通商暫定取極及び一九三六年一月の同取極は一九三六年十二月の取極を以てソ聯邦品に對する割當品目、及割當量に修正を加へ、鮭、蟹罐詰、及金屬性線入真空白熱燈の割當率を新設してゐる。

之は一九三七年迄延長され、三七年度に於ける對佛輸入額は三六年度に比較し約五七%を増加してゐる。

一九三七年外國貿易実績

ソ聯邦關稅局一九三八年三月二十一日發表によれば、一九三七年度に於ける對外貿易取引高總額は三十億六千九百九十

出されたのであるが、一九三七年には一億七十萬留に低下してゐる。これは自動車及トラックの増加に伴ひ石油の國內消費量が増加した結果である。しかし棉花及び穀物の輸出が特に増大したことは前記の數字に見る通りである。

次にソ聯邦は技術的、經濟的獨立をなした結果輸入貿易に於ては各種の技術的新製品及び若干の不足原料品(ゴム、黄麻、マニラ麻、珈琲、ココア等)のみ輸入すれば事足りる様になつた。機械類の輸入高は一九三七年度には前年度に比して一億三千二百萬留減(三・九%)、黑色金屬輸入高は千三百十萬留減(一三・三%)、化學製品輸入高は九百五十萬留減(三九・七%)となつてゐる。最後にソ聯邦對外貿易取引高を相手國別にみれば、一九三七年に於ても前年度と同様に英國が一位、アメリカが第二位を占めてゐる。

一九三八年度貿易實績

ソ聯邦外國貿易人民委員部發表の資料

- 一、從來採り來つた外國爲替の蓄積方針を今後に於ても維持すること
- 二、ソ聯邦の經濟的獨立を強化すること
- 三、第二次五ヶ年計畫中輸入された多數商品に對し輸入抑壓方針を採ること
- 四、外國がソ聯邦に與ふることあるべき長期信用に基き行ふ補充的輸入は之を拒絶せざること
- 五、外國に於ける技術的新規製品は之を引き續き輸入すること
- 六、加工商品特に技術的製品の輸出増産を計ること
- 七、商品特に技術的商品の輸出増加、第三次五ヶ年計畫に於ては國民經濟に於ける餘剰商品の輸出増進せらるべし

第三次五ヶ年計畫案作製に當り外國船舶の備船を極度に減縮する課題を提出するを要す、但し商船隊及船舶修繕所の建設強化を必要とす。協議會に於ける参加者の演說中外國貿易五ヶ年計畫に關する個

によれば一九三八年一月以降九月末までのソ聯邦外國貿易は輸出十二億一千八百五十四萬九千留、出超二億五百七十八萬八千留、前年同期に比し輸出増加二億一千四百八十三萬六千留、輸入増加三百七十八萬五千留、主要輸出品中金額の増加せるもの、輸出額は木材三億二千七十五萬四千留、毛皮一億三千九百四十四萬留、麥類九千五百五十九萬七千留、棉花四千九百六十九萬五千留、滿庵鐵三千三百七十二萬三千留、砂糖二千七百十六萬二千留、肥料二千二百九十萬八千留、自動車一千七百六十二萬七千留、機械一千三百八十九萬一千留、又金額の減少せるもの、輸出額は石油一億七百七十一萬六千留、石炭二千六百七十九萬三千留、鉄一千三百三十六萬六千留。

主要輸入品中金額の増加せるもの、輸入額は有色金屬二億九百五十七萬九千留、羊毛六千三百六十四萬五千留、生ゴム五千七百三十一萬八千留、茶二千八十八萬四千留、又金額の減少せるもの、輸入額は機械器具二億三千五百五十六萬五千留、

個の關係特に「輸出收益の引上」「取引經費の削減」等に觸れるところがあつた。

原產地證明發給手續變更

ソ聯邦に於ては一九三八年七月三日以降輸出向ソ聯邦商品に對する原產地證明發給方に關し概要左の如き新規則實施せられたり。

- 一、從來外國貿易人民委員部、其の諸機關並に在モスクワ・ソ聯邦商業會議所に依る原產地證明發給の基礎たりし當該規則は之を廢止すると共に前掲期日以降に於ては本件證明書は専ら至ソ聯邦商業會議所、其の支部並にソ聯邦國境各稅關を含む同會議所地方代表に依り發給せらるゝこととなれり。
- 二、右に伴ひ從來原產地證明に署名し來りし至ソ聯邦商業會議所責任者の署名見本は爾後在モスクワ各國大、公使館へ送付することを中止す。

ソ聯邦の對英米貿易

黑色金屬性生産用品二千二百五十七萬四千留、精密機械一千七百十九萬七千留、船舶一千五百七十七萬留、一月より九月迄に於ける對日輸出は一千一百三萬九千留、輸入は一千一百三十九萬二千留なり。

外國貿易第三次五ヶ年計畫案

一九三九年三月の第十八回全聯邦共產黨大會に於けるモロトフ首相の第三次五ヶ年計畫に關する尅大なる報告があつたが、外國貿易に關しては片言隻語も觸れてゐない。しかし曩に發表せられたところによれば左の通りである。

一九三八年より實施を豫定されてゐたソ聯邦國民經濟第三次五ヶ年計畫は一九三七年七月一日迄にソ聯邦國家計畫委員會ソ聯邦各人民委員部ソ聯邦構成各共和國人民委員會に於て同計畫案の作製を終り同案をソ聯邦人民委員會に提出し同人民委員會の確認を得たが、右第三次五ヶ年計畫案中貿易に關する計畫案に

ソ聯邦政府は從來年度末迄の對外貿易成績を翌年二月發表することになつてゐるが、一九三八年度は何故か一月より九月末迄しか發表せず、一九三八年度のソ聯邦貿易の全貌を捕捉するに困難であるが、最近の發表による一九三八年度一月九月ソ聯邦の對英米貿易は左の通りである。

△對英貿易	
ソ聯邦から輸出	二七三萬ルーブル
ソ聯邦へ輸入	一五八〇
△對米貿易	
ソ聯邦から輸出	六七百萬ルーブル
ソ聯邦へ輸入	三一二〇

因みに一九三八年度同期のソ聯邦對外貿易額は輸出九億二千五百二十四萬ルーブルの出超であつた、ソ聯邦政府は一九三八年度九月以降益々激しくなれる此の逆調を隠蔽する爲め九月以後の發表を差控えるに至つたのである。

一九三九年度貿易實績

歐洲戰爭開始以來、各國の貿易は量質

ともに激變してゐるが米ソ貿易もその例に洩れず、貿易額には大した變化を示さなかつたとはいへ、その内容には多大の變化を見てゐる。

一九三九年中の米國對ソ聯邦輸出額は五千六百萬ドルで、一九三八年に比すると一割九分の減少を見たが、ソ聯邦よりの輸入額は二千五百萬ドルで、前年度に比すれば若干の増加を示した。

米國の對ソ聯邦輸出品の内容の變化は、歐洲戰爭開始以來顯著に見られ、九月より十二月に至る四ヶ月間における輸出額は二千九百萬ドル、前年同期に比し一千萬ドルを増加し、生ゴム、精鍊銅、錫等、米國の再輸出品にして、前年度に輸出皆無だつたものが、それぞれ二百五十二萬ドル、百十五萬ドル、百萬ドルと多額の輸出を見るに至り、米國の産品のうち輸出増加を見たものは、ガソリン、アルミニウム、モリブデン、穀物等である。米國の對ソ聯邦輸出は本年一月においても一千百萬ドルと、前年同期に比し二百八十萬ドルの激増を見た。

これに對しソ聯邦側よりの對米輸出で増加したものは、食糧品だけで、無煙炭は一ヶ年を通じ十九萬噸にすぎず、米ソ通商協定に定められた輸出最高限度四十萬噸の半ばにも達しなかつた。

ソ聯邦の米國産揮發油輸入

ソ聯邦は歐洲戰亂勃發以來米國から百三十六萬バレルのガソリンを購入したソ聯邦は米國からガソリンを一九三九年九月は四八千バレル、十月は三一八、五〇〇バレル、十一月三一七千バレル、十二月(推定)三一六千バレル、本年一月前半(推定)一六〇千バレルで開戦以來の累計は一、三六〇、〇〇〇バレル(五七、一二〇、〇〇〇ガロン)を輸入してゐる、品種は低オクタンのもので飛行機に使用するものとは質が異り、米國では自動車用に使用する八〇オクタン程度である。

米國からの對ソ輸出物資

英國は對獨封鎖の一翼としてソ聯邦の

浦潮經由獨向け戰時禁制品輸送拒否を決定したが、一九三八年には米國からソ聯邦に對し護謨、錫、モリブデン等の輸出は全然なく、一九三九年の九月から本年三月にかけて俄然前記物資の對ソ輸出が激増し、即ち同期間に於ける米國からの銅の輸出は六、七萬噸、護謨六千噸、錫二千二百噸、アルミニウム一千六百噸モリブデン六百萬封度に達したといはれる。

英ソ貿易はソ芬戰以來英ソの關係悪化と共に殆んど中絶状態でソ聯邦としては從來英國より輸入してゐた物資を何れかの國より求める必要が起り、其の一部は獨ソ通商協定によつて獨逸より供給されるが、他は之を米國に求めざるを得なくなり、茲に軍需産業の上から重要なニツケル及同製品、錫及同製品、タンダステン、生ゴム、銅、鉛等、殊に生ゴム及銅の輸入數量は莫大なものである。而して是等物資の殆んど全部は英ソ貿易杜絶後米國より供給されることとなつた。斯して米國の對ソ聯邦輸出は最近著し

い増加を示すに至り、一九三九年戰爭勃發後、殊に十月乃至十二月の三ヶ月間の輸出額の増加は著しいものがあり、此の

傾向は本年に入つて殊に顯著である。(一九三九年全般から見れば前年度に比し一九%の減少)

月別米ソ貿易額表 (單位千弗)

月次	輸出 (再輸出を含む)		輸入	
	1939年	1938年	1939年	1938年
一月	2,820	1,757	1,871	999
二月	2,993	7,380	2,137	1,615
三月	6,797	6,489	1,092	985
四月	3,602	6,487	2,151	2,782
五月	3,641	8,635	2,692	1,548
六月	262	6,630	1,073	1,064
七月	3,201	5,386	1,863	2,527
八月	3,712	7,024	4,421	4,698
九月	1,785	5,595	2,520	2,927
十月	8,626	3,043	1,018	2,093
十一月	7,282	4,071	2,267	1,271
十二月	11,922	7,196	1,916	1,525
合計	56,637	69,693	25,021	24,034
一月	13,066	2,820	1,957	1,871
二月	7,320	2,993	520	2,137
1940年		1939年	1940年	1939年
一月	13,066	2,820	1,957	1,871
二月	7,320	2,993	520	2,137

一九三九年度上期の伊ソ貿易

一九三九年度上期におけるソ聯邦の對伊太利輸出額は七十萬リラ、伊太利からソ聯邦への輸入は四千四百二十萬リラである、尙一九三六年以降の伊太利對外貿易總額と對ソ貿易額とを比較すれば左の通りである。(單位百萬リラ)

年次	伊太利輸入總額	ソ聯邦からの輸入額
一九三六年	五、八八〇	一五五
一九三七年	一三、五九〇	一〇五
一九三八年	一一、〇六〇	六・八
一九三九年(上半期)	五、一三〇	〇・七
△伊太利輸出總額	三、八二〇	九・〇
△伊太利輸出總額	三、八二〇	九・〇

一九三七年度 七、八五〇
一九三八年 八、〇一〇
一九三九年(上半期) 四、一二〇
四四・二
百萬リラはソ聯邦國立銀行公定換算率によれば二十六留七十六哥である。

加奈陀及モロッコの對ソ貿易

一九三九年度第二・四半期に於ける加奈陀並びに上半期佛領モロッコの對ソ貿易は、左の如くである。

年次	輸出	輸入
一九三九年(上半期)	五(弗)	一四・〇(弗)
一九三九年(上半期)	五(弗)	一四・〇(弗)
一九三九年度のソ土貿易	一四七(弗)	一四七(弗)
トルコの一九三九年度輸出總額は一二二		

七、三八八、九九七トルコ磅、内對ソ聯邦は三・一%の三、九七八、〇四七トルコ磅で第七位を占め、輸入總額は一一八、二四八、九三四トルコ磅、對ソ聯邦はその二・九%の三、四五一、七九八トルコ磅で第五位である。尙トルコ磅は邦貨三圓一三八に相當する。

歐洲大戰のソ聯邦貿易に及ぼす影響

大戰のソ聯邦貿易に及ぼす影響を見るならば、今次大戰が先づ貿易戰の形を以て展開されてゐる關係上、之は英佛及その植民地並に獨逸が其の輸出能力の減退及戰爭遂行の必要からして自國貿易に對して加へる所の統制並に交戰相手國の封鎖を目的として、一方の交戰國と第三國との貿易に對して取る所の諸方策がソ聯邦貿易に及ぼす影響即ち直接的影響と、ソ聯邦の物資輸入或は輸出難緩和のための新市場開拓と云ふ間接的影響とに分つて見ることが出来る、即ち今次大戰は英佛及獨逸の抗争となり益々長期且擴大の

展望を持つに至つたが、大戰の段階に於ては英佛及獨逸の貿易戰が展開され、之に對しソ聯邦は武力、經濟力を背景とし、益々戰爭を長期化せしめ交戰國の武力及經濟力の消耗により自國の歐洲に於ける政治的及經濟的優越性を確保せんとしてゐる。

依つてソ聯邦の大戰に對する貿易政策は抗爭激化の線に沿つて或は英佛への原料及完製品の供給、或は獨逸への原料供給となつてゐる、然し現在ソ聯邦は第三次五ヶ年計畫の遂行のため大量の機械及技術を必要としてゐるし、亦戰略的原料に於ても、非鐵金屬、羊毛、ゴム、麻、棉花、其他輸入を必要としてゐる。

而して一方、輸入資金獲得手段の一として特に木材、穀物、滿俺、石棉、亞麻毛皮、等の輸出貿易を振興するの必要になつてゐる、更にソ聯邦の貿易に影響を及ぼすものは、ソ聯邦の貨物輸送が専ら海路經由、船舶に依り行はれてゐる關係上、著しい貿易貨物輸送困難である事である。

斯くて物資供給地及び輸送路としての近東、極東、米國、南洋方面の意義が大になると見られるに至つた。斯くて歐洲大戰勃發に鑑み、ソ聯邦の自國貿易に對する影響を最小限に止めんとし、人民委員會議は一九三九年九月、外務人民委員に輸出制限令發布の權限を附與した、この輸出制限令は現金自國船主義の新法令で、輸出品の制限並に禁止を行ひうる事となつたのであつた。

獨ソ新通商協定

獨ソ新通商協定は一九四〇年二月十三日ソ聯邦政府よりタス通信を通じ左の通り發表された。

獨ソ兩國は十一日莫斯科に於て、ソ聯邦側ニコヤン外國貿易人民委員、ババリン駐獨通商代表、獨逸側リツテル經濟特使、シュヌレー經濟使節團長の四代表間に新通商協定の調印を行つた。本協定は一九三八年九月二十八日モロトフ外務人民委員と、リツベントロツプ獨外相との間に交換された兩國の貿易に關する經

濟取極め協定の公文に準據したもので、内容はソ聯邦は獨逸に原料を供給し、獨逸はソ聯邦に工業製品を供給すること、既に條約實施第一年度中の獨ソ取引高は第一次世界大戰後の兩國最高貿易額を超過するやうに規定されて居り、將來其額は更に一層増加されるだらう。獨ソ間の貿易は世界大戰終了後ナチス政權が成立する迄は極めて緊密に行はれて居たが、近年は著しく萎靡して居るので、今回の協定に依り是を従前以上に復

活し、以て獨ソ兩國の經濟的要求を満足せしめるやうに取極めたものと解される。獨ソ新通商協定は協定實施後第一次世界大戰後の兩國最高貿易額を超過するやうに規定されてゐるが、兩國貿易が最高水準に達したのは一九三〇、三一年で左の如くである。(單位百萬マーク)

△獨逸の對ソ輸出
一九三〇年 四三〇
一九三一年 七六二

註ソ聯邦は準戰時態勢に入つた、一九三八年下半年に到り、政府發表貿易月報の内容をカモフラージュして來たので茲には一九三七年全期の統計を基礎參考に掲げることとした。

最近三年間貿易額

年次	輸入額		輸出額		貿易總額	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一九三五年	千噸	千留	千噸	千留	千噸	千留
一九三六年	一、二五九、〇五七、二八	一、七一九〇	六〇九、二六〇	一、八四九、二、六六、四七六	一、五五〇、七九七、〇五七、二八	一、七一九〇
一九三七年	一、一五九、〇五七、二八	一、七一九〇	六〇九、二六〇	一、八四九、二、六六、四七六	一、五五〇、七九七、〇五七、二八	一、七一九〇

一、相手國別貿易額 (一九三七年一月—十二月)

國名	輸出額		輸入額	
	數量	價額	數量	價額
英領諸殖民地	三、〇三三	六、九九九	二、五七一	五、七三三
カナダ	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三
南アフリカ	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三
オーストラリア	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三
ニュージーランド	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三
英領諸島	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三
その他	一、五七二	三、〇三三	一、五七二	三、〇三三

Table of international trade data for various countries including Denmark, Estonia, and others. Columns include country names, quantities, and values.

Table titled '三、輸出入額の大綱' (Outline of Import and Export Totals) showing data for 1937 (1937年12月). It includes sub-sections for agricultural products, raw materials, and other goods.

Table titled '五、最近三年間商品類別輸出入額' (Outline of Import and Export Totals by Commodity Category for the Last Three Years). It details data for 1935, 1936, and 1937, categorized by industry (e.g., heavy industry, light industry, forestry).

六、商品類別貿易額 (一九三七年1-12月)

Table titled '六、商品類別貿易額' (Commodity Category Trade Totals) for January to December 1937. It provides a detailed breakdown of trade by commodity category, including raw materials, animal products, and finished goods.

商 品

單 位

輸 出 價 額

輸 入 價 額

第一部 植物生産品

一、穀 物	噸	1,177,554	千留	35,917	6,943
二、製粉業生産品(麥麩、澱粉、麩)	噸	65,187	10,665	1,633	475
三、製油用種子並果實、播種用種子、工業用並藥用植物、蘆並飼料	噸	57,624	10,366	8,893	15,000
四、野菜、草及其の食用植物	噸	26,533	6,219	1,966	839
五、果 實	噸	6,241	3,306	400,933	18,543
六、珈 琲、紅 茶 及 香 料	噸	5,579	5,499	16,461	30,440
七、タンニン材料、護謨、樹脂及其他の植物性樹液	噸	629	2,009	4,136	7,630
八、生木並生花、及草花よりの生産品	噸	0	0	101	165
九、其他の植物性消費材料及原料品即ちパツキング材料、刷毛材料等	噸	0	0	500	690

第二部 木材、コルク材樹皮及編細工物材料並其の製品

一〇、木 材 及 其 の 製 品	噸	5,101,666	43,760	13,037	1,461
一一、コルク材樹皮及編細工物材料並其の製品	噸	80	7	7,855	706

第三部 動物及動物生産品

一二、動物(魚、甲殻類及軟體動物を除く)	噸	33	127	89,049	46,104
一三、肉	噸	4,136	6,968	2,826	2,603
一四、乳及製品鳥類卵及蜂蜜	噸	15,110	3,334	3,602	1,663
一五、魚、甲殻類及軟體動物	噸	1,633	1,807	14,593	6,111

一六、其他の動物性準備材料及原料品

噸

1,196

32,395

536

6,935

第四部 油脂、油脂分解生成品及蠟

一七、油脂、油脂分解生成品及蠟

噸

8,404

10,014

3,666

3,968

第五部 嗜好品工業生産品

一八、肉、魚、甲殻類、軟體動物調理品	噸	8,123	23,896	447	1,674
一九、野菜、果實、漿果及其他食用植物調理品	噸	390	600	75	9
二〇、砂 糖 及 砂 糖 製 品	噸	137,855	38,475	187	66
二一、コ コ ア 及 其 の 製 品	噸	50	165	11,150	11,634
二二、製 粉 及 澱 粉 製 品	噸	1,047	772	87	101
二三、酒精飲料、輕飲料、酒精及醋	噸	799	1,052	110	32
二四、煙 草 及 其 の 製 品	噸	3,174	10,222	20,910	3,336
二五、其他の調理食料品	噸	33	191	4	35
二六、食 料 工 業 派 生 品	噸	37,910	5,854	7	11

第六部 皮革及其の製品

二七、毛 皮	噸	1,778	153,643	7,902	23,526
二八、皮	噸	4,863	13,147	17,544	35,860
二九、革	噸	208	2,121	11	15

第七部 鑛物材料及同製品

三〇、堅鑛燃料、石油、石油製品並其の他の鑛油 瀝青及此等の蒸溜製品	噸	3,376,663	187,836	122,934	13,078
三一、鑛 石 (金 屬) 鑛 滓、燃 滓 及 鑛 屑	噸	1,353,593	60,215	5,896	25,530

三二、土及岩石、石灰及セメント 噸 三〇、二〇九
 三三、岩石及其他の鑛物材料よりの製品 噸 一八、三三五
 三四、硝子及硝子製品 噸 一、二八
 三五、陶製 噸 三、四七四
 三六、彈性ゴム及同製品 噸 一、二八五
 三七、化學製品及藥品 噸 一、一五九
 三八、寫眞材料 噸 一、一五九
 三九、タンニン・エキス、ペイントニス、護謨脂、泥炭及封蠟 噸 一、一五九
 四〇、エーテル油及ニツセンス、人工芳香品、香水及化粧品 噸 一、一五九
 四一、石鹼、蠟燭及其他の油脂及蠟製品 噸 一、一五九
 四二、カゼイン、蛋白、ゼラチン膠 噸 一、一五九
 四三、爆發物、煙花及マツチ 噸 一、一五九
 四四、肥料 噸 一、一五九

第八部 彈生ゴム及同製品

第九部 化學製品、藥品、ニス及ペエント、香料及化粧品其他

四五、紙類及印刷物 噸 三、九三三
 四六、紡績材料及同製品 噸 一、二九、二八二
 四七、生産上の必要なる重金属及同製品 噸 三六、〇四六
 四八、生産上必要なる輕金屬及同製品 噸 一八
 四九、生産上必要なる普通金屬(硅素を含む)及同製品 噸 一
 五〇、普通金屬製消費品 噸 三、七五三

第十部 紙類及印刷物

第十一部 紡績材料及同製品

一二、土及岩石、石灰及セメント 噸 三〇、二〇九
 一三、岩石及其他の鑛物材料よりの製品 噸 一八、三三五
 一四、硝子及硝子製品 噸 一、二八
 一五、陶製 噸 三、四七四
 一六、彈性ゴム及同製品 噸 一、二八五
 一七、化學製品及藥品 噸 一、一五九
 一八、寫眞材料 噸 一、一五九
 一九、タンニン・エキス、ペイントニス、護謨脂、泥炭及封蠟 噸 一、一五九
 二〇、エーテル油及ニツセンス、人工芳香品、香水及化粧品 噸 一、一五九
 二一、石鹼、蠟燭及其他の油脂及蠟製品 噸 一、一五九
 二二、カゼイン、蛋白、ゼラチン膠 噸 一、一五九
 二三、爆發物、煙花及マツチ 噸 一、一五九
 二四、肥料 噸 一、一五九

第十二部 普通金屬及同製品

五二、汽罐、機械、器具、裝置及此等の部分品 噸 一、二七三
 五三、電氣設備(電氣機械器具及此等部分品、電氣技術材料) 噸 四、三二二
 五四、鐵道資材(車輛、電氣信號機を除く)沿線信號機、沿線設備此等部分品 噸 一、二九六
 五五、トラクター、自動車、自動自轉車、自轉車、連結機、荷車、馬車、棧等及此等部分品 噸 三、七五三
 五六、空輸及水道資材 噸 一、一五九

第十三部 機械及器具、電氣材料

五七、精密機械製品 噸 八六七
 五八、精密機械製品 噸 六〇九
 五九、精密機械製品 噸 一、九八八

第十四部 精密機械製品

六〇、精密機械製品 噸 一、九八八
 六一、精密機械製品 噸 一、九八八
 六二、精密機械製品 噸 一、九八八

第十五部 運輸資材

六三、運輸資材 噸 一、九八八
 六四、運輸資材 噸 一、九八八
 六五、運輸資材 噸 一、九八八

第十六部 武器

六六、武器 噸 一、九八八
 六七、武器 噸 一、九八八
 六八、武器 噸 一、九八八

ラ	ガ	オ	器	械	千封度	三三							
内	燃	機	關	臺	六四三	七六三							
油	井	用	及	び	石	油	精	製	用	機	械	二四六	五八二
金	屬	加	工	機	械	一八、五五	三五、一六三						
氣	體	壓	縮	機	臺	一〇〇	八九九						
自	動	車	、	同	部	分	品	、	附	屬	品	八二	三四三
航	空	機	、	同	部	分	品	、	他	二、九〇五	五、一七一		
其	他	二、九〇五	四、七六九	八四六	三三	三四五							
化	學	製	品	及	び	同	關	聯	製	品	合	計	五、一七〇
ソ	ゲ	ユ	ー	ム	化	合	物	千	封	度	二、五二	五〇一	
其	他	の	米	國	産	品	合	計	四、八三〇	一、一七〇			
外	國	商	品	の	再	輸	出	合	計	二、三三	六八		
原	料	護	謨	千	封	度	一、四九	一、〇三					
精	銅	、	同	製	品	一、四九	一、〇三						
錫	(竿	、	塊	、	其	他)	千	封	度	一、〇三	六	
其	他	の	再	輸	出	品	一、〇三	六	六	六	六		

一、ソ伊貿易

ソ伊貿易の伊太利發表によれば一九三七年上期のソ聯邦からの輸入額七十萬リラ(一〇〇リラは一九三九年二月十五日ソ聯邦國立銀行公定換算率にすれば二六留七六哥)、ソ聯邦への輸出四千四百二十

一九三九年	〇七	五、一三〇
(上半期)		
△ソ聯邦への輸出額		伊太利總輸出額
一九三六年	九・〇	三、八二〇
一九三七年	九・五	七、八五〇
一九三八年	〇・五	八、〇一〇
一九三九年	四・二	四、一二〇
(上半期)		

三、ソ獨貿易

一九三一年以來、國際政局上對立的關係にあつたソ獨兩國もその貿易關係は比較的順調であつたが、一九三七、八年に至りスペイン内亂を繞るソ獨兩國の對立から著しく不振に陥つた、然るに一九三九年八月十九日のソ獨新通商協定の成立に引續きソ獨不可侵條約の締結により、兩國の貿易は急激な發展を見るに至つた併しその具體的内容は其年の秋勃發した歐洲戰亂の爲め祕密に附され茲に信憑すべき資料を得ることが出来なかつたのは遺憾である、従つて茲では前記ソ獨新通商協定の内容の概要を述べるに留めよ。

即ち新協定によれば獨逸はソ聯邦に對し商品購入のため總額二億ライヒスマルクのクレヂットを期限七ヶ年、利率五分の割合を以て供與する、而して此中第一年度の供與額は一億二千萬ライヒスマルクである。

是に對しソ聯邦は獨逸に協定調印月以降二ヶ年間に總額一億八千萬ライヒスマルクに相當するソ聯邦商品を輸出する而して獨逸の對ソ輸出品は工作機械、石炭化學、電氣各業の設備等で、又獨逸人技師を派遣する。ソ聯邦からは木材、鑛産物、石油製品、原料及半製品を輸出し、クレヂットによる物資の交易はソ獨間の現行貿易額に追加する。

斯くて其後の兩國貿易額は過去における最高記録たる一九三一年度の七億六千餘萬マルクを遙かに突破し、一九四〇年度に於ては十億マルクを遙かに超過する見込みであると傳えられてゐる。

四、黒海經由石油輸出減少

ソ聯邦の石油輸出は從來主として黒海

經由で行はれて居り、之れはインタングールを通過するか故に容易に外部から計算出来る。且又正確な數字であるので貴重な資料であるが、今や一九三九年度は近年に於ける最低となつた。一九三九年度が其の前年度に比し約半減したに就いては幾多の言説が行はれて居る。

製品別	一九三九年	一九三八年	一九三七年
潤滑油	三三、九九	二七、四二	四一、三九
燃料油	七四、五五	四〇、〇〇	三六、三〇
燈油	一三、八七	六四、六三	三五、九九
揮發油	四四、二七	三六、六三	一四、〇五
アスファルト	一、八三	三、二〇	三、二〇
ペンゾール	一、八三	七、四七	七、四七
合計	一、五二、七六	九三〇、五二	五七、三六

一九四〇年のソ聯邦對外貿易は歐洲戰亂に依る海上封鎖とポーランド、ルーマニア、バルト三國、フィンランド等への赤軍進駐により著しき影響を受けた模様であるが、茲に注目すべきは歐洲の動亂によるソ聯邦の中東方面とバルカンへの進出である、即ち此年一月五日モスクワでブルガリヤとの間に經濟協定が成立し又續いてユーゴスラヴィヤとの通商協定(外交の部参照)が調印され、兩國の友好關係が強化されるに至つたが、ソ聯邦經濟協定の概要は次の通りである。

一、ソ勃經濟協定

- 一、有効期間向ふ三ヶ年
- 二、通商及航海條約並びに一九四〇年度の交換物資額と支拂方法とに關する協定より成る
- 三、通商條約は最惠條件を基礎とす
- 四、一九四〇年の交換物資總額は九億二千萬レフ(一米弗は百レフに當る)從來ソ勃間の物資取引は極めて微々たるものであつたが、同協定によつてブル

ガリヤの對ソ物資取引は總貿易額（一九三八年は百億五千萬レフ）の十分の一を占むるに至り、兩國が地理的に隣接してゐることと、物資の輸送に最も便利で低廉な水路を有することとは兩國物資取引の發展強化を促進することとならう。

一、ソ阿間新通商協定

一九三九年の夏以來商議中のソ聯邦とアフガニスタン間のバーター新協定（當事者は阿國國立會社ソ聯邦東方貿易會社）は二十三日カブールに於て締結せられた、右は一方が他方から一年間に輸入すべき額が一億六千四百萬アフガニ（阿國通貨單位）（此の邦貨約五千萬圓）以上であるべきことを規定してゐる。

公表に依る輸出品目は左の通りである
一、阿富汗よりの輸出 羊毛一萬噸、カラクリ貂皮七萬五千枚、羊、山羊、及小山羊皮九十萬枚、胡麻一千噸、阿片二十噸
二、ソ聯邦からの輸出 織物五千萬メートル、砂糖六千五百噸、石油その他燃料油一萬一千噸、セメント三千噸、鐵五百噸、雜品七十萬米弗
尙前記の數量は双方の了解の下に増加し得べしとなつて居る。

三、ソ・伊蘭新通商協定

ソ聯邦・イラン新通商及航海條約は三月二十五日テヘランに於て兩國代表により調印されたが、ソ聯邦の輸出重要品は綿織物、砂糖、茶、機械、生産設備資材、建設材料、鐵道裝備品で、イランからは羊毛、皮革原料、米等を輸入する。イランの總貿易額中ソ聯邦は近年常に第一位を占め、一九三七—三八年にはソ聯邦はイラン外國貿易の二三%を、一九三八—三九年度に於てはイランのソ聯邦よ

りの輸入は二三五百萬リアル、ソ聯邦への輸出は三一五百萬リアルに達し、前者は總輸入額の三五%、後者は總輸出額の三二・五%を占めてゐたが、一九三八—三九年度に於けるイランの對外貿易においてソ聯邦の占める地位は可成低下したが、本年の新通商條約の締結によつてソ聯邦の對イラン貿易の地位は再び強化されるであらう。

四、ソ英通商關係

一九三八年末、英佛ソ交渉の繼續中、ソ聯邦が突然當面の假想敵國たる獨逸と不可侵條約を締結して以來、英國はソ聯邦註文の各種機械の製造を停止し、又は發送を拒絶し、或は製造契約を破棄する措置をとつた、ソ聯邦政府は報復手段として木材その他を積載して英國に向つたソ聯邦船舶總てに對して即時自國港に引揚を命じ、且つアルハンゲリスクに於て英國向ソ聯邦木材を積んだ英國商船に對し、外國貿易人民委員の新權限によるものであるとして、其の出港を差止めた。

斯くて一時兩國間の貿易は全く杜絶するに至つたが、其の後貿易調整に關して交渉行はれ十月一日に至つて一應兩國間にバーター協定が成立し、ソ聯邦は年末アルハンゲリスクの結氷する迄に價格百萬磅の木材の對英積出を許可し、英國は同額の護謨及び錫をソ聯邦に輸出することになつた。その後も更にこのバーター制度を擴張することを目的とした豫備交渉が續けられたが、十二月に至つて英國の行ひつゝある獨逸の輸出封鎖が中立國としてのソ聯邦の利益を侵略するものであるとして再び兩國間に紛争を生じ、交渉の進捗は阻害された。

本年二月英國下院の質問に答へたダンカン商相の言によれば、十月に締結された通商協定も實施されてないとのことである。其の後、ソ芬戦争をめぐつて悪化した英ソ關係も媾和成立と共に幾分緩和され、英國は對獨封鎖を強化する意圖もあり、再び通商交渉開始方を提議し——英國側の言ひ分によればマイスキー駐英ソ聯大使が先づ私的提議を行つたとのこと

とである——三月中旬より交渉を續けてゐたが、五月二十二日タス通信の發表に依ればソ聯邦が英國以外の第三國より輸入した貨物を獨逸に供給するか否かが交渉の難點を爲し、妥結の見込は殆んどなくなつた模様である。斯くて獨ソ接近以來數回に互り通商協定締結のため努力がはらはれたにも拘らず英ソ貿易は殆んど中絶してゐる状態である。ソ聯邦としては斯くては從來英國より輸入してゐた物資を何れか他國より求める必要がある。其の一部は獨ソ通商協定によつて獨逸より供給せられるが、他は之を米國に求めることとなるのである。

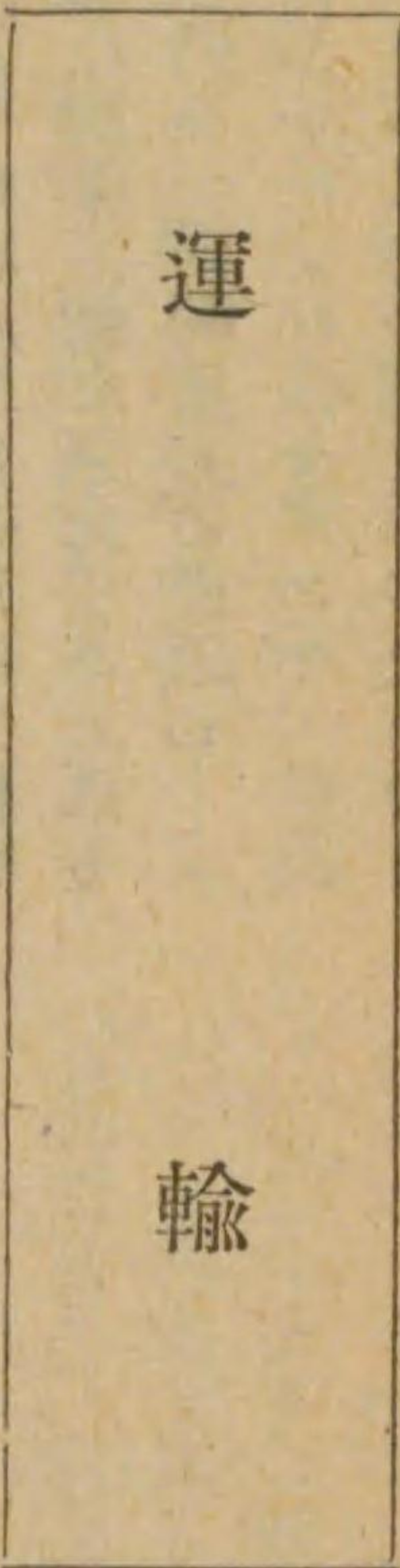
鐵道運輸

概観

鐵道運輸は、ソ聯邦に限らず世界何れの國家に取つても陸上に於ける物資輸送機關の基本形態であることは勿論だが、世界陸地の約六分の一を占めるソ聯邦には各種工業に要する原料並に燃料資源が遍在してゐるので、殊に此の鐵道運輸の演ずる役割は大きい。ソ聯邦が領土が廣く各種の埋藏資源に恵まれてゐる他に、海洋にも恵まれ、且つ大小河川が國內を縦横に流れてゐることも事實であるが、これら河川の多くは冬季に結氷するといふやうな自然的な悪條件に影響されるので、重要物資の輸送には何を措いても鐵道が必要となつてくるのである。ソ聯邦

がアメリカ合衆國に次ぐ鐵道國と言はれてゐるのも之が爲めであらう。

然らば、帝政時代のロシアの鐵道は兎も角として、ソヴィエト政權下の鐵道運輸の成績は何うであつたかといふに、從來、國民經濟の弱點とされて來たのであつて、少くとも一九三五年にエル・エム・カガノヴィツチが交通人民委員として再就任する迄は最も遅れた部門の一言は居つたのである。第一次五ヶ年計畫にかけて、工業建設の巨大な歩みが着々と續けられて居つたにも拘らず、鐵道運輸の成績は頗る悪く、例をカガノヴィツチ復歸直前の一九三五年二月に取つて見ても判る。即ち一九三五年一月、鐵道の一晝夜平均積載車輛數は五萬六千一百輛に過ぎなかつたが、同年末には六萬八千八百輛となり、翌一九三六年には八萬六千二



百輛、一九三七年には八萬九千八百輛、一九三八年には前年より少し成績が落ちたが、一九三九年に入るや、その一晝夜平均積載車輛數は九萬三千三百七十四輛となり、殊に第二四半期の後半より第三四半期の前年、即ち氣候條件の良好な期間の如きは一晝夜平均積載車輛數は十萬輛を超えたことが少くなかつたのである。其の後ソ聯邦の新聞雜誌に此の一晝夜平均積載車輛數の發表が見られなくなつたと言ふものゝ、少くとも第二次世界大戰勃發迄は鐵道運輸の能率向上に可成りの努力が拂はれて來たと見るべきである。

試みに第二次五ヶ年計畫末年に當る一九三七年に於け鐵道の貨物取扱數は三、五四八億噸に於たが、翌一九三八年には三、八四四億噸となり、第三次五ヶ年計畫第二二年目に當る一九三九年の貨物取扱數は三、九二〇億噸と更に上向いたのであるが、第三次第三年目の一九四〇年のそれは更に飛躍して四、〇九〇億噸に増加したのを見て前記の事實を想像することができる。昨年春開

ると、一籽當り單位千噸とした一九一三年から第二次五ヶ年計畫末年に當る一九三七年迄の推移を示すと

- 一九一三年……………一、二二二
- 一九二八年……………一、二一五
- 一九三二年……………二、〇七五
- 一九三七年……………四、一六九

といふ數字が出て居り、一九二八年即ち第一次五ヶ年計畫初年度に於ける貨物平均密度は一籽當り一九一三年に比較すると僅かに八・三の増加に過ぎなかつたが、第二次五ヶ年計畫末年即ち一九三七年になると、既に三・七倍も増加した。

詰り工業生産の増大に伴つて、鐵道の運輸作業を昂上させる方策を着々實行に移して來たことがうなづける。一九三九年の春開催された第十八回黨大會の席上、交通人民委員エル・エム・カガノヴィツチが「運輸作業は局限に達してゐるとは言ひ難いが、マキシムムに働いてゐることは事實である。然し更に向上させるには改善を行はねばならない」と述べてゐる。斯様に國民經濟の重要部門として

催された第十八回ソ聯共產黨會議に於いて、國家計畫委員會の議長であり人民委員會の副議長たるニコライ・ヴォズネネンスキーの報告を見ても、「國民經濟に於ける工業生産の増大は運輸施設に追加的な要求を提出すると共に、他方に於いて、運輸部門の裝備に對する要求も從つて増大してゐる。近年、我が國の運輸組織は可成りに強化された。而して、赤軍が一九三九年末から一九四〇年初頭に行はねばならなかつた諸作戦には缺陷が若干あつたにも拘らず我國の鐵道が能く赤軍の動員計畫上の必要に應じ得る能力を有することを實證して呉れた」と述べ、更らに、また一九四一年の計畫として、鐵道運輸に依る貨物取扱數は四%増しの四、三一〇億噸に引上げる豫定だと言つてゐる。

鐵道運輸に對する投資額に就いて見ると、一九三三年には僅かに七億留に過ぎなかつたが、一九三四年には九億留、三五年には二十六億留と急に上向き、更らに一九三六年には二十一億留と少し下つ

たが三七年には四十億留増を示し、前記ヴォズネネンスキーの報告によると、第三次五ヶ年計畫の第四年目に相當する一九四一年に於ける鐵道に對する投資額は實に六十五億留に達する見込みで、一九四〇年の水準を殆んど五五%方超過してゐると言つてゐるのである。而して一九四一年に於いては鐵道に對する車輛臺數の補給は倍加される豫定だと仄めかしてゐる。しかし、之は昨春の報告であり、その後勃發した獨ソ戰の影響に依つて豫定に達しなかつたであらうことは容易に想像されるところである。

民需を多分に犠牲に供し、重工業部門の擴充と強化に専念し、所謂高度國防國家の態勢を整へ、國防を第一義として居つただけに輸送の問題も、自然旅客輸送を犠牲にし、貨物輸送の強化に邁進したことは寧ろ當然であつた。之の方策を飽く迄も堅持して進んだのが一九三五年二月再び交通人民委員に就任したカガノヴィツチだつたのである。いま、ソ聯邦の鐵道網に於ける貨物運輸の平均密度を見

の鐵道運輸に對し、ソ聯邦當局が凡ゆる努力を拂つたにも拘らず、年々増大する工業生産に歩調を合はせることができなかった。尙當り輸送密度の高いことが必ずしもソ聯邦鐵道運輸の成績の向上を物語るものではないのである。即ちソ聯邦鐵道の輸送能力はアメリカ合衆國の輸送密度に比して遙かに高いことも事實であり、ソヴィエトの諸新聞でも此の問題が大いに論議されてゐるが、鐵道の擴充強化が工業生産の増大に並行しないので運輸作業能率を増進させることに努めたのであつて、輸送密度の高いといふものが爲めである。しかし、それだけに軌條の損傷が甚しく、之が更新を必要とされて居り、輸送餘力といふ點からすれば、マキシムムに働いてゐるといふことは危険であり、餘力の無いことを意味することにもなる。ソ聯邦鐵道の輸送密度は一九二九年の好況時代に於けるアメリカの第一級線のそれに比して二倍以上に當つてゐる。一九四一年二月に立案された計畫によれば、一九四二年に、聽哩計算

に、アメリカ鐵道の五分の四の輸送を行ふ豫定であると言つてゐる。即ちアメリカの第一級の鐵道は一九一三年には九億六千八百八十萬噸を輸送したが、一九三九年には十二億四千八百八十萬噸を輸送してゐる、然らば之に對して帝政ロシア時代の一九一三年には何うかといふと一億三千二百四十萬噸であつた。而してソ聯政權以後の一九二九年には一億八千七百六十萬噸と僅かに上向いて居つたが、第二次五ヶ年計畫の末年たる一九三七年には既に五億一千六百七十萬噸の貨物を輸送してゐるのである。ソ聯邦の鐵道が、その哩數の増加が比較的少ないにも拘らず、斯かる急速な輸送増加は、ソ聯邦に於ける鐵道作業の向上に起因するものであると當局は誇示してゐるが、前にも述べたやうに、ソ聯邦の鐵道が既に飽和状態に在り、餘力の發見に苦しんでゐる一つの證左であるとも見られる譯である。しかし「ソ聯邦當局者は、一九三九年一九四〇年のソ芬戰の場合を引用して、例のマンネルハイム線に對するカレリヤ

地峽線の一本の鐵道を以て良く軍事目的を達成した位にソ聯鐵道の能力が昂上したと呼號してゐる。結局、ソ聯邦交通運輸の運用と擴張は、歴倒的に鐵道運輸の昂上に懸り、それはソ聯邦以外の大國の如何なる國に於ける交通運輸が直面してゐる問題なのである。更らにもう少し具體的にソ聯邦の場合に就いて言ふと、鐵道運輸は第一には、絶えず迅速に膨脹しつゝある國民經濟と歩調を合はせて行かなくてはならない。第二には國內の廣大な未開發地域の發展に要する老大な物資を輸送しなければならぬ。第三には一朝有事の場合（現在ドイツと戰つてはゐるが）國民經濟を損ふことなしに、できるだけ能率的に輸送の充分な餘力を確保しおかなければならないことである。以上掲げた諸課題は戰時下の世界に於ける、他の凡ゆる國民の持つ共通のものであると言へ、ソ聯邦工業が實質的に既に全能力を發揮してゐるといふ事實に就いて益々重要性を加へてゐる。更らに現在に於いて最も重

要なソ聯の鐵道運輸の問題は、一九四二年迄に鐵道のみアメリカに於ける鐵道に依る輸送規準の五分の四の輸送を確保する必要がありといふことである。しかし之とて、現在行はれつゝある獨ソ戰に依る影響を考慮すれば、之が目的達成は覺束ないものと言はざるを得ない。しかも、今回の對獨戰に依らずとも、既に昨年二月十五日、第十八回共產黨代表者會議にソ聯共產黨書記エム・マレンコフはその演説の中に、「鐵道運輸部内に於ける重大な缺陷と見られるのは、若干の鐵道に於いて重要物資の輸送計畫、配車計畫、一晝夜平均集荷計畫が未遂行であり、貨物列車は殆んど總べて時間表に従つて運轉されず、旅客列車の運輸が亦規定通りに組織されてゐない」と言つて鐵道運輸の弱點を指摘してゐるのを見て、工業生産との均衡が保たれてゐないことが判る。

ソ聯鐵道の地勢的特徴

ソ聯邦はアメリカ合衆國に次ぐ鐵道國

であることは既述の通りだが、その延長料は一九三八年一月現在で八五、一〇〇に達し廣大な地域に互る陸上運輸の重要な役割を果してゐる。ソ聯邦は地勢上から見て、大部分の領域が平地的な特質を有し、勾配が緩やかで基本的な鐵道幹線の建設を容易ならしめてゐる。即ちソ聯邦に於ける鐵道網の多くは水平線或は千分の五迄の勾配線から構成されて居り、その他は千分の五乃至千分の十の勾配といふ緩やかなものが多く、急勾配の範圍に入る千分の十乃至千分の二十五、或ひはそれ以上の急勾配を有する線路は極めて少い上に、直線區間も同様に多く、運轉速度に重要な關係のある此の直線區間が全鐵道網の四分の三以上に達してゐる。更らに亦、曲線は五百米以上の半徑を有することが原則となつて居り、それよりも半徑の小さな、例へば三百米以下の半徑を有する曲線區間の比重の如き急勾配の區間よりも更らに少くなつてゐる。

歐露の主要な幹線たるモスクワ及びレニングラードを繋ぐ「十月鐵道」本線の

如きは大量貨物の輸送に當り、緩勾配といふ點で良く知られてゐるが、その直線區間は該鐵道の全延長の九〇%となつてゐる。また、モスクワとドンバスを結ぶ（クールス、エレット及びリヤザン經由に依り）三幹線は中部ロシアの丘陵地方を横斷して、クルースク經由幹線は勾配が稍急である。しかし、最近に於いてドンバス—クラリスヌイ—リマン—オスノワ方面の勾配は非常に緩かにされてゐる。モスクワよりアトロージカ（ヴォロネーヂ）に達するリヤザン線でも勾配は急でない。また、モスクワ・ドンドバス鐵道のエレット線は嘗て第一次五ヶ年計畫の時期迄は、地方的意義を有するに過ぎなかつたし、また極めて困難な勾配の半端な單線鐵道が幾本あつた後のものだが、第一次五ヶ年計畫の末から第二次五ヶ年計畫の初期迄の間に、擴張工事が行はれ勾配が緩やかにされたばかりでなく複線化され、強力な輸送線を形成するに至つた。ドンバスよりレニングラード（オスノワ—リゴフ—ブリヤン

スクー—ウイテブスタ經由)に至る西部出口線は平坦な地域を通過し、その北部區間たるウイテブスク—レニングラード間の線には緩やかな勾配があり、ウイテブスク迄の南部區間の線の勾配は幾分急である。これらの諸線はドンバス—レニングラードの物資輸送路として革命直後は極めて重要な役割を演じたものだが、その輸送量は大きくなかつた。最近オスノーフからナウリヤ迄複線化されその勾配も著しく緩やかになつた。ドンバスからモスクワ及びレニングラードに至る幹線鐵道には現在重量列車が運轉されてゐる。ドンバスからヴォルガ沿岸(ワルイキ—バラシヨフ—ペンザ經由)に至る東部の出口でも矢張り複線化と勾配の緩和が並行し行はれた。右に述べた他の鐵道網はドネツ山脈に依つて遮られてゐる。デバリツエヴォ—ニキトフカ—ヤーマ、ヤーマ—クラースヌイ・リマン、クラースヌイ・リマン—オスノーフ線などはドンバスからの主要な幹線鐵道であるが何れもその勾配が緩

やかにされてゐる。

中央地方を南北に走る鐵道は若干の丘陵地帯を横断しなければならぬし、ウリヤノフスク(舊シンビールスク)、クイブイシエフ(舊名スパツスク・クタールスキー)、サラトフに至る線も低いヴォルガ地方の丘陵を横断してゐる。

歐露で最も高いカフカース山脈に依つて南方をふさがれてゐるのが東部ヨーロッパ平原で、鐵道建設に非常な困難が伴つたのはカフカースの中央部であつた。而して現在の鐵道は同山脈の東方を迂廻して其の北西部は主山脈に隧道を穿つてゐる。ザカフカース鐵道の主要幹線は極めて大量の貨物輸送に當つてゐるが其の西部區間が山地を通過してゐる關係上、自然勾配も急となつてゐる。ソ聯邦最大の隧道に依つてスラム山嶽地帯を通過してゐる。ソ聯邦の歐露部の東部は鐵道敷設の比較的容易なウラル山脈によつて堺され、ウラルに於ける一部の鐵道の如きは山地的な勾配の無い處もある。而して山地的な線路區間の多い部分としてはカガ

ノウイツチ鐵道であり、ベルムからスヴェルドロフスク(チエソウワヤ及びゴロブラダツトスカヤ經由)に達する線やキーゼル支線等に特に多い。

ウラルの山嶽地方を超える鐵道は再び平坦な處を通り、南東に遠く平地が連続し、また漸次丘陵地帯となつてゐる。ウラル地方は西から東へ走る三つの鐵道幹線で横断されて居り、オムスクから東部にはソ聯邦の東半分を極東の浦鹽迄横断してゐる唯一の幹線鐵道がある。また、ウラルからクズバス炭田に達する幹線鐵道の西部區間には勾配らしい勾配が無い。嘗て第一次五ヶ年計畫當時、スヴェルドロフスクからチエリヤビンスク及びノーフヴォンピルスクに至る鐵道全線の勾配を緩やかにするための大工事が行はれたことがあつた。チエリヤビンスクの西方、ヴォルガ河沿岸に達する迄の區間でも勾配が緩和された。一方、シベリヤ幹線の東端の山嶽地帯に敷設された鐵道の中には急勾配の箇所と隧道の多い處である。次に中央アジアを横断して中央ア

ジアとソ聯邦歐露部とを繋ぐ鐵道の勾配は大部分良好で且つ極めて直線的である。タシケント鐵道及びアンハバット鐵道の如き、その十分の九以上が直線區間となつてゐる。

一九三八年現在のソ聯邦鐵道には四〇の鐵道局があり、一九三五年から一九三七年にかけて、指揮命令の系統を明瞭に且つ有效適切なる作業を行ふ目的の下に各鐵道の改組と分割が頻繁に行はれた。鐵道の分割に伴つて運輸事務所と驛との關係を緊密化し、更らに列車運轉の指揮を改めるために運輸事務所の分割が行はれた。右の各鐵道の分割に際しては新鐵道將來の運輸量の増加及び線路の擴張なども考慮して一鐵道局の所管鐵道延長を二、〇〇〇杆乃至二、五〇〇杆と定めてゐる。

主要幹線

ドンバス地方

次にソ聯邦に於ける基本的鐵道に就いて

て略述しよう。先づ歐露部に於ける鐵道中主要なものが擧げると、第一にドンバスを中心とする南部地方の重要輸送線たる北ドネツ鐵道と南ドネツ鐵道がある。

ドンバスはソ聯邦中で鐵道密度が最も濃厚な地方であり、右の兩鐵道の他にドンバスの東端にはヴォロネーロフ鐵道所管の鐵道の一部が通過してゐる。右兩鐵道の主要發送貨物はドンバスの石炭があることは勿論で、これら鐵道に依り輸送される石炭の四分の三はドンバスを越えてクリヴォイ・ローク、モスクワ、レニングラード、ヴォルガ沿岸、カフカース等の諸工業に供給されてゐる。ドンバスの石炭をモスクワへ輸送する基本的線路として亦モスクワ・ドンバス鐵道がある。一九三七年には石炭の採掘中心地とクイビヤンスクを直接に連絡するクラーヌイ・リマン—クイビヤンスク連絡線の建設に着手した。而して南ドネツ鐵道の主要線路に於いては重量機關車エフ・デ型が使用されてゐる。

スターリン鐵道はドンバスからクリヴ

オイ・ロークに通ずる重要な鐵道で、其の主要な發送貨物は鐵礦、黑色金屬、到著貨物の主要なものとして、石炭、鐵礦、螢石、耐火粘土などが擧げられる。

次に、現在南部地方に於ける石炭・冶金基地には三つの幹線(何れも複線)鐵道によつてモスクワ及び中央地方と連絡してゐる。即ちその一はクルスクを經由するチエルデンスキー名稱鐵道(モスクワ—クルスク間)、南部鐵道(クルスク—ハリコフ間)及び北ドネツ鐵道の本線であり、その二はリヤザンを經由するレーニン鐵道(モスクワ—ミチウリンスク間)、東南鐵道(ミチウリンスク—リハヤ間)の本線である。而して第三はモスクワ—ドンバス鐵道(エレツ經由)の本線である。右に擧げた諸鐵道のうちレーニン鐵道はトランジツト的特色を有するばかりでなく、リヤザン及びユベルツイに於ける農業機械工場、コロメンスキー機關車製造工場、ウオスクレセンスク化學綜合企業などに取つて重要な線となつて居り、鐵道沿線には農業が

盛んである。レーニン鐵道の特徴は以上の他に全線が複線化され且つモスクワからラメンスコエに達する郊外運輸區間は電化されてゐる。

ヂエールヂンスキー名稱鐵道の主要幹線はクルースクからモスクワ迄の線で、技術的設備に優れ複線化され北方へ向ふ貨物の大半は石炭である。亦この鐵道はハリコフ、ドンバス、クリミア及カフカイズとモスクワ及レニングラードを連絡する最も重要な旅客線の一つとされてゐる。

モスクワには十一本の鐵道が集中してゐる上に、多數の連絡線及驛と共にソ聯邦最大の管區を形成し、該ウーゼルに依る貨物輸送量は通過の分を除いて實に一ケ年に三千萬噸と稱されてゐる。モスクワからレニングラードへ通ずる幹線鐵道（複線）の一つは「十月鐵道」であり、勾配の緩慢なること、上部構造の良好なことが地理的に最短距離（六五〇軒）であることが其の特長とされてゐる。該鐵道の輸送する貨物の大部分は南方及南東

からのトランジット貨物であり、レ市に向けては石炭、石油、金屬、建築材料及穀物等が輸送され、その反對方向には主として木材及薪の輸送量が多い。次にレニングラードへは八本の鐵道が集中しレニングラード管區を形成してゐる。

ロシア共和国白ロシア地方

次にロシア共和国西部、白ロシア及ウクライナ右岸地方に於ける基本的鐵道に就いて言ふと、カリニン鐵道、西部鐵道、白露鐵道、モスクワ・キエフ鐵道及オデッサ鐵道の六つがある。これらの諸鐵道はソ聯邦の國防強化上に於いて重要な意義を有してゐる。また北部地方に於ける鐵道、即ちウラルを除くソ聯邦の北部ヨロツパにはキエフ鐵道、北部鐵道及ゴリキ鐵道があり、キエフ鐵道は燐灰石、鑛石、泥炭層に恵まれ、カレリヤ自治共和國及ムールマン州内の木材の豊富な地方を通過し、その終點は不凍港たるムールマンスク港である。該鐵道は單線であると言へ、低廉な水力電

氣の利用に依り複線化を行はずして電化に依つて効率を擧げて居り、既に一九三六年にはカンダラクシャ—アパテイトイ—キエフ間の一一四軒が營業を開始し、一九三八年と一九三八年にはアパテイトイ—ムールマンスク間一八四軒の電化工事が行はれた。一方、北部鐵道はソ聯邦北部ヨロツパ中最も廣大な森林地帯を通過する鐵道で、主として木材の輸送を行ひ、その最大の支線はヴオログダからアルハンゲリスクに至る線である。ムールマンスク方面が獨逸聯合軍に依つて制壓されてゐる今日、イギリスからする援助物資が此の線を通じて行はれてゐるものと想像される。アルハンゲリスク線に對しては、中央地方及北部地方を連絡するための強力な複線鐵道幹線工事も行はれて居つたが、戰禍に依つてその完成は當分覺えないだらう。ゴリキ鐵道も北部鐵道同様木材輸送を主としてゐるが第三次五ヶ年計畫の豫定では新線の建設に依つてその重要な役割を演じさせることになつてゐる。

ヴォルガ沿岸地方に於ける鐵道の多くはヴォルガ河の水運と連絡してゐる。即ちヴォルガ河の水路に到着した貨物、主として石油や穀物類を集荷して之を中央地方へ輸送し、ドンバス方面へは木材を發送してゐる。而してヤロスラウリ鐵道はヤロスラウリ州及イワノヴォ州に於ける冶金業、化學工業、護謨工業、纖維工業並に農業などに取つて重要な役割を果して居り、特にレイピンスク及ヤロスラウリの兩港はモスクワへ向けて輸送される石油の積換地として重要である。またヤロスラウリ鐵道は郊外旅客列車、運轉密度の點ではソ聯邦第一位に在り、亦本鐵道の本線には極東行特急列車及普通旅客列車が運轉されてゐる。ゴリキ鐵道は木材（コトラス線及コテリユチ線に依つて）、自動車及その部分品、紙、石油、及穀物（ヴォルガからの積換貨物）を積載し、ゴリキ市に於ける重工業、自動車工業に對す用を辨じてゐる。また同鐵道にはゴリキ地方に於ける新しい産業中心地と東北の遠隔地方との

旅客運輸を改善する任務が課されてゐる。次にカザン鐵道であるが之は大部分ソ聯邦時代の鐵道復興時代に營業を開始し、一九三六年以來線路及機關車の強化が行はれた。クイブイシエフ地方の東部、チカロフ地方の一部並にバシキール自治共和國等に於ける食品工業、纖維工業、挽材工業及クイブイシエフ地方の金屬工業、木材加工業、イシムバエヴォなどの石油工業に奉仕してゐるのはクイブイシエフ名稱鐵道である。本鐵道はウリヤノフスク及バトラキに於いてヴォルガを横斷し、ソ聯邦中央地方とウラル、シベリヤ及中央アジアとを結んでゐる。

サラトフに於ける金屬工業及輕工業、ウオリスクのセメント工業、バスタンチヤク及エリトンの製鹽工業、アストラハンの魚類罐詰工業及農業地方に奉仕してゐるのはリヤザン・ウラル鐵道（全線皆單線）である。スターリングラード・トラクター工場、冶金業、造船工業、食品工業、木材工業などを集中してゐるスターリングラード地方に奉仕する鐵道に

スターリングラード鐵道がある。

次にカフカーズに於ける鐵道としてはヴォロシロフ名稱鐵道、オルヂョニキーズ名稱鐵道及ザカフカーズ鐵道の三鐵道を擧げることができる。ロストフ州とクラスノダール地方の輸送路を形成してゐるのがヴォロシロフ名稱鐵道で、その北部がドンバスの東部を通過して石炭の輸送が多い。クラリスヌイ・スーリン、タンガローグなどの冶金工場、ロストセリマシ（ロフトフ農業機械製造所）、南露隨一のセメント工場たるイヴォロシイスク・セメント工場などがその沿線にあるばかりでなく、本鐵道は既に油送管の敷設を了したノヴォロシイスクとトウアブセ港などのために重要な役割を演じてゐる。一方、オルヂョニキーズ鐵道は石油産地のグロズヌイ及オルジヨニキーズ市にある有色冶金綜合企業、農業地方の重要輸送路となつて居り、ザカフカーズ鐵道はグルジャ、アルメニヤ、アゼルバイジャンのソ聯に於ける三共和國の鐵道である。而してその主要幹線はカフ

カース山脈の東部を貫通し、デルベントからバクーに達し、更らにバクーから西方に向ひトビリシ及バツムに至り、トビリシからエレワン及ジリフアへ支線が出てゐる。此の鐵道に就いて特筆に價するのハシウル—ゼスターホニ間のスラム山嶽地を起點として主要幹線が電化されてゐることである。スラム山嶽地方の電化には水力電氣を利用してゐるが、それはゼモ・アフチャリ及びリオン水力發電所から供給され、該線にはソ聯御自慢の新型電氣機關車たるヴェ・エル型が採用されてゐる。本鐵道が石油輸送を主としてゐることは土地柄當然のことに屬する。

ウラル地方

ソ聯政府が強調してゐる生産力の東部移動、特に今回の獨ソ戰に依り歐露の主要工業地方を喪失した現實に直面した今日、愈々此の政策が強化されるものと思像されるが、東部に於ける第二石炭基地並に第二冶金基地に對する鐵道輸送も從

つて全聯邦的意義を有するのである。事實、東部に於ける鐵道の輸送發展テンポはソ聯歐露に比して近年遙かに大となり、第二次五ヶ年計畫末には、シベリヤ、カザツクスタン及ウラルに於ける基

道が電化に依つて運轉作業の能率を昂めて居り、キーゼル—チウソワヤ間一二軒は既に一九三二年に電化され、最近に於いてはチウソワヤ—ゴロブラゴダツカヤ—スヴェルドロフスク間の電化を見た。

本鐵道の貨物輸送は第一次世界大戰前年に當る一九一三年の十倍以上に達してゐる。ウラル—クズバスの重工業地帯を中心とするウラルに於ける鐵道網はエル・エム・カガノヴィツチ名稱鐵道（舊ペルミ鐵道）及南ウラル鐵道の二つであつて、前者は主としてスヴェルドロフスク州、ペルミ州内を通り、南ウラル鐵道は主としてチエリヤビンスク州内の輸送路を形成してゐる。ウラルの工業化に伴ふ力ガノヴィツチ名稱鐵道の貨物は尨大量に上り、西部及東部（極東を含む）向け生産品の發送が年々増加の一途を辿つてゐる。本鐵道は未だ全線單線であるとは言へ、線路の技術的基礎が堅固であり、本鐵道最大の驛はウラル地方に於ける重要な工業中心地たるスヴェルドロフスク驛である。勾配の比較的急な本鐵

全聯邦的意義を有する東部隨一の冶金工場—グエトゴルスク及チエリヤビンスク—トラクター工場に主として奉仕してゐるのが南ウラル鐵道であり、その沿線にはチエリヤビンスクの石炭産地、ズラトウスト工場並に農業地帯がある。また、ウラル—クズバス間は大體に於いて勾配が緩やかで、軌條は重い通過能力の大なる複線が敷設されて居り、シベリヤ横斷鐵道の幹線の西部區間は、これより分岐する各支線と同様にオムスク鐵道及トムスク鐵道の管轄になつてゐる。オムスク鐵道はトランジツト的意義を有する鐵道で、積載貨物はカラガンダで行はれる石炭である。トムスク鐵道は冶金工業、石炭工業及化學工業の盛んなクズネーツ地方やノヴォシビルスクなどを控え

てゐるだけに、ソ聯邦鐵道中最大の積載量を有する鐵道の一つであつて、本鐵道の沿線には有色冶金工業地として近年有名になつたりツデル、西部シベリヤの木材産地、穀物産地があることも見逃せない。

東部シベリヤ及極東地方

さて、東部シベリヤ及極東に於ける基本的諸鐵道は帝政ロシア時代よりの傳統的な東進政策といふ多分に軍略的な觀點よりするも我々の關心を新たにすべき鐵道であり、ソ聯邦に於ける工業の東部移動、更らに今後に於ける獨ソ間の戰況の如何により益々その重要性を加へるものと想像し得られる。所謂シベリヤ横斷鐵道の東部區間たるノヴォシビルスク—浦鹽斯德間の距離は、その西部區間に比して四倍も長く、東部區に入る鐵道としては前記トムスク鐵道の一部と、マリンスクを起點とするクラスノヤールスク鐵道、タイシエツト驛（バム鐵道、西部の起點でもある）を起點とする東部シベリ

ヤ鐵道、ペトロフスキーザヴォド驛を起點とするモロトフ名稱鐵道、クセニエフスカヤ驛を起點とするアムール鐵道、アルハラ驛を起點とする極東鐵道がある。これら諸鐵道に於ける輸送貨物は極東向通過貨物のみならず地方的輸送貨物も根本に大量を占めてゐる。ノヴォシビルスク—浦鹽斯德のうち西部では石炭の他にエニセイ方面から木材貨物が輸送され、炭産地たるチエリムホーヴォ以東の區間に於いては主としてチタ迄石炭が輸送されてゐる。またハバロフスクやアムール沿岸からは木材が浦鹽斯德へ發送されてゐる。シベリヤ横斷鐵道の東部幹線はソ聯邦東部の廣大な地域を通つてゐる唯一の鐵道幹線として、その意義は經濟的にも軍事的にも極めて重要である。

ト・モンゴール自治共和國の首都で、東部方面最大の機關車工場を有するウラン・ウデ市及工業都市イルクーツク市を控え、クラスノヤールスク鐵道に比して遙かに多量の貨物を積載してゐる。ヤクイト及レナ重工業地方へ多量の物資を送つてゐるのも此の東部シベリヤ鐵道である。チタ州の一部を貫通してゐるモロトフ名稱鐵道の主要貨物は石炭及木材でその輸送量は餘り大ではないが、同鐵道はソ聯の極東に於けるアムール鐵道及極東鐵道と同様、滿洲國との國境に沿ふて走つてゐることに依つて戰略的な重要性を有してゐると言へる。アムール鐵道は沿線に石炭産地、廣大な森林、製材工場、木材加工工場や農業の發達した地方を有し、極東に於ける工業の發達に關聯して少からざる役割を演じてゐる。附近にブラゴヴェンチエンスク市があり、ハバロフスク地方の一部の鐵道路となつて居る。次は極東鐵道はソ聯極東最大の要港浦鹽斯德を終點とし居り、石炭工業、機械工業造船業並に小ヒンガンの鐵道とブ

レーヤ石炭を基礎とする新興冶金地、輕工業、食料品工業、發達した廣大な農業地を有するハバロフスク地方、沿海地方の重要部分の缺くべからざる輸送経路を形成してゐるばかりでなく、浦鹽は北サガレン、カムチャツカ、オホツク沿岸及北氷河方面との海上運輸の起點として、亦極東に於けるソ聯赤色海軍勢力の根據地として極めて重要な役割を演じてゐる。特にアムール河畔に建設を見た新興工業都市コムソモリスク市へ通ずるウオロチャエフカからの支線も既に完了し、同市の造船工業、機械工業製鐵業などと相俟つて益々重要性を加へつゝあることは注目に値する。

中央アジア地方

カザツクスタンに於ける基本的鐵道は所謂トウルクシブ(トウルケスタン・シベリヤ鐵道の略稱)鐵道が第一次五ヶ年計畫に依つて、先づルゴワヤ―セミパラチンスク間一、四四二杆の建設を完了したことを特筆しなければなるまい。

此の鐵道に依つてシベリヤから中央アジアに對する穀物及木材の輸送を行ふに至つた。一方、中央アジアからは西シベリヤに創設を見た紡績業の基礎たる棉花の輸送に役立つてゐる。而かも本鐵道の建設は從來文化から遠く隔絶された此の地方の相貌を全く一變せしめ、セミパラチンスクには肉類綜合企業及羅紗工場、アルマ・アタには化學工業及煉瓦工場、縫及履物工場、チムケントには大規模の製鉛工場、選炭工場その他多數の工業企業を現出せしめたばかりでなく、ソ聯邦と西部支那(新疆)との輸送ルートを開くに至らしめたことも注目に値しよう。また、本鐵道の建設に依つて、カザツクスタン最大の石炭基地たるカラガンダは、ウラルのマグネトゴルスクに對して重要な石炭供給地となつたし、地元のカザツクスタンに出現したソ聯有数の有色金屬工業に對する燃料基地となつたことも勿論である。

道に西部カザツクスタンを横斷し、沿線には燐灰石の鑛床に恵まれた地方を有し、その西方には新興油田地帯エンバを控えてゐる。

中央アジア諸共和國にはクシケント鐵道及アンハバット鐵道があり、前者はウズベツク共和國の重要輸送路で、同共和國は於ける二大棉花栽培地たるフェルガナ盆地やゼラフシヤン盆地の南部を通つてゐる。サマルカンドの西方のジアシン驛に沿つてクシケント鐵道に接続するアシハバッド鐵道はトウルクメン共和國及ウズベツク共和國の南部を通つてゐる。本鐵道は中央アジアからの出口の一であり、その輸送貨物ばクラスノヴォツクからカスピ海經由でアストラハン迄送られ、同地から更にヴォルガの水運に依つて輸送されてゐる。本鐵道の主要貨物は棉花及石油はカフカーズから海路クラスノヴォツクに送られ、更に本鐵道に依つて當該地方並にシベリヤ、極東地方へ迄も送られる。

貨物輸送

ソ聯邦に於ける鐵道貨物輸送並に旅客輸送の特殊性に就いて言ふと、ソ聯邦では總べてが計畫輸送の方法を執つてゐることである。此の計畫輸送なるものは既に第一次五ヶ年計畫の開始と同時に著手されたと言へ、その後種々の曲折を経て、エル・ユム・カガノヴィツチが交通人民委員に再新任した一九三五年に漸く整備したもので、何よりも貨物輸送第一主義を鐵道運輸の根本原則とし、旅客運輸は少くとも第二義的になつてゐるのである。更らに、その貨物輸送の中でも第一義的の貨物と第二義的の貨物とに區別せられ、全聯邦的意義を有する第一の範疇に屬する物資は、他の如何なるものも犠牲に於いても眞先に輸送するやう定められてゐる。即ち一九三五年三月十五日から實施された現行ソヴィエト聯邦鐵道運送規則の總則の第一條を引用すると、「鐵道は貨物及旅客輸送の國家計畫遂行を以てその本務とす」と書いてあるか、旅客

や一般民需物資よりも先づ、國家的に重要な第一義的な物資を輸送することを原則としてゐるのであつて、右總則の中の第二章第十條に依れば、輸送計畫は二種に大別せられ、第一種に屬するものは交通人民委員部に於いて計畫する國家的意義を有する貨物、第二種に屬するものは各鐵道局に於いて計畫する地方的意義を有するに止まる貨物で、勿論此の中には所謂小運送貨物も含まれてゐるとは言ふものの、何を指しても第一種に屬する範疇の貨物を第一に輸送してゐる。

然らば、第一種に屬する貨物とは如何なるものかといふと、經濟會議の確認を経た石炭、コークス、石油、黑色金屬及屑無屬、泥炭、薪、紡績類、熔接材料、耐火材料、無屬製品及機械、農業機械、トラクター、自動車、化學肥料、木材などで、その他矢張り經濟會議で決定された目錄に従つて、全國家的意義を有する企業に供給される建築材料、セメント、棉花、紙、甜菜、穀物、砂糖、酒精、植物油、ソーダ、食鹽、獸肉、中央配給

用魚類及禽獸、又は同様に經濟會議の定める目錄に記載されてゐる糧秣、亞麻、大麻、工業原料、馬鈴薯及蔬菜並に軍用貨物、大衆需要品、更に交通人民委員部の自家用貨物たる軌條、枕木、金屬、締め金類其他の豫備品、燃料及木材など多數の品目が擧げてある。

第二種に屬する貨物としては第一種に屬さないもので、混合飼料、果物、野菜、豆粕、葡萄酒、糖蜜又は地方的意義を有するに過ぎぬ建築材料及小口貨物で、此の輸送計畫の作成は各鐵道局長自らに當つてゐるのである。而して此の第一及第二の範疇に屬する貨物に對して、車輛配給關係は如何なる割合かといふと、大體に於いて、第一種に屬するものに對する積載車輛は九〇%内外を占め、第二種に屬するそれには僅かに一〇%内外に過ぎなかつたのが普通で、従つて、ソ聯に於いては、重工業關係の物資乃至それに要する原材料、食料品が斷然優位を占め、民需の輸送が之に依つて極度に犠牲にされてゐることが判るのであ

る。

次に貨物輸送の向止振りに就いて略記すれば、嘗て第二次五ヶ年計畫では鐵道運輸に依る貨物輸送量を四億七千五百萬噸にする豫定であつたが、之は一九三六年に遂行され、第二次五ヶ年計畫末年中（一九三七年）に於ける鐵道貨物輸送量は五億一十六百七十萬噸に達し第二次五ヶ年計畫の豫定數字を九%超過遂行したことになる。第三次五ヶ年計畫の期間には更らに輸送數量の飛躍を見る筈であつた、即ち第三次の末年に當る一九四二年には七億七千萬噸の輸送數量で一九三七年に比して四八・三%の増加を豫定し輸送燃料は五、一〇〇億噸料で一九三七年より四三・八%増加を豫定してゐるが、戰時下の影響に依つて之が遂行は疑問視されよう。ソ聯邦の鐵道輸送貨物品目には近來ソ聯が呼號する工業生産の飛躍的増大を反映し、石炭、コークス、石油製品、鑛石、金屬及機械などの重工業用貨物の輸送の割合が最も多くなつてゐる。いま、品目別貨物輸送數量を見る。

と次の通りである。

品目別貨物輸送數量

品目別	年度			單位百萬噸	一九三七年	全量に對する%		
	一九三一年	一九三二年	一九三三年			一九三一年	一九三二年	一九三三年
輸送總數量	一三二・四	一五六・二	二六七・九	五二六・七	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
(内譯)								
石炭及コークス	二六・三	三〇・四	五九・七	二六・五	一九・八	一九・五	二二・二	三三・五
石油及石油製品	五・八	八・七	一七・〇	二四・七	四・四	五・六	六・三	四・八
鑛石	八・〇	七・〇	一三・七	三〇・五	六・〇	四・五	四・七	五・九
機械(トラクター及自動車を含む)	〇・六	一・〇	二・一	三・九	〇・五	〇・六	〇・八	〇・八
黑色金屬	四・六	五・七	一〇・七	二六・二	三・五	三・六	三・九	五・一
建築材料	七・三	一三・七	二六・五	四五・一	五・五	九・〇	九・九	八・七
木材(主要なもの)	一三・二	一七・四	三三・四	四六・九	九・二	一一・一	一二・〇	九・〇
薪	八・六	一二・七	一三・九	一九・三	六・六	八・一	五・二	三・七
鑛物肥料	〇・一	〇・四	一・六	五・〇	〇・一	〇・二	〇・六	一・〇
穀物	一八・三	一五・五	三三・八	二八・九	一三・九	一〇・〇	八・八	七・五
鹽	二・〇	二・三	三・〇	四・一	一・五	一・〇	一・一	〇・八
砂糖	一・九	一・八	一・五	四・〇	一・四	一・三	一・二	〇・八
甜菜	二・五	二・九	三・一	八・九	一・九	一・二	一・三	〇・八
棉花	〇・五	〇・八	〇・八	一・六	〇・四	一・二	一・一	一・七

次にソ聯邦鐵道の貨物輸送の配置を管見すると、革命前のそれに比して非常な變化を示してゐる。即ち革命前に於いてはペテルブルグ、モスクワ及び南露の鑛

業地方に集中されてゐた。然るに兩次の五ヶ年計畫の間に、新たに北部及東部の比重が増加し、遂にウラル及シベリヤの兩地方の比重の如きは優にレニングラード下に匹敵する程に増大し、シベリヤ並に極東地方は兩次の五ヶ年計畫の間の發送貨物は革命前の約三倍、即ちシベリヤは二八五・二%、極東のそれは二八八・九%の増加を示したのである。特にウラル及シベリヤ地方の貨物は當該地方に於ける重工業建設を反映し、石炭、鐵鑛、金屬、木材、穀物が多く極東地方に於ける貨物も亦同様の變化を示し、建設材料品、鑛産品、木材の比重が斷然多くなつてゐる。之に次いで白ロシア、グルヂヤ、アルメニヤ、トウルケスタン、タジクスタン等の邊疆地方の貨物の比重も激増して居り、一方、舊工業諸地方の貨物量は成る程その絶對量に於いては増加を示してゐるが相對的關係に於いては新興地方のそれに及ばないものがある。尙ソ聯邦鐵道貨物の發着貨物の割合を知るために次の表を掲げて置かう。

地方別鐵道貨物發着割合(單位一〇〇・〇%)

全ソ聯	一九三五年	一九三七年	一九三五年
一、北部、西、中央地方合計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
北	二四・四	二四・七	三一・二
レニングラード、カレリヤ	一・三	一・三	〇・五
西	五・三	五・三	七・七
舊工業地方	三・一	三・一	二・五
ゴリキイ、キエロフ州	八・四	八・四	一四・二
中部地帯	二・六	二・六	二・〇
二、ウラル及バシキール自治共和國	三・三	三・三	四・〇
三、沿ヴォルガ地方	八・六	八・九	八・二
四、北カフカイズ及クリミヤ	五・五	五・二	四・五
五、シベリヤ	七・七	七・三	六・六
西シベリヤ	八・三	九・三	七・一
東シベリヤ	六・一	六・一	五・〇
六、極東地方	二・二	二・二	二・一
七、白ロシア	二・四	三・〇	二・八
八、ウクライナ	一・九	一・七	一・八
九、ザカフカイズ諸共和國(グルヂヤ、アルメニヤ、アゼルバシジャン)	三・四	三・四	二・九
十、カザック共和國	二・一	二・四	二・六
十一、キルギズ共和國	一・二	一・二	一・五
十二、ウスベツク共和國	〇・三	〇・二	〇・二
十三、タジツク共和國	〇・六	〇・九	一・三
十四、トウルクメン共和國	〇・七	〇・六	〇・五

旅客輸送

一九三八年に於けるソ聯邦の旅客輸送数は十一億七千七百五十萬であつた。そのうち都市近郊に依るものが九千四百五十萬人であつた。我國の昭和十三年度旅客輸送人員十三億五千七百萬人に比較すると、人口一億七千六百萬人を有する、而かも自ら偉大な鐵道國と稱するソ聯邦の輸送人員としては甚だ少いと思はれるが、茲にもソ聯邦自體の特殊性を反映してゐるやうだ。即ち龐大な數量に上る物資輸送とは正反對に、旅客輸送数は極めて少いことである。しかし、それでも、カガノヴィツチが交通人民委員に復歸した一九三五年以後の旅客輸送の推移を見ると、一九三五年には九億一千九百萬人で、その人料は七百六十億九千萬人料、第二次五ヶ年計畫の最終年に當る一九三七年のそれは十一億四千二百七十萬で、その人料は九百億九千萬人料、一九三八年には前記の通り十一億七千七百五十萬人で、之を人料に直すと九百十億九千

萬人料といふやうに漸落を辿つてゐるのである。

ソ聯邦に於ける旅客運輸の主要列車運轉ルートに於いて見れば、最も重要なものは歐露部ではレニングラード—モスクワ—ハリコフ—ロストフ—ミネラルスイ・ヴオドイ及ハリコフ—セヴァストーポリ間のルートである。旅客列車運轉の密度は、四十以上に達する鐵道間のうちヴオロシロフ鐵道が第一位となつてゐる。レーニン鐵道の一部區間たるモスクワ、リヤザン間には長距離旅客列車が盛んに運轉されて居り、大部分の列車はリヤザン及リヤジスクに於いて東部地方、即ち中央アジヤ、ウラル、バシキール及クイブイシエフ方面へその方向を轉じ、少數の列車はロストフ及ヴオロシロフ鐵道方面に向つてゐる。ヤロスラウリ鐵道を始發驛とする長距離列車は北部及極東方面に向つてゐる。ウラル、シベリヤ、中央アジヤ、ザカフカイズ地方に於いて最も重要な旅客運轉區とされてゐるのはスヴェルドロフスク—ノヴ

オシビリスク—イルクーツク—浦鹽—オムスク、キーネリ—チカロフ（舊オレンブルグ）—タシケント、バクー—トビリシ—バツームなどの線である。尙旅客運輸の改善は一九三六年から同三七年にかけて實行された旅客列車の運轉速度の引上に依つて窺ふことができが、ソ聯邦に於ける主要線に於ける速度を見ると次のやうになつてゐる。

旅客列車運轉速度昂上表（一九三四年に對する一九三七年の比較）

區 間	距 離 (軒)	全區間運轉に要した最短時間		一九三四年に對する一九三七年の速度の%	短 縮 時 間
		一九三四年	一九三七年		
モスクワ—ハリコフ—ロストフ	一、三五八	三二、二八	二六、〇四分	八三	五、二四分
モスクワ—ソチ	一、九八七	四九、三五	四〇、三〇	八一	九、〇五分
モスクワ—ミネラルスイ・ヴオドイ	一、八五一	四二、一一	三五、〇六	八三	六、二三分
モスクワ—トビリシ	三、一五一	七八、二八	七一、二七	九〇	六、五八
モスクワ—キエフ	八六五	二二、四五	一七、四八	七八	四、五七
モスクワ—ミンスク（急行）	七五五	一三、〇三	一一、一八	九五	〇四、五分
モスクワ—ノヴオシビリスク	三、三四〇	七〇、二一	六五、五〇	九四	四、三一
モスクワ—浦鹽斯德（急行）	九、三三二	二二、一八	二二、四五	九七	八、三三
モスクワ—マグニトゴルスク	二、四六七	七〇、〇六	六五、〇五	九三	五、〇一
モスクワ—タシケント	三、三六八	九九、二六	九五、五一	九六	三、三四
モスクワ—アルマ・アタ	四、〇二〇	一一二、〇四	一一一、三六	九一	一〇、二八
モスクワ—サラトフ	八五三	二一、一〇	二〇、二六	九八	〇、四四
レニングラード—ムールマンスク	一、四五〇	三八、一〇	三三、四五	八九	四、二五

ソ聯の列車運轉の速度昂上に關しては、歐米諸國には未だ及ばぬことをソ聯自身も認めてゐるが、將來、アメリカの

鐵道に於ける技術的目標に運行時間の短縮に努めてゐるやうである。而してモスクワ—浦鹽間の所要時間は一三〇時間

乃至一五〇時間、即ち現在の八晝夜半から五晝夜乃至六晝夜に短縮し得るだらうと言つてゐる。事實或る鐵道に於いては

記 號	車軸配置	動輪直徑 (耗)	シリンダ 1直徑 (耗)	ピストン 衝程 (耗)	火床格子 面積 (平方米)	蒸氣壓力 (ペアン)	有火重量 (噸)	固著重量 (噸)	時 (耗時)
エフ・デ	1-5-1	1500	670	470	704	15	1330	1010	85
エス・オ	1-5-0	1310	650	500	600	14	966	876	75
エ・エム	0-6-0	1310	650	500	446	14	850	850	65
イ・エス	1-4-5	1850	600	570	704	15	1340	820	100
エス・ウ	1-3-1	1850	550	500	443	13	860	850	100

既に高速運轉に要する設備を開始して居り、一方、第三次五ヶ年計畫に依れば旅客列車機關車を全面的改良し、強力なイ・エス型(イヨシフ・スターリンの頭文字) 機關車一五〇〇輛及新型客車一、五〇〇輛の製造を豫定してゐる。

機關車・車輛

第二次五ヶ年計畫の年間には鐵道の輪轉材料の強化が行はれたが、特に重點を置いたのは機關車並に貨客車輛の増加、現有機關車の改良であつた。即ち第二次五ヶ年計畫の間に機關車の數は二二%増

加し、加ふるに貨物牽引用機關車中の強馬力の機關車の比重は、一九三四年の初めには〇・三%であつたものが、一九三九年初頭には一五%に増加してゐる。また貨物機關車の構造が質的に改善された結果、その牽引力に於いて三五%方増加した。更らに特筆に値するのは、第二次五ヶ年計畫の間に、極めて高能率的で且つ經濟的な機關車、即ちコンデンサー(凝氣器付) 機關車の製作に成功したことであり、此の新型機關車は現在ソ聯邦の鐵道運輸に於ける貨物牽引用機關車の花形として指導的な役割を演じてゐるこ

とである。此の機關車は從來給水施設に難色のあつた中央アジア及極東方面の諸鐵道に使用して特に顯著な成績を擧げてゐる。強力機關車の比重増加と併行して、舊型機關車の改良も積極的に行はれた。今日、ソ聯邦に於ける貨物列車並旅客列車用機關車の主要型式となつてゐるのは貨物列車用のエフ・デー型、エス・オ1型及エー型、旅客列車用としてイ・エス型エス・ウ型でアメリカ製エー型デカボットを除く總べての機關車はソ聯政權以後に製作されたものである。しかし第

一次五ヶ年計畫時代迄は未だエー型機關車が比較的強力なものとして製作されて居つた。一九三六年に至り之に代つて製作されたのがセルゲイ・オルジョニキンの頭文字を付けたエス・オー型機關車である。同型機關車の構造はエー型に似てゐるが、その牽引力はエー型に比べて三〇%方強力である上にコンデンサーが附いてゐる。即ち之に依つて九〇〇馬力乃至一、〇〇〇馬力の距離を無給水のまゝ走破できる點で、燃料の節約と給水施設に要する物的節約、速力の増加などが可能となるのである。蓋し從來の普通機關車は六〇馬力乃至七〇馬力に給水を必要として居つたものである。我國の如く給水が比較的容易で、主要驛のある大都市間の距離が接近してゐる場合にはコンデンサー附機關車もそれ程に重要性を有さないが、ソ聯邦のやうに大都市間の距離が往々にして非常に離れ、而かも地勢や氣候的條件に四時影響され給水が比較的困難な國に取つては極めて便利且つ經濟的な機關車である。尤も此のコン

デンサー附機關車はソ聯の獨創に依るものではなく、ドイツの車輛會社からソ聯がパテントを買受け、それに更らにソ聯邦鐵道に適應するよう種々改良を加へたもので、之が使用は最初交通人民委員エール・エム・カゴゾイツの主張に依つたものである。極東方面で此の種機關車を最も多く使用してゐるのは極東沿海鐵道であるのを見ても諸鐵道が給水に相當の困難を感じてゐることを想像できる。

さて居り、一九三七年末迄に二、〇〇〇輛製作された。斯様に同型は貨物列車用機關車として重要な役割を果してゐるが、軸重二〇・四噸を有する結果軌條を損傷し易く、殊に二級線以下の脆弱な軌條には使用不可能である。東部地方及極東地方の鐵道では道床及線路狀態の比較的良好な東部シベリヤ鐵道迄は同型の使用を見るが、それより東行するに従つて同型が見られないのは第一原因として線路狀態の不良を指摘できる。ソ聯邦當局の呼號する東部及極東方面の工業建設に對應して、シベリヤ横斷鐵道も今や三級線から二級線に引上げ、道床軌條の改良、驛施設の改善に努めてゐるのも之がためであらう。

旅客列車用機關車としてはイ・エス型及エス・ウ型が現在主體となつて居り、イ・エス型は一九三七年にウオロシロフグラード機關車工場に於いて初めて製造されたもので、ソ聯邦最初の流線型機關車であり試運轉に於いて時速一五〇馬力を出し得ることが判つた。第十八回大會

によれば第三次五ヶ年計畫中に同型を一、五〇〇輛製作する豫定であると言へ、エフ・デ型貨物列車用關車同様に道床、軌條の不良な極東地方諸鐵道には未だ使用されてゐないやうである。

貨客車輛に就いて見ると、第二次五ヶ年計畫中に鐵道に供給された貨車は十七萬八百輛で、その過半数は大型貨車であつた、これら車輛製作の新しい基地としてウラル車輛工場の役割は極めて重要であり、第三次五ヶ年計畫に於いてもウラル車輛工場の占むる位置は大きく貨車の殆んど三五%を製作することになつてゐる。第三次五ヶ年計畫に於いて大量に製作される車輛の型、即ち鐵道運輸の經過上現在最も必要とされてゐるのは十種無蓋車、五十種積ダンブ車、五十種及六十種無蓋車、五十種積有蓋車、三十種積有蓋車などである。一九三八年に製作された特殊車輛としては六十種積の強力なダンブカーと百種積有蓋車であつた。更に一九三九年には八十種、百種、百五十種積運搬車も製作され、無蓋車の一部と

して、第三次中に廣範に利用される豫定となつてゐるコンテナ積込用特殊無蓋車も製造中である。第三次中には液體燃料の輸送増大が豫定されてゐるのに鑑み、従来の二軸タンク車の一掃を目指して新式な大型タンク車の大量生産も豫定されてゐる。

客車の製作は機關車及貨車製作に比べて量的にも質的にも遅れて居つた。而して第二次中に製作された客車は五、二九一輛であつたが、第三次中には二、〇〇〇輛の製作を豫定してゐる。一九二八年に交通人民委員カガノヴツチの命令に依つてレニングラードのエゴロフ名稱車輛工場に於いて六種類の新型客車を設計したが、その根本的課題として四項目を擧げてゐる。即ち(一)旅客に對して最大の便利と快適さと安全性を與へ(二)車輛の自重を軽減し(三)車輛の運用改善及車輛修理を軽減するため最良の條件を作り(四)各種部分品の標準化と各部分品の相互流用性を保證することが之である。斯様な目標の下に車長二十五米、自動連結

器頭間で二十五米六の新型客車が製作されてゐる。客車の換氣装置は現在完全でなく、車室全體に平均に通風が行互らず、夏季には窓を開放するため車室を汚してゐるが、目下製作中の新型車輛は強制通風器と空氣調節器の二種が採用され、室内の照明や裝飾萬端も舊來の客車に比して格段の相異がある。更に、旅客の輸送能力に重大な關係のある座席の問題であるが、新型車輛でその座席数を増大してゐる。例へばネゴレロエ—浦鹽斯德間の急行列車第一、第二列車は從來の編成では寢臺数が二二二であるが、同じ長さの新型車輛の場合では二八八個の寢臺数となり、列車重量に於いて二十種も軽くなつてゐるのに七六個の寢臺が多くなつてゐる。又、モスクワ—セヴ

アストーポリ間の第九、第十列車の如き如き、從來十七輛編成で八五〇種の總重量、四三四の座席であつたが新型車輛を同列車に整へると十四輛編成で總重量七四二種座席數四七六となり四二の座席が増えてゐる。斯様に新型車輛の採用は旅

客に對して便宜と、質的に良好なサーヴィスを與へるばかりでなく、從來ソ聯で第二義的に考へられ等閑に附され勝ちであつた旅客列車運轉の經過指數をも昂め得ることゝなつてゐる。

新線建設

現在ソ聯邦で建設中の新線は、ソ聯邦の經濟的水準を多分に反映するものであるが、これら新線のうちでも、最も重要な且つ大規模な鐵道として注目されてゐるのは、シベリヤ橫斷鐵道のタイシエツトからバイカル湖の北端を経て、極東の新興工業都市、アムール河岸のコムソモリスクに達し、更に東行して太平洋岸のソヴィエト灣に達する所謂バイカル・アムール(バム)鐵道、又は第二シベリヤ橫斷鐵道と稱される線である。此の新線に就いてソ聯側の發表に依ると、同線がブレイヤの石炭産地及コムソモリスク市を経て太平洋岸のソヴィエト港に達し、且つヒンガン鐵礦地コルイマ工業地

方に至る多數の支線と共に極東の天然資源の開發を促進し、ソ聯の國防強化に役立つに至るであらうと言ひ、又目下建設中である此の新線が完成の曉には、マグニトゴルスク及クババスを經由するモスクワから太平洋岸迄の一大幹線を形造るであらうと言つてゐる以外に詳細な發表を避けてゐる。アメリカの資料に依つても、此の新線は沿線の經濟的開發を目標とすることは言ふものゝ多分に軍事的意義を有するものと見てゐるやうだ。成程、バイカルの北方迂回線たる此の沿線には金礦地あり、稀有金屬産地あり、また毛皮、木材、石炭の豊富な産地があり、加ふるに無盡蔵の水力を基礎として水力電氣に依る諸事業の進展も豫想されるが、失張り軍事目的に依る新線、即ち現在のシベリヤ鐵道の有力な補助線と見ることができよう。

次にカザン—ウファ—マグニトゴルスク線であるが、そのうちの三四〇料は既に建設の完了に近づいてゐる、更に所謂南部シベリヤ鐵道の一部たるアク

モリンスク—カルタールイ間八〇六料も既に建設完了したことが報せられた。即ち此の線の開通に依つて中央アジア(カラガンダ)の石炭とマグニトゴルスクの鐵礦が結びついてゐる譯である。而して、此の線は近き將來西方はウファに接続し、東方はアクモリンスクから更にバヴロダール、バルナウルに及び、シベリヤ幹線の前記タイシエツトに於いてバム鐵道に接続することになつて居り、此の南部シベリヤ線が完成すれば、中央アジア及東亞方面への輸送能力が非常に強化されることも想像に難くない。ウラルの鋼鐵と石炭地方に於けるスヴェルドロフスクの北方に位するナデエジンスクから、バム鐵道の通路たるバイカル湖の北部で接続するといふ第三シベリヤ線といふのが計畫されてゐるといふこともアメリカあたりのジャーナリズムが取沙汰してゐるが、いまのところソ聯側の何等具體的な發表がないから判らない。歐露部に於ける新線は先づモスクワとコーカサスとを結ぶもので、もう一つの

新線はウクライナの工業地方とウラルを連絡するものである。更にもう二つの新線がウラルからヴォルガに向ふ筈である。ソ聯の北方圏内は亦今や第三の北方線に依つて横断されてゐると報ぜられる。斯くて一九三九年と一九四〇年の間に完了を見た新線は總計三、五〇〇軒以上で達した發表してゐる。この他にクズバスに於いて新たに發表された鑛石を製鐵工場迄輸送して、従来ウラルから二千軒の距離を輸送してゐたのを節約し得る地方線も加へられる。同じ地方にもう一つの短距離の新線が木材資源を基礎として製材や建設事業に設立つてゐるやうだし、カラガンダ—バルハン線四八〇軒はバルハン湖畔の大規模の製鐵工場に専らカラガンダ炭の供給線であり、またウラル・クズバス地方の工業へ其の銅を直接供給し得る輸送路として重要な役割を演じてゐる。リツデル—ルブツォフカ線は亦、非鐵金屬工業との關聯を有する重要な鐵道とされてゐる。右の他、ブリヤート・モンゴールの中央を通つて外蒙

古國境に達する鐵道、カスピ海の北方の新油田地帯の開港に役立つ新線などがある。フィンランドに通ずる二線はスカンデナヴィヤ半島に對する輸送として計畫したものであるが獨ソ戰の現段階に於いては最早や利用價值があるまい。尙獨ソ戰勃發以來、シベリヤ經由で歸朝した多くの人々の報告に依ると、シベリヤ鐵道は未だ單線だと言つてゐるやうだが、ソ聯側の發表によるも、アメリカの資料に依るも複線完成を傳へてゐる。因みにソ聯邦では第三次五ヶ年計畫中に新線建設並に複線建設一九、〇〇〇軒に對する準備として八、〇〇〇軒の強力機關車、一五〇〇〇輛の客車、二二五、〇〇〇輛の貨車を製作中であるといふが、實績の程は未だ詳かでない。

自動車運輸

兩次の五ヶ年計畫の間に、ソ聯邦の自動車運輸は國民經濟の大きな部門の一つに發展した。革命當時迄の帝政ロシアには八、八〇〇臺の自動車があつたに過ぎず、それも總べて輸入品であつたが、ソ聯政權になるや國內に自動車工業の確立を見、既に第一次五ヶ年計畫の年間に五七、〇〇〇臺の自動車を保有するに至つた、即ち第一次五ヶ年計畫初年度に於ける總數の三・五倍に相當したのであつた。然るに第二次五ヶ年計畫に於いては、第一次の年間に製作された臺數の殆んど十倍に増加したのである。その結果としてソ聯邦の廣大な領域の凡ゆる隅々にも自動車が行互るやうになり、自動車運輸による貨物取扱數も第二次五ヶ年計畫の年間に一九三二年の十億七千萬噸から、第二次の末年に當る一九三七年の八十七億噸に増大したのである。自動車運輸の特長は近距離輸送を敏活に行ふに在り、都市及村落に於いては小運送的

役割を果し、即ちソ聯の都市に於ては工業、商業並に公共事業に對する輸送任務を遂行し、地方農山漁村に於いてはソフホーズ、コルホーズ並に協同組合や村落相互間の輸送に任じてゐる。殊にヤクト及コルイマ地方の金鑛地、タジクスタンやその他コーカサス地方の如き他の運輸形態の餘り發達してゐない地方に於ける自動車運輸の役割は大きい。自動車運輸が小口貨物の取扱に於いて鐵道運輸の負擔を軽減し得ることも當然であつて、例へばモスクワ—ウーゼル管區をみても自動車運輸によつて、一ヶ年に百萬噸以上の近距離貨物を輸送し、その結果龐大な數に上る貨車を節約してゐる。斯様にソ聯では比較的短期間に發達した運輸形態にも拘らず自動車による貨物の總輸送量の増加率は著しく、既に、一九三二年の一億一千三百萬噸に對して一九三七年には約八億噸に達したのである。第三次五ヶ年計畫に關する第十八回黨大會に於けるモロトフの試みた演説でも、自動車幹線道路、都市及鐵道驛、水路向貨物

物の輻輳する道路には自動車運輸を定期的に組織し……自動車運輸を來るべき五ヶ年間に四・六倍に増加すること——と言ひ、また、交通運輸の最も重大な問題は、凡ゆる方法に依つて貨物取扱計畫を調整し、遠距離輸送、交錯輸送乃至は非合理的輸送を清算する目的を以て、國家の貨物を取扱ふ上に於いて、水上運輸と自動車運輸の比重を昂めること——と言つて居り、同時に自動車による旅客運輸の急速な増大をも促してゐる。蓋し、ソ聯邦の自動車工業は今や國家の全體的な工業化の指標となつてゐるばかりでなく、それによる主要な運輸形態としての自動車運輸が産業、商品取引、農業の上 に於いて、亦國防上に於ても極めて重要な役割を演じてゐるからである。

それでは、自動車運輸の基礎となるソ聯自動車工業の發展過程に就いて見ると、第二次五ヶ年計畫の年間に製作された自動車數は、一九三二年末、即ち第一次五ヶ年計畫末のスターリン自動車工場及モロトフ自動車工場の操業開始當時に

比較すると著しい増加率を示し、一九三九年現在自動車保有臺數七十七萬臺となつて居り、更らにヤロスラウリ自動車工場の三工場の改良並に擴張に依つて、第三次五ヶ年計畫の最終年度たる一九四二年の年産四十萬臺を目標としたのであつた。即ち第二次の末年には二十萬臺の自動車を製作してゐるから、第三次末年にはその二倍の生産増加を目ざしてゐる譯で、之がためにオムスク及ロストフに於いて組立工場の建設にも着手したのである。このことはやはり第十八回黨大會に於いてモロトフが「ゴリキイ及モスクワの自動車工場の擴張工事を終り、小型自動車工場を建設し、組立工場を新たに極東方面にも建設すると同時に、シベリヤに貨物自動車の新工場を建設し、さらに多くの部分品工業と自動車修理工場を擴充する」と言つてゐるのを見ても自動車運輸並に自動車工業に對するソ聯國民經濟の要求の重要性が窺はれる。

次に輸送量に重大な關係ある積載量に就いては、できるだけ貨物を多く積載し

得る、而かも燃料の經濟的な高速度を出し得る新型貨物自動車的大量生産を目標としてゐる。例へばモスクワのスターリン名稱自動車工場に於いてはジース・五型（三廝積）貨物自動車改良された。更らに同工場に於いて、第二次五ヶ年計畫中に「ジース型」貨物自動車を基礎として「ジース・一五型」貨物自動車の製作を行つてゐる。同型貨物自動車には燃料を節約し而かも馬力を大ならしめる優秀なエンジンが装備され、舗装道路に於いては五廝迄の貨物を積載することができ、末舗装道路上でも三・五廝の貨物を積載し得ると言つてゐるが實際問題として何うか、専門家の検討を要するだらう。また、同型を製作する工場で四十人の座席を有する箱型バスも製作されてゐる。此の種のバスは大都市に於ける旅客輸送用のもので、從來製作されて居つた「ジースハ型」バスを改良したのである。一方、ゴリキイ市のモロトフ自動車工場に於いては「ガアズ一—四一型」のピカブ式小型自動車を製作してゐる。

同型は金屬製箱型と無蓋プラットフォーム型半貨物自動車の二種で、操縦者以外に四百疋の貨物、搭乗者ならば六人迄運搬できるもので既に一九三九年以來之を製作してゐる。次に第三次五ヶ年計畫に於ける自動車運輸並に自動車工業の課題として注目されてゐるのはガス・ゼネレーター付自動車の製作である。之は各種固形燃料に依つて作動する自動車で、やはり第十八回黨大會の席上、モロトフが「木材調達用の全自動車にガス・ゼネレーターを取付け、同様に農作用トラクターの大部分と一般の自動車にもガス・ゼネレーターを取付けよ」と演説してゐる程で、一九四〇年の計畫では、モスクワ及ゴリキイの兩自動車工場に於いて二萬臺のガス・ゼネレーター付自動車が製作される筈であつた。要するに此の種自動車は石炭、木炭、泥炭（煉炭）、薪、藁、煉炭などを燃料として走る完全なガス・ゼネレーター付自動車で、これが爲めにモスクワにある自動車・トラクター科學研究所構内に、ゴリキイ自動車工

場並にスターリン自動車工場附屬のガス・ゼネレーター専門も設けられた。而して、現在製作されてゐるガス・ゼネレーターは自動車は「ジース・二一型」及「ガアズ・四二型」で何れも薪を燃料とする自動車である。次に第三次五ヶ年計畫に於いて、自動車運輸にディーゼル・エンジンを廣範に採り入れることが豫定されてゐるが、現在ソ聯に於ける自動車用ディーゼル・エンジンの燃料としてベンゼン類が斷然多く使用されて居り、自動車運輸の廣派なディーゼル化の目的が輕液體燃料の節約にあるのに、當然原油を燃料とするディーゼル・モーターの普及發展を見なければならぬ筈であるが、未だその目的を達成する域に達してゐないやうであるが、計畫に依れば、モスクワのスターリン自動車工場に於いて製作された最初のモデル（デ・七型）ディーゼル發動機は既に一九四〇年から新型貨物自動車用として繼續的に製作されてゐる筈であるが、未だその成果に詳かでない。また、輕自動車の製作は鐵道に於け

る旅客運輸と同様第二義的なものであるが、ソ聯が近年誇示してゐる勤勞階級の物質的・文化的生活水準の向上を標榜してゐる關係上、外觀にも意を用ゐてゐるやうだ。例へばモスクワのスターリン自動車工場に於いてはジース・一〇一型よりも優秀な構造の最新型リムーデンが一九四〇年から製作される筈であつたし、新しい中型輕自動車はゴリキイ市のモロトフ名稱自動車工場で製作されてゐる、即ちガアズ・一一—四〇型フェートン（帆型）車で黨及政府の承認を経た經濟的な六氣筒エンジンを有し、水壓式（オイル式）緩衝器を備へた作動の完全なブレーキ等及其他構造上に於いて多くの特長を有し時速一二〇軒を出し得る乗用車も計畫によれば一九四〇年から製作が開始されてゐる筈である。

以上はソ聯邦の資料を基礎とした自動車運輸に關する若干の紹介であるが、自動車國アメリカ合衆國の資料によると大體次のやうに言つてゐる。即ちソ聯邦の一九三七年に於ける自動車運輸による貨物取扱數（廝軒數）は、全貨物取扱數量の僅かに二%に過ぎなかつた。一九三九年の春迄は未だ自動車運輸人民委員部が無く、従つて自動車運輸は極度に不振の狀況に在つた。一方、質的に可成り優秀な貨物自動車の製作數はアメリカに次ぐのであるが、運轉手の養成機關も區々で統一を缺いたものがあるだけであつた。また其の訓練の方法も劣悪で期間が而も長くかかり、運轉手試験にパスする生徒の割合は僅かに五〇%乃至七〇%であつた。いまや、七五〇臺の割合でベルトラインを離れる自動車製作數になつてゐるに拘らず、自動車學校には舊式な設備とテキストがあるだけで、新型自動車をうまく操縦し得るものは少く、第一級の運轉手の如きは運轉手數全體の三%に過ぎず、第二級の者が一一%、その残りが第三級の運轉手であるとソ聯當局も告白してゐる。更らに豫備の部分品及工具の生産は計畫の半ばに達してゐるに過ぎず、修理設備も名ばかりで實質的には見るべきものがないと稱してゐる。之は些かソ

聯の自動車並に自動工業に對して酷評に過ぎるやうにも思はれるが、勿論當局が誇示する程に實質的に量質共に優れてゐるか何うか今後の検討に俟つべきであらう。

尙、自動車運輸には道路の新建設と現存道路の維持改良が不可欠な要素であることは勿論であるが、第一次及第二次五ヶ年計畫の間にソ聯邦に於いて建設された道路を示すと次表の通りである。

兩次の五ヶ年計畫の年間に於ける道路建設狀況(單千軒)

道路別	年次				
	一九一三年	一九二八年	一九三三年	一九三八年	道別
自然土道					一九一三年
改良土道					一九二八年
砂利道路					一九三三年
碎石道路					一九三八年
鋪装道路					道別
					年次
					一九一三年
					一九二八年
					一九三三年
					一九三八年
					道別
					年次
					一九一三年
					一九二八年
					一九三三年
					一九三八年

註一、註二、概數を示す。

水運

概観

ソ聯邦に於いて、鐵道運輸に次ぐ重要運輸形態は水路による所謂「水運」である。しかも、この水運はソ聯邦の國民經濟に對して芳しからざる影響を與へてゐる弱點と見做される。例へば一九一三年には鐵道運輸による貨物の三分の一以上が水運によつて輸送されたのであつたが、一九三七年には鐵道による貨物の六の一に相當する貨物が水運によつて輸送

されたに過ぎず、計畫の半分を少し超えただけであつた。従つて、鐵道運輸の方は國家に對して相當の収益を擧げてゐる時に、水運は絶えず缺損續きといふ有様で、一九三九年に至つても之が改まらず、十八億四千萬留を支出したのに對し、その収入は十六億七千萬留に過ぎず明らか赤字を出してゐるのである。昨年(一九四一年)二月十五日の第十八回黨代表者會議に於いて行はれたソ聯共產黨書記エム・マレンコフの演説の中でも、「海上及河川運輸に於いては特に鑛石、石油、穀物、鹽、木材、石炭、セメ

ントの如き重要物資の輸送計畫は未遂行である。多數の船腹、輪轉材料が放置されて居り、一方、滯貨が大量に達してゐることは停車場、港灣及ドックの密接な聯繫の缺如を裏書してゐるものだといふ意味のことを言つてゐる位である。しかし、水運の貨物取扱數に關しては、ニコライ・ヴォズネセンスキーの第十八回黨會議に於ける報告によると、一九四〇年には一九三八年に比して河川運輸は一・八増、近海沿岸運輸の方は一・五・一増といふことになつてゐる。それでは一九三二年以降同三八年迄の水運(河川、海上)に依る貨物取扱數は何うなつてゐるかといふと次の通りである。

- 一九三三年.....五〇二億噸
- 一九三四年.....六六五億噸
- 一九三五年.....六八三億噸
- 一九三六年.....七二三億噸
- 一九三七年.....七〇一億噸
- 一九三八年.....六六〇億噸

成績は甚だ悪く一九三六年度、三七年に比して劣つてゐるばかりでなく、一九三五年のそれにも及ばないのを見れば一九四〇年に於ける僅かの成績昂上も問題にする程のものではないと言へるだらう。昨年二月十八日に行はれたエヌ・ア・ヴォズネセンスキーの報告によれば河川運輸に依る一九四一年の貨物取扱數は四六三億噸で一九四〇年の二八%増しの計畫となつてゐる。從來水運不振の原因に就いて種々非難されてゐるが、ソ聯當局に言はせると「技術的資材の増加や發展の好條件が具備してゐるにも拘らず水運はここ數年間國家計畫を遂行せず、國民經濟の發展テンポを阻害してゐるが、之は當該人民委員部内に於ける有害分子の仕業である」と言ひ、また投資、建設、船舶の修繕及運行、水路の經營などに於ける有害分子の妨礙に就いて列擧してゐる。尤も水運の不振がソ聯當局の指摘する如く有害分子の所爲であるか何うかは暫く措き、たしかに成績が悪いといふことは事實であつた。

元來、ソ聯邦の水運、特に海上運輸は、ソ聯以外の海洋國である列國に比較すると、その規模は甚だしく小さい、之は一面國內の産業充實と國防強化を第一義として、外國との貿易の發展に然かく努力できない特殊の國情をも反映してゐるとも言ひ得る。然るに、國內水路、即ち湖沼をも含む河川交通網の總延長は實に三十二萬軒に達し、そのうち船舶の可航水路十一萬軒で、ドイツ、フランス、イギリス、和蘭、伊太利、白耳義、アメリカ合衆の國內水路を合したもののよりも更に大きいと言はれてゐるのである。水路の延長は右のやうに列國と比較にならぬ程に大きいのであるが、實際問題として、ソ聯邦の國內水路の經濟的價値は何うかといふに、冬になると凍結して航行不能となり、夏季には乾燥し過ぎて矢張り航行困難に陥る場所が多い、つまり多分に季節的惡條件に制約され、大體に於いて一ヶ年の國內水路航行期は四月から十一月迄で、しかも、此のうち實際に活動し得る期間は六、七、八、九の四ヶ

月で、その他の月である四、五、十、十一月は通算して約一ヶ月半乃至二ヶ月間の能率を擧げ得るに過ぎないので、結局一ヶ月のうち大體六ヶ月がその活動期とされてゐる。加ふるにソ聯當局は水運の立運れはその指導宜ろしきを得ないことに歸してゐるのである。河川運輸人民委員の如きは一九三九年の航行開始期に於いて約五〇%の船舶が未修繕のため使用に堪えないことを報告してゐる。故に假令一九三九年の貨物取扱数が未曾有の最高成績を擧げたとは言へ、シベリヤに於ける諸河川を除いては猶ほ計畫を遂行した譯ではなかつた。因みにシベリヤに於ける河川で一九三九年に取扱つた貨物はソ聯全土の諸河川の取扱貨物数の十分の一に過ぎなかつたことをつけ加へて置かう。

河川運輸

ソ聯邦位國內に大小無数の河川及沼湖に恵まれた國は無い。勿論、河川の延長に於いても世界第一位を占め、主要な大

河川の延長を見ても次の通りである。
ソ聯邦の主要河川の延長(單位浬)——
支流を含まず——

(河川名)	(浬程)
ヴォルガ	三、六九五
カマ	二、〇〇九
オカ	一、五二〇
ドネーブル	一、二八三
ド	一、九八五
ペチヨール	一、八四一
北ドヴィナ(スホーナを含む)	一、二五三
ウラル	二、四四三
ク	一、三〇二
オビ	三、二九五
イルトイシ	三、五〇二
エニセイ	三、六一九
レナ	四、四二八
アムール	二、九四六
コルイマ	一、五八五
インヂギルカ	一、四三三
アム・ダリヤ	二、三五一
スイル・ダリヤ	二、六八四
右のうちヴォルガ、北ドヴィナ、カマ	

及シベリヤの諸河川の如き長大な水路幹線に恵まれた地方に於いては水運が最も重要な意義を有し、北部及東部に於ける多くの地方では河川運輸が基礎的な運輸形態を成してゐるばかりでなく、むしろ唯一の輸送機關とさへなつてゐる。また、北部地方、レングラード州、カレリヤ自治共和國、イワノヴォ州、ゴリキイ州、バンキール自治共和國及沿ヴォルガ下流地方、東部シベリヤ其他の地方に於いても河川に依る物資の輸送比重が相當に高くなつてゐる。また中央地方、ドンバス、クリヴォイログなどの如く、鐵道網は極度に發達してゐるが巨大な河川に恵まれない地方に於ける小河川でも地方運輸の重要輸送路としての役割を演じてゐる。

河川に依る輸送貨物のうち最も多いのは木材であり、シベリヤに於ける諸河川、特にオビ、エニセイの木材輸送は近年激増の一送を辿つてゐる。流送に依る木材輸送量を計算に入れずとも、自己推進船に依る輸送量は全河川の貨物輸送量

の四〇%を占めてゐるのである。その他工業化の進展と併行して石油、石炭、穀物類、未加工金屬及金屬製品、建築材料、鹽の如き重要にして且つ大量の物資も河川に依つて盛んに輸送されつゝある。殊に石油の河川輸送の代表的な例としては、ヴォルガの水路により北方へ輸送されてゐる石油の激増である。ドンバス石炭の河川による輸送も北方への石炭供給に關聯して重要な役目を果してゐる。即ちドンバス炭は一旦ヴォルガ及ドネーブル迄鐵道で輸送され、同地から河川運輸に依つて上流地方へ輸送されて居り、一九三七年に於けるヴォルガ河による石炭輸送量は六十一萬五千噸に達した。

吾々はソ聯邦歐露部に於ける河川運輸に對するよりも自然、北氷洋及太平洋に注ぐ河川に關心をより多くもつが、オビ、エニセイ、レナの諸河川、その他タズ、ビヤシナ、オレラク、ヤナ、インヂギルカ、コルイマ等の大河は何れも鐵道網を有しない子午線の方に流れてゐる。

これらの河川は從つて北方海路とシベリヤ内部との低廉な輸送路を形成してゐることで重要視されてゐる。西方から東方へ流れてゐるアムール河は極東地方内部と太平洋岸との交通路として重要性を有し、特にその下流の水深が極めて深く、物資輸送路としてばかりでなく、極東ソ聯の軍事的な觀點からするも大なる意義をもつてゐるのである。

次に河川による貨物輸送量は當該地方に於ける産業の發達に左右されることは鐵道運輸の場合と變りはない。例へばソ聯邦最近の傾向たる産業の東部移動を直

河 名 川	一九二九年		一九三七年		一九二九年に對する一九三七年の
	單位千噸	全體に對する比率%	單位千噸	全體に對する比率%	
ヴォルガ、カマ、オカ	一三、一〇〇	五六・九	三二、四四五	四四・〇	二四〇
西 北 諸 河 川	三、八六七	一六・九	一〇、四六一	一五・三	二七〇
北 部 諸 河 川	二、九六四	一二・八	一、〇四六	一七・五	三三〇
ドネーブル、河川	一、五六一	六・九	六、七九五	一〇・〇	四三三
ク	六・五	〇・三	六・三	〇・一	九七二
西部アツヤ諸河川	六・五	〇・三	六・三	〇・一	九七二
オビ、イルトイシ、エニセイ	六、三〇一	二六・六	三、九七〇	五・八	三七〇

次に水路網施設に就いて若干述べる
と、鐵道のそれには及ばないが、兎も角
も兩次の五ヶ年計畫の間に大建設工事を
行ひ水路の擴張に努めたことが判る。例
へばドネーブル、スターリン名稱白海・
バルチック運河、モスクワ・ヴォルガ運
河に連なるドネーブルのダムが建設され
たのを初めとして、近き將來に於いては
ヴォルガのダムを建設し、また更らにヴ
オルガ・ドン運河の建設も計畫されて居
り、これら大規模の水工學的工事の完成
に依つてはソ聯歐露部の水路が單一化さ
れ、ソ聯各地方間の貨物輸送が河川運輸
に依つてその老大な量を輸送し得ること
となるといふのがソ聯一流の計畫である
が、戦争による客觀情勢の影響は或ひは
これをペーパー・プランだけに終らせる
かも知れない。

河川船隊の再建といふことも兩次の五
ヶ年計畫によつて着々實行され、事實今
日に於いては一、二〇〇馬力を有する船
やディーゼル曳船、ディーゼル傳馬船、
一、二、〇〇〇噸の石油を積載し得る傳馬

東部シベリヤの諸河川（レ
ナを除く）

レナ	10天	0.2	200	1.0	500
アムール	11天	0.11	100	0.3	500
計	22天	0.31	300	1.3	1000

船、小型客船及浚渫船ができてゐる。モ
スクワ・ヴォルガ運河に現に使用されてゐ
る船隊の中には七〇〇馬力の馬力を有し
る船、近距離用小型ディーゼル客船（座
席三〇〇個及一五〇個）、蒸氣曳船、ガ
スゼネレーター附曳船などが多數建造さ
れた。なほ第三次五ヶ年計畫に於いては
河川船隊の規格統一及標準化を行ふこと
が要望され、現に河川運輸に對する最新
技術に依る完備せる船舶が使用されてゐ
る。特に燃料節約を目的とするガスゼネ
レーター附曳船の建造が強化されてゐる
ことは注目に値する。

河川主要水路

昔からロシアの母と言はれてゐるヴォ

對する輸送路となつてゐる。以て如何に
ヴォルガがソ聯の水路大動脈として重要
な役割を演じてゐるか判るのである。

ヴォルガ、オカ及カマ河によつて一九
三七年度に輸送された木材は千三百六十
五萬二千噸、石油は六百九十八萬一千
噸、穀物五十八萬二千噸が輸送された。
次に一九三七年に開通したモスクワ—
ヴォルガ運河は延長一二七浬水深五・五
米を有しその經濟意義は大きい。此の運
河には一二四米の記號を有するイワニコ
ヴォ堰堤の上流水溝から一六二米の記號
を有する第六水門及第七水門間の分水界
を經由し、モスクハ河のカラムイシエフ
ン堰堤迄の間に水門が六個あり、運河の
各地點に於ける落水は一億六千七百萬キ
ロワット時の電力を供給する總出力六萬
五千キロワットの水力發電装置に利用さ
れてゐるのである。此の運河の開通に依
りモスクワは壯大な河川港に變つたが、
更に之に依つてモスクワとヴォルガ流域
とが連絡されてゐるのである。第三次五

ヶ年計畫によると引續きヴォルガ—バ
ルチック水路の工事を進める筈であつた
が目下の狀況では之が完成も覺束かな
い。

北部地方の重要水路は北ドヴィナ河を
主體として木材輸送を大々的に行つてゐ
る。北ドヴィナの流域はスホナ、北ドヴ
イナ運河及シエクスナを経てヴォルガ流
域とマリススキー水系とを結んでゐる。
右の諸河川は總べて白海とバルチック海
とに連絡されてゐる。白海—バルチッ
ク運河は一九三一年から同一九三三年迄
の極めて短期間に建設された。即ちこの
運河は白海とバルチック海を連絡する最
短直線水路を成し、ネヴァ河、ラドガ
湖、スウイル河、オネガ湖を繋いで北部
地方に於ける運輸に大なる經濟的意義を
齎らしてゐるのである。

ソ聯西南部の水路輸送に重要な役割を
演じてゐるのはドネーブル河で、木材、
穀物、石油、石炭などの大量貨物が輸送
されてゐる。殊にヘルソン經由で上流地
方へ輸送される石油製品は老大な量に上

り、一九三五年度に既に一億六百萬噸に
達した。しかし、何と云つてもドネーブ
ルの經濟的意義はドネーブル水力發電所
の建設後に於いて倍加されたと見るべき
であらう。即ちソ聯邦水工學的綜合的解
決に依つて、巨大な水力發電所に要する
水堰の建設と共にドネーブル河に依る直
通航行を實現し、電力の利用に依り沿岸
地方の灌漑に劃期的な成功を収めるに至
つた。

シベリヤ及極東に於ける基本的水路
は、ソ聯政權以來の懸案たる生産力の東
部移動に關聯して益々その重要性を加へ
つゝあり、その主要河川たるオビ、イル
トイシ、エニセイ、レナ、アムールの諸
河川はシベリヤ横斷鐵道幹線から北方の
廣大な地域に取つて重要な經濟的意義を
有すると共に、軍略的にも相當の役割が
演ぜられるものと見てもよからう。

鐵道に依る輸送路から遠く離れた處を
通つてゐる是等河川の上流はシベリヤ横
斷線から南方にも貫き、更らに國境をも
横斷してゐる。シベリヤの諸大河の特長

次に水路網施設に就いて若干述べる
と、鐵道のそれには及ばないが、兎も角
も兩次の五ヶ年計畫の間に大建設工事を
行ひ水路の擴張に努めたことが判る。例
へばドネーブル、スターリン名稱白海・
バルチック運河、モスクワ・ヴォルガ運
河に連なるドネーブルのダムが建設され
たのを初めとして、近き將來に於いては
ヴォルガのダムを建設し、また更らにヴ
オルガ・ドン運河の建設も計畫されて居
り、これら大規模の水工學的工事の完成
に依つてはソ聯歐露部の水路が單一化さ
れ、ソ聯各地方間の貨物輸送が河川運輸
に依つてその老大な量を輸送し得ること
となるといふのがソ聯一流の計畫である
が、戦争による客觀情勢の影響は或ひは
これをペーパー・プランだけに終らせる
かも知れない。

河川船隊の再建といふことも兩次の五
ヶ年計畫によつて着々實行され、事實今
日に於いては一、二〇〇馬力を有する船
やディーゼル曳船、ディーゼル傳馬船、
一、二、〇〇〇噸の石油を積載し得る傳馬

東部シベリヤの諸河川（レ
ナを除く）

レナ	10天	0.2	200	1.0	500
アムール	11天	0.11	100	0.3	500
計	22天	0.31	300	1.3	1000

ルガはソ聯邦歐露部に於ける最も巨大な
基本的水路動脈を成してゐる。而してそ
の水源地より河口迄の延長は三、六九四
浬、そのうち可航區間は三、三六五浬、
同河の全支流を含む總延長は實に七八四
〇〇浬に達し、可航區間は一七、六〇〇
浬となつてゐる。その流域にはモスクワ
州、ヤロスラウリ州、イワノウオ州、ゴ
ーリキイ州、クイブイシエフ州、サラト
フ州、スターリンゲラード州、ペルミ
州、スヴェルドロフスク州、バシキール
共和國、カタル共和国、チュバシ共
和國、マリイ共和国、ウドムルト共和国
及その他の共和国や多くの州があり、ま
たその本流及支流は中央地方やウラル
の、工業地、北部の木材産地を流れ實に
歐露部からウラルに互る廣範圍の地域に

としては、アムール河を除く川は何れも子午線に沿って北方へ流れ、遂に北洋に注いで居ることである。しかし、これに諸河川は物資輸送路としてその利用が充分でなく、ソ聯邦の極東開發と相俟つてその機能發揮は寧ろ今後にあると思はれる。オビ河はその支流たるイルトイン河を併せて五、二〇六粒の大河に、オビ河本流では木材の輸送が最も多く、下流のノイヴィポルト迄輸送される。而して其の上流ではビスクの農業地方からノヴォシビルスクへ穀物類が大量に輸送され、その復路に於いてはクズバスの石炭が輸送されてゐる。エニセイ河の主要貨物も矢張木材であり、下流イガルカに新設された大規模の製材工場迄筏や傳馬船で輸送され、汽船の定期航行はミヌシンスクからドウドインカ迄の二、八六五粒である。

ヤクート自治共和国内の運輸のために重要な意義を有してゐるレナ河は附近に金産地を控えてゐることに有名だ。最近その採取量を増大しつゝあるコルイマの

産金地方の輸送數としてコルイマ河に對する施設が著しく改善されると共にハタング、インデギルカなどの諸河川も盛んに輸送水路として利用されてゐる。最後に極東に於けるアムール河の意義は益々重要性を加へてゐる。殊にアムール河には支流が多くその流域は極東に於いて最も人口稠密であるといふことである。ブレーヤ地方の石炭、ゼーヤ河、セレムシヤ河附近の金産地帯、アムール沿岸に於ける新興工業都市コムソモリスクなど經濟的に見て意義があるばかりでなく極東赤軍の重要な交通路としても大なる役割を演ずるだらう。

海上運輸

概 観

ソ聯に於ける海上運輸の特長は、多くの海港が不凍港で一年中利用できること國の特殊性を反映して國外輸送即ち遠洋航路に依る海上輸送貨物の量が、國內輸送即ち遠海航路及近海航路に依る貨物量

よりも少いことなどであらう。しかし、外國貿易に占むる海上輸送の比重は依然として第一義的意義をもつてゐるし、またソ聯邦内の各地方間の交通機關として、その輸送費は最も低廉であることに依つて之が利用が年々増大してゐる。一九三五年に於いて、海上運輸による輸送貨物總數量は四千六百萬噸であつたが、そのうち遠洋航路に依るものは全體の四二%、國內輸送即ち遠海航路及近海航路に依るものが五八%であつた。而して、兩次の五ヶ年計畫の間に海上輸送貨物の品目が變化した。即ち第一次五ヶ年計畫では工業化の必要から未加工金屬、金屬製品及機械類の輸入が激増したが、第二次五ヶ年計畫では大規模の冶金及機械製造工業の發展、工作機械、自動車、トラック、飛行機、發動機その他の生産が異常の發達を示した結果、金屬及機械の輸入は極度に減少し、反對にこれらの貨物が海外に輸出されるやうになつた。特に第二次五ヶ年計畫後に於いて海上運輸に依る輸出貨物で激増を示したのは石油

製品及木材で、その他燐灰石及苛性ソーダの輸出も増大してゐる。

國內輸送、即ち近海航路に依るものは石油、石炭、建築材料、穀物などが黒海及アゾフ海の諸港間で行はれ、石油を最も多量に取扱つてゐるのはカスピ海の諸港である。バルチック海及黒海の諸港間並ソ聯邦歐露部の諸港と極東ソ聯に於

ける港灣との遠海航路に依る國內輸送も、生産力配置の著しき變化に伴ひ盛んに行はれてゐる。北部地方、東部地方、白海、バレンツオヅナ、太平洋岸の港灣に取扱ふ海上貨物輸送も著しく増加し、増加を示したソ聯邦海上商船隊は海上輸送の三分の二以上を輸送してゐるが、その輸送量を示すと次の通りである。

海上商船隊に依る海上輸送量(單位千噸)

	一九二九年	一九三二年	一九三五年	一九三六年
近海航路	七、三五七	一一、九六六	二〇、〇五七	三三、九六一
遠海航路	一一九	四二五	一一三	四三
輸 入	五八	七六九	三、八三四	四、三九九
輸 出	七四〇	八七四	七九	八三七
外國諸港との間の貿易	一〇五	六六	六四	六九三
計	八、八三九	一四、八二〇	二五、三五五	三六、九三五

海上船舶と海港

ソ聯邦に於ける海洋船隊の保有してゐる船舶の總噸數は一九三七年現在で百二

十五萬噸で、一九一三年の水準を遙かに超過してゐるばかりでなく、第一次五ヶ年計畫當初(一九二九年)に於ける水準の三倍以上となつた。而して海洋船隊の

船舶は最新の技術に依つて裝備が施され、標準化と規格化に依つて統一された冷凍船、油送船、木林輸送船などの比重が多く、又ディーゼル船の比重も増加してゐる。ソ聯の宣傳によれば、ディーゼル船の比重は世界第一位であると言つてゐる。兎に角、近年造船工業の擴充強化により、新船の建造が強化されてゐることは事實である。特殊船のうちで注目しているのは普通の曳船、浚渫船の他に北洋航路に於いて大なる役割を演じてゐる砕氷であつて最も近年に建造された砕氷の中には一百噸級の最優秀船「ヨシフ・スターリン」號や「ラザリ・カガノヴィツチ」號などがある。兩船共にソ聯御自慢の北氷洋開發との關聯に於いて世界注視の船であつたが、現に行はれつゝある戰爭に於いては恐らく火砲を搭載して準軍艦の任務に服してゐると想像し得られる。第三次五ヶ年計畫によれば、海洋船隊に對して更に完全優秀な型の船舶の補給が豫定されてゐる。

次に海港に就いて見ると、兩次の五ヶ

年計畫の間に從來の海港に對する修築工事に加ふるに、新港の建設が積極的に行はれ、事實、之に對して巨額の資本が投下された。即ち一九三一年から一九三五年に至る間に新港建設並に一港の再建修築に費やされた金額は二億留に上つてゐる。一九〇〇から同一九一四年の間に帝政ロシアが新建設並に改良に投じた金額は僅かに三千三百萬留であつたのを見れば思ひ半ばに過ぎるものがある。

ソ聯邦の全海上貨物輸送量の約十分の一は白海及バレンツオヴォ海に於いて輸送され、木材が海外輸送並に近海輸送の主要貨物を成し、輸送貨物の大部分はアルハンゲリスク港及現在獨ソ戰の戦場の一部分になつてゐるムールマンスク港を經由して居たのである。ムールマンスク港が北洋隨一の不凍港として歐洲は勿論アメリカ合衆國との貿易上重要な意義を有してゐたとは言へ、獨芬聯合軍の征壓により現在その利用價值は失はれてゐるものゝ如くである。貿易全體の約一二%を輸送してゐるのはバルチック海であ

り、ソ聯における海上輸入税額の半ばを占める外國貨物の輸入水路となつてゐる。従つて遠海航路及近海航路輸送即ち國內の海上輸送に依る貨物量は比較的少ないが、そのうちでも最も多いのは黒海方面より到着する石油貨物である。而して取扱貨物の總べてはレニングラード港を經由するのである故、之れ亦現在ではその利用價值は極度に制限されてゐると見ることができよう。

ソ聯の海上貨物輸送の約三分の一を取扱つてゐるは黒海であり、その輸送量の多いことでは正に第一位である。蓋し黒海沿岸には石炭及冶金工業地、ソ聯の穀倉ウクライナ、石油及滿産地たるザカフカズなどがあるからである。従つて亦黒河經由による輸出貨物をその半ばに達して居り、輸分量の最も多いのは何と言つても石油及穀物である。港灣の主なものとしてはオデッサ、ニコラエフ、ヘルソン、ノヴォロシースク、トアブセ港の他に新建設が行はれてゐるソーチ港がある。アゾフ海は氷結の悪條件も手傳

つてその輸送貨物量は多くない、港灣としてはロストフ、タンガローグなどがあるが獨軍の制壓下に喘ぐ現在では問題にする程の貨物取扱量は無いであらう。ソ聯邦海上輸送貨物數量の殆んど三分の一を占めてゐるのがカスピ海である。而してその最も多い貨物はヴォルガの水路によつて北方及マハチ・カラへ輸送するため、バクーから水路アストラハンへ輸送する石油である。お隣りのイランに對しては石油、未加工金屬及金屬製品、機械などがカスピ海經由で輸出されてゐる。最後に太平洋沿岸にある諸港の輸送貨物の大部分は浦鹽港經由で輸送されてゐる、同港は周知の通り極東太平洋に於ける最大最高の港であると同時に北氷洋航路の根據地でもある。太平洋沿岸には工業の急速な發展を見た廣大な極東地方があるが、貨物輸送量は全輸送量の六%乃至七%に過ぎない。近年北サガレンの石油工業、ハバロフスクの製油工業、カムチャツカ方面の漁業の發展と關聯して重要性を加へてゐるとは言へ、同港が極東赤海

軍の一大基地としての意義を有してゐることは否定できなう。

北氷洋航路

ソ聯邦當局が交通を中心とする綜合的企業の達成を目標として北洋航路局(グラヴセヴモルプーチ)を創設したのは一九三二年で、爾來尤大な綜合企業に手を伸ばした結果、本來の使命たる北洋航路による運輸成績が計畫通りに行かず一九三七年には甚しい破綻を生じて批判的となつたこともあるが、第三次五ヶ年計畫に入るや、之が是正に躍起となり、商業航路としての使命を果しつゝあるやうだ。先一九三三年から同三七年迄の北氷洋に於ける就航船舶を見ると次の通りである。

一九三三年	四二隻
一九三四年	八五隻
一九三五年	一〇〇隻
一九三六年	一六〇隻
一九三七年	六二隻

北氷洋の一貫航行に成功したのは一九

三五年に、「ワンツエツチイ」號及「イスクラ」號二隻が浦潮からムールマンスクへ向ふ途中尼港へ穀物を輸送し、ムールマンスク迄三十日の日數を要した、この西行コースはかつて探險船「シビリヤコフ」號に依り六十五日、「チエリユスキ」號では八十五日、「リトケ」號では六十九日を要したのであるから非常な成功であつたが、一九三七年の成績は極めて劣悪であつた。即ち一九三七年には七隻の船が一貫航行を行ふ計畫であつたが実績は僅かに四隻で、他の三隻は失敗に終つた。加ふるに同年は北氷洋方面の氣象狀況が非常に悪く碎氷船、商船を含めて二十五隻が極地で越冬を餘儀なくされた。然らば北氷洋航行船舶に依る輸送は何うか。いま、一九三三年から一九三八年迄の成績を見ると次の通りである。(單位千噸)

一九三三年	一三六・一噸
一九三四年	八〇・〇噸
一九三五年	二〇四・〇噸
一九三六年	二七七・〇噸

一九三七年.....二二五・噸
一九三八年.....二一五・〇噸

一九三七年度の計畫によると三十五萬千八百噸といふのであつたか遂行率は前表のやうに甚だしく不良であつた。北氷洋航路に關聯して、北洋灣航路總局管下の河川運輸も見逃し得ない。即ち同局管下の河川路の總延長は七萬千に達して居り、そのうち船舶の航行し得るのは約半分と發表されてゐる。而して一九三五年に於ける極北地方の河川に依る實際に航行して延長は一萬一千千、一九三七年には一萬六千二百千であつたが、これらはビヤシナ、ヤナ、ハタンガ、アナバラ、インジギルカ、アルグン河口以北のレナ、イガルカ以北のエニセイ、サル・ハルド以北のオビなどの河川航路であり、第三次五ヶ年計畫に入るや、ヤナ河(河口からヴェルホヤンスク迄八七〇千)、インジギルカ河(河口からクレスト・マール迄八〇〇千)、ボドカメンナヤ・トウングス河(五八五千)、その他オレネク河、アナバラ河などの水路開發が盛んに行は

れてゐる。

尙ほ、北洋航路の基地は西方ではムールマンズオ、アルハンゲリスタの兩港、東方では浦潮港であるが、貨物の出入の中心となるのは各大河川の河口である。例へばオビ河口のノイボルト、エニセイ河口のデイクソン、レナ河口のテイクシ、コルイマ河のアムバルチクなどが之である。その他エニセイ河口から六〇〇軒上流にあるイガルカ港、ベリリング海峡の入口に位置するプロヴィジエーニエ港なども同様に北洋航路の重要な根據地となつてゐる。

次に北洋航路に於いて重要な役割を演じてゐるのは砕氷船であるが、その主なるものを擧げると排水量一〇、六二〇噸の「クラシム」號、排水量八、〇〇〇噸の「エルマーク」號、排水量五、六二〇噸「レーニン」號、同じく四、六〇〇噸、速力十八節の「リトケ」號、排水量一一、〇〇〇、一萬馬力の「ヨシフ・スターリン」號及「ラザール・カガノヴィツチ」號、それに一九三八年に竣工した、

排水量六、五三〇噸の「エス・デジネフ」號などがある。更にレニングラードのオルヂエニキーゼ造船所で建造された前記スターリン號と同じく排水量一一、〇〇〇、一萬馬力「ヴェチエスラフ・モロトフ」號も最新型砕氷船としてソ聯自慢のもので、その他合計約二十隻餘りの砕氷船隊が北洋航路に於いて活躍してゐる。

ソ聯邦の航空運輸は兩次の五ヶ年計畫を経て、近年非常な躍進を遂げた。而して、その航空路の延長に於いても、貨物輸送數量に於いても諸外國、特にアメリカ合衆國のそれを遙かに凌駕し、只輸客輸送數に於いてのみアメリカに劣ると言つてゐる。ソ聯邦の資料によつて、ソ聯邦とアメリカ合衆國の航空運輸を比較すると次の通りである。

航空運輸

國名	航空網延長(軒)	旅客(人)	郵便物(噸)	貨物(噸)	商業用積込利用係數%
ソ聯邦	一六、一〇〇	二四、〇〇〇	五五、一	三六四、〇	八六
アメリカ	一〇、〇一八	二二七、五〇	四〇四、九	—	五六

ソ聯邦の航空運輸はその領土的特殊性、即ち領土の廣大な割合に陸上運輸の主要形態たる鐵道網の無い地域が多く、邊境地方や民族諸共和國へ中央の文化を早急に扶植するため、旅客及郵便物は素より、機械の部分品、豫備品、フィルム、書籍新聞雜誌、更らに官廳用品、種

子、播種用又は收穫用機械、腐敗し易い生物などの輸送に最も力を入れてゐる。いま、その例として、一九三九年に航空運輸によつて輸送された貨物を分析してみると次のやうになつてゐる。(單位總計に對する%)

- 一、野菜類、果物、穀粒、魚及其の他の食料品……………二七・五
- 二、硫黃、雲母、沃度……………二〇・一
- 三、豫備品、各種金屬器具及有色金屬類……………九・五
- 四、水……………九・二
- 五、綿……………七・一
- 六、織物、皮革製品及其の他の製品……………六・八
- 七、燃料……………四・三
- 八、醫藥及文化的商品……………二・四
- 九、手荷物及其他貨物……………一三・一
- 計……………一〇〇・〇

而して、一九三九年に航空運送された手荷物及貨物のうちで、鐵道網の無い地

方に下ろされた分は、總量の八八%を占めてゐるのを見ても邊境地方に於ける航空運輸の利用程度が窺へると思ふ。一九四〇年のソ聯資料によると二二、〇〇〇噸以上の手荷物及貨物、又は一九三九年の航空運輸による貨物輸送總量の六〇%はセールヌイエ嶺山及アツハバット(トウルクメン管理局)、スタリナバツド及クウリヤブタジツク(管理局、チタ及ニイジンスク(東部シベリヤ管理局)の如き空港に到着したことになつてゐる。次に兩次の五ヶ年計畫及第三次五ヶ年計畫初年度並に第二年度に於けるソ聯邦航空運輸の實績を掲げて見よう。

輸送總量	第一次五ヶ年計畫	第二次五ヶ年計畫	第三次五ヶ年計畫(一九三六—一九三九年)
旅客	六七、五二〇	五五三、〇七五	四八八、九〇〇
貨物(噸)	九、三二八	八六、九一六・二	八五、三六〇・六
郵便物(噸)	九、四三〇	二〇、五九二・〇	一五、六四六・五

航空路に就いて言ふと、全聯邦的意義を有する線、地方線及北洋航路總局管下の航路を合して、第一次の五ヶ年計畫未

迄に三一、九三四軒、第二次未迄に一〇四、八一〇軒に増加し、一九四〇年八月現在では一四二、〇〇〇軒に達した。又、

次に一九四一年の計畫であるが、同年中に全聯邦的意義を有する航空路に依つて輸送すべき旅客は二八五、〇〇〇人、郵便物は八八、八一六噸、貨物は四〇、〇〇〇噸であつた。此の數字は一九三九年に遂行された數字を超過するもので、一九三九年には、旅客數二四八、〇〇〇

人、郵便物五、八五八噸、貨物約三八、〇〇〇噸であつた。之を總體的に見て、第二次五ヶ年計畫の初年度に比べると一九三九年の運輸成績は一〇倍以上に飛躍したのである。斯くして旅客、貨物を含む航空運輸に於いてはアメリカに次ぐ世界第二位を占めてゐると誇示してゐる譯である。貨物輸送に於いてはむしろアメリカ合衆國を凌ぐことは前述の通りである。

しかし、郵便物の定期的輸送に關してはソ聯當局もその成績不良を盛んに指摘

旅客輸送及貨物輸送に對する郵便物輸送の比重

輸送種別	一九三七年			一九三八年			一九三九年		
	旅客	郵便物	貨物	旅客	郵便物	貨物	旅客	郵便物	貨物
計	二九・二	一六・七	五四・一	三二・六	一三・八	五三・六	三八・六	一六・一	四五・三
計	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

次に國際航空路に就いて見ると、一九三七年に開設されたモスクワ―ストックホルム線、モスクワ―ブラーグ、モスク

ワ―カウナス、レニングラード―タリオン、バクペフレウイ―テヘラン、タシケントカプールの諸線並にウラン・ウデ―

ウラン・バートルの路線があり、最後の路線は全然鐵道網の無い地域の航空路で、ソ聯邦とイラン、アフガニスタン、蒙古人民共和国の首都を結ぶ路線として注目に値する。右の他に獨ソ戰勃發前まではドイツ、ブルガリヤ、スペイン、支那との國際航空路があり、國際郵便、旅客輸送用幹線としてはモスクワ―ベルリン、モスクワ―ソフイア間の定期航空路も開設されて居つたが現在では停止されてゐることは勿論である。

ソ聯邦航空運輸の使用機としては、先づ全聯邦的意義を有する主要な定期航空路用の最新式高速郵便機を就航させてゐるが、そのうちで最も重要性を有する幹線航空路にはペ・エス型、同84型、同35型同89型などの優秀な多座式旅客機を使用してゐる。實際問題としてソ聯邦の如く地域の廣大な、而かも工業中心地が各所に散在してゐる國には最新の高速機をその航空路に配備することは大きな意義を有する。例へばモスクワから中央アジアのアシハバッド迄列車を利用する時には

一三〇時間を要するがペ・エス型旅客機による時には僅かに十時間で到着できる。同じ飛行機を以てコーカサスのトビリシ迄はモスクワから九時間で到達できるが、之を列車による時には三晝夜を要する譯で、尙歐露部で利用されてゐた航空路で優秀機の多數就航してゐたのはモスクワ―キエフ―オデッサ線、モスクワ―キエフ―リヴォフ線であつたが、之また獨軍の進攻に依つて中止されてゐるだらう。黒海・アゾフ管理局管下の航路線ではペ・エス型といふ新鋭機が盛んに活躍して居つた。

最後にモスクワを起點とする重要な東部幹線に就いて見ると、モスクワ―ウラヂオストーク間の航空路幹線は八、一九〇軒の距離を有し、カザン、スヴェルドロフスク、オムスク、ノヴォシビルスク、クラスノヤールスク、イルクーツク、チタ、ハバロフスク等の大都市を經由してゐるが、航空機利用に依つて時間の節約は非常なもので、例へばモスクワ―イルクーツク迄急行列車に依る時は一〇六

時間、ノヴォシビルスク迄は六五時間を要し、イルクーツク迄約四晝夜半を要するが、夜間飛行便を利用する場合には一晝夜で達することができるのである。更にウラヂオストーク迄は急行列車に依る時は八晝夜を要するが、飛行機に依る時は僅か三晝夜にして達し得られるのである。此の東部幹線は他の南方線モスクワ―チフリ線(三、〇二五軒)、中央アジア線であるモスクワ―タシケント線(カプール、アフガニスタン線を含めて三、〇五〇軒)と共にソ聯に於ける最も重要な幹線航空路として既に第一次五ヶ年計畫の年間に營業を開始したものである。更に今後獨ソ戰の進展と共に益々重要性を加へて來ると想像される航空路線としては、東部に於ける重要幹線からの支線で、即ち南部ウラルの工業地方に取つて重要な意義を有するスヴェルドロフスク―チエリヤビンスク―マグニトゴルスク線、クズバズに連絡してゐるノヴォシビルスク―ケメロヴォ線、ナルイムスクの毛皮搬出に當つてゐるノヴォシビルスク

―コルパンエヴォ線、ヤクート地方及レナ金礦地方に奉仕してゐるイルクーツク―ヤクーツク線、極東の各都市間を連絡してゐるハバロフスク―オオーツク―ナガエヴォ線、ハバロフスクサガレン線、ハバロフスク―コムソモリスクなどの諸線が擧げられる。特に極東に於けるハバロフスクから北サガレンのオハ或はアキサンドロフスクに連絡する時間は約一〇時間であり、一方ニコラエフスクからナガエヴォを經由してオホーツク海沿岸に沿つてアムールに達する水上線並にチュコト半島經由でウエレンに至る水上線はソ領極北地方開發の上に重要な意義を有してゐる。

なほ、一九四一年度に於ける民間航空隊の活動計畫は次の通りであつた。即ち一九四一年度に於けるソ聯邦航空各幹線には多座式大型機「ペ・エス八四」型が就航し、各航空機は優秀な裝備を有し天候に關係なく、且つ盲目夜間飛行も可能で、一九四〇度に比し各航空路の旅客輸送は著しく増加される筈である。次

に、モスクワからレニングラード、イルクーツク、トビリシ、シムフコロボ、及ミネラリスイヴォドイ等の各都市に達する最初の夜間飛行並にモスクワウラジオ間のシベリヤ横断航空路の試験飛行も行はれる筈である。更らにモスクワ飛行で發着する旅客機数は毎日六〇機で、モスクワを午前六時に出發する旅客は六時間二〇分後にスヴェルドロフスクに達し、同地から飛行を繼續して、チエリヤピンスク、マグニトゴルスク、チュメニに到着することができる。

一方、モスクワカザンスヴェルドロフスクノヴォシビルスク間は毎日、モスクワイルクーツク間の旅客飛行は所要時間二五時間で七月一日から隔日に行はれる筈であつた。次にモスクワと中央アジア諸共和国の首都間には高速郵便機を就航させて郵便連絡に任ずることとなり、五月十日からモスクワトシケント間(クイブイシエフ及アクチュビンスク經由)に毎日就航せしめると共にタシケント飛行場からスタリナバツド、ウル

ケンチ、レニナバツド、チャルドジョウ、オン、フェルガナに達する旅客輸送も行ふ筈であつた。

北方空路では、アルハンゲリスク、スイクトイクヴァル間、アルハンゲリスクナリヤンマル間、アルハンゲリスクウスチ・ツイリマ間の各空輸が開航され、極東方面ではハバロフスクからニコラエフスク・ナ・アムール、北サハリンのアレクサンドロフスク及オハにも航空路が開始される筈で、一方、ペトロバヴロフスクとの航空路に就航旅客機として多座式の「ペ・エス三〇型」機が採用された。最後に國際連絡としてはブリヤートモンゴル自治共和国の首都ウラン・ウデからウラン・バートルに達する路、アルマアタと新疆省の哈密間の路線、及クラスノヤールスクとトウア共和国のキズイル間に新たに航空路が開設される豫定であつた。

郵便、電信

ソ聯邦通信事業の概要

ソ聯邦は第二次五ヶ年計畫の期間内に通信に對して十一億八千八百萬留の投資をなしその發展を期したが、その成績は次の如くである。

一九三八年における郵便局所数は全ソ聯を通じ四萬三千にして、面積四百九十五平方軒、人口三千九百五十六人に對し一局所設置の割合である。なほ電信局、電話局、ラヂオ施設、郵便局等通信企業全部の数は六萬を超えてゐる。また農村郵便集配人數は十五萬五千人に達してゐる。電信電話線路の延長(都市間及び区内農村聯絡線)は二百三十五萬三千軒に及んでゐる。因みに一九二八年に於ける同延長は八十九萬軒であり、一九三三年には百六十萬軒である。

電話機取附数は百三十萬(一九三三年には六十萬)に上つてゐる。都市及區中心地の九六・二%が州との電信聯絡を、同じく八九%が電話聯絡を有してゐる。

また村ソヴェートの七七%が中心地との電話聯絡を有してゐる電信電話線路の中で銅線及び銅覆網線の延長は一九二八年に比し一九三九年度には三三%の激増を示してゐる。電信機数は、一八七%の増加である。(以下皆一九二八年と一九三八年との對比)。電話加入者数は三一七%の増加、無線電信送信機は四、一七三%の激増でありこの出力は七〇九%の増大を示してゐる。ラヂオ中繼トーチカ数は三百二十四萬二千に達した。これは一九二八年度の五十四倍以上である。(一九三八年年度調査)郵便線路の延長も一般に増大したが、特に郵便航空路は一、一九〇%、

郵便自動車路は一、七六一%何れも著しく増大してゐる。郵便物取扱数も増加し、書狀は二一七%、定期刊行物は七四四%の増加となつてゐる。發信電報は四一七%増加してゐる。通信従業員は一九二八年の八萬九千九百人より一九三八年には三十三萬二千人に増員された。従業員の年平均賃銀は一九二八年の七百六十九留より三千一百留に、即ち四倍に増加した。

以上一九三八年における通信の基本數字を列擧したが、これによつて第二次五ヶ年計畫年間及び第三次五ヶ年計畫初年度におけるソ聯通信の躍進振りの一斑が窺はれると思ふ。

次に一九三九年における通信部門の計畫遂行状態を見よう。ソ聯邦當局の語るところに依れば、本年度の計畫遂行状態は満足すべきものでなく、唯郵便物爲替及小包業務のみが計畫を遂行したに過ぎない。書狀交換は九八%、定期刊行物交換は九八・三%、有料發信電報——九九・六%、有料市外通話——九四・三%の遂行率である。

以下稍々詳細に通信各部門の計畫遂行状態を概述しよう。先づ収入關係を見ると、一九三九年前半期におけるこの部門の遂行率は九八・四％に過ぎない。一九三八年前半期よりも二億五千四百萬留の増収とはいへ、計畫より一千九百十萬留の不足となつてゐる。此の年の増收計畫は料金の値上げ及び交換の増加に伴ふ収入増加を豫想して樹てられたものであるが、計畫を遂行したのは郵便業務と新聞送達業務のみである。

通信經濟は大きな隠れた資源を持つてゐる。一九三九年四月一日現在の資料によれば通信企業の倉庫には一億二千萬留の額に上る材料及び設備が有つた。これは標準よりも四千四百九十萬留だけ多いのである。到る處に散在する斯様な巨大な隠れた資源は適當に割當て建設に向けべきで、隠れた資源と支給されたフォンドを正しく利用すれば建設計畫の遂行及び超遂行が可能となることは疑ひないとしてゐる。

建設

次に建設計畫の遂行状態はどうかと云ふと、この部門もまたうまく行つてゐない様である。建設の年次計畫は一九三九年六月一日までに三五・七％の遂行率であり、一九三八年同期には二二・六％の遂行率である。然し金額に於ては一九三九年は六千五百九十萬留であり、一九三八年は七千八百五十萬留である。即ち二百六十萬留だけ前年度の方が多いことになる。これは一九三八年より一九三九年の建設作業が振はないことを物語るものである。

州及び共和國管理局の資本建設計畫の遂行状態は如何と云ふに、クラスノダール管理局は年次計畫の七〇％以上遂行し、ニコラエフスク、スターリンスク及びドネプロペトロフスクの三管理局は六〇％乃至七〇％の遂行、十四管理局は二〇％乃至五〇％、二〇管理局——一〇％乃至三〇％、一〇管理局——一〇％以上の遂行振りである。

建設不振の原因は一は労働組織の悪いことである。建設常備基幹部員は現在まで一人も居ない。建設に労働力が不足してゐる。最近通信人民委員部會議の席上でベンザ通信管理局代表は、州内建設に六班乃至七班が作業してゐると述べたが、これ等の班は何れも六名で編成されてゐる様である。

これは他の管理局にも共通するものと見做される。通信人民委員部では目下建設常備人員の配置が考慮されてゐる。まづ第一に少くとも九一年労働する修理・建設班が五十班乃至六十班は是非共必要だと見られてゐる。

次に配給關係であるが、これは非常な缺陷を有し、これがため建設の進行が大いに妨げられてゐる。二・三例を挙げて見ると、例へばクラスノヤルスク通信管理局が建設を行つてゐるが、中央配給管理局はこの建設に必要な線條の七八％は配給したがフックは送付しなかつた。プリヤート蒙古には線條七八％、フック八八％を發送したが碍子は一個も發送しな

かつた。オリョール州管理局は線條及びフックは充分受取つたが碍子は必要數量の僅か十九％しか受領しなかつた。さうかと思ふと一方他の州管理局の倉庫には大量の碍子が未使用のまま打つちやつてゐる。材料配給の缺陷は建設計畫遂行上大きな障碍となつてゐる。これは中央配給管理局及び通信技術配給聯盟の労働者の責任である。

其他、修理の方法も亦常に遅れてをり、電報の運配數、市外通話の運滞、電話機の故障は甚だ増大してゐる。郵便業務にも少なからぬ缺陷がある。一九三九年前半期における郵便物の喪失及び竊取件數は六千三百九十五件の多きに上つてゐる。この金額は五十九萬七千留となる。一九三八年前半期の同金額は三十八萬留であつた。一九三九年前半期に労働者より通信機關に提出された取調請求及び投書の数五十萬を突破してゐる。この中の大部分は郵便業務の不良なることを指摘してゐる。

最後に従業員關係を見ると、一九三九

ソ 聯 邦 通 信 の 發 達
(通信人民委員部分、年末現在)

項 目	計 算 單 位	1929年	1933年	1938年	1933年度に對する1938年度百分比
中央郵便局、事務所部及代理部の數……	千	15.9	43.7	43.4	99.31
其内中央郵便局、事務所及部……	"	3.8	5.3	29.4	554.7
村郵便集配人員數一總計……	"	23.1	118.3 ¹	154.6	130.7
電信電話線延長(都市間及地方内村通信分)……	千 杆	955.0	1632.9	2353.5	144.1
電 話 器 數……	千	331.1 ²	633.2	1272.5	201.0

年通信部門には指導的職務に携はる人員約六千人を採用することが確認されたが、同年八月十五日までに承認された人員はやつと三千二百九人である。従つて通信人民委員部關係並びに州及び共和國通信管理局關係の多くの重要區は指導者の不足に頭を悩ましてゐる。

ソ聯邦には専門技術者及技手の前衛分子が數百人居る。ロシヤ共和國の二五州管理局だけでも一萬八千人のスタハリノフ運動者と二萬五千餘の突撃隊員がゐる。ウクライナの僅か八州で九千人のスタハリノフ運動者及び六千人の突撃隊員が算へられる。グルジャにはスタハリノフ運動者が五百十八人突撃隊員が九百八十六人ゐる。これを全國的に見ると、一九三二年七月一日現在でスタハリノフ運動者四萬九千人、突撃隊員五萬九千人(この中六百八十三人は通信マステルの稱號を獲得してゐる)、社

會主義競争参加人員二十三萬一千五百三十一名に上つてゐる。

技術者の養成はどうかであるかと云ふと、一九三八年度には通信専門學校より九百八十一人の技師を出したが、一九三九年度には専門學校より(有線及び無線)技師一千人以上、中等學校より一千七百人の技手を卒業させた。現在修學中の技術者の卵は専門學校——五千人、技術中等學校——約八千人、工場労働學校——七千人、養成——(休業者)一萬人及(休業せざるもの)七萬二千人である。作業班徒弟として一萬六千人の未成年者が養成されてゐる。尙この外に通信教授を受けてゐるものが八萬人ある。

ソ聯邦の郵便料金

一九三九年二月六日ソヴェト聯邦國民經濟會議により書留竝に普通國內郵便物に關する郵便料金の變更が行はれた。それによると各都市間の普通封書は二十瓦まで三十哥、更に二十瓦を増す毎に十五哥となり、同一郵便區内のものは二十

瓦まで十五哥、更に二十瓦を増す毎に十五哥である。端書は各都市間二十哥、同一區内十哥、書留郵便は基本料金の他に三十哥を徴収する。

モスクワ哈府間無線電話

モスクワ、ハバロフスク間にモスクワ・ウラヂオストツク間の直通無線電話連絡は、首都極東間の通信事業に大なる寄與を齎すものとして、かねてより計畫中のものであつたが、一九三九年五月末にモスクワ——哈府間の第一期工事が完成した。

右延長は八、七一五軒で電柱一七四、〇〇本、鋼線三萬五千軒を要したものである。又通話は、家庭に取付けてある普通の電話器で出来るのであるが、モスクワ——哈府間の通話料金は一通話(三分間)十五ルーブルである。

モスクワ、紐育間國際電話

ソ聯邦通信人民委員部は三七年三月五日附を以て對米國際電話開通計畫を發

表、去る同年四月十四日午後七時、いよ／＼モスクワ——紐育間の試験通話が行はれた。結果は非常に好成绩であつたが、一般の通話を開始するまでに尙四、五回の試験をなす筈である。

右モスクワ、紐育間の國際電話はロンドンを通じて行はれるのであるが、目下モスクワ、ロンドン間は有線電話連絡を有してゐるので、ロンドン、紐育間のみ無線電話を以て連絡する。

ソ聯邦の國際電話連絡は最近の三ヶ年間に著しく其の面貌を改めた。即ち、一九三三年度に於ては僅かにバルチック沿岸諸國とモスクワ間に、レニングラードを通じて電話連絡を有してゐたにすぎなかつたが、現在ではモスクワから左の諸國と自由に通話出来る。

獨逸、英國、和蘭、瑞西、白耳義、リユクセンブルグ、ラトヴィヤ、リヌワニヤ、ダンチヒ、ポーランド、佛蘭西、チエツコスロヴァキヤ、オーストリア、フィンランド、瑞典、エストニア、デンマーク、ノールウエイ、等。

電送寫眞

一九三七年度に於て電送寫眞が廣汎に普及された。即ち人民委員會議の決定によれば約二十本の電送寫眞連絡線が開かれる豫定である。其の中主なるものをあげればモスクワ——ハバロフスク間、モスクワ——ウラヂオストツク間、モスクワ——アルマ・アタ間、モスクワ——バクラー間、モスクワ——ロストフ間、モスクワ——シムフェロポリ間等である。現在はモスクワ——スウエルドロフスク間、モスクワ——タシケント間、モスクワ——バクラー間、モスクワ——イルクルツク間、モスクワ——ウオロネージ間、モスクワ——レニングラード間、モスクワ——キエフ、スモレンスク、ミンスク、ノウオシビルスク、ハバロフスク、トビリシ間に行はれてゐる。

モスクワ哈府間電信電話

豫ねて工事進捗を傳へられてゐたモスクワ——ハバロフスク間の電信電話幹線

は、一九四〇年六月漸く完成した。

この幹線は二筋の回線と四本の銅線とより成つて居り、同時に數都市との間に六會話を爲し、三十六本の電信交信を行ひ得る最新式の裝置を有してゐる世界最長(八七一五メートル)のものである。この幹線の竣成によつて、東部シベリヤ及び極東地方の各區の諸市は、モスクワを直通の電信電話の交信が可能となり電送寫眞の取扱も近く開始される。

一九四〇年度新電信電話

幹線

客年中通信人民委員部に依て若干都市間の有線電信電話幹線の開通を見た。一九四〇年度に於ては電信電話通信事業の擴張及其技術的再裝備豫定せられモスクワ——タイブイシエフ——タシケント間には各三電話線、一電送寫眞線の青銅製幹線の強化工事完了すべく之に依てモスクワ及ウズベク共和國間の通信は著しく改善せらるるであらう。ハバロフスク市は沿海地方諸都市との

電信通信竝にコムソモリスク・ナ・アムイレ及ヴォロシロフとの電話通信を接受すべくハリコフ市には大規模なる諸都市間新電話局建造せらるることとなつた。尙オデツサ及メリトポリ(ザボロジエ州)に於ける電信局は再裝備せらるることとなり、ボゴエ(カリュン州)には閉塞信號所建設せらるるであらう。ソ聯邦各地方中心城市に於ける電話普及の爲本年度内に於て四七の新局の開設を見るであらう。

レニングラード・哈府間

電信電話線

過日レニングラード——ハバロフスク間電信電話線は試験開通に入りたるかレニングラード——モスクワ間は有線にしてモスクワ——ハバロフスク間は無線聯絡なり。右試験の結果は良好にして尙レニングラード——キエフ間の寫眞電送線の試験も開始せられた。

労働

ソ聯邦労働一般

労働法の沿革

ソ聯邦に於ける労働法はレーニンの所謂「働らかざる者、食ふべからず」なる鐵則のもとに編成され、徹頭徹尾労働者の利益を原則とし、一般雇傭労働者（國家機關及び事業公共及び個人の事業並びに機關、軍事上の機關労働者は元より、家庭内の労働者即ち女中の如きをも含む）に適用せられるものであつて、労働法に規定する労働条件より不利な労働契約又は合意は總て無効なりと定められ、絶大な權利を労働者に附與してゐる。最初の労働法は一九一八年ソ聯邦政府樹立後間もなく發布されたものであるが、其後國內の經經的事情變遷の結果殊

に新經濟政策實施以後改訂の必要を生じ、遂に一九二二年十一月十五日より改正労働法の實施を見るに至つた。併し其後も猶ほ幾多の改訂を加へられて現在に至つてゐる。

労働法概要

現在の労働法はロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國労働法（クゾート）と稱し十七章百九十二條より成つてゐる。雇傭ソ聯邦市民は労働部の機關を通じて任意雇傭手續をとることが出来る。併し求職者が政治的の信頼あり、又は特殊の技能を有する場合には労働部を経由しないで直接雇はれることがある。しかし此の場合には雇傭契約成立後労働部の當該機關に登録しなければならぬことになつてゐる。

義務労働 天災又は重要な國家的事業遂行の爲め労働力の不足を生じたる場合には、總てのソ聯邦市民は人民委員會會議若しくは其の委任を受けたる機關の特別命令に従つて義務労働につかなければならぬことがある。併し左に掲ぐる者は義務労働を免除せられるとしてある。それは、

- (イ) 十八歳未満の者
- (ロ) 四十五歳以上の男子
- (ハ) 四十歳以上の婦人
- (ニ) 病氣若しくは負傷の爲、一時的労働不能者にして其恢復期にあるもの
- (ホ) 妊婦（分娩八週間前後）
- (ヘ) 乳兒を有する婦人
- (ト) 労働及軍事に依る傷病者
- (チ) 他に扶養者なき八歳以下の子供を有する母親

團體契約 ソ聯邦労働法に云ふ團體契約とは被雇傭者を代表する職業組合と、他方雇傭主との間に締結せられる契約であつて個々の企業、經濟機關其他のため、労働及雇傭の條件を定め且將來の個

人的雇傭契約の内容を決定するものである。そして團體契約の條件は、其の人々が團體契約を締結したる職業組合の組合員たると否とに拘らず、當該企業若しくは機關に於て労働する總ての人々に之を適用するものである。労働契約 労働契約は團體契約の有無に拘らず左の場合に締結するものである。

- (イ) 一ヶ年を越えざる一定の期間を定める場合
- (ロ) 期間を定めない場合
- (ハ) 一定の仕事の完成に必要な期間の労働

永續的性質の仕事の場合には雇入れ決定前筋肉労働者は六日以内、資格を要しない責任の軽い仕事に従事する従業員は二週間以内、又、責任の重い仕事の従業員に對しては一ヶ年以内の試験期を設けてから労働契約を結ぶことが出来るとしてある。

雇傭主は當初の契約に關係なき仕事並びに明らかに生命に危険ある仕事、若く

は労働法規の規定に適合しない仕事を要求することが出来ない。又、被雇傭者を或る企業より他の企業に移し、若しくは同一の企業であつても、或る地方より他の地方に移す場合には労働者若しくは従業員の同意を要求する。而して若し同意のない場合には當事者の何れからも労働契約を取消すことが出来る。但し右何れの場合にも保障及び賠償規定により雇傭主は解雇手當を交付しなければならぬ。又、雇傭主が被雇傭者を解雇しうる場合は

- (イ) 企業、營造物若しくは經濟團體の一部分又は全部解散し、並に其の仕事が縮小したる場合
- (ロ) 生産上の原因により一ヶ年以上に亘り仕事を中止する場合
- (ハ) 被雇傭者が其の仕事に不適當なることの判明した場合
- (ニ) 被雇傭者が相當の理由なくして契約又は内部管理規則に依り、其の負擔すべき義務を規則的に履行せざる場合
- (ホ) 被雇傭者が直接其仕事に關聯して犯罪を行ひ、裁判の宣告が實行せられたる

場合、並びに被雇傭者が二ヶ年以上に亘り逮捕收監せられる場合
(イ) 被雇傭者が相當の理由なくして一ヶ月中に合計三日間以上作業に出頭せざる場合（一九二七年八月二十二日全露中央執行委員會決定）
(ト) 被雇傭者が一時的に労働不能となり、其時より二ヶ月を経過するも猶ほ缺勤する場合、並びに妊娠中及分娩後の者は四ヶ月の期間の外、更に二ヶ月間復業し得ざる場合

労働に對する報酬 労働報酬は普通労働時間（八時間—七時間）以下の場合時間拂とし、或は仕事の出來高拂となる。規定時間外の労働に對する報酬は特に契約に指定しなければならぬ。此場合最初の二時間に對しては普通報酬の一倍半又其以後は每一時間の就業に對しては二倍以上、休日或ひは祭日の就業に對しては二倍以下たることを得ないとしてある。

仕事に恒久的性質を有する場合には二週間に一回以上の割合を以て定期的に勞

銀を支拂ふのである。

保障及び賠償—赤軍に召集せられたる労働者及び従業員は召集の爲、退職の際向ふ二週間分の平均賃銀を受取る。

労働時間中選挙権の行使を許されて居る場合には選挙権行使の爲めに要する時間中平均賃銀の支拂をうけることになつてゐる。又、労働者及び従業員が雇傭者の職務の爲め出張する場合には、其の出張の全期間中地位を維持し、且平均賃銀の外、一日につき一ヶ月の賃銀額の三分の一を下らざる日當を受けることができる。又、労働者及び従業員が雇傭者の命令により他の地方へ移轉又は住所の變更を要する場合には實際賃銀のほか移轉による出費、滞在期間及び其後の六日間一日に就き一ヶ月の賃銀の三分の一の計算により日當の支拂をうけることが出来る。

労働契約の章の(イ)(ロ)(ハ)に規定したやうな理由で、期限付又は期限を附せざる労働契約が取消されたる場合には雇傭主は被雇傭主に對し二週間分の賃銀に

相當する解雇手當を支拂ふか、又は二週間前に解雇通告を爲さなければならぬことになつてゐる。

一時労働不能となつた労働者及び従業員は病氣の場合には三ヶ月以内、又妊娠及分娩の場合には四ヶ月以内企業又は機關に於て現職に留まることになつてゐる。

労働時間—標準労働時間は一九二二年制定の労働法では八時間であるが、一九二七年十月十五日の聯邦中央執行委員會の宣言書は七時間労働の実施を決定し、一九三三年十月一日までに總ての工業、交通、通信、労働者に七時間制を徹底せしむべく意氣込んでゐる。それと同時に一週五日制を採用するに至つたが、該制度が所期の効果を收め得ない事實が明らかになつたので一九三一年十二月一日から再び六日制を実施する旨聯邦人民委員會議令を以て布告した。

(註) 第二次世界大戰勃發後の國際、國內的情勢切迫のため一九四〇年六月二十七日より再び、八時間労働、一週七日制に還元した。詳細後欄参照。

猶ほ労働法によると標準労働時間を超過する職業は原則的に、十八歳以下の者は絶對に又、遅刻によつて失ひたる時間を補ふ爲めの残業を禁止せられてゐる。

休暇—總ての労働者は毎週四十二時間より少なからざる繼續的休暇を受けることになつてゐる。毎週の定休日とは地方労働課に於て職業組合ソ聯邦の協議の上之を定め、又、仕事の性質上間斷なき作業を要する企業には労働者に對し都合よき週日に休暇を與へる。

此他左記祭日には労働に従事するを禁じられてゐる。

- (イ) 一月一日(元旦)
- (ロ) 一月二十二日(舊曆一九〇五年一月九日記念日)
- (ハ) 三月十二日(獨裁政治顛覆記念日)
- (ニ) 三月十八日(巴里コムミュン記念日)
- (ホ) 五月一日(インターナショナル記念日)
- (ヘ) 十一月七日(無産階級革命記念日、一九二七年以降は十一月七、八日の二日間休日)
- (ト) 十二月五日(新憲法制定記念日)

休日及祭日の前日に於ける労働時間は六時間を超過してはならないことになつてをり、此場合丸一日の賃銀支給をうけ出來高拂の仕事では就業しない時間に對し相當等級の賃銀率に依つて割増手當を貰ふことが出来る。

五ヶ月半以上の期間に互り繼續的に勤務したる者に對し、一月に一回二週間を下らざる定期休暇を受けることが出来る。又、十八歳未満の者の定期休暇は一ヶ月以下ならざることに規定されてゐる。

婦人及未成年者の労働—婦人及び十八歳以下の者を夜業に従事せしめ、又健康上有害なる作業及び地下の仕事に雇傭せしめてはならない。それから筋肉労働に従事する婦人に對しては産前及産後各八週間、又、事務其他知識労働に従事する婦人に對しては各六週間労働を免除する。

授乳を要する母親には一般休憩以外に授乳のため餘分の休暇を與へ、且つ授乳の休憩は毎三時間半以内の間隔を置き、

三十分以上繼續しなくてはならぬ。授乳時間は労働時間に算入する。

十六歳未満の者は雇傭を禁止し、特別の訓練を以て十四歳以上の未成年者を雇傭することを許可してゐる。

爭議解決及労働に關する法規違反事件審理機關—労働に關する法規違反事件並に雇傭労働適用に關する總ての爭議は

(一)人民裁判所の特別法廷に於ける強制的手續、(二)評價爭議委員會、(三)調停委員會及び、(四)爭議當事者の同數代表者に依り組織せられる仲裁々判所の仲裁手續により解決するものであるが、前記の機關は總て各特別の規定に基いて行動するものである。

(一)人民裁判所特別法廷

同法廷は労働法、労働に關する其他の總ての法規並びに團體契約の違反にして刑事手續に依つて追訴を受くべきものを取扱ふ。同法廷の組織は議長たる人民判事及び委員二名を以て構成し、委員の一名は労働部代表者とし、他の一名は職業組合團體の代表者である。

(二)評價爭議委員會

評價爭議委員會は團體契約及び労働契約の適用に關し發生する爭議並びに特に本法に規定したる問題に限り審議するものであつて、評價爭議委員會では事件の解決は當事者双方の合意によるとしてあり、合意が成立しない時は該事件を上級裁判に移すことが出来る。

但し評價爭議委員會にとつて團體契約の本質に反する爭議、團體契約の一部廢棄の要求團體契約に新たな條件若しくは補足の條件を挿入する要求はその權限外である。

(三)調停委員會

當事者双方の同意に依り、事件を調停委員會に附することが出来る。事件を調停委員會にかけらる場合は右當事者双方の同意によるほか、爭議委員會に於て解決を見なかつた場合である。調停委員會における事件の解決を専ら兩當事者の合意によるものとしてある。

(四)仲裁裁判

事件が調停委員會に於て審理せられたるものなると否とを問はず、當事者双方の同意により之を仲裁々判に附することが出来る。

労働者勤務員数 (単位千人)

	1932年	1934年	(%)
全國民經濟部門	22,942.8	26,689.5	119.6
内工業	7,999.8	10,111.7	126.4
建設	2,835.1	2,023.2	17.4
鐵道運輸	1,296.6	1,512.2	116.6
水上運輸	145.5	179.5	123.4
その他運輸	598.5	1,092.1	182.5
國民通信業	224.3	375.0	167.2
商業	1,410.8	1,993.9	141.3
社會給養機關	515.1	395.5	76.8
金融	128.4	192.8	150.2
教育	1,351.1	2,303.0	170.5
藝術	84.5	122.0	144.4
保健	647.2	1,117.6	172.7
國家及社會機關	1,833.5	1,743.3	95.1
住宅及公共經濟勞務	394.4	753.7	191.1
その他農林業	341.5	246.0	72.0
農業	2,857.5	2,482.6	86.9
林業	196.1	247.9	126.4

平均賃銀及賃銀基金

	1933年	1938年 (豫定)	同上比率 (%)
年平均賃銀 (單位留)	156.6	346.7	221.4
賃銀基金 (單位十億留)	34.9	96.4	275.9

働機關の喪失に對する總ての場合を悉く網羅し、且其或ものに至りては被保險者の家族にも及ぶるは特徴の一に數ふべきである。

(ロ) 被保險者の範圍の廣汎なること

ソ聯邦・ロシアの社會保險は強制保險にして、全部の被保險者に對し之を適用し、苟も他人に雇はれて報酬を受くる者は國籍、労働の場所、種類、性質、期間及報酬の多寡支拂方法等の如何を論ぜず、悉く被保險者で

而して國家營造物及企業に於ける爭議の場合には労働部の機關は職業組合の請求に依り仲裁々判所を組織する。

社會保險

ソ聯邦の社會保險

ソ聯邦の社會保險法は労働法典中の一章を成し、第七十五條より第九十二

條迄全十八條の極めて簡單なるものである。今、其特徴と稱すべきものを列擧すれば、

(イ) 社會保險の總ての種類を網羅し、保險範圍の極めて廣汎なること

雇傭労働者に起り得る有らゆる生活上の事故、即ち疾病、負傷、出産、廢疾、老衰、死亡、失業は勿論傳染病に因る隔離、家族の病人看護等労働の不能及び勞

ある強制保險なるを以て雇傭せらるゝと同時に當然被保險者たるものにして被雇傭者の意志如何に依るものではない。又所謂筋肉的労働者のみに適用するにあらずして智的若くは事務的労働者等勞務に従事する被雇傭者一切を包含し、極めて廣汎に適用せらるゝものである。従つて被保險者の範圍の廣大なることは諸外國に其例を見ざるものである。

(ハ) 保險料金額が雇傭主の負擔なること 社會保險の料率は業務の種類により差等あるも、其料率の高低に拘らず、又、雇傭主が個人たると法人たるとソ聯邦・ロシア政府自身たるとを論ぜず、將又外國人たるとを問はず、保險料の全部は雇傭主の負擔に屬し被保險者は何等の負擔をも課せられないのである。是れソ聯邦社會保險法の最も顯著なる特色にして世界に比類なきものであるが、同法制定の精神に鑑みソ聯邦・ロシアとしては當然の事なりとも得ひ言るのである。

(ニ) 一時的労働不能の期間賃銀全額の手當金を給與すること

負傷又は疾病に因り若くは分娩前後の一定期間又は家族の病氣看護の爲に一時労働不能の場合或は近隣に發生したる傳染病の爲め隔離せられて一時労働不能に陥りし場合には、賃銀全額の手當を支給せらるゝものにして是亦他國に類例なき一特徴と謂はねばならぬ。

(ホ) 社會保險機關が被保險者に依り經營管掌せらるゝこと

社會保險の全機關は被保險者が一定の順序方法に依り選出したる代表者に依つて管理經營せられて居る事は、他國の企圖し得ざる特徴なりと誇稱せられてゐる。これ革命前労働者の高唱せし「社會保險機關は之を被保險者即ち労働者の手に收めねばならぬとの要求を容認したるものであるが、一面より云へば各種産業機關の大部分が國營であり、従つて有力なる事業主なきソ聯邦・ロシアに於て又政府當局者自身が悉く被保險者たる關係より觀れば敢て異とするに足らざること他に比類なき國情を有するものゝ當然の結果とも謂ひ得るのである。

保險料

社會保險經營に要する全費用は保險料に依り支辨せらるゝのである。ソ聯邦の社會保險料は被保險者の報酬に保險料率を乗じ算出するものにして賃銀比例主義によるものである。而して保險料率には二種類あつて、一は被保險者の従事する企業の種類、性質、即ち危險、有害の程

度に應じて定むる正規料率で、四等級に分類せられ、特に保護を必要とする特殊企業を除きたる總ての私、國營商業、國營輕工業、一般企業の従業者に適用せらるる正規の保險料率で賃銀の一六乃至二二パーセントである。

他の一は政策上保護助長すべき特殊企業に對し、負擔輕減の目的を以て特に規定する低率の料率、即ち特定料率であつて一〇乃至一四パーセントに過ぎないので、保險料全額を負擔すべき事業主にとつては尠なからぬ負擔輕減となるのである。特定料率を適用せられるのは國營金屬工業(一〇%)、電氣機械工業(一〇%)、交通省管理の各種運輸企業(一二%)、家庭労働(保母、下女、乳母其他)(一〇%)等である。

労働組合

労働をもつて立國の大本とする現在のソ聯邦に於ては労働者の組織機關たる労働組合(職業組合)の規模は極めて廣汎なものがあつて、その勢力も亦絶大であ

る。レーニンはプロレタリア獨裁制下に、おける労働組合の役割を評して「共産主義の學校」なりと云ひ、又、第二回全露職業組合に於て「労働組合は新しき社會の主要なる建設者である。何となれば新社會の建設者は數百萬の大衆に外ならぬからである」と云つてゐる。斯の如く労働組合の意義は重要である。然らば此労働組合は如何なる組織になつてゐるのであるか。労働組合は同一企業、若くは同一種の職業に従事する労働者により組織せられる所である組合の最高機關は職業組合大會であつて、同大會に於て組合中央委員會を選出する。該委員會は各組合の代表者として各國家機關、大會々議等に出席する權利を與へられてゐる。而して全聯邦労働組合の最高機關は「聯邦労働組合中央委員會」である。

労働組合の機能は、團體雇傭契約を締結せる當事者、即ち労働者の名に於て、各種の機關に對し行動し、又、労働及び生活上の問題に關し労働者を代表する。猶ほ労働組合に關しては労働法第十五章

に其規定が掲げられてゐる。
現在千九百萬人の全聯邦労働組合の組合員増加趨勢は左の通りである。
(單位千人)

一九二八年一月(第一回大會當時)	二,五〇〇
一九二九年一月(第二回大會當時)	三,四〇〇
一九三〇年四月(第三回大會當時)	四,二〇〇
一九三一年五月(第四回大會當時)	八,五〇〇
一九三二年九月(第五回大會當時)	五,〇〇〇
一九三三年七月(第六回大會當時)	六,〇〇〇
一九三四年三月(第七回大會當時)	九,〇〇〇
一九三五年五月(第八回大會當時)	一〇,五〇〇
一九三六年四月(第九回大會當時)	一六,五〇〇
一九三七年一月	一七,八五五
一九三八年一月	一九,〇二五

全ソ労働組合中央會議

ソ聯邦各人民委員部中重要な位置を占め且つ日本の對ソ利權企業と利害關係淺からぬ労働人民委員部は一九三三年六月二十三日全聯邦労働組合中央會議に合併、九月七日聯邦人民委員會議と全聯邦労働組合中央會議の決議によつてこの合併後ソ聯邦労働人民委員部の所管事項中

全聯邦中央労働會議に移管されたもの、内容を發表した。大要左の如し。

- 一、一九三三年九月十五日より全聯邦中央労働組合並に同中央委員會に社會保險の全事業を移管すべし
- 二、社會保險の指導は労働組合中央委員會に集中し、生産別原則によつて該事業を行ふべし。
- 三、全聯邦労働組合中央會議に社會保險關係豫算と保險料金の制定權を與ふべし
- 四、社會保險料金は生産組合の負擔により全支辨者により國立銀行に預金すべし
- 五、合併前社會保險諸機關が享有してゐたあらゆる權利特許及び財産を組合機關に與ふべし
- 六、労働監督の一般指導權を全聯邦労働組合中央會議に與へ、地方に於ては労働組合地方會議に與ふべし
- 七、工場設備の安全と工場衛生とは關係官廳と協力して當該労働組合中央委員會によつて決定される
- 八、全聯邦労働組合中央會議及び地方労働組合會議に團體契約の登録と同時に法律に矛盾する諸契約を廢止し得る權限を與ふること

保 健 施 設

共 和 國 別	年 (次(年未現在))	病床數 (單位千)	分娩用 床數 (療養)	常設託兒所 に於ける (單位千)		母性 及 幼 兒 保 護	醫 師 數
				床 數	座 席 數		
ソ 聯 邦 全 體	1913	175,5	6,8	0,55	0,55	9	19 785
	1932	140,8	42,7	558,0	600,9	3 265	70 627
	1937	618,1	121,7	723,7	748,2	4 384	105 567
ロシヤ 共 和 國	1913	128,8	5,5	0,55	0,55	6	12 991
	1932	294,0	30,5	426,8	459,0	1 767	43 502
	1937	423,5	73,8	463,2	477,0	2 423	60 286
ウクライナ 共 和 國	1913	36,8	0,96	—	—	3	5 192
	1932	67,3	6,9	57,0	82,2	663	16 654
	1937	112,0	27,8	112,5	116,8	836	21 621
白 露 共 和 國	1913	3,3	0,09	—	—	—	495
	1932	10,5	1,1	10,3	11,4	111	1 750
	1937	17,3	3,3	51,3	51,6	132	2 367
アゼルバイヂヤン 共 和 國	1913	1,1	0,04	—	—	—	291
	1932	6,6	0,6	6,1	6,7	58	1 563
	1937	10,0	1,5	11,0	12,1	65	2 669
グルジヤ 共 和 國	1913	2,1	0,1	—	—	—	351
	1932	6,9	0,4	3,7	4,1	90	2 333
	1937	10,4	1,1	6,8	8,1	147	3 415
アルメニヤ 共 和 國	1913	0,2	—	—	—	—	57
	1932	1,6	0,15	1,2	1,4	24	461
	1937	2,9	0,5	2,9	3,6	35	710
トウルクメン 共 和 國	1913	0,3	0,01	—	—	—	56
	1932	2,1	0,2 ²	4,3	4,3	36	367
	1937	3,9	0,6	7,7	8,6	48	528
ウズベク 共 和 國	1913	0,9	0,06	—	—	—	128
	1932	9,3	0,9	11,7	12,8	122	1 659
	1937	15,8	2,0	28,5	29,7	163	2 301
タヂク 共 和 國	1913	0,1	—	—	—	—	13
	1932	2,0	0,1	1	2,0	—	243
	1937	3,2	0,4	4,5	4,5	42	392
カザフ 共 和 國	1913	1,8	0,03	—	—	—	196
	1932	9,0	0,6	6,0	6,0	50	771
	1937	16,3	2,8	11,1	11,1	85	1 362
キルギズ 共 和 國	1913	0,1	—	—	—	—	15
	1932	1,6	0,2	0,5	0,5	12	224
	1937	2,8	0,5	2,0	2,0	29	315

(註) 聯邦構成共和國關係の數字は療養床を除く、1932年及1937年の數字は鐵道運輸の分を含まざるも右數字は聯邦の合計數に包含す

- 1 分娩用床に關する資料なし
- 2 1933年

九、全聯邦勞働組合中央會議は全聯邦國民經濟會議の承認を経て國家計畫委員會の提出にかゝる勞働計畫の決定を全聯邦人民委員會に提出する

十、今後全聯邦勞働組合中央會議はソ聯邦政府の承認を経て社會保險及び勞働保護に關する行政費豫算を作成し提出する。

勞働者保健療養施設

勞働と休息の權利を憲法に明文化してゐるソ聯邦の勞働者保健療養施設は都市に農村に逐年増加してゐる、最近諸年に於ける諸施設状態を表示すると左の通りである。

一九三七年に於ける状態は、病床數六一八・二〇〇、産院床數二二二、七〇〇、常設托兒所床數七二三、七〇〇、同座席數七四八、二〇〇、母性及幼児保護醫療相談所四、三八四ヶ所、醫師數一〇五、五六七人である。

勞働法改正案

一九三八年十二月ソ聯邦各新聞紙は勞働法改正の必要を一般勞働者の聲として掲げたが、差詰め問題となつてゐるのは勞働婦人の妊娠時における休養期間の短縮である。法律によれば産婦は四ヶ月間の休暇とその間の手當を與へられることになつてゐるが、勞働法發布當時は産院、乳幼児に對する施設等が未だ發達せず、従つて産婦の休養期間を多くしたものである。しかるにこれらの施設が發達してゐる現在では長期に過ぎ、その間健康を恢復せる産婦が轉職したり種々の弊害があるといふのである。

勞働徽章制定

ソ聯邦最高會議は一九三八年十二月二十七日附決議をもつて經濟、文化建設方面における最高功績を表彰するために『社會主義勞働の英雄』なる稱號を制定、同稱號を受けるものは同時にレーニン勳章およびこれに伴ふ特典を享受する旨を發表、また右のほかは『勞働勇敢章』『勞働有功章』の二勳章制定をも公表したが右は最近勞働規律、能率強化のために諸種の方策が執られてゐるために勞働者に對する取締りが嚴重となりその志氣が萎縮したので、今度は逆にこれを鼓舞せんとしたものと見られてゐる。

規律振肅新法令内容

勞働規律、生産力及國防強化の三大目的を以てソ聯邦人民委員會議長モロトフ全聯邦共産黨中央委員會書記長スターリン、職業組合全聯邦中央會議書記長シュエルクの連署を以て一九三八年十二月二十八日發布、一九三九年一月一日より施行の「勞働規律調整、國家社會保險改善及是が惡用絶滅に關する」大なる法令は十二月二十九日のソ聯邦主要紙巻頭數段に互り大々的に掲げられたが、その内容は次の如く二十六條より成る。而して此新法令は一月十五日より施行の勞働手帖制度と連關を有するもので、ソ聯邦勞働者及従業員に對する勞働の自由剝奪及強制的法文化であると稱せられてゐる。

勞働振肅令全文

(一九三八年十二月廿八日發令)
(一九三九年一月一日より施行)

一、本法令は勞働八時間制、七時間制及六時間制(七時間制大多數を占む)各種同業及機關における勞働者及従業員に適用するものにして、理由なき出勤時間遅刻、晝食時間前外出及時間後歸社、定刻前退出及勤務時間中怠業する者は專務當局によつて譴責或は違反反覆の場合職首すべしとの戒告をなし或は三ヶ月以内他の下級にして低額給與の仕事に轉せしめるか、又は下級職務に引下げしむ、一ヶ月間前記の事項違反三件に對する時は怠業者、勞働法違反者として職を免す。

企業指導者の責任に就て

二、本法令及一九三二年十一月十五日附免職に關する法令適用を忌避し、これを怠りたる當該企業、機關、職場、部の指導者は上級機關に對し免職及裁判に附される迄責任を負ふ。

自己の意志による退職

三、勞働者及勤務員にして退職を希望するものは此旨專務當局に對し一ヶ月前に通告する義務あり。

理由なく免職せしめたる場合

四、充分なる根據なく勞働者及勤務員を免職せしめたる場合、失業期間に對し二十日間分を越えざる範圍に於て平均賃銀を支給す、此場合專務當局、工場委員會、調停委員會は不當の職首に對する訴願を到着の日より三日以内、裁判機關は五日以内に審理を開始すべし

一時勞働能力喪失の場合

五、職業組合員たる勞働者及び勤務員にして一時勞働能力喪失の場合受ける給與は(妊娠時及産後の給與を除く)當該企業或は機關に於ける勤続年限により次の限度内において支拂はれるものとす。

六年以上	賃銀の一〇〇%
三―六年	八〇%
二―三年	六〇%
二年以内	五〇%

未成年者に對する場合

六、職業組合員にして十八歳以下の未成年者に對する前記第五項の給與は當該企業機關における勤続年限に従ひ左の如く支拂はる、即ち二年以上―賃銀八〇%、二年以内―六〇%、但し前記勤続年限には工場附屬學校における教育期間を含む。

炭礦勞働者の場合

七、炭礦地下勞働者(職業組合員)にして前記第五項の給與は當該炭礦における勤続年限に従ひ左の如く支拂はる、即ち二年以上―一〇〇%、二年以内六〇%。

新規開業工場勞働者の場合

八、一九三三年一月一日以後開業せる工場勞働者、勤務員(職業組合員)にして一九三六年一月一日以前に就職し、爾來勤続の者一時勞働能力喪失の場合の給與は五年以上―一〇〇%、三―五年以内―八〇%。

非職業組合員勞働者の場合

九、職業組合員ならざる勞働者及勤務員

にして、一時労働能力喪失の場合(妊娠時及産後の給與を含まず)職業組合員に適用する限度に比例しその半額を支給す。

轉任の場合勤続年限

一〇、一時労働能力喪失の場合支給する給與を決定するに當り勤続年限は労働者或は勤務員が當該經濟機關又は官廳の命令により他に轉任する場合をも計算す。

再就職者の給與

一一、労働規律違反又は犯罪により解職せられ、或ひは自己の意志により退職したる労働者、勤務員は新規就職後六ヶ月以上働きたる後一時労働力喪失の場合給與を受ける権利を有す。

退職者の住居立退き

一二、労働者、勤務員にして當該企業における仕事の關係上國營企業、官廳、公共機關附屬の住宅に居所を與へられたる者が、本法令發布後自己の意志により退職或は労働規律違反及び犯罪により解職せられたる場合十日間の期限

をもつて立退かざるべからず、この際他の住宅の提供をうけることなし。

休暇の享受

一三、定例休暇の権利は當該企業における就職十一ヶ月後享受する。

産婦の休暇及び給與

一四、毎年規定の休暇のほか女子労働者、女子勤務員には妊娠及び出産の場合出産前二十五日、出産後二十八日の休暇を與へこの期間國費をもつて規定の範囲内における給與を支拂ふ。

二ヶ年以上勤続者の特權

一五、二ヶ年以上同一の企業又は機關に勤続したる労働者、勤務員は特に「休息の家」への旅行バスを交付さる。

本法令公布前の休暇

一六、本法令公布の前一時労働能力喪失(疾病、妊娠、分娩等)の場合の休暇の場合の休暇の開始前迄施行の規定に従ふ。

利權企業労働者及び勤務員

一七、個人雇主の家に働く労働者、勤務員(家庭内労働婦、利權企業労働者及び勤務員)に關してはソ聯人民會議確認の職業組合全聯邦中央會議發布の特別規定を適用す。

恩給者の受ける追加金

一八、第一、第二類の一般疾病による労働不能者は恩給要求に際し同一業又は官廳における勤続年限に應じ左記追加金を受く。

労働の種類

△第一類—地下労働有害労働に従事する労働者、勤務員

△第二類—製鐵、機械製作、電機、石炭、鑛業、石油、基礎化學、ゴム、鐵道、水運、郵電労働者、勤務員

勤続年限

十五年乃至十五年

十五年乃至十五年

四年乃至八年
八年乃至十二年
十二年以上

恩給額に對する追加金

二二— 五〇〇 % % %

二一— 〇五〇 % % %

△第三類—前記外の労働者、勤務員

恩給要求前五年以上同一企業或ひは官廳に勤続せる恩給受領者は温泉療養所パスを受ける特權を有す。

十五年以上十五年

二一— 〇五〇 % % %

職務上労働不能となりたる場合

一九、労働者、勤務員の労働不能による恩給は左記勤続年限の場合支給さる。

地下労働及有害労働

年 齡	男	女
二十歳より二十二歳迄	三	二
二十二歳より二十五歳迄	四	三
二十五歳より三十歳迄	六	四
三十歳より三十五歳迄	八	五
三十五歳より四十歳迄	一〇	七
四十歳より四十五歳迄	一二	九
四十五歳より五十歳迄	一四	一一
五十歳より五十五歳迄	一六	一三
五十五歳より六十歳迄	一八	一四
六十歳以上	二〇	一五

恩給者と社會保險規定

二一、本法令第一八及び二〇條恩給者の勤続年限追加金及び賃銀計算上の特權に關する規定に關聯し一九三二年二月二十九日付社會保險聯邦會議法令第四、六、八、一三、一九及び二〇條に規定せる各種恩給及び再計算は適用されず、既に算入決定済となれる追加金は從前の範囲内において支拂はれるものとす。

恩給受領權喪失

二〇、老年による恩給決定後勤務する恩給受領者に對する前記恩給は賃銀と關係なく支拂はるものとす、労働不能者協同組合より受ける家庭内仕事に對し第一、第二類に屬する労働不能者の賃銀が、一ヶ月百ルーブルに未滿なる時

恩給受領者勤務の場合

二三、ソ聯邦における恩給保障の一般水準向上の場合恩給の限度及賃銀の水準

が現在より著るしく低かりし數年前に
恩給受領者となりし者に對し、國營社
會保險による恩給はその恩給權決定期

恩給者の種類

- 一、老齡、年功による恩給者
及び第一類勞働不能者 五〇
- 二、第二類勞働不能者 四〇
- 三、生活主を喪へる家族 留
- 四、扶養家族を
持たざる者 留

第三類勞働不能者のため國營社會被保
險による恩給は一ヶ月二十五留より少
からざるべし。

勤務せざる恩給受領者

二四、企業或ひは官廳に勤務せず、又國
營社會保險恩給を受ける恩給者に對す
る恩給及び給與支拂に要する費用並に
これ等の恩給受領者に對する療養所、
温泉所費は國營社會保險の費用を以て
社會保障機關により支拂はるるものと
す。

本法令施行による收入

二五、本法令施行と共に收入する國營社
會保險資金關係一切の經濟は政府支出
金のほか職業組合によつて勞働者、勤

の如何に拘らず、一ヶ月左記より少か
らざる限度において支給されるものと
す（一切の追加金を含む）

- 一、扶養家族一
名を持つ者 留
- 二、扶養家族一名
以上を持つ者 留

務員の住宅、托兒所、幼稚園の追加建
設のため利用すべし。

二六、本法令は一九三九年一月一日より
效力を發生する。

勞働手帖制度

（一九三九年一月十五日發令）

ソ聯邦では近年勞働者及一般勤務員の
怠業續出による産業不振及事務滯滞の對
策と反政府陰謀取締を兼ね勞働手帖制度
を採用し、一九三九年一月十五日よりソ
聯邦人民委員會議令をもつてこれを全國
勞働者及勤務員二千五百萬人に施行する
に決定したがその内容は左の如く極めて
嚴格なもので、勞働者及勤務員はこの勞

働手帖制度によつて不動の金縛りに會ふ
ようなもので、相當不平の聲が上つ
てゐるがそれは未だ、表面化してゐない
模様である。

一、勞働手帖は一切の國營企業、コペラ
チヴ企業、諸官衙の勞働及勤務員に對
し當該企業及官廳より交付するものと
す。

二、勞働手帖には姓名、年齢、教育程度、
職業、勞働成績、轉職理由、賞與を記す。
三、勞働者及勤務員の採用は勞働手帳に
よつて行ふ、猶初めて職に就かんとす
る者は家屋管理局又は村ソヴエト交
付の最近の職業に關する證明を提出す
べし。

四、勞働手帖は五日以上季節又は臨時た
るとを問はず勤務する者にも適用す。
五、勞働手帖は當該企業（官廳）事務部に
保管し、退職の場合手交す。

六、勞働手帖交付は五十哥を徴收す。
七、勞働手帖紛失の場合は二十五留の罰
金を課す。
八、勞働手帖を惡用又は他人に貸與し、

又は偽造し、改竄したる時は刑事上の
犯罪を講成す。

振肅令修正緩和

ソ聯邦政府は勞働規律振肅及び社會保
險改善に關する法令で遅刻十分乃至十五
分迄は許しそれ以上は怠業と認める旨を
規定したが、この規定は各都市交通機關
の不備や、元來時間的觀念の稀薄なソ聯
邦人には到底完行されず、法令公布翌日
より各地方工場の勞働者は元より責任の
地位にある黨出身幹部まで遅刻する醜體
續出に鑑み政府は一月九日遅刻修正の命
令を發した、すなはち

- 一、特別の理由なき遅刻に對する處罰は
二十分を越えざる遅刻に對しても適用
す（五分間遅刻延長）
- 二、理由なく二十分以上遅刻したる者は
勞働に参加せしめず怠業者と見做し、
直ちに減首す。

勞働規律違反に對する聯
邦檢事命令

勞働規律違反處罰に關する人民委員會

議、黨中央委員會及勞働組合中央評議會
の決定に關し聯邦檢事ヴィンスキーは
各地方檢事、鐵道檢事、水運檢事及軍事
檢事に命令を傳達し、勞働規律違反者を
罰せざる企業、施設、職場及部の指導者
の刑事責任を問ふべき旨提言した。聯邦
檢事は此の種指導者を露西亞共和國刑法
第九條及第一百一條若くは他の聯邦構
成共和國刑法當該條項に依り責任を問ふ
べきことを命じた。

れてゐたが、一月十四日ブラヴダは重
工業人民委員カガノウイチカ、一月十
三日附布告を以て其の管轄下の諸企業に
於ける前記決定實施上の缺陷を指摘し數
人の責任者に對し處分を加へ且同日附を
以て勤務員の勞働規律振肅に關する具體
的方法を示せる布告を發したことを報道
して以來各人民委員部に於ても之に倣ひ
連日同趣旨の布告をブラヴダに發表して
ゐる。右の布告は何れも從業員の出勤、
退出時間の調査を嚴重ならしむる爲出缺
調査員を置き各主任は其報告に基き作業
開始後一定時間内に部下の出缺を上官に
通知することを決定した。

勞働規律振肅に關する各
人民委員部布告

勞働組合中央評議會第八
回總會

勞働規律振肅に關する一九三八年十二
月二十八日附ソ聯邦人民委員會議及黨中
央委員會の決定公布後に於ても各企業の
責任者等に於て右決定違反者の處分を等
閑に附して居る爲效果少いのを鑑み、各
紙上に連日責任者を非難する投書掲載さ

一九三九年四月二十二日より二十八日
迄開催せられた。全聯邦勞働組合中央評
議會第八回總會は「第十八回黨大會の決
議に關聯する組合活動の諸方針」並に「來
るべき組合諸機關の選舉方針」の二事項
を議題とし特に第三次五ヶ年計畫の完全

なる遂行を保障すべき經濟生活上の諸方策の確立及之が闡明を以て其の主要任務と規定したるが二十八日採擇せられたる同總會決議の要旨は左の如くである。

- (一) 第十八回黨大會に於ける「スターリン」の報告及大會決議事項の一般大衆に對する宣傳解説
- (二) 社會主義的競争、「スターハーフ」運動の集團化「スターハーフ」的作業方法
- (三) 發明の獎勵援助
- (四) 諸工場諸企業に於ける機械設備共同検査制の普及
- (五) 作業の休止乃至空過防止の諸方策
- (六) 労働規律の強化振肅の嚴格なる實施
- (七) 社會保險制度の活用就中勤続年限に依る傷病手当金支給制の的確なる實施
- (八) 賃金制度の調整及確立並に右に關聯し組合機構中「大衆—生産部」と「賃銀部」とを併合すること
- (九) 組合積極分子の養成及指導特に黨中央講習會の廣汎なる組織
- (一〇) 文化事業の刷新就中諸企業附屬の労働者俱樂部の設備改善
- (一一) 熟練工養成事業(熟練工八百萬計畫)

に對する積極的援助

- (一二) 一般知識水準の中等教育程度への引上、普通教育の夜學及講習會の廣汎なる組織(當該人民委員部及教育人民委員部と協議すること)
- (一三) 第十八回黨大會の指摘せる主要産業部門(工作機製作、化學工業、特殊鋼生産)に對する協力
- (一四) 知識層の役割の重要性に鑑み此の方面に於ける、組合活動を強化刷新すること右目的を以て勤務員組合、露西亞共和國醫療勤務員組合、露西亞共和國中等學校勤務員組合、農業機關勤務員組合、通信勤務員組合等に細分すること
- (一五) 文化、生活狀態改善事業方面の活動強化、就中住宅兒所等の建設及食堂、賣店等經營狀態に對する大衆的監督制の組織強化
- (一六) 組織活動の強化及組織率の増進、一般集會の決議を以てする組合除名手續の嚴守
- (一七) 一般労働大衆に對する軍事訓練の組織

スターハーフ運動の新段階

一九三九年九月二十三日の「ブラウダ」は多數機械受持運動の擡頭に關し左記の

如き要旨の社説を掲げ居る。

一九三五年八月「スターハーフ」運動發生してより今日に至る四年間に於て該運動は幾多優秀なる新労働形式を生んで來たが目下前衛的機械製作工業労働者間には受持機械増加運動なるものが展開せられあり、例へば「カリーニン」名稱「フレイゼル」モスクワ工場に於ては一七九名の男女「スターハーフ」労働者が九九〇臺の工作機械を操作し居る如きが是である。この運動の發生經濟に付ては本年六月「オルヂョニキツゼ」名稱「ウラル」機械製作工場及「モロトフ」名稱「ハリコフ」工場の個々の「スターハーフ」労働者が殆んど時を同うして夫々數臺の工作機械受持労働を開始し、次で他の諸工場に於ても右の労働形式が漸次採用せらるゝに至つたものであつて多數機械受持労働者の現はれたる工場は「スターリン」名稱「ノヴォ・クラマトルスク」工場「オルヂョニキツゼ」名稱莫斯科工作機械製作工場、莫斯科研磨製作工場「クイブシエフ」名稱「コロムナ」機械製

作工場、「オルヂョニキツゼ」市「クラヌイ・プロフィンテルン」機關車製造工場等である。而して右の新「スターハーフ」労働形式が成果を擧げんが爲に必要なるものは

- (一) 労働部署並に時間に對する嚴密なる配慮
- (二) 多數機械受持労働に移るに際し當該労働者の嚴重なる技術的準備
- (三) 機臺の合理的配置
- (四) 當該職場又は工場事務所側の指導方法の再検討等である。

目下行はれ居る多數機械受持労働への移行は「ソ」聯國民の高度の意識性及深き愛國精神の表現であると自讃されてゐる。

労働組合大會

労働組合大會に關し十月三十一日の「ブラウタ」は左記要旨の社説を掲げて居る。

「モスクワ」、「レニングラード」、「ハリコフ」、「トウーラ」、「ノヴォシビルスク」其他の工業中心地に於て労働組合

大會開催中に於て過去數年間に於ける組合業務を綜合して「ポリシエヴィク」的自己批判を行ひ指導機關を選出し來るべき第十回全聯邦労働組合大會に出席する代表を決定する。

労働組合員の數は約二五〇萬に達し黨は組合に對して絶大の信頼を寄せ名譽ある任務を課し第十八回黨大會に於て決定せる第三次五ヶ年計畫遂行に依る共產主義社會建設への努力に寄與せしむとしてゐる。第三次五ヶ年計畫達成の爲には労働生産性の向上労働規律の強化、社會主義競争「スターハーフ」運動の振興、勤勞大衆の物質的文化的水準の向上を圖る可く最近「スターハーフ」運動の新形態實現され多數の機械を受持ち兼務を行ひ「コンヴェア」の受持區域擴大等により將來の成果を期待せられてゐる。

労働組合は自己の任務の重大性を認識し黨の大事業を援助しなければならぬ、組合の職員中には其自覺に於て缺ける者無しとしない。黨は近年黨に於

て訓練せられた新幹部を労働組合に送りその改善に資する處があつた。

スターハーフ運動の新形態

一九三九年十一月五日「ブラウダ」紙上に於て「ルビンシュテイン」は左記要旨の論説を發表した。

第一回全聯邦「スターハーフ」運動に對する徹底的分析と論究を試み其將來性に關し必ずや奇蹟的の一大飛躍を以て發達を遂ぐべきことを豫見した。爾來四年間に於ける「スターハーフ」運動は全國の凡ゆる産業部門及労働者勤務員知識階級全般に互り量的及質的に發達昂揚せられ生産作業組織に於て將又新技術の研鑽習得に於て絶大なる功獻を齎した。而して個人的「スターハーフ」運動は年を逐ふて團體的運動に轉化し各企業に於ける「スターハーフ」學校の組織を見るに至つたが過去に於ける技術の蓄積は遂に今日の「スターハーフ」運動新形態を現出するに至つた。新形態は相互に密接に關聯せる二つの形式にあり、即多數機臺操縱

及兼職制度である。

多數機臺受持制度は一九三九年六月ウラルのオルヂョニキツゼ名稱機械製作工場及ハリコフのモロトフ名稱機臺製作工場に於て試みられ次て機械製作企業に傳波したものであるが真に一般的運動として大衆的参加を見たのは記念すべき九月の西ウクライナ及西白露に對する赤軍援護の爲犠牲的勞働奉仕を奨勵せる際に各工場は續々本運動を開始するに至つたものである。然し過去に於けるスタハリノフ運動の發展成熟は既に充分新形態現出の素地を培ひつゝあつたものであり、唯適當の機會を待て現はれたもので偶發的現象と見做すことは出来ない。本運動は嘗てスタハリノフ運動の發生したる時と其の軌を一にして下級勞働層より自發的に起つたものである。多數機臺受持制度は連續關聯作業(自動車、トラクタ、ボールベアリング工場等)に適用して最も效果的にして機械製作工場のみならず各産業部門に於ける自動生産の發達に資する所極めて大なるものがある。

兼職制度は多數機臺受持制度の發達に伴ひ有機的に發生せる制度にして其可能性及重要性に於て前者より更に廣汎なものがあり、既設企業に於ける熟練工の不足を補ひ且生産の圓滑融通性を著しく増大せしむることが可能である。

勞働力不足と之が諸對策

ソ聯邦工業第三次五年計畫遂行に關聯し漸次前景に現れ來る問題は勞働力調達及現存勞働力使用分理化の問題である。第一及第二次五年計畫當時に於ては當時の農村が尙勞働力を充分に供給し得たがために勞働力調達の問題は差して困難を示さなかつた。

然るに農村より生活條件が比較的良好なる都市への人口移住が大規模に行はれた結果ソ聯邦の都市人口は一九二七年度の二千六百三十萬より一九三九年初頭の

五千五百九十萬へ倍加し、他方農村人口は出産率に於て都市より大なるに拘らず右期間に一億二千七十萬より一億一千四百五十萬に減少した。右は工業強化の結果農村餘剩勞働力が著しく要求せられ人口自然増加の限度を遙かに超過したことに依るものであり、農村集團化直後に大衆的性質を帯びた離村は最近急激に減少するに至つた。

然るに今やソ聯邦經濟殊にソ聯邦工業は第三次五年計畫遂行のために數百萬の新規勞働者を必要とし、之が勞働力調達は益々困難となつてゐる。其の結果工業に従事してゐる勞働者數は目下の處計畫數に達せず多數の企業管理者は勞働力の慢性的不足に悩みつゝある。之が爲ソ聯邦政府は工業に對する必要勞働力の供給を確保するため、本年度に於て徹底的方法を採用し各種の重要法律を發布した。之に屬するものは先づ一九三九年五月二十七日附のホルホーズ法律にして右は一定の最小限勞働量を遂行せざるホルホーズ員はホルホーズ員たる資格を喪失すべ

き旨規定してゐる。之が目的は農村人口の更に大なる部分をソ聯邦工業勞働のために解放せんとするにあるものである。勞働力不足を除去するための方策として更に工業に於ける婦人使用の強化がある。婦人勞務者數は第一次五年計畫當初以來三倍に増加し既に約九百四十萬に達し炭坑に於ては婦人の比率は二四・五%を示してゐる。最近ソ聯邦各紙は婦人を更に多數フクヴェト工業特に林業及重工業の各部門に使用すべきことを論じてゐる。

更に第三の方策としては勞働力を節約する各種の方策がある多量の勞働力を必要とする生産過程を更に機械化し又勞働力を更に合理的に使用し且つ勞働日を更に有効に利用することに依りソ聯邦工業自體に於て勞働力を解放し其不足を除去しようとする努力しつゝある。

生産過程機械化の新方策は就中炭坑、鑛山、鐵工業、有色冶金等に於て實施中である。

ソ聯邦政府は既に一九三八年末に於て

勞働能率増進のために廣汎な方策を採用した。十二月二十日の法律に依る勞働手帖制度の採用は勞働者の流動を防止せんとしたものである。次に十二月二十八日の法律は更に効果著しいものにして之は勞働條件を本質的に強化せしめた。更に重要な方策と機械工業の全部門及爾餘の若干工業部門に於て行はれた生産規準引上げと之と同時に引はれた出來高拂賃銀の引下げである。例へば一九三九年二月一日以降機械工業の生産規準は平均二七・七%方引上げられた。(重機械人民委員

類三一・七%中機械二七・一%、一般機械二九・一%)。最後に勞働能率増進に資したものととしては一年中を通して行はる「スタハリノフ勞働」及「社會主義競争」のための宣傳並に一九三八年十二月二十七日の法律に基く「社會主義勞働の英雄」の稱號、「勞働功勞」章及「勞働勇敢」章の制定を擧げることが出来る。

上記の諸方策がソ聯邦工業の勞働能率を著しく増進せしめたことは疑を容れない。例へば機械工業に於ては既に本年四

月に於て全勞働者の五五%が引上げられた生産規準を超過遂行したと稱せられ織維工業に於ては一五・七%増大した。併しソ聯邦大工業の全生産量は一五・六%増加せるに過ぎず(本年度生産計畫は二〇%の増加を豫定す)右に關聯し、最近ソ聯邦は勞働能率を更に増加するため新に猛宣傳(之は同時に熟練勞働者の不足除去に役立つべし)を開始した。而して右は能率の増加を就中(一)各個勞働者が同時に若干の工作機械乃至はアグレガトを操作すること(二)企業中の若干の機能が一の勞働者に依り行はるることに依り獲得せんとするに在り各個の勞働者をして若干の工作機械を同時に操作せしむることによつて補はんとするものである。

婦人勞働問題

十一月十五日の「ブラウダ」紙は勞働法中婦人勞働の制限に關する條項の再檢討を提唱せるフリドリヤンド教授の左記の寄書を掲載したが、要旨は左の通りで

ある。

ソ聯邦に於ては從來より婦人に對し男子に對すると同様各方面の勞働及職業に對し廣大なる道が開かれ又實際上何れの産業部門に於ても婦人勞力適用の可否に付問題の發生することは極めて異例に屬した。尤も各企業に於ける婦人勞力適用の制限に關しては法規上明確に規定されて居り、一九三九年四月十日附聯邦勞働人民委員部決定中には特に困難且有害なるに付婦人の就業を許さざる作業又は職業が列擧されて居るが、右は制定後長年月を経過せるにも拘らず未だ曾て再検討を試みられたことなく今日に至りて唯ゼー・トロイツカヤの如き優秀なる婦人機關士が我鐵道運輸界に出現して初めて右職業は事實上前記の禁止表より削除せらるゝ旨の説明が與へられたることあるのみである。併し乍ら此の外尙幾多の仕事に付ても一九三二年に決定を見た婦人に對する制限が最早今日の實情に即せざることは明白にして事實過去七、八年の間に於てソ聯邦の企業の大部分は舊に機械

裝備の上に於けるのみならず、勞働條件改善の方面に於ても幾多顯著な變化を齎した爲、多くの場合に於て婦人の就勞上に於ける從來の障礙は消滅したのである。今やソ聯邦全國民に依る幾多建設的イニシアテイヴに加へ、祖國が生産事業に参加せんとするソ聯邦婦女の熱意として、益々昂揚を見つゝある秋に當り、我々は是等婦人勤勞力の合理的適用の爲凡ゆる條件の確立の必要を痛感するものである。

右の見地よりして全ソ職業組合中央會議及聯邦保健人民委員部は此の際速かに婦人の就勞制限に關する現行勞働法の再検討を行ふべきである。

勞働、勤務時間延長と一週七日制還元

全聯邦職業組合中央委員會は、一九四〇年六月二十六日長文の聲明書をソ聯邦各紙に掲げ

歐洲、亞米利加、亞細亞、阿佛利加、濠洲の資本主義世界において戰爭目的の爲め工業、交通、農業の生産増加に努め勞働時間も十時間乃至十二時間に延長し、各種武器の製造高は著しく増加し、ソ聯邦に對する戰爭の危険が増大し、且つ國際情勢が極めて不安定となつたに鑑み、我國の國防及經濟力を資本主義諸國よりも數倍強化する義務がある。

- 一、從來七時間制を採用せる企業に於ては七時間より八時間に
 - 二、有害なる勞働に従事する者を除き六時間制の處では六時間より七時間に
 - 三、官廳其他造營物の勤務人は六時間より八時間に
 - 四、十六歳に達したる者は六時間より八時間に
- なほ現行の六日目休日制は生産を低下せしめ、且つ現在でも農村では七日目休日制で都市勞働者との間に懸隔があるの

で一般に七日目休日制に變更する必要があると言ふのである。

此の勞働時間の延長に關する全聯邦職業組合の提議と同時に勞働者及勤務員が自己の意志によつて企業及官廳、諸機關より轉職することを禁止する提議が行はれたが、何れもソ聯邦政府、ソ聯邦政府最高會議幹部會の協賛を得た。

因みに勞働時間延長と一週七日制によつてカガノウイツチ名稱第一ボールベヤリング工場は三ヶ月間に製造品高を百六十萬留増加し、ヌターリン名稱自動車工場では年一萬二千臺（即ち軍隊三十萬人の輸送力）を増産することになると稱してゐる。

勞働時間延長と工場の決議

ソ聯邦の戰時體制を強化する勞働時間延長制は六月二十七日より實施されてゐるが、此の新勞働時間制に關しソ聯邦各紙は各地に行はれた集會の賛成御用決議を連日掲載してゐる。ブラウダ紙は二十

ける技師、職工、職員三千名の集合席上で行はれた賛成演説の内容を掲載してゐるが、演説者の中に對日關係を聯關せしめてゐるものがあるのは注目に値ひする。即ち同工場のシドロフ技師は次の如き演説を行つてゐる。

我々は我々の賢明ならざる隣人と哈桑湖、ハルハ河、カレリヤ地峽において闘つた、資本主義の包圍下にある吾人は何時新らしき武力的攻撃を受けるかも知らぬ、従つて坐視傍觀は許されぬ、我々は更に多數の大砲、戰車、飛行機及び總ゆる物資を生産し、神聖なるソ聯邦の大地を侵さんとする如何なる敵に對しても是を短期擊滅する準備を持たねばならぬ。

八時間勞働制及一週七日制採用、並に企業及機關勞働者職員の任意退職禁止に關する聯邦最高會議幹部會令

全聯邦勞働組合中央會議の提案に従ひ聯邦最高會議幹部會の決定すること左の

如し。

- 一、國營、協同組合經營、並に公營のすべての企業及び機關に於て勞働者及び職員は勞働時間を左の通り延長す。
 - イ 七時間より八時間に延長するもの
 - ロ 勞働時間七時間の各企業
 - ハ 六時間より七時間に延長するもの
 - ニ 勞働時間六時間の各種作業。但し聯邦人民委員會議の確認せる表に該當する健康上有害なる勞働條件の職業を除く。
 - ヘ 六時間より八時間に延長し各機關職員に適用
 - ニ 六時間より八時間に延長し十六歳以上の者に適用
- 二、國營、協同組合經營、並に公營のすべての企業及び機關に於て作業を一週六日制より一週七日制に變更し、一週の第七日を日曜一休息日とす。
- 三、勞働者及び職員が國營、協同組合經營、及公營の企業及機關より任意に退職すること、並に一企業より他の企業或は一機關より他機關へ任意に轉ずる

ことを禁止す。
企業及び機關よりの退職、或は一企業より他企業、一機關より他機關への移動には必ず當該企業の管理者或は機關の長の許可を要す。

四、企業の管理者及機關の長は左の場合に限り労働者及職員を退職を許可するの権利を有す。

イ 男女労働者或は職員が疾病或は傷痍のため、醫療、労働鑑定委員會の斷定に従ひ、從來の作業を遂行し得ず、且管理當局が同一機關或は企業内に適する他の作業を與へ得ざる場合或は老齡のため年金を受領する者が自分より退職を希望する場合。

ロ 男女労働者或は職員が高等或は中等の特別の學校に編入せられて作業を中止せざるべからざる場合。
婦人労働者及び婦人職員の妊娠及び出産に對する休暇は現行法の儘とす。

五、國營、協同組合經營及公營の企業或は機關を任意に退職せる労働者及職員は告發せられ人民裁判所の判決により

二ヶ月以上四ヶ月以下の禁錮に處せらる。

國營、協同組合經營及公營の企業及び機關の労働者、職員が相當の理由なくして缺勤せる時はこれを告發し、人民裁判所の判決によりその作業場所に於て六ヶ月以下懲治強制作業を以て處罰しその期間中労働賃銀の二五%以内を控除す。

從つて相當の理由なくして缺勤せる場合に於ける義務的職首の規定はこれを廢止す。人民裁判所に對しては、本條に掲げたるすべての訴訟を十五日以内に審理し、その判決を必ず（一）以内に（二）執行すべきことを提言す。

六、企業の管理者及び機關の長か、當該企業及び機關より任意に退職せる者或は相當の理由なくして缺勤せるもの告發を回避する時は裁判によつてこれを處罰す。
企業管理者及機關の長にして、他の企業或は機關より任意に退職して法を逃れつつある者を採用せる時また同じ。

七、本令は六月二十七日より施行す。

聯邦最高會議幹部會議長 M・カリーニン
同書記 A・ゴールキン
モスクワ、クレムリ
一九四〇年六月二十六日

八時間労働制採用に伴ふ生産基準引上並に評價引下に關する聯邦人民委員會議決定

労働時間を八時間に延長する件に關する一九四〇年六月二十六日附聯邦最高會議幹部會令の第一條に従ひ聯邦人民委員會は左の通り決定す。

- 一、労働者及職員の一日賃銀率（或は計算率）及月給額を現在の儘とすること。
- 二、労働時間延長に比例して生産基準を引上げ出來高評價を引下ぐること。
- 三、本令施行の責任を各人民委員、各企業管理者並に各機關の長に課すること。

聯邦人民委員會議長 B・モロトフ
同 事務局長 M・フロロモフ

學 術 教 育

學 術

學術研究の目的と學者の任務

ソ聯邦の標榜する學術研究の目的は一
言にして云へば共產主義社會の建設に奉仕することであり、このために、先進資本主義諸國の技術的發展を遙かに超越し、廣大なる自然の富源を開發し、國內の電化及び機械化を極度に發達せしめて筋肉労働に代へ、荒野を肥沃なる綠野に變じ、未だ嘗て知られざる大なる收穫を上げんとして行はれたものが第一次及び第二次五ヶ年計畫であつた。この計畫遂行のためにはあらゆる科學及び技術を出來得る限り發達せしめ、各部門に於ける廣汎なる學術研究の成果をも動員しなけ

ればならないし、また斯くの如き重大なる任務を果し得るものは「前衛的」學術のみであるといふのである。

その謂ふ所の「前衛的」學術とは如何なるものであるか？ 一九三八年五月十五日第一回高等諸學校職員會議參加者をクレムリンに於て引見せる際のスターリンの言に聽いて見やう「民衆より隔ることなく、民衆より遠く離ることなく、民衆に奉仕せんとし、その一切の成果を民衆に與へ、強制によることなくして自發的に悦んで民衆に奉仕する學術……古の有名な指導者達に、悠々として學術の象牙の塔に立籠り、學術の獨占者として蟄居することを許さぬものであり、古い學者達と若い學者達との結合の意義、使命、強力を理解し、我國の青年たちに學術の一切の扉を悦び進んで開放し、彼等

に學術の最高峰を征服する可能性を與へ、未來は青年學徒のものであるといふことを認むる學術、學者達が、學術の中に打建てられた傳統の力と意義をば理解し、巧みにそれを學術のために利用し、而もその奴隸となることを欲せず、古い傳統、規範、目標が陳腐となり、前進の障害となつた時には、それらを破壊してゆく果敢と決斷とを有し、新しい目標を創造し得る學術である。また「ブラウグ」紙はその社説に於て左の如く述べてゐる。「吾國の學術にとつて必要なのは深遠なる眞理を熱烈に探求し、これを發見し、勇敢に危険をも冒し、假設を利用してこれを證明し、確實性を與へ、法則となし得る人である。そして前衛的學術の代表者は、世界に於ける最も前衛的なマルクス・レーニン主義理論を把握し、辯證法的唯物論及び史的唯物論的方法によつて武装せられ、學術研究に於てこれを活用し得る人々であり、また一般大衆としつかり結びつき、彼等の生める經驗をば普遍化し、それを基礎として學術を

前進せしむる人々である。即ちソ聯邦に於ける學術を最高度に引き上げ、一般大衆と結合し、自己の達成を民衆に傳へ、レーニン・スターリンの共産黨の指導によつて共産主義社會の建設に積極的に参加すること——これがソ聯邦の學者に課せられたる任務である。

學術研究機關

現在ソ聯邦における各種學術研究機關は其の數一千を超えてゐるが、この中には(一)國家豫算によるもの、(二)國家の補助を受くるもの、(三)獨立せるもの三種があり、これを研究の種目別に分てば(イ)物理、數學研究機關、(ロ)自然科学研究機關、(ハ)人文科学研究機關、(ニ)教育研究機關、(ホ)地方誌研究機關、(ヘ)圖書館、(ト)藝術研究機關である。

而してソ聯邦に於ける最高學術機關は聯邦人民委員會直屬の「ソ聯邦學士院」である。これは一七二五年ピョートル大帝の勅命によつてペテルブルグに創設さ

學 術 研 究 機 關

(1933年1月1日現在)

共 和 國 別	學及其の研究所	内							測候所	
		各部門の研究所及其の支部								
		工 業	農 業	運 通 及 輸 送	社 會 經 濟	教 育 及 文 化	保 健	農 業 試 驗 場 及 其 他		
ソ聯邦全體	806	87	183	87	9	32	114	294	397	31
ロシヤ共和國	500	41	134	50	8	20	72	175	241	16
ウクライナ共和國	145	22	30	16	1	9	15	52	45	7
白露共和國	29	11	2	3	—	2	2	9	5	1
アゼルバイヂヤン共和國	18	4	4	1	—	—	2	7	17	—
グルヂヤ共和國	43	6	7	4	—	1	9	16	15	2
アルメニヤ共和國	15	3	2	1	—	—	2	7	10	1
トウルクメン共和國	9	—	—	1	—	—	3	5	8	—
ウズベク共和國	23	—	2	5	—	—	6	10	25	2
タヂク共和國	7	—	1	1	—	—	1	4	9	1
カザフ共和國	15	—	1	4	—	—	1	9	15	1
キルギズ共和國	2	—	—	1	—	—	1	—	7	—

れた帝室學士院をその前身とするものでモスクワに本部を置く。帝政時代の學士院はその組織内に十四の學術機關と八の委員會を有してゐたが、聯邦學士院は一九三五年には研究所三十七、圖書館二十二、獨立研究室十一、植物園三、天文臺學術委員會十六、學者協議會三、學者委員會四、地方に設置の學術研究所四十八を有するに至つた。その外に極東、ウラル、高架索には各支部が設置されてゐる。

學士院の正會員は現在八十名で、その他、各地に三百三十名の學術通信員を有し、所屬學術研究機關は大規模の優秀なる設備を有するもののみでも一八二あり、其他多數の研究、實驗所、出張所に勤務する學術勤務員の總數は約四、〇〇〇名に達し、一九三四年の右學術研究生總數は一五六名であつたが現在はその數七五四名に達し、その中、三八七名は生産に従事する傍各種學術の研究に努めて居る。尙聯邦學士院の發展を最も明白に示すものは豫算で、一九一三年に於いては百萬留であつたが、一九三五年には三千

兩次五年計畫期間中に於ける圖書館、俱樂部、劇場、映畫館 (年初に於ける)

施 設 の 種 類	單 位	1914 年	1929 年	1933 年	1938 年	1939 年	1933年に對する1938年の百分比
大衆的圖書館	千	12,6	28,9	32,9	70,0	77,6	212,8
同上藏書數	百萬	8,9	72,9	91,3	126,6	146,7	138,7
内譯、農村に於ける大衆的圖書館	千	...	20,9	23,9	26,2	61,7	235,1
同上藏書數	百萬	...	25,4	31,0	43,0	49,2	138,7
俱樂部	千	0,2	34,5	53,2	95,6	103,7	179,7
内譯、農村に於ける俱樂部	千	...	30,0	47,8	88,2	95,3	184,5
博物館		180	812	732	761	794	104,0

五百萬留に上つてゐる。聯邦學士院に準すべき同種機關は白ロシヤ學士院とウクライナ學士院である。この兩機關は革命後に新設されたもので、各々自國に於ける學術上の最高機關である。

學士院外の學術研究施設としては、各人民委員會所屬の學術研究所がある。一九二八年には其の數二百二十四であつたが、一九三二年末には七百七十を數ふるに至つた。就中重工業人民委員會の百五十一、勞働人民委員會部の六十九、農業人民委員會部の七十六、ロシヤ共和國保健人民委員會部の百等は近年増設されたものである。またマルクス主義研究機關の設備は、政府の最も努力せる所であつて、巨額の費用をこれに投資した。右機關中最も權威のあるのは共産主義アカデミーであつた。共産主義

アカデミーは一九一八年の創設にかゝり、聯邦中央執行委員會に直屬し、その會員は悉くマルクス主義一流の理論家で、一切の學術部門を網羅し、各部門に就きマルクス主義的方法論を研究、且つこの方法により學術研究を行ひ、幾多の研究所支部を包括し、之に附屬する多數の學會を指導して來た。然るに三六年二月、ソ聯邦人民委員會議並に全聯邦共産黨中央委員會は、ソ聯邦學士院及共産主義アカデミーの兩者が並立的に存在することの不合理を認め、學術研究所、(一)科學、技術史研究所を設けることになつた。次に主なる學術研究機關に就いて述べて見よう。

ソ聯邦學士院

一、任 務

- 1、前衛的ソヴェート科學の最高研究機關たること。
- 2、その學術的達成により共産主義社會の建設に積極的に参加すること。

二、組 織

- 3、ソ聯邦に於ける未開の自然資源を調査し研究すること。
- 4、一般大衆と常に緊密に結びつき彼等の生める貴重な経験を基礎として學術を前進せしめ、新らしき前衛的學術の戰士を養成しその指導をなすこと。
- 5、學術的業績の發表と出版。

社會科學部、數學及自然科學部、技術科學部の三學部より成り、更に社會科學部は(1)經濟學及法律學、(2)言語學及文學、史學及哲學の三科に、また數學及自然科學部は(1)數學、物理學及び天文學、(2)化學、(3)生物學、(4)地質學及地理學の四科に分たれ、これに直屬する學術研究所は五十八(獨立せる多數の實驗室を除き)、博物館は二十に達し、また各共和國及び地方内に支部及出張所を有してゐる。その主なるものは左の如くである。

- 物理學の研究)
- 2、地理學研究所
 - 3、化學研究所
 - 4、マール物質文明史研究所
 - 5、高架索歴史考古學研究所
 - 6、トビリシ言語學研究所
 - 7、露西亞及隣接國人種調査常設委員會
 - 8、ソ聯邦自然生産力研究常設委員會(ソ聯邦自然富源の研究、實驗、研究機關の統一等を行ふ)
 - 9、地質學研究所
 - 10、東洋學研究所
 - 11、其他の委員會
 - 12、博物館
- 「常設地震委員會」、「常設北極委員會」、「バイカル湖探検委員會」、「學術探検委員會」、「熱帶國研究委員會」、「プーシユキン及ツルゲーネフ著作出版委員會」、「スラヴ研究委員會」、「國立考古學委員會」、「常設歴史委員會」、「露西亞ウイザンチン歴史辭典委員會」、「東洋學者委員會」、「露西亞語辭典出版委員會」、「方言表作成委員會」、「舊露語研究委員會」
- 「植物學博物館」、「動物學博物館」、「地質礦物學博物館」、「人類學、人種學博物館」、

- 13 文學研究所(舊プーシユキンの家)
- 14、試 驗 所
「植物生理試驗所」、「動物學試驗所」、「生理學試驗所」
- 15、「セヴストーポリ生物學研究所」、「太陽研究國際同盟支部」
- 16、圖書館(藏書三百五十萬卷)、書庫、出版部
- 17、以上の外「天文觀測所」、「水理學研究所」、「國立ラヂオ研究所」
- 18、主なる支部、極東、アルハンゲリスタ、コーラ半島、ウラル、カザフスタ、ゲルシヤ、アルメニヤ、アゼルバイヂヤン、タヤクスタ等

三、職 員

ソ聯邦學士院は、A、正會員、B、名譽會員、C、通信會員、D、學術勤務員の四種より成る。

A 正 會 員

ソ聯邦の市民にして重要な發見をなし學術上に貢獻したる者より選舉す。定員一三〇名

四、管 理

- B 名 譽 會 員
- ソ聯邦市民又は外國人にして世界的貢獻をなしたる者より選出す
- C 通 信 會 員
- 學會に名聲ある學者中より選舉す。定員三三〇名
- D 學 術 勤 務 員
- 有功なる研究又は實驗をなし、或は専門學識を以て有名なる者にして學士院の事業に參與す。現在約四〇〇〇名
- その最高權を有するものは幹部會である。一九三九年二月二十八日の學士院總會に於て決定されたるその會員は、左記の十七名である。
- 1、ウエー・エル・コマロフ(學士院々長)
 - 2、オー・ユー・シユミット(第一副院長)
 - 3、イー・エム・グブキン(第二副院長)
 - 4、イー・アー・チュダコフ(第三副院長)
 - 5、アー・エヌ・バツハ
 - 6、アー・エヌ・コルモゴロフ
 - 7、ペー・イー・ステエバーノフ
 - 8、エル・アー・オルベリ

五、特 權

學士院は郵便物の發受に對して郵税を免ぜられ、且つ其の發受する印刷物、手寫物等は檢閲を受ける必要がない。

六、定期刊行物

現在發行のものは左記の三〇種である。(括弧内の数字は一年の發行回数を示す)

- 學士院通報(一二)、學士院報告(露西亞語版)(三六)、學士院報告(外國語版)(三六)、數學論叢(六)、數學雜誌(六)、地質學雜誌(六)、地理學及地球物理學雜誌(六)、物理數學講述雜誌(一二)、化學講述雜誌(一二)、一般生物學雜誌(六)、實驗生物學雜誌(六)、實驗生物學雜誌(六)、動物學雜誌(六)、自動機械學と通信機械學(六)、技術科學部雜誌(一〇)、天文學雜誌(六)、礦物學協會誌(四)、地理學協會通報(四)、實驗及理論物理學雜誌(一二)、技術物理學雜誌(露西亞語版)(二四)、物理學雜誌(外國語版)(一二)、物理化學雜誌(一二)、一般化學雜誌(二四)、應用化學雜誌(一二)、物理化學々報(英語版)(一二)、ソ聯邦植物學(六)、細菌學雜誌(一〇)、土壤學(一二)、植物學協會通報(六)、自然(一二)、學術と生活(一二) 以上三〇種

マルクス・エンゲルス・レーニン研究所(略稱「イメル」)

一九三一年十一月、従前存立せるマルクス・エンゲルス研究所(一九二二年創立)とレーニン研究所(一九二三年創立)とを合併創設したもので、全聯邦共產黨中央委員會に直屬し共產黨最高學術研究機關である。マルクス、エンゲルス、レーニンの生涯、事業及びその學說の研究と彼等の著作遺産の出版、全聯邦共產黨史とコミンテルンの歴史に關する記録と資料の出版を目的とし、その文書記録保管所はマルクス、エンゲルス、レーニン及世界労働運動に關する豊富なる蒐集に於て世界第一と稱せられ、マルクス、エンゲルスの文書五千種、枚數にして五萬六千、レーニンの文書約二萬五千を保存する文書記録保管所と、藏書六十萬部を算する圖書館を有す。また研究所の主要なる事業としてマルクス、エンゲルス全集(獨逸語版)同露西亞語版三十卷、レーニン全集第二版三〇卷、レーニン著作選集六卷、同二卷、スターリン論文集、マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの各著作の單行本其他が出版され、また

全聯邦レーニン農業學士院

ソ聯邦に於ける農業の理論及び技術の中央指導機關であつて一九二九年創設せられたものである。社會主義農業の根本的問題を解決するためマルクス、レーニン主義方法に據り、農業を科學的に研究する事を以て目的となし、百二十五の支部を有する九十一の研究所、三百二十一の地方試験場、七百九十五の國營及共營農場に於ける支部、四つの獨立せる特別實驗所、八つの綜合試驗所と特殊試驗所、中央圖書館等全聯邦に廣く散在する總計一千三百五十の研究機關より構成せられ、ウクライナ、後カフカース、白ロシ

ヤ、中央アジアには夫々支部を有す。同學士院の所在地はモスクワ、現院長はソ聯邦學士院會員デー・デー・ルイセンコで、機關雜誌として「社會主義農業技術」を發行してゐる。

國際農業研究所(略稱「マイ」)

一九二三年モスクワに開催された第一回國際農民大會の決議により一九二五年國際農民會議(クレスチンテルン)が創設したもので、「農業經濟の理論並びに實際、世界各國の農業政策と農業法、農民革命運動、及び最初に搾取者を征服した露西亞労働者農民革命の經驗を研究すること」をその目的とし、それがため世界各國に於ける農業及び農民運動に關する廣汎なる資料の蒐集をなし、各種の學術機關、社會的政治的機關と廣く關係を保ち、學術調査、講演會、討議を行ひ各種の印刷物を刊行してゐる。また國際的機關としてブルジョア地主的及び小ブルジョアの理論との闘争、反ソ帝國主義戰爭の準備の暴露と反ファツシヨ反戰の統一人民戰結成の援助、ソ聯邦に於けるプロレタリアートと農民の革命戰術と農村に於ける社會主義的建設の宣傳を以て重要な任務の一としてゐる。尙世界各國の農業問題に關する統計年鑑及便覽を刊行し、その機關誌「農業問題」は一九二七年の創刊である。

A・M・ゴーリキイ記念世界文學研究所

一九三二年マクシム・ゴーリキイの文學活動四十年を記念して創設せられたものであるが、實際組織されたのは一九三五年六月である。世界文學史を研究する研究所、文學史と文藝學の専門家を養成する教育部及び古典文學の刊行と文學に關する文書資料を發表する出版部に分れた綜合研究所であつて、世界文學と聯邦各民族の作品及批評文學を集めた圖書館草稿及文書保管所、作家の肖像、挿畫等を蒐集した美術館を有してゐる。

ジュコーフスキイ記念中央航空力學研究所(略名「ツァギ」)

一九一八年創設されその創立者は有名な航空學者ニコライ・エゴロウイツチ・ジュコーフスキイ教授であつた。一九〇八年モスクワ高等工業學校に學生の航空研究會とジュコーフスキイ教授の指導する氣體力學の實驗室が作られ航空研究會の仕事に同教授の門下が携つたがこの門下が現在の中央航空水力學研究所の首脳部を構成してゐるのである。その後歐洲大戰時代これらの研究會と實驗室の仕事は擴大し、飛行機のカルキュレーションの驗算、その氣體力學的特性の決定、機體の耐久性より見たる飛行機に對する要求を目的とする計算試驗所が設けられるに至つた。十月革命後この計算試驗所が擴張され、初め交通實驗研究所の氣體力學部となり改組されて現在の中央航空力學研究所(正しくは「中央氣體及び液體力學研究所」)に獨立したものである。現

今ソ聯邦に於ける航空研究の最高機關で多數職員と研究部門を有しその内部の諸設備及び規模の廣大なる點獨逸のゲッチンゲン大學航空研究所と併稱されてゐる。最近航空事業の急速な進歩に伴ひ同研究所も擴大されその研究部門も複雑多岐に分れて來たので各専門の研究所が分離して別個に設置された。その主なるものは中央航空發動機製作研究所(略名「ツイアム」)、一九三〇年新設、中央風力研究所(略名「ツウエイ」、一九三一年新設)、水力研究所(略名「ゲイ」、一九三二年新設)、中央航空機材學研究所(略名「ウイアム」、一九三二年新設)である。

學術界彙報

スターリン・學士院名譽會員に推薦さる

一九三九年十二月二十二日ソ聯邦學士院はスターリンの誕辰六十年を記念し、モスクワ「學者の家」大廣間に於てシュミット副院長司會の下に特別總會を開催

したが、席上學士院正會員バツハの提議によりスターリンを滿場一致にて學士院名譽會員に推薦した。

スターリン獎學金

一九三九年十二月スターリンの六十回誕辰記念にソ聯邦人民委員會は十六の學術部門に對し、各部門別に年十萬ルーブルのスターリン獎學金を授與することに決定を見、これが布告を發したが、その部門は

- 一、數學、二、工學、三、化學、四、生物、五、農學、六、醫學、七、哲學
- 八、經濟、九、歴史、一〇、法學、一一、音樂、一二、繪畫、一三、彫刻、一四、建築、一五、演劇、一六、映畫

更に優秀な發明に對し二等獎勵金十件、各十萬留、二等二十件各五萬留、三等三十件各二萬五千留を設定したほか左記高等陸海軍學校の優等生に對するスターリン獎學金を設定することになつたが、金額は各一校につき毎月十萬留であつて、スターリンが如何に軍事獎勵に熱

心なるかを物語つてゐる。

- 一、ゼルデンスキイ赤軍砲兵大學—毎月千留宛百名
- 一、レーニン軍政治大學—毎月千留宛百名
- 一、ジューコフスキイ軍事航空大學—右同
- 一、スターリン赤軍機械化及裝甲化大學—右同
- 一、ウオロシロフ陸海軍大學—右同
- 一、キーロフ陸海軍大學—右同

癌腫新研究發表

「イズヴェスチヤ」紙の報ずるところによれば最近全聯邦實驗醫學研究所レニングラード支部に於て、連續的な接觸により人體に癌腫を發生せしめる化學物—カンツエロゲンなるものを若干の化學製造品中に發見することに成功した。ところが從來多くの場合癌腫はカンツエロゲンと一度も接觸したことの無い人に發生してゐる事實に徴し、人體の組織が癌腫發生の原因となるものを作りだすのでは

あるまいかとの推定が既に久しく行はれてゐたが、今回支部のシャバート教授が實驗によつてこの推定が正當であることを證明した。即ち同教授は癌によつて死亡した人の肝臓を取り出し(肝臓が癌腫に侵されてゐると否とに關係なく)これを細斷し長時間ベンゾール中に溶解した肝臓の内容物を抽出し、これを鼠の皮下に注射をなしたところ、七月九月を経て五七パーセントの場合惡質及良質の腫物が發生した由である。

學士院正會員及通信會員

増員選舉

一九三八年十月四日附聯邦人民委員會議の決定により聯邦學士院はその正會員の定員を一三〇名に(從來は八八名)、通信會員の定員を三三〇名に増加することに決定し十月八日新たに補充すべき正會員と通信會員の缺員數を左の如く公表した。

- 學 部 正會員 通信會員
- 1、社會科學部 一五 三〇

内	史學及哲學科	五	一〇
	經濟學及法律學科	五	一〇
	言語學及哲學科	五	一〇
2、自然科學及數學部		二〇	四〇
内	數學、物理學及天文學科	五	一〇
	地質學及地理學科	五	一〇
	生物學科	五	一〇
	化學科	五	一〇
3、技術科學部		一五	三〇
計		五〇	一〇〇

これに對して各地の學術機關より推薦された正會員の候補者は二四八名(内女二名)、通信會員の候補者は五四二名(内女一六名)に達したので、學士院は八つの銓衡委員會を設けて候補者の閱歴、業績等につき慎重なる審査をなした後各學部會に於いて豫選を行ひ、更に一月二十八、九兩日に開催されたる學士院總會に於て投票を行つた結果、正會員が技術科學部及び社會科學部各一五名、自然科學及數學部二六名計五十六名、通信會員は技術科

教 育

赤色教育の目的と其發展

革命によつて政治的權力を掌握したプロレタリアートは、「文盲撲滅」の旗幟を高く掲げて、大衆を過去の迷蒙より覺醒さすべく全精力を教育の方面にも傾注した。蓋し、過去の學校こそは、大衆の階級意識を鈍化させるため大なる役割を演じてゐたからである。一九一七年十月ソ聯邦政權樹立以來の赤色教育の發展は次の諸期に分つことが出来る。

戰時共產主義時代

一九一八年十月十六日附學校令によれば 第一、革命の成果及びソ聯邦政權を擁護し、共產主義社會に至る過程として社

會主義を建設することを要し、教育を以て之が實現の具となすべくブルジョア的手段化を防止しなければならず、此の目的のために、イ、教育の中央集權、ロ、教育及學問の政治化が行はれ、ハ、教育の解放殊に勞働者及農民に優先權が與へられる。

第二、從來遅れてゐた國民文化の程度を大に向上せしめることを要し、此の爲には教育の奨励、就中普通教育の普及其内容の變更及無學者並に一般民衆の教育を緊急とするが故に

イ、勞働學校の制度を定めこの職業教育と連絡せしめ、普通教育の内容を生産的勤勞に結びつけ、宗教と絶縁せしめ、ロ、普通教育の義務的國民皆教制度を實施し、教育を無料とし、ハ、被服學用品を官給し、ニ、無學者を教育して國民皆教の實績を擧げ、年少浮浪者收容教育を行ひ、ホ、校外教育機關を設ける。

第三、經濟建設の根本問題たる工業化及農業の發達に必要な技術及技術者を養成することを要するが故

イ、實用を主とし、普通教育と調和せる職業教育を興し、ロ、高等教育を専門職業教育化する。

第四、婦人を解放し、其啓發を圖ることを要するが故に

イ、學齡前の教育を發達せしめ、ロ、男女を共學とし、教育上男女を平等とする。

第五、國家文化の發達及經濟建設を基礎として、國內多種の異民族の開發を要するが故に

イ、小數民族の教育を興し、ロ、諸民族をして教育上自主權を有せしめ、就中各母國語により教育を行ふ自由を認める。

斯くて教育改善を急激に實施せんとしたが、革命に續く内亂、外國出兵、饑饉等のため國家經濟が破壊され、急速な教育改革は實現されず、他面、教育無用論を唱ふる者も現れ、當時の教育は不振を極めた。

新經濟政策時代

それが一九二二年新經濟政策の採用決定せられて以來、國家經濟力漸次恢復の

力を注いだのである。

尙普通教育に關しては、義務教育實施期の豫定を繰上げることとし、一九三〇年七月第十六回黨大會の決議に基き、同年八月十四日附聯邦中央執行委員會及人民委員會議決定（初等義務教育に關する件同年度法令第三十九號四二〇）に依り、同學年度より一般に初等教育四箇年を、又都市及工業地方に於ては七箇年を義務教育とし、次で一九三三年一月よりは十年制の普通教育機關を設けることとなつた。而して此期に於ては普通教育機關は所謂職業教育に於けると同様、階級的性質を帯び、勞農者優先主義が勵行せられたのみならず、綜合技術教育（ポリテフニズム）を高調し、學校には通常比較的整備した作業場があり、且學校は之を後援する各種企業、共營農場（コルホーズ）等に連絡せしめ、實際的勤勞を奨励したが、他方、上級學校入學の爲、學力の向上を要したるにより、普通教育の内容を改善し、系統的知識を一般的教授方法に依り授くる必要があつたが、此の

兩者の調和に苦心した次第は當時の法令に徴しても明瞭である。

第二次五ヶ年計畫時代

更に第二次五ヶ年計畫時代に於て重工業建設漸く一段落を告げ、聯邦經濟力の増進に伴ひ、ソ聯邦政府は輕工業の發達及國民生活の改善に努め、教育方面にも益益力を用ひ得るに至つた。

即ち普通教育に於ては第一次五年計畫時代に於けると同様、所謂綜合的技術教育（ポリテフニズム）を採用し、生産に關する原則及主要器具使用法の理解、並に勤勞の習性と基礎的諸學科に依る一般知識の習得とを結合したものを要點とした。

又職業教育に於ては重工業建設計畫の一段落と共に、機械及設備並に外國より取入れたる新技術を有効に活用し得べき専門技術家を必要とするのみならず、軍事的考慮よりも技術を習得せる人材を養成するの必要なるものあり、加ふるに從來は重工業建設を第一主義とし、技術

第一次五ヶ年計畫時代

次に又思想的に歩調を共にすることを得ざりし事例少からず、之が爲新思想を有するプロレタリア青年技術者の養成を必要とし、幹部派の思想、即ちスターリニズムに依り教育し、階級的自覺を扶植する爲、技術教育と平行して政治教育を強調することとなり、政治經濟問題に關する社會知識科の教育を重視し、上級學校への入學試験には之を必須科目とし、高等教育機關に於ても、専門學校の如何を問はず之を必修せしめたのである。

次いで一九二八年十月より一九三二年末に至る第一次五ヶ年計畫時代に於ては國民經濟の改造計畫經濟の施行に伴ひ、新經濟政策時代よりも更に技術者養成の急務に迫られ、旺に技術職業教育を強化すると共に、普通教育にも之を著しく反映せしめたが、他面、専門教育を受けるに必要な基礎知識を向上せしむることを要務とし、遂に普通教育の改善をも決意し、且之を全聯邦に普及し文盲退治に努

1938 年ソ聯邦に於ける學習者は 4740 萬人

學校の種類	1917年	1928—	1933—	1938—	1933—	1914—
	1915年	1928年	1934年	1939年	1934年 に對する 1938— 1939年 の%	1915年 に比し 1938— 1939年 はその何 倍なるか
I. 初等及中等學校	7896,2	12068,2	22095,7	31517,4	142,6	4,0
初等學校	7030,2	8770,1	11809,8	10646,1	90,1	1,5
準中等學校	230,4	2203,9	8150,1	11712,0	143,7	50,8
中等學校	635,6	977,8	2011,8	9028,2	448,8	41,2
其他の學校 (未成年者及補助學校)	—	116,4	124,0	131,1	105,7	—
II. 成年の中等普通教育	—	227,4	271,1	858,8	316,8	—
準中等及中等學校	—	170,7	—	750,9	—	—
労働者豫科	—	56,7	271,1	107,9	39,8	—
III. 幹部員養成中等學校	129,0	478,9	988,9	1194,1	120,8	9,3
工場學校及工場學校類似學校	—	—	—	—	—	—
中等專門學校及幹部員養成中等學校	93,2	272,6	400,0	242,2	60,6	2,6
IV. 高等教育	35,8	206,3	588,9	951,9	161,6	26,6
其中大學及高等專門學校	112,0	176,6	458,3	602,9	131,6	5,4
其中大學及高等專門學校	112,0	167,0	413,2	582,7	141,0	5,2
合計	8137,2	12951,1	23814,0	34173,2	143,5	4,2

修學の凡ての種類 (大衆職業教育の講習會及學校、幹部員養成の通信學校、文盲教育の學校及體園を) 含み 1938—1939 年ソ聯邦に於て學習せる者は合計 4740 萬人

初等及中等學校生徒數

學校の種類	1928—	1932—	1938—	1928—	1928—	1938—
	1929年	1933年	1939年	1939年	1933年	1939年
初等、準中學及中等學校生徒の 全員	11 951,8	21 256,9	31 386,3	100,0	100,0	100,0
1—4 級	10 349,7	17 674,6	21 202,4	86,6	83,2	67,5
5—7 級	1 437,5	3 515,2	8 780,0	12,0	16,5	28,0
8—10 級	164,6	67,1	1 403,9	1,4	0,3	4,5
都市に於ける生徒合計	3 284,5	4 766,7	9 298,5	100,0	100,0	100,0
1—4 級	2 129,9	3 392,9	5 240,1	64,9	71,2	56,3
5—7 級	1 002,5	1 311,2	3 203,3	30,5	27,5	34,5
8—10 級	152,1	62,6	855,1	4,6	1,3	9,2
村落に於ける生徒合計	8 667,3	16 460,2	32 087,8	100,0	100,0	100,0
1—4 級	8 219,8	14 281,7	15 962,3	94,8	86,6	72,3
5—7 級	435,0	2 204,0	5 576,7	5,0	13,4	25,2
8—10 級	12,5	4,5	548,8	0,2	0,03	2,5
其他未成年者學校補助學校及虛 弱兒童の爲の學校	116,4	140,2	131,1	—	—	—
全學校に於ける生徒總數	12 068,4	21 397,1	31 517,4	—	—	—

註 1938—39 年の學年度に於ける交通人民委員部所管鐵道學校は都市の部に編入した

は總てを決す」と云はれ、云はゞ技術者
濫造の傾きがあつたが、右建設の一段落
となつた後は之を運用し其の成果を收め
得べき人物、幹部の必要に迫られた。

斯くて一九三五年五月四日スターリン
は陸軍大學卒業式に於て「幹部は總てを
決す」と唱へて、人材の必要を強調し、
同年秋生産能率増進運動たるスタハノフ
運動擡頭以來、農工業の成績優秀なる者
に對し旺に行賞を行ひ、人材登用の道を
開くと共に、技術規準の引上を行ふや、
益々技術者及所謂幹部の養成並に技術知
識の補習教育の必要が力説せられ、之が
強化に努むるに至つたのである。

普通義務教育

既述の如く發展し來つた赤色教育は
之を普通義務教育、職業教育、政治教育
の三分野に分けて考へることが出来る。

先づ普通教育に就いて述べれば、三歳
以下の幼兒の教育は各所 (各地方) の保
健部の管理に屬し、托兒所、幼兒の家、
母子の家等にて之を行ひ、三歳以上七歳

以下の兒童は學齡前兒童の家及び幼稚園
廣場に於て單一勞働學校への豫備教育を
施してゐる。

國民普通教育の根本機關たる單一勞働
學校には滿八歳から入學せしめ、男女共
學であり、大體九年制で第一部四ケ年、
第二部五ケ年に分れ、第一部及第二部前
期 (三年) の合計七ケ年は普通の教育及
政治教育を施し、第二部後期の二ケ年は
多少職業教育をも授けてゐたが、三三年
一月より十年制の普通教育機關を設置す
ることとなり、四級迄を初等、五級から
七級迄を準中等、八級から十級迄を中等
學校と稱し、尙ほ七歳の學齡前兒童を教
育してゐた組を準備級と稱することにな
つたが、一九三九年三月の第十八回黨大
會はこの普通義務教育の程度を中等學校
(都市に於ては十年制、農村及民族共和
國では七年制) 程度に引上げる決議をな
した。また一九四〇年三月の最高會議第
六會期は一九四〇年度の教育費とし九一
億九千三百萬留を支出することに決し
た。(初等學校及中等學校維持費八七億

留、都市に於ける學校建設費一九二百萬
ルーブル、農村に於ける學校建設費は三
〇一百万ルーブル)。普通教育機關として
は七年制工場徒弟學校があり、他の七年
制單一勞働學校と同種であるが、勞働時
間、體育及其他の地方の工業に關係深
き學科の時間を増し、多少技術教育化し
たものである。又、共營農場青年學校は
社會教育と同時に農村に必要な知識を授
け、教化せられた農民を養成するを目的
とし、十二歳乃至十六歳の者を入學せし
め、修業年限は三年である。尙ほ幼年館
(三歳—七歳迄)、少年館 (八歳—十五歳
迄)、未成年館 (十三—十六歳迄)、不良
兒童化院等を擧げることが出来る。

かくて十月革命によるソ聯邦政權樹立
以來二十年間にソ聯邦當局は兒童の社會
主義教育といふその文化革命の重大課題
を如何に遂行して來たか、今これをソ聯
邦中小學校教育に現はれた最近の統計數
字によつて見れば、先づ二十年間に學校
敷地面積は一億一千萬平方米増加し、帝
政ロシアの二百年間に於けるよりも多數

初等、準中等及中等學校網の發達

學校の種類	1914/15年	1928/29年	1932/33年	1938/39年
學校總數	105 524	124 847	166 275	171 579
初等學校	101 917	114 401	136 209	121 723
準中等學校	1 654	7 086	26 752	36 261
中等學校	1 953	1 857	1 261	12 469
未成年者及虛弱兒童の爲の學校及補助學校	—	1 503	2 053	1 116
都市に於ける學校	11 754	11 328	11 292	18 004
初等學校	8 606	6 205	5 241	6 566
準中等學校	1 287	3 036	4 312	4 317
中等學校	1 861	1 563	1 138	6 371
未成年者及虛弱兒童の爲の學校及補助學校	—	525	601	750
村落に於ける學校	93 770	113 519	154 983	153 575
初等學校	93 311	108 196	130 968	115 167
準中等學校	367	4 050	22 440	31 944
中等學校	92	295	123	6 098
未成年者及虛弱兒童の爲の學校及補助學校	—	978	1 452	366

註 1938—39年の學年度に於ける交通人民委員部所管鐵道學校は都市の部に編入した

國民經濟の基本的部門に依る高等及中等學校に於ける基幹部員養成 (1938年9月15日現在)

部 門	高等專門學校		基幹部員養成の中等專門學校及其他の中等學校	
	學校數	學生數	學校數	生徒數
總數	708	602 940	3 732	951 884
工業及建築業	135	153 938	485	173 201
運輸及通信	30	40 738	149	62 654
農業	87	62 484	515	136 923
ソヴェート商業	8	5 554	52	14 703
經濟及建設事業	36	21 195	59	15 329
教育	264	189 166	829	255 962
藝術	22	7 528	296	29 717
保健	77	109 889	1 437	263 397
共產主義高等農學校及共產主義農業專門學校	9	12 448	—	—

ソ聯邦及び資本主義諸國の高等專門學校の學生數 (單位 千人)

國 名	1914/15年	1938/29年	1933/33年	1937/33年	1937/38年	
					1914/15年	1932/33年
ソ聯邦	112,0	176,6	504,4	547,2	488,6	108,5
英吉利、獨逸、佛蘭西、伊太利及日本	254,2	398,5	453,6	420,7	165,5	92,7

の學校を建設した。

また初等學校生徒數は一九一四、一五年度の八百萬より、一九二二年の千二百六十萬人、一九三八、九年度の二千二百二十八萬八千四百人に増加した。

右學校數は十萬六百校より十七萬校に増加し、一九一四、一五年度に於ける準中等及中等學校生徒數は七十八萬五千人であつたが、一九三八、九年度には一千二百七萬六千人である。國民教育に對する國家の支出も一九一三年に於ける一億八千二百萬留即ち生徒一人につき一留三十六哥であつたが、一九二五、六年度に於ては國家支出五億五千九百萬留、一九三六年度に於ては百三十四億六千百萬留、一九三七年度に於ては二百億留を超え、即ち平均生徒一人に對し百十八留であつた。

教師の數も初等中等學校を通じ、第一次五ヶ年計畫期間に三十六萬三千三百人より六十二萬八千人に増加して、現在ソ聯邦に於ては凡そ一百万人に達してゐる。因にソ聯邦各共和國の學校數及生徒の増加状態を示せば次表の如くである。

機 關	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
校 數	九一	一一九	七三	五九二	二四、七〇〇	二五、七〇〇	二七、〇〇〇	二八、〇〇〇	二九、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三一、〇〇〇
在學生數	二、四七〇	二、五七〇	二、六七〇	二、七七〇	二、八七〇	二、九七〇	三、〇七〇	三、一七〇	三、二七〇	三、三七〇	三、四七〇
技術學校數	三三	一、〇三三	一、一三三	一、二三三	一、三三三	一、四三三	一、五三三	一、六三三	一、七三三	一、八三三	一、九三三
同在學生數	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七	〇、三二七

尙一九三八、九年度に於ける高等教育機關數は七〇〇、學生數は六〇萬一千人、

職業教育

現在ソ聯邦職業教育機關として擧げ得るものは高等教育機關、技術學校、工場徒弟學校、夜間學校、短期速成學校、勞動豫備學校、通信教授學校等にして、全聯邦に網の目の如く隈なく設けられ、其數は逐年増加の傾向を示してゐる。

右の中、高等教育機關及技術學校に付て革命前なる一九一五年初、新經濟政策より第一次五年計畫への轉換期たる一九二八年、第一次五年計畫終了直後なる一九三三年初及第二次五年計畫半ばなる一九三五年初に於ける學校數及在學生數の比較を見るに左表の如くである。

一九三六年度に於ける技術學校數は二五七二、學生數は六〇萬人に達してゐる。更に第三次五年計畫(一九三八—四二年)に於て高等諸學校學生數は六十五萬人に増加される豫定である。一九三三年度に於て高等教育機關數の減少したのは一九三三年及一九三四年兩年度中に現代的要求に適應せざる小規模且時勢遅れの、若しくは臨時的に設けられた學校を閉鎖し、之に代へるに現代的な大規模機關を新設したが爲であつて、又技術學校の學生數の減少したのは多數學生が労働者豫備校へ入學、若しくは轉學を希望したが故と見られる。斯る傾向は労働者豫備校在學生數の著しく増加した事實に反映して居る。即ち同年度に於ける労働者豫備校數は七二八、在學生數は二八四、五四三名に達し、又工場學校數は一、七一二及同學生數は二四六、二八八名を數へた。

職業教育機關概要

現在主要職業教育機關の概要は左の如

くである。

一、工場徒弟學校

各工場に於て十五歳以上の者を收容し、毎日五、六時間労働する傍二、三時間宛修學せしめる。元來未成年労働者に速成的教育を與へる學校であつて、上級學校に直接連絡してゐない、年限は六箇月乃至重工業の如き重要専門方面では最長二年間で熟練労働者、將來工場労働者指揮者及工場長等の養成を目的としてゐる。

二、技術學校(テフニクム)

七年制普通教育機關たる準中學校と直接連絡する中等職業教育機關にして、修學年限は三年乃至四年である。技術學校の修了者は二年の義務年限の間實務に就いた後高等教育機關への入學試験受験資格を得ることになつてゐる。テフニクムに於ける教育は労働者に對し技術に關する知識を深め、技能を増進する機會を與へるので、スタハーフ運動の結果、從來の所謂突撃隊運動(ウダールニチエストウオ)より更に進

んでスタハーフ運動に依る能率賃銀制の採用せられて居る今日、各方面に於て大歓迎を受けてゐる。

三、労働者豫備校(ラプファク)

右は正則な豫備教育のない労働者及農民に對し、高等教育機關に入學する準備教育を施す爲に設けられたものであつて、普通高等教育機關に附屬してゐるが、各經濟機關に於て經營するものである。大體四箇年間に於て中等程度の普通教育を施すと共に、専門の基礎知識をも授けるものであるが、入學年齢は十七歳乃至三十歳、晝夜二部に分たれ、夜間部は二年、晝間部は三年の労働履歴を有し普通教育を修了し一般政治的豫備知識を有することを入學の條件としてゐる。

四、各種講習會

労働者資格向上の爲各種講習會があり、殊に一九三五年十二月二十五日共產黨中央委員會總會は「労働者をして勤務の傍ら講習會に於て技術知識を修めしめ、技術檢定試験を普及し義務的

に之に應ぜしむること」を決議し、重工業、輕工業、林業、交通等經濟關係の人民委員部に對し右講習會を開設すべき旨を勸告した。

五、高等教育機關

高等教育機關とは専門學校及之と同程度なる大學を併せて稱し、十年制中學校、技術學校又は労働豫備學校の修了者にして十七歳乃至三十五歳の者を收容し、五年間専門程度の教育を施すものにして、職業教育上最も重要な機關である。この機關の學習方法は自習を奨励して學力を向上せしめ、實習は學習時間の三〇乃至四〇%としてあり、卒業證書を受領するには國家試験を受け、技術關係の學科に就いては國民試験委員會の審査を経ることを要し、成績優秀なる者には第一級卒業證書を其他の者には第二級卒業證書を授與し、第一級卒業證書を受けた者は専門別に從ひ特定地位に就き學習研究を繼續し、又は在外研究員となることを得るのである。

民族共和國に對する職業教育の奨勵

ソ聯邦政府當局は夙に聯邦構成共和國に於て被壓迫民族及植民地人の居住地方だつた所謂邊疆民族共和國住民の教育に對しても大なる努力を惜しまなかつた。此等諸地方は帝政時代に於ては何等個々の産業文化もなく、民族的經濟の經營及教育施設のみならず國家的初等教育設備さへも禁ぜられたものが尠くなかつた次第で、教育機關の存在なきもの大部分であつたが、現在に於てはソ聯邦政府がレーニン及スターリンの民族政策を踏襲實施せる結果、右諸共和國は地方的に夫々民族經濟及文化を發展せしめ得べき機會を獲得した。斯くて現在民族共和國に於ける勤勞者の職業教育は各共和國内の教育機關及聯邦教育機關に於て平行的に實施せられてゐる。

尙共和國別に在學生數を掲記すれば左の如くである。

共和國	一九二九年	一九三五年
白 羅 西 亞	四、八〇〇	一四、〇〇〇
カザフ	三〇〇	一、九〇〇
ジョルジア	四、〇〇〇	一六、六〇〇
アルメニア	三、三〇〇	一〇、八〇〇
タヂク	一〇〇	五〇〇
バシキール	二〇〇	九〇〇
計	一六、八〇〇	四九、八〇〇

而して一九二九年度を一〇〇として高等教育機關在學生、指數を見れば、一九三三年度は夫々ロシア共和國二七三カザフ共和國六三三・三、ジョルジア共和國四一五、タヂク共和國五〇〇、バシキール共和國四五〇となり、増加割合は躍進的である。而して各民族共和國内の教育施設數の逐年増加傾向は、特に帝政時代に於て前述の如く民族的經營及教育施設のみならず國家的初等教育學校の設立さへも禁ぜられて居た地方に於て著しい。即ちカザフスタン地方はプロレタリア革命前に於ては住民の九八%は文盲だつたが、現在に於ては同共和國内には高等教育機關、技術學校及労働者豫備校

等が存在し、キルギス地方は革命前極めて文化的水準低くその住民は死亡率大なる爲激減の一途にあり、一八九七年より一九一七年迄の二十年間に三割方減少した程であるが、現在キルギスには一、七〇〇の小、中學校、高等教育機關三、專門學校一四、労働者豫備校四あり、加之キルギス人學生五〇〇名が聯邦の大學及專門研究所に於て勉學しつつある有様である。又ジョルジアに於ても帝政時代には一箇の大學も存在しなかつたが、現在一五、の大學及專門學校があり、一四、〇〇〇名の各種專門學校卒業生を出してゐる。

政治教育

ソ聯邦に於ては國民をして國家統治、農工の管理又は公共企業管理につき充分の理解を有せしむる必要を認め労働組合産業組合、其他の機關の協力により國民の政治教化に多大な努力を拂ひつゝあるが、其の施設の主なるものは次の如くである。

文盲清算委員會は読み書きの能力のな

高 等 學 校

共 和 國 別	學 校 數		學 生 數 (單位千人)					
	1914—15年	1938—39年	1914年	1928年	1932年	1938—39年	1932—33年對1938—39年の增加百分比	1914—15年對1938—39年の增加率(倍)
ソ聯邦全體	91	708	112,0	176,6	504,4	602,9	119,5	5,4
ロシア共和國	71	451	85,0	118,0	333,3	390,0	1117,0	4,6
ウクライナ共和國	19	129	26,7	33,8	111,8	124,4	111,3	4,7
白露共和國	—	23	—	4,6	10,6	17,1	161,3	—
アゼルバイジャン共和國	—	14	—	4,4	10,6	11,9	112,3	—
グルジア共和國	1	19	0,3	10,3	17,7	22,0	124,3	73,3
アルメニヤ共和國	—	8	—	1,4	3,5	6,0	171,4	—
トウルクメン共和國	—	5	—	—	1,2	2,4	200,0	—
ウズベク共和國	—	29	—	4,0	12,2	18,3	150,0	—
タダク共和國	—	5	—	—	0,6	1,4	233,3	—
カザフ共和國	—	21	—	0,1	2,7	7,9	292,6	—
キルギズ共和國	—	4	—	—	0,2	1,5	750,0	—

い無學者に普通教育を施すことを目的とする機關である。共產黨中央委員會は全文盲を清算する方針にて熱心に活躍しつつある。

労働者講習會及農民講習會は労働者及農民が單に文盲の域を脱し、読み書きをなし得る程度に満足しないので、更に進んでより高き教育を受くるために設置せられる。講習會の殆ど全部は夜間講習であつて、工場労働者に對するものは一年乃至三年、農民に對するものは一年乃至二年を以て修業年限とする。

労働大學は前記講習を卒へ、更に進んで専門的研究を希望する者を收容する學校である。政治經濟、文學又は専門的職業教育を施すが其地方の入學者の希望によつて教授細目を定める。此學校は名稱は大學であるが實際は職業的傾向を有する普通教育機關である。

獨學及自習機關の主なるものは、圖書館、クラブ、讀書の家、赤い部屋及通信教授である。圖書館は、都市にあるものは大部分労働組合の經營で、農村にある

ものは殆ど國營である。小村にあつては巡回文庫の制を設けてゐる。

クラブは都市及工場地帯に多く、主として労働組合の管理である、いづれのクラブにも子供室を設け幼児を預かり、婦人の労働に便ならしめてゐる。

讀書の家は農村に於て、都市のクラブに相當するものである。讀書の家の如く獨立した家屋でなくて、或る家の一室等を利用してその一隅を赤布で飾り多くはレニンの像を掲げ、新聞雑誌を備へたものを赤い部屋と稱してゐる。讀書の家には出版物宣傳文書を備ふるほか、映畫、ラヂオ等の設備がある。音楽芝居等を催す以外に、各種講習會、研究會、展覽會の開催に利用する。

通信教授は學齡期に教育を受けなかつた成人に對し、普通教育を通信教授の方法によつて授くるのを目的としてゐる。主要都市にその機關を設け、學習者に參考書及問題を送附し、學習者は解答を郵送すれば、答案を採點し説明し、更に新しい問題を送附する方法を以て行はれて

ゐる。

なほラヂオを利用する通信教授も近來盛に行はれるやうになつた。

文盲撲滅運動の不振

一九三七年五月露西亞共和國人民委員會の定例會議の席上、文盲並に準文盲撲滅運動に關する實績報告が行はれた。報告者は露西亞共和國教育人民委員部、モスクワ州執行委員會、アゾフ・黒海地方執行委員會、バシユキール自治共和國人民委員會等の代表であるが、右報告によれば「一九三七年度に於て文盲の完全なる清算を期すべし」との一九三六年三月十六日附聯邦政府並に黨の指令は全く所期の目的を達してゐないことが判明した。即ち一九三七年度に於ける文盲清算支出額は前年度に比し約二倍に増加してゐるにも拘らず、露西亞共和國全體では文盲の五〇%がまだ就學してゐないのである。尙、地方別の内譯數字を示せばアゾフ・黒海地方に於ては文盲の六八%モスクワ州では六〇%、バシユキール自

治共和國では五四%がそれ／＼未就學の状態を示してゐる。

教師の不足

教師の人員が不足することはすでに以前から問題になつてゐるが、教師の質の悪いことも可成りひどいものである。一九四〇年四月十日のロシア共和國教育人民委員部積極分子會議の席上、ロシア共和國人民會議々長代理スウホフはこの件に關し「ここでは數萬の優秀な教育家が居て兒童の共產主義教育を模範的に實施してゐる。しかし學校に對して教員を保障することが依然として不良な状態にあることを指摘しなければならぬ。それは學校の事業成績に影響せざるを得ない。即ち一九三八—三九年度に於て一五〇萬の生徒が退學し、約二〇〇萬の生徒が原級に留置となつた落第生である。政府委員の報告によれば三八萬人の教師が専門的な師範教育をうけて居らず、教師の三三%は準中學程度の教育しか受けてゐない」と指摘してゐるが、ロシア共

和國に於てさへ、以上の如くであれば、他の小數民族共和國の教師の質は想像外である。スウホフは續けて「第三次五年計畫は一層の擴張と國民教育の一層の向上を豫定してゐる。計畫に據れば、今後三年間に於ける教員の必要數は初等學校に對して一一三、〇〇〇名、準中學に對して一二八、〇〇〇名、中等學校に對して六三、四〇〇名である。この必要に應ずる爲には學校教員の短期速成を打切つて、本年の九月からでも中等學校に補習科を置き、師範科にしなければならぬであらう」と云つてゐる。通信教授による教員の資格向上も、一九四〇年四月十一日に行はれた通信教授に關するロシア共和國大會の報告に依れば芳しき成果を收めてゐない。即ち教員檢定の結果二萬五人の教師が代用教員通信教授を受くべき者と指定されたが、その後の成績は原級留置二二%、試験缺席者四〇%、所定の學課を終了しなかつた者七五——八〇%といふ狀況であつて、一九三九年の卒業生は高等師範學校通信教授部——二二、

〇〇〇名、師範學校——三五、〇〇〇名の少數に過ぎなかつた有様である。因に通信教授は單に講義録を購讀するに止まるものでなく、入學試験も、時々講話も行はれ、試験が課せられてゐる。教員の量の不足と質の劣悪は人材が教育方面に集まらない結果である。工業及農業の發展が人材を要求して止まず、恵まれる所の少い國民教育に身を捧げようとするものが次第に減じて行くといふ經濟事情がその一である。下級黨組織及行政機關の教師に對する官僚的輕蔑がその二である。一般的社會輿論の國民教育に對する無關心、兩親の兒童教育に對する無關心の結果としての教員に對する不信がその三である。

葉 報

民族共和國ロシア語強制

教授

ソ聯邦では各民族の固有文化並に民族語を尊重すると宣傳してゐるが、それは革命當時における弱少民族結成の好餌で

あり、現在では各民族共和國の固有文化解放政策の結果に惱まされてゐる。即ち近年各民族共和國における民族主義の擡頭、ソ聯邦政權離脱陰謀、民族的反革命運動など惹起せることであつて、その爲め第一回最高ソ聯邦會議選舉に際しても異民族の勢力伸長を巧みに制限するような方式が採用されたが、スターリンは民族解放政策宣傳の藥が利き過ぎたのに驚愕し、愈々その解放政策の假面をかなかぐり捨て、大ロシア中心政策を強行せんとするに至つた。そのため、從來民族語による教育を基本としてゐた各民族共和國にロシア語の強制教育を施行するに至つたことは、注目に値するが、黨機關紙ブラウダが一九三八年七月七日附の社説に於て、聯邦諸民族學校に於けるロシア語の義務教育に關する指令を全面的に支持發展させ、之が政治的任務の重要性を強調し、「ロシア語は國家統一の武器であるソ聯邦市民個々の財産とならねばならぬ」と論じ、右方針に反するものは「人民の敵」であると斷じてゐる。その結果

從來ラテン文字を使用してゐた自治共和國及自治州二十九では「勤勞大衆の希望により」と稱し、近くロシア文字に代へることに決定、それに使用さるゝキリル文字に依る文法、正字法は既にソ聯邦民族言語・文字研究所に於て作製されたが今後キリル文字を使用する主なる民族は、ヤクート、カレリヤ、カルムイク、オイロート、カバルヂノ、イングーシエチエチエン、アドウイゲイ、カラチャエフ、シヨル、オセチヤ等である。更に上記民族のロシア語強制使用に關聯し、一切の民族學校に於て使用さるべき初等ロシア語文法、大ロシア語辭典編纂が着手された。

またアルメニア共和國中央執行委員會及人民委員會は共和國諸學校に於ける現在のロシア語教授を不満足と認め教育人民委員部に對しアルメニアの學校全部及其の他の非ロシア人學校に新學期よりロシア語の強制教授を命じた。

タタール語露字化

ウドムルト自治共和國最高ソ聯邦會議幹部會はこの程、同共和國内に於けるタタール語をラテン語アルファベットより露語文字による新アルファベットに變更する法令を發布したが、右新アルファベットは一九三九年九月より同共和國の初等中等學校の一學年及二學年に於て一齊に使用された。また同共和國機關紙「レニン・ニールイ」は四〇年一月より新アルファベットにより發行され始めた。

初、中等學校教師資格規定

ロシア共和國教育人民委員部は教育從業員に對して審査を行ひ、三十二萬七千名に夫々初等、準中等、中學各學校教育の資格を與へたが、今後この資格の附與は國家試験委員會が行ひ、師範學校卒業者に對しては初等學校教員、教育者專門學校卒業者に對しては準中等學校教員、高等師範學校卒業者に對しては中等學校教員の資格を與へる事となつた。(一九四〇年一月)

占領地の高等學校改組

西ウクライナ、リウオフの高等諸學校改組のため人民委員會附屬高等學校委員會から派遣されてゐた學者團が十二月下旬モスクワへ歸還した。その報告によればリウオフの高等諸學校は全部ソ聯邦高等諸學校令によつて改組され、既にマルクス・レーニニズムの講座が開かれ講義が規則的に行はれてゐる。國立大學は史學、文學、法學、物理數學、博物學の五學部を有し、ロシア語とロシア文學、波蘭語と波蘭文學、古代語及東洋語等の講座も新設され、第一學年に一、〇二〇名を入學せしめた。この外高等工業學校醫學專門學校、獸醫學校、ソヴェート高等商業學校も開校され、高等工業學校は七二八名を入學せしめた。

赤軍技術大學二十年祭

レニングラードのクイブイシェフ記念赤軍技術大學は、ソ聯邦の高等軍事教育機關中最も古いもの一つであるが、十

二月六日創立百二十年に相當するので、記念祝賀會を開催し、校長グンドーロフ族團少將が開會の辭を述べた後、副校長族團技術監ワシリーエフ教授が「現代軍事技術の問題」と題して講演を行ひ、また同校の歴史に關する資料及文書の展覽會を開かれた。同校は一八一九年に創立されたもので今日までに幾多の著名な學者、發明家及軍事専門家を輩出した。かの文豪ドストエーフスキイ及グリゴロウイツチ、作曲家キユイもその卒業者で有名なメンデレーエフ、オストログラドスキイ等がその教師であつた。現在は赤軍のみならず全聯邦の一大學術中心をなし、その教授達はスターリン五ヶ年計畫の大建設に積極的に参加し、ドニエーブル水力發電所、モスクワ・ヴォルガ運河地下鐵その他の建設に盡力してゐる。

高等學校一九四〇年度卒業業者

ソ聯邦一九四〇年度の高等諸學校卒業業者は十一萬人の豫定であるが、その中教

育關係は四萬二千人、工業、運輸、通信關係は三萬九千人、農業畜産關係は一萬人、醫學關係は一萬七千人である。

カリニン州不就學兒童一萬人

ロシア共和國教育人民委員部の發表によれば、カリニン、ウオローネヅ、モスクワ、サラトフの諸州モルドワ自治共和國等に於て義務教育の實施が徹底されず、例へばカリニン州の如きは就學せぬ兒童は一萬人以上に上り通學をやるものも續出してゐるので同人民委員部は最近各地方、州、自治共和國の教育當局に對し速やかに實施を強化するやう指令を發した。

モスクワ機械製作夜學院の業績

重機械製作人民委員マルイシエフはモスクワ機械製作夜學院の十ヶ年の多大の業績を賞揚してゐるが同學院が國家に提供した技能優秀なる技師は約二千名に達

してゐると、現在の學生數は一千二百名あり、其の職業別は勞働者、職工、技術家、各工場長等で、何れも晝間は業務に携はつて居る者、卒業後は金屬仕上げ、鑄鐵、熔接の専門家を約束されてゐる。

白露占領地の國民教育方針

白露共和國人民委員會議は新たに合併された舊波蘭領西部諸州の國民教育に關する決定をなした。即ち農村に於ては四年制の初等義務教育を、都市に於ては七年制の中等義務教育を實施することとし、従来の宗教課目を全廢し、白ロシア及民族學校ではロシア語を、ロシア學校では白ロシア語を教授することとなつた。

ソ聯邦最初の歴史圖書館

モスクワの歴史圖書館は、一九三八年末スターリンの發案によつて創設されたもので、歴史博物館その他より一三〇萬部の歴史に關する圖書を譲受けたのであるが、更にその後一年間に佛蘭西大革命

及ビョートル大帝時代の古記録や書籍を含む七萬部の文献を増加し、貸出圖書數は約六〇萬部、主催した展覽會は二二に及んだといふ。

ソ聯邦最初の女法學博士

イズウエスチヤ紙の報ずるところによれば最近モスクワ全聯邦法律研究所の學者會議に於てレーニングラード法律専門學校教授イェ・アー・フレイシツツ女史の提出したるソ聯邦と資本主義國の民法に於ける個人の權利に關する學位論文を審査した結果婦人として最初の法學博士を授與することに決定した。同女史は帝制時代婦人として法律學を修めることが許されなかつたため佛蘭西に留學し、巴里大學の法科を卒業して歸國し辯護士の資格を得たがその後婦人であるため辯護士團より除名され、専ら教育方面に携つてゐたものである。

二十五才の博言學者

今回、スターリン賞候補者になつたモ

スクワ哲學及文學史學院學生セレブレニンコフ(廿五歳)は語學の天才でソ聯邦の言語學者コルシュ博士を除いて他に比肩する者がないと言はれ、彼の通曉せる言語は希臘、拉丁、獨、英、佛、伊、西、葡、羅、諾、タヂク、土耳其、ロシアニア、ラトウイヤ、芬蘭、瑞典、古代印度語で學士院會員ボクロフスキイの如きはソ聯邦及西歐を通じ自分の知つてゐる限りでは彼の如き若き博言學者を見たことがないと激賞してゐる。

高等醫學校一九四〇年度卒業生

ブラウダによれば一九四〇年度の高等醫學校に於ける國家試験が終了し、約一萬六千人が卒業した。その内五千五百名は農村に、二千五百名は病院及託兒所に派遣され、千六百八十名は、傳染病とバクテリアの研究及マリヤの撲滅に従事することとなつた。また中央亞細亞諸共和國に一、二六七名、極東地方に約八百名が派遣される筈である。尙全聯邦を通

じて醫師の數は現在約十萬四千名に達してゐる。

北方民族起源研究

最近ソ聯邦學士院史學及哲學部に於て北方民族の起源に關する研究會が開催され、多數の民族學者、考古學者が參集し種々の發表を行つた。それによれば西シベリヤとウラル地方に於けるアンシ、ハント、ドイツ、コミその他の諸民族の植民及び北東アジアのエウエンキ、ヤクート、チュクチ、コリヤーク諸民族の起源を研究した結果、北方民族間及び北方民族と南部ステップ地方民族間の複雑なる相互關係が明らかになり、西部シベリヤに於けるスキタイ(スキフ)人の文化的影響の痕跡を北氷洋に至るまで探查することが可能となつた。北方民族及びシベリヤ民族は極めて複雑なる歴史的發展過程を経て來たもので、彼等の起源を研究することは北米、東部及び中央アジア、東部歐羅巴に於ける他の諸民族の起源を決定する上にも極めて重要なものである。

民族共和國における露
語教育の最近の實情

民族共和國の露語教授問題についてはソ聯邦人民委員會議附屬高等學校事業委員會の主催が一九四〇年六月モスクワにおいて全聯邦會議が開催されたが、この會議の報告によれば露語教授の實情はこれが聯邦各共和國間の聯絡結合及び國防強化の最も重要な手段であるに拘らず教師の質は劣悪で各高等學校教授は露語教育に無關心で授業も形式的なため生徒の語學力はまだ極めて貧弱なものであるといはれる。

出 版

出版物と統制

ソ聯邦は極端なる中央集權によるプロレタリアート獨裁政治の國であるから、同政治に最も必要とする言論機關の主要なるものは新聞たる雑誌たるを問はず、中央部に集中せられてをり、地方のものは地方的諸問題を取り扱ふ以外は、總て中央部の轉載若くはその縮少であり、又中央部に於て發行せられるものも、その主要なるものを除けば、當該機關の宣傳機關たる性質を有するに過ぎないのである。

ソ聯邦に於ける定期刊行物は共產黨、政府、ソ聯邦機關又は職業組合の何れかの機關に屬し、プロレタリアート獨裁の擁護に對する最も鋭利且つ有力なる武器となり、又その獨裁の最高機關である共

産黨政治局は言論機關、特に新聞を通じて朝夕國民との接觸を保持し、又新聞は常に「革命的警戒」の大旗の下にプロレタリアート獨裁の爲の大衆動員に當り、社會主義經濟の建設を高調し、同建設事業の促進完成を助長するに力めると共に、他面一般國民の福祉の増進、教育文化の發達に貢獻してゐる。その使命遂行に就いては、各新聞雑誌は總て黨の指導方針に基き、その掲載する論說乃至記事は一つとしてこの目的の副はざるものなく、讀者に對しては宛然たる國定政治教科書となり、又異論者に對しては秋毫も假借する處なく絶えず整然たる規律を嚴守し、黨が黨内分派の存在を絶對に否認するの鐵則はこゝにも如實に反映せられてゐるのである。

ソ聯邦の言論機關は「萬國の勞働者團

結せよ」なる標語を掲げ、從來ステッキイを首班とする黨中央委員會文化宣傳部に統率せられ、共產黨の政策若くは方針に關する言論機關に對する指導は總て同部を通じて行はれてゐたが、近年文化事業の擴張に伴ひ、一九三五年五月右文化宣傳部を改組し、之に代へて文化、宣傳の内の新聞及出版課が新聞、雑誌、圖書並びに新聞關係者の配置及養成に對する監督を司ることとなつた。更に一九三四年から三七年へかけての肅清工作後にソ聯邦を襲つた無思想的混迷及、第一次五ヶ年計畫以來國家の經濟建設、技術、技能の必要により舊思想を脱し現政權の正當とする思想に忠實ならんとする幾百萬の新しきインテリゲンチヤが速成的に養成され、社會の各部門にその指導的、管理的部分に進出して來たが、革命的體驗のないこの新しきインテリゲンチヤは奉ずべき理論を持つてゐなかつたため共產黨の教化宣傳を強調する必要に迫られ、一九三八年九月「全聯邦共產黨小史」が

編纂され、黨宣傳改正に關する決定を公表し、黨中央委員會宣傳部はステツキイの後をスターリンの片腕たるジュダーノフが襲ひ、こゝに出版物の任務とその統制がいよ強化されるに至つた。

革命後の發展

革命後、ソ聯大衆の文化的水準向上の爲め、政府當局の採れる方策は洵に深甚なるものあり、従つてこの領域に於て重大なる役割を演ずる新聞、雜誌等印刷物の出版も物凄い増大振りを示してゐるが、左に簡単にソ聯邦出版界の現状を述べて見よう。

一九一三年の帝政ロシアに於ける新聞は八百五十九種、その發行部数は二百七十萬であつたが、一九三九年に於けるソ聯邦の新聞は八千七百六十九種、一回の發行部数は三千八百萬、即ち一九一三年に比し、その種類は約十倍、發行部数は約十四倍に増加してゐる。このうち地方新聞は三千三百九十二種、諸工場、國營農場、及農業用機械トラクター配給所で

發行されてゐるものは四千六百五種に上つてゐる。次に圖書の發行部数は、大戦前の八千六百萬部に對し、一九三九年は七億部で、約八倍となつてゐる。

帝政時代には各民族語で出版される新聞雜誌数は極めて微々たるものであつたが、今日では百一十一民族語(外國語を含む)で書籍が出版され、一九三六年には各民族語(ロシア語を除く)で出版された書籍数は一億三千三百萬部に及んでゐる。

各民族語(ロシア語を除く)で發行される新聞の種類も約三十五倍、即ち一九一三年の八十四種から三十九年の二千二百九十四種に増大した。

共產主義の開祖マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリン等の著作出版部数の増大も驚くべきもので、殊にレーニンの著書は、一九一七—一九三八年間に出版されたもの三千六百四十五種、發行部数は實に一億一千五百萬部に達し、七十二種の民族語に譯されてゐる。スターリンの「レーニン主義の諸問題」は最近十

年間に千四百萬部(二十九民族語)、スターリン憲法は二千七百四十萬部(六十二民族語)

一九三八年發行の「全聯邦共產黨小史」は千六百萬部に及んでゐる。

藝術作品の發行部数は更に物凄い増大振りを示してをり、一九三六年には合計八千萬部が發行された。革命を境として前後二十年間に於けるロシア最大の作家達の作品發行部数を示せば(各二十年間)

革命後		革命前	
ゴリッキイ	三千九百萬部	百萬部	
プーシユキン	二千九百萬部	九百萬部	
トルストイ	千四百萬部	九百萬部	

で、有名なオストロフスキイの「鋼鐵は如何に鍛へられたか」の如きは百四十四萬四千部の多きに達してゐる。

新聞

ソ聯邦の新聞は共產黨の直接指導下に發行せられ、又その標語として萬國の労働者の團結を標榜、新聞の論調は總て黨中央委員會新聞出版課により指導せら

れ、その結果は社説となり、論説、記事乃至は諷刺漫畫となつて紙上に現はれ、又地方新聞は總てモスクワ中央新聞の論調に追隨するものであるが、特にソ聯新聞の社説は黨若くは政府の意志の發表であるから、最も重要な意義を有する。

ソ聯邦に關係する國際上の事件が発生するか、又は黨若くは政府が重大な決定を發表する時は、中央及地方の各大新聞は一律に社説(此の場合地方新聞はイズウエスチャ若くはブラウダの社説を轉載することが屢々ある)を掲載し、事件若しは決定の内容趣意を敷衍説明すると共にその意義を高調して一般國民に對しその徹底を期し、常に内外に對し國內輿論の一齋集中主義を執つてゐるのである。

記者養成と記事蒐集網

ソ聯邦に於ては優秀な新聞記者としての第一條件は、レーニン主義に忠實な黨員にして黨の政策を全幅的に支持する者であらねばならない。黨中央委員會宣傳部では優秀な新聞記者の養成に力を盡

し、此の目的の爲に各地に新聞記者共產學院が設けられてゐるが、その中でもかの暗殺されたウオロフスキイ記念モスクワ新聞雜誌記者共產學院が有名であり、又一九三〇—三一年度の學年期からマルクス主義講座内に新聞部が開設され、多くの共產黨高等學校内にも新聞記者養成及再教育講座が設けられた。これらの學院の學生は黨員に限られ、卒業の上は多くは地方新聞の有責記者として派遣されるのである。有名な記者としては新聞雜誌協會議長で、ブラウダ紙から屢屢西班牙(特派されたが、最近失脚逮捕されたミハイル・コリツオフ、同紙に據るメフリス、ヤロスラフスキイ、コトレル、イズウエスチャ紙のラエフスキイ、アツシンスキイ、それに陰謀事件のブヘーリン、ラデツク等がある。

ソ聯邦各新聞が自己の特派員又はタス(ソ聯邦電報通信社)によらずして蒐集するニュースの主要なもの、各地よりの投書又は寄書と通信員の通信である。投書に就いては之を嚴査し、必要なも

のは之を紙上に掲載し、又一般國民の大衆と密接な聯絡を保つ爲に、選舉又は任命によらざる所謂労働者通信員、農民通信員及軍人通信員をして任意に新聞に對し社會各般の事情を通信せしめて、大衆の關心を政治問題の研究、經濟建設及學術、文化教育の向上に努めつゝある。

主要新聞

ソ聯邦の新聞紙は假に之を區別するならば、中央新聞、地方新聞、其他の新聞とに大別することを得べく、その性質に鑑み、一般政治的及指導的新聞、商業、經濟、財政新聞、工業新聞、運輸、交通新聞、軍事新聞、新人教育新聞(青年共產、ピオネル關係のもの)、職業組合新聞、コオペラチフ新聞、一般大衆向新聞(高級なる夕刊新聞より特に労働者及農民向の通俗的のものを含む)、政治部新聞(機械トラクター配給所、國營農場、交通、漁業等の各經濟部門政治部發行)等に類別することが出来、一九三四年現在國立中央圖書會議所統計に依れば、定

期發行せられるものは、ロシヤ共和國五九四一種、一日發行高一九、六九五千部、ウクライナ一、三九五種、二、六三三三部、白露一三四種、二二二千部、後高架索一四九種三九二千部、ウズベツク二二三種、五一八千部、トルクメン一八種三四千部、タヂツク八二種二八八千部、其の他一九種一〇千部、合計七、九六一種一、三三、七七二千部であり、不定期新聞は一、一三八種一、〇三七千部、總計一日二四、八〇九千部が發行された。

これらの内主なる中央新聞を挙げれば左記の通りである(二三を除き全部モスクワ發行である)。

△イズウエスチヤ(報道) || ソ聯邦最高會議機關紙、一九一七年創刊、日刊
△ブラウダ「眞理」 || ソ聯邦共産黨中央委員會及黨モスクワ委員會機關紙、一九一二年創刊、日刊
△コムソモリスカヤ、ブラウダ || ソ聯邦レーニン青年共産同盟中央委員會機關紙、一九二六年創刊、日刊
△ピオニールスカヤ、ブラウダ || 聯邦

レーニン青年共産同盟中央委員會機關紙、一九二六年創刊、隔日刊
△アヴィアツイオンナヤ、ガゼータ(航空新聞) || 五日に一回發行
△ベズボージニク(無神論者) || 聯邦戰鬪的無神論者同盟機關紙、旬刊
△ウエードモスチー、ウエルホーウノウオ、ソウエータ、エス・エス・エス・エル(ソ聯邦最高會議通報)
△ウエチエールニヤヤ、モスクワ(夕刊モスクワ) || 黨モスクワ市委員會機關紙、日刊
△ウオードヌイ、トランスボルト—モルスコエ、イズダーニエ(水運) 海洋版) || 聯邦海洋船舶人民委員會機關紙、隔日刊
△ウオードヌイ、ストランスボルト—レチユノエ、イズダーニエ(水運) 河川版) || 聯邦河川船舶人民委員會機關紙、隔日刊
△フセソユーズナヤ、セリスコホヂヤエストウエンナヤ、ウイスタフカ(全聯邦農業博覽會) || 全聯邦農業博覽會機關紙、日刊

關紙、週刊
△グドーク(汽笛) || 聯邦交通人民委員會機關紙、一九二〇年創刊、日刊
△イリュストリローワンナヤ、ガゼータ(繪入新聞) || 月二回發行、
△インドウイストリヤ(工業) || 日刊
△キノ(映畫) || 週刊
△クラスナヤ、ズウエズダ(赤い星) || 聯邦國防人民委員會機關紙、一九二四年創刊、日刊
△クラスヌイ、スポルト(赤色スポーツ) || 隔日刊
△クラスヌイ、フロート(赤色艦隊) || 聯邦海軍人民委員會機關紙、隔日刊
△リョーフカヤ、インドウイストリヤ(輕工業) || 聯邦輕工業人民委員會機關紙、一九三二年創刊、日刊
△レニングラードスカヤ、ブラウダ(レニングラードの眞理) || レニングラード州及市黨委員會機關紙、レニングラード、日刊
△レーニンスキエ、イスクルイ(レーニンの火花) || レニングラード、年一二

○回發行
△レスナヤ、プロムイシユレンノスチ(林業) 聯邦林業人民委員會機關紙、一九三二年創刊、日刊
△リチエラトウトルナヤ、ガゼータ(文學新聞) || ソ聯邦作家同盟機關紙、週刊
△マシノストロエーニエ(機械製作) || 一九三七年創刊、日刊
△メヂツインスキイ、ラポートニク 醫務從業員) || 年一二〇回發行
△モスコーフスキイ、ボリシエウイーク || 莫斯科ワ州及市黨委員會機關紙、日刊
△ナ、ストラージェ(看視) || 年一二〇回發行
發行
△ナウーチエノ、チエフニチエスカヤ、ガゼータ(技術新聞) || レニングラード旬刊
△ビシチエワヤー、インドウストリヤ(食料品工業) || 聯邦食料品工業人民委員會機關紙、一九二八年創刊、日刊
△ラヂオ・プログラムイ || 週刊
△ソウエートスカヤ、トルゴウリヤ(ソ

ウエート商業) || 聯邦商業人民委員會機關紙、日刊
△ソウエートスカヤ、イスクリストウオ(ソウエート藝術) || 週刊
△ソフホーズナヤ、ガゼータ(ソフホーズ新聞) || 聯邦ソフホーズ人民委員會機關紙、年一二〇回發行
△ソツイアリスチーチエスカヤ、スウヤー(社會主義的通信) || 聯邦通信人民委員會機關紙、隔日刊
△ソツイアリスチーチエスカヤ、ゼムレヂエーリエ(社會主義農業) || 聯邦農業人民委員會機關紙、一九三〇年創刊、日刊
△ストロイチエリナヤ、ガゼータ(建設新聞、繪入附録附) || 隔日刊
△トルード(勞働) || 聯邦職業組合中央會議機關紙、一九二〇年創刊、日刊
△ウチーチエリスカヤ、ガゼータ(教師新聞) || ロシヤ共和國教育人民委員會機關紙、隔日刊
△フイナソワヤ、ガゼータ(財政新聞) || 聯邦財務人民委員會機關紙、週刊

△フオト・ガゼータ(寫眞新聞) || 旬刊
△シヤフマトノ・シヤーシエチユナヤ・ガゼータ、六四(將棋新聞六四) || 週刊
尙極東地方から發行される新聞には、ハバロフスク市のチホオケアンスカヤ・ズヴェズダ(極東地方黨機關紙)、トレゾーガ(特別極東赤軍機關紙)、ブラゴウエシチエンスクのアムールスカヤ・ブラウダ紙、浦鹽市のクラスノエ・ズナーミヤ紙等がある。

タス通信社
タス通信社(ソ聯邦電報通信社)は聯邦人民委員會附屬の中央情報機關で左の如き獨占權を有してゐる。
1、ソ聯邦領域外に於ける同聯邦に關する情報の頒布
2、ソ聯邦領域内に於ける外國及全聯邦に關する情報の頒布
3、聯邦各共和國電報通信社の蒐集する情報の他の聯邦各共和國に於ける頒布
4、外國電報通信社との情報交換に關

ソ 聯 邦 に 於 ける 新 聞

	新聞紙の 種類の数	一年間に 於ける號 数	一回の發行 部 数 (單位千部)	年發行部數 (單位百萬 部)
1914年1月1日現在	859	—	2 629	—
1929年1月1日現在	1 197	91 569	9 431	2000,0
1934年1月1日現在	8 319	480 721	35 733	4984,6
1938年1月1日現在	8 521	866 822	36 197	7092,4
1939年1月1日現在	8 550	935 298	37 520	7435,3
内 譯				
聯邦	46	8 211	9 974	2366,8
共和國	114	19 164	3 994	898,3
自治共和國及び自治州	118	23 275	1 296	290,1
地方、州及び邊境地方	275	55 273	6 993	1635,2
區及び市	3 393	521 173	9 524	1789,6
下級 ¹	4 604	308 202	5 739	455,3

¹ 印刷所に依つて印刷せられるもののみ

ソ 聯 四 大 新 聞 の 發 行 部 數
(單位 千部)

年 度	イズヴェス チ ャ	プラウダ	コムソモ リスカヤ プラウダ	ピオネール スカヤ・ブ ラウダ
1923年	178	83	—	—
1925年	520	496	93	—
1928年	427	620	167	107
1933年	1 600	1 651	381	257
1934年	1 600	1 703	600	374
1938年	1 600	1 914	476	589
1939年(第一四半期)	1 600	2 000	—	—

する協定の締結

而してタス通信社は聯邦各地に限なく通信網を有る外、吾が同盟通信を初めロイター、アゼス、A・P、U・P、ステファニ等の外國大通信社と特別契約を結んで通信の交換をなし、當世界の主要都市には特派員を配置し、莫大の費用を投じて世界各國の情報の蒐集と報道に當つてゐる。その他ソ聯邦政府の決議、政府の對外的な意見の發表等も一切タス通信社を通じて行はれてゐる。タス通信社はソ聯邦人民委員會議の任命する一名の責任指導者社長及二名の代理によつて代表され、現在の責任者は一九三九年十二月七日附任命されたハウインソン(ヤー・エヌ)である。尙現在東京駐在のタス通信社特派員は二名である。

タス通信社員に大量叙勳

ソ聯邦最高會議幹部會は一九四〇年七月二十七日付を以てタス通信社創立五十周年記念に關係者及通信員の功績を表彰するため外報部長モートン、編輯長ムス

カトブリット、對外通信部長オワヂス、タス責任指導者ハウインソン、ウクライナ共和國ラタウ通信社指導者スイロモロトヌイに赤旗労働勳章を授與し、通信員ウイシユニヤコフ以下十三名に名譽章をレニングラード支部長アンツエロウイツチ以下三十五名に労働殊勳章を授與した、尙名譽章受領者中には嘗て駐日特派員だつた現外報部次長クドリヤフツエフの名が見えてゐる。

圖書雜誌

ソ聯邦の雜誌及單行本發行部數は一九三三年度四十三億、三六年度四十四億(内單行本五億七千萬冊)三七年度計畫五十四億で、雜誌だけでも一年間四十數億冊が發行されるわけであるが、之等無数の雜誌書籍類は新聞と同様、すべて共産黨中央委員會出版課指導の各種國立出版所、例へば政治關係書は黨出版所(バルトイズダート)、教科書は教育教科書出版所(ウチュペドギズ)、文學物は國立文藝出版所(ゴスリトイズダート)、兒童書籍

は共産青年同盟附屬兒童出版所(ヂエトイズダート)、外國向出版物一切は「メジユドナロードナヤ・クニイガ」社等々と各種出版所から發行され、之が販賣に當る書籍販賣聯合會書店は全聯邦内に一九三七年現在一九七八店を算してゐる。また主要雜誌を擧ぐれば左の如くである。

1、社會科學

ベズボーシユニク(無神論者) || 戰闘的無神論者同盟機關誌。ポリシエウイーク || 全聯邦共産黨機關誌。コムニステチエスキイインテルナツイオナル(共産インターナショナル) || コミンテルン執行委員會機關誌。ミロウオーエ。ホザヤイストウオ・イ・ミロワーヤ・ポリーチカ(世界經濟と世界政治) || 世界經濟研究所機關誌。バルチノエ。ストロイチエリスストウオ(黨の建設)。プラーノウオエ。ホザヤイストウオ(計畫經濟) || 國家計畫委員會機關誌。プロブレムイ・エコノミキ(經濟學の諸問題)。ボド・ズナーメニエム・マルクシズマ(マルクス主義の旗の下に)。プロバガンダスト(宣傳者)。スプートニク・アギタートラ(煽

動者の友)。ウニエリシユニヤヤ・トルゴ
ウリヤ(外國貿易)。ソウエーツカヤ・トル
ゴウリヤ(ソウエーツ商業)。ソウエーツ
カヤ・ユスチツイヤ(ソウエーツ司法) ||
司法人民委員部機關誌。ソチアリスチー
エスカヤ・ザコンノスチ(社會主義法制) ||
聯邦検事局機關誌。

2、文學藝術其他

イスクーストウオ(藝術)。クラスナヤ・ノ
イ(赤き處女地)。リチエラトウールナヤ
ウチヨバ(文學教程) || ソウエーツ作家同
盟機關誌。リチエラトウールヌイ・クリ
チク(文學批評)。モロダーヤ・グワール
ヤ(若き親衛隊)。ノウイ・ミール(新世
界) オクチャープリ(十月)。ロマン・ガゼ
ータ(小説新聞)。イスクーストウオ・キノ
(映畫藝術)。チエアートル(演劇)。トウオ
ールチエストウオ(創作)。ソウエーツコエ
フォト(ソウエーツ寫眞)。ソウエーツカヤ
・ムーズイカ(ソウエーツ音樂)

次に單行本は一九一三年に於ては二萬
千七百七十四種、發行部數八千六百七十萬
部であつたものが一九三六年には四萬三
千三百四十八種、發行部數五億七千萬部

年數百萬の書籍及雜誌發行

項 目	1913年	1928年	1933年	1937年	1938年	1933年に 對する 1938年の 百分比
發行部數(單位百萬部).....	86,7	568,1	659,5	923,7	949,9	144,0
印刷物の數(單位百萬).....	—	2 126,7	2 904,8	4 585,4	5 019,5	172,8

スターリンの報告「憲法草案に就て」はソ聯邦に於て四千二百九十萬部發行された
「ソ聯邦史」はソ聯邦に於て一千四百萬發行された
「全聯邦共產黨史」はソ聯邦に於て一千三百七十萬部發行された

書籍のみ

更に三七年には發行部數六億七千三百五
十萬部に上り、大戰前の約八倍となつて
ゐる。この内輕工業關係の一九一三年に
出版されたもの七四種、二十三萬二千部
であるが、一九三六年には七〇九種、四
十二萬三千部となつてゐる。同じく一九
一三年に於ける金屬に關するもの八種、
九千部が一九三四年に於ては四〇二種、
九十四萬四千部となつて居り、約三十倍
の増加で、機械製作に關するものは約六
十倍の増加となつてゐる。また一九三七
年中に書籍販賣機關で賣捌かれた兒童の
ための書籍は三千八百萬部に達したが、
一九三八年度に於ては三百七十六種、四
千四百五十萬部で、内初等學校以前の子
供達のもの百六十種、二千八百萬部で
ある。

またソ聯邦における定期刊行の露語雜
誌は一九四〇年八月現在四六五種に上つ
てゐるが、これを部門別にすれば左の通
りである。

1、社會經濟、政治 六四
2、地理、地方誌 五

- 3、自然科学 三三
 - 4、技術、工業、運輸、通信 一三五
 - 5、農業、林業、牧畜、獸醫學 五四
 - 6、醫學、生物學 五三
 - 7、文學、批評、美術、建築、
繪入雜誌 四〇
 - 8、幼年雜誌 一三
 - 9、國民教育、自習 二五
 - 10、體育、スポーツ、將棋 五
 - 11、書籍解題、文獻學 一六
 - 12、軍事 一八
 - 13、その他 四
- 次にソ聯民族語で發行されてゐるもの
は新聞を含めて四九種あり、言語別に示
せば次の如くである。
- 1、アゼルバイヂヤン語 一
 - 2、アルメニヤ語 一
 - 3、白ロシア語 五
 - 4、ブリヤート語 一
 - 5、ハンガリー語 一
 - 6、グルジャ語 三
 - 7、ユダヤ語 六
 - 8、ポーランド語 一

- 9、タタール語 一
 - 10、トウルクメン語 一
 - 11、ウズベツク語 一
 - 12、ウクライナ語 二七
- 更に外字定期出版物を掲げれば左の如
くである。

△英語版

- 1、インターナショナル、リテラチュ
ア(國際文學)一月刊
- 2、モスコ、ニユース(週刊繪入)
- 3、ユイ・エス・エス・アール、イン
コンストラクション(建設のソ聯邦)
一月刊繪入
- 4、ソウエートランド(ソウエートラ
國)一月刊

△佛語版

- 1、ラ、リテラチュール、アンテルナ
シオナル(國際文學)一月刊
- 2、ルヴユ、ド、モスクー(モスクワ
評論)一月刊
- 3、リュ・アール・エス・エス、アン
コントリユクシオン(建設のソ聯邦)
一月刊繪入

△獨語版

- 1、インテルナチオナレ、リテラト
ウーア(國際文學)一月刊
- 2、ウイ・デー・エス・エス・エル、
イム、パウ(建設のソ聯邦)一月刊繪
入

この他聯邦學士院より英、佛、獨語で
印刷されてゐる刊行物、「ソ聯邦醫學彙
報」(年四回發行)、「ソ聯邦物理化學彙報」
(月刊)、「ソ聯邦生物學及實驗醫學通報」
(月刊)、「ソ聯邦學士院報告」(旬刊)及
「物理學雜誌」(月刊)がある。尙、英佛獨
語の新聞は以前發行されてゐたが現在は
廢刊となつてゐる。

彙報

全ソ法典編纂

司法人民委員部に於ては現在全ソ法典
編纂案を審議中の由であるが、周知の如
く、今日までロシア、ウクライナ、白ロシ
ヤ其他の各民族共和國は、みな各自個別
の法典を有してゐたので、此の不便を除

去するため之等個別的法典を廢止して全ソ法典を作製することとしたのである。ソ聯政府の法律研究所は既に全ソ刑法を作製し、目下司法人民委員部參與會議の審議にかけてゐるが、其他既に作製済みのものは刑事訴訟法、作製準備中のものは、民法及民事訴訟法等である。

ソヴェート新百科辭典と大辭典露語正字法

一九三三年第一巻を出したメシチエリヤコフ監修の新ソヴェート小百科辭典(全十二巻の豫定)は最近第十巻を發行した。また聯邦學士院附屬マール言語思想研究所で豫て編纂中の露語正字法大辭典はこの程完成した。同辭典は十二萬五千語を輯録する大辭典で、有名なる露語學者聯邦學士院會員オブノールスキイが責任監督者となり、モスクワ及レニングラードの知名専門家を網羅して編纂したものであるといふ。

ソ聯邦の軍事専門雜誌

- 最近ソ聯邦に於ては國防の強化、軍備の擴張に伴ひ、軍事専門の印刷物も非常に増加したが、その内定期刊行の雜誌は一九四〇年八月現在の調査によれば左記十八種である。
- I、アフトプロニエタンコウイ、ジュルナル(装甲機械化雜誌)一月刊、モスクワ
- 2、アルチレリースキイ、ジュルナル(砲兵雜誌)一月刊、モスクワ
- 3、ボエツ・オホートニク(赤軍狩獵者)一月刊、モスクワ
- 4、ウエーストニク、ウオズドウシエノウオ、フロータ(空軍通報)月刊、モスクワ
- 5、ウエーストニク、ペー・ウエー・オ(防空通報)一月刊、モスクワ
- 6、ウオエンナヤ、ムイシリ(軍事思想)一月刊、モスクワ
- 7、ウオエンノ・サニタールノエ、ヂエロ(軍事衛生事情)一月刊、モスクワ
- 8、ウオエンヌイ、ウエーストニク(軍事通報)一月刊、モスクワ

- 9、ウオエンヌイ、ザルベージュニク(外國軍事)月刊モスクワ
- 10、ウオロシエロフスキイ、ストレロク(ウオロシエロフ射手)月刊、モスクワ
- 11、ウオエンノ・イストリーチエスキイ、ジュルナル(戰史雜誌)月刊、モスクワ
- 12、クラスナヤ、コンニツア(赤色騎兵隊)一月二回、モスクワ
- 13、クラスノアルメエツ(赤兵)一月二回、モスクワ
- 14、クラスノフロテツ(赤海兵)一月二回、レニングラード
- 15、モルスコイ、ズボールニク(海軍彙報)一月二回、モスクワ
- 16、テフニカ、ウオズドウシエノウオ、フロータ(空軍技術)月刊、モスクワ
- 17、テフニカ、ウオルジェエニイ(兵器の技術)月刊、モスクワ
- 18、ヒエミヤ、イ、オポローナ(化學

と防衛)一月刊、モスクワ

ソヴェート大百科辭典一

九四〇年中に編纂終了

イズウエスチャによれば「ソヴェート大百科辭典」(BSE)の第四十五巻が印刷を終り最近豫約者に配本されたが、同辭典全六十五巻中今日まで上梓されたものは第一巻より四十五巻までと第五十六巻より六十五巻迄の五五冊で、總發行部數三二〇萬部に上つてゐる。殘部の十冊も目下編纂を急いで居り一九四〇年には終了する見込である。第四十五巻には「プレハノフ」、「榮養」、「計畫經濟とプランの作成」、第四十六巻には「經濟學」、「北極探検」、「法律」、「國際法」、「土壤」、「剩餘價值」、第四十七巻には「産業」、「五ヶ年計畫」(第一、二、三次)、「勞働生産能力」、「全聯邦共產黨綱領」、「職業組合」、第四十八巻には「生産の合理化」、「ロシアに於ける資本主義の發達」、「祖國」、「赤軍」、「宗教」、「リアリズム」、第四十九巻には「ロシア共和國」、「ロシア文學」、「ロ

シヤ語」、「ロシア美術」、「ロシア音樂」、「ロシア演劇」、第五〇、五一巻には「北洋航路」、「社會主義國家」等の主要項目が含まれてゐる。第五十二巻は殆んど全巻「ソ聯邦」の項目に費され、發行部數は十萬部、最新の資料によつてソ聯邦の歴史の概観、自然、住民、國家機構、國民經濟、社會主義的文化其他各方面に亘り詳述されてゐる。

露西亞文學史近く發刊

ソ聯邦學士院文學研究所で編纂中の露西亞文學史(全十巻)は第一、三、五巻の編纂を終り此程印刷に附した。第一巻は今日まで殆んど研究されてなかつた中世紀の露西亞文學を取扱ひ、第三巻はビョートル一世時代より十八世紀の前半までを、第五巻は十八世紀の後半より十九世紀の初頭ブーシユキンに至るまでを詳述してゐる。近く第二、四、六巻も印刷に附さるゝ筈であるが、尙これと同時に高等諸學校用教科書の露西亞文學史(全三巻)をも目下編纂中である。

文學藝術其他

文學

現狀

一九三二年三月共產黨書記局の命令に依り、當時ソ聯邦文學界に對立的な存在をなしてゐたヴォアツプ（全ソ聯・プロレタリア作家協會聯盟）及ラツプ（ロシヤ・プロレタリア作家協會）其他の全文學諸團體が解散し、ソヴェト政權を支持し社會主義建設に参加しようとする凡る作家を網羅した單一のソ聯邦作家同盟を組織することとなり、ゴリキイを委員長にキルポチンを書記として組織され、翌三年ソ聯邦作家同盟が設立された。其後文學に於ける言語の問題、文學的遺産の批判的繼承、社會主義レアリズム等の諸問題が提起され、これらを解決

せねばならぬ新しい段階に到達したのであるが、一九三六年に於けるゴリキイの逝去、それに引繼ぎソ聯邦全土を吹き捲つた肅正の嵐によつて陥つた思想的混乱によつてソ聯邦文壇は不振を極めた。またこの文學界の不振打開の出口の如く最近國防文學の提唱が叫ばれ、夥しく國防文學作品が現れたが、これもまた未だ見るべきものゝない状態である。

革命後現在に至るまでの主要作品名と作者名を列挙すれば左の通りである。

「ピリニヤークの「裸の年」、イワノフの「裝甲列車」、リベチンスキイの「一週間」、セラフイモウイチの「鐵の流れ」、ゴリキイの「母」、クリム・サムギンの生涯」、「アルタモノフ家」、グラトコフの「セメント」、フルマノフの「チャパーエフ」、レオノフの「泥棒」、「穴

熊」、「ソーチ河」、フアジエエフの「壊滅」、「ウデゲ族最後の者」、シヤギニヤンの「中央水力發電所」ノウイコフ・プリボイの「對馬」、バウレンコの「極東」、シヨロホフの「静かなるドン」、「開かれた處女地」、グラトコフの「エネルギー」、パンフョーロフの「ブルスキイ」、アレクセイ・トルストイの「ビョートル大帝」と「麵麩」等である。

ゴリキイの「ロシヤ文學史」

モスクワ市のゴリキイ記念世界文學研究所では聯邦學士院會員イ・カ・ルツボル監督で、故マクシム・ゴリキイの遺稿「露西亞文學史」を出版することとなり、その依頼を受けた國立文學出版社では最近印刷に着手した。

本書は浩翰な著作で、序論に於ては文學の本質を明らかにし、露西亞文學發達の主なる段階を示し、第一部は十八世紀文學、第二部は十二月黨員とブーシユキンよりゲルツェンまで、第三部は六十年

代よりトルストイ迄が詳述されてある。

スターリン文學賞制定

舊臘スターリンの六十回誕辰を記念してソ聯邦人民委員會は數學、工學、化學、生物學、農學、醫學、哲學、經濟學、史學、法學、音學、繪畫、彫刻、建築、演劇、映畫の十六部門に對し、毎年各部門につき十萬留宛のスターリン獎學金を授與することに決定したが、今回更にこれに追加して「スターリン賞」と稱する文學賞を制定し、詩散文、戯曲、評論に對し、毎年一回その最も優秀なる各一篇に十萬留宛を授與すべき事を一九四〇年二月一日附發表した。

レールモントフの百年祭

一九四一年は露西亞文學に於てブーシキンと並び稱せらるゝ大詩人レールモントフの死後百年に相當するので、ソ聯邦人民委員會は一九四〇年一月二十一日附記念祭準備委員會を新設したが、議長には全聯邦作家同盟幹部會書記作家フアヂエエフ、議長代理には詩人アセーエ

フと聯邦學士院副院長シユミット博士、委員にはウオロシロフ、ジュダーノフ、フルンチヨフ、シチエルバコフ、メフリスを初め聯邦學士院長コマロフ、作家アレクセイ・トルストイ及シヨロホフ、批評家キルポチン、文學史家エイヘンバウム、ブラゴイ及プロドスキイ、劇壇よりネミロウイッチ、ダンチエンコとモスクウイン等五十八名を任命した。

ア・トルストイ文學の都會化に抗議

ソ聯邦文壇の大御所アレクセイ・トルストイは「ノーウイ・ミール」誌上で若い作家達に向つて、農村を深く知り、その質朴な習俗を體驗することが藝術にとつて極めて大きな價値を有することを説いてゐる。即ち

村落こそは「寶玉の言語の祕密」——「たつた一つの文句」で思想を表現する方法を教へるものである。然らばこの寶石の言語は如何にして近づき、如何にしてこれを發見すべきか？この言語

には法則といふものはない。またそれを作ることは出来ないが、その寶石は存在してゐるのである。その根源の生活の深い社會的基礎のなかに求めなければならぬ。特に田舎は過去を理解するために重要である。私どもも都會に生れてゐたならば、ステツプや荒茫たる田舎の大吹雪とか、基督降誕祭週間であるとか、松明や羊の毛皮などのやうな一種獨特な句を有つた様々の事物を知ることが出来なかつたらう。そして私は古いモスクワを描くことが出来なかつたであらう。古い記録の研究だけでは不十分なとは言ふ迄もない。藝術上の創造には味覺と視覺による感受が最も必要である。民族藝術は幼年時代から吸收されてゐる情緒的なものと、現代のものとを、味と匂ひによつて語るものであり、これによつてはじめて眞の藝術が生み出されるのである。なほこのトルストイの言はソ聯邦文壇に於ける藝術の都會化に對する恐らく最初の抗議と見るべきものであらう。

演 劇

ソ聯邦では、大衆教育の有力な武器としての演劇の役割が非常に重要視されてゐる、十月革命政府が、いち早く主要劇場を手に収めて、共産主義思想の宣傳のために利用した事實を見てもこのことが容易に理解されよう。

革命以前の演劇は、舊貴族、地主及ブルジョア文化の雰囲気の中に成長し、そしてその中に基礎を固め來つたので、これによつて直ちに十月革命を體現するには非常な困難を嘗めねばならなかつた。そこで革命に同感する劇場及びその關係者は、全ロシアのインテリゲンチヤ並びに藝術家達と共力して演劇のソヴェート化を行つたのであるが、就中、メイエルホルドの「演劇の十月」運動は特筆に値する。彼は政府の演劇政策に呼應して起ち、劇場革命を呼んで、當時の劇場主の政治的無關心に對して假借なき闘争を行つた。演劇革命の烽火は正に彼によつて上げられたといふも過言ではなからう。

音 樂

革命と音樂

一方プロレタリア獨裁の鞏化、その經濟組織の成功、これと關聯して技術的インテリゲンチヤの急速な分解作用と、地方藝術インテリゲンチヤの革命的、急進分子の成長も舊演劇をして新らしきソヴェート式軌道への轉向を速かならしめた。

ところが最近愛國思想が勃興して來た結果、劇場の上演目録も著しく變化し、露西亞民族の偉大さを強調したグリウカのオペラ「ツァーリに捧げし生命」を「イワン・スサーニン」と改題してモスクワ大劇場に上演したり、フリードリッヒ大王のプロシヤ軍に對する露軍の勝利を描いた新作の「スウオロフ司令官」がレニングラードのドラマ劇場に現れたりその他無数の愛國的色彩の強い國防戯曲が上演されてゐる。

音樂もまた他の藝術諸分野と同様、一

九一七年十月の變革によつて始めて、一億の勞農大衆の前に解放された。グリウカ、チャイコフスキイ、リムスキイ・コルサコフ、スクリヤピン、ボロヂン、ムソグスキイ等世界的に傑出した多數の作曲家樂人をその國土に有しながらも、帝政治下の壓しつぶされた重苦しい條件の下でロシアの大衆は完全に音樂の世界から閉め出されてゐた。チャイコフスキイを享樂し得るのは文化的な貴族層かブルジョア化したインテリゲンチヤか兎に角少數の限られたる特權社會層の間においてのみであつた。従つて舊ロシアにおいては偉大なる音樂藝術の生産をもちながらも廣汎な需要を缺いてゐるといつたやうな變則的な片ちんばな状態に置かれてあつた。

ところがプロレタリア革命はこの關係の上に鋭い一線を劃した。一億の勞農大衆が素朴な耳を持つて生れたばかりの新しい聽手として音樂の世界に登場した。だがこの音樂が、解放から創造へのコースを取り始めたのは藝術の他の部門、

少くも文學や演劇よりもおかれてゐた。四百萬を擁するソ聯邦労働組合、就中工場労働者の團體が、音樂の修得をその議事日程に上したのは一九二二、二年頃であつた。労働者や農民の子弟が積極的に音樂學校に入學するやうになつたのは、それよりも更におかれて一九二三年であつた。だがその後現在に至る比較的短日月にソ聯邦のプロレタリア音樂はその質の上において、又その量の上において如何に目覺ましい發展を遂げたことだらう。

音樂政策と音樂機關

一九二九年六月十日から二十日まで教育人民委員部によつてレニングラードに召集された全露音樂會議は、爾後のソ聯邦音樂の發達のために大なる役割を演じた。各地から參集した凡そ四百五十名の音樂關係者によつて、音樂政策の一般的問題が討論されその際ソ聯邦音樂の現狀が政府並びに黨の要求を充分に満足してゐないことが指摘され、それに基づいて音樂

を一般大衆教化の手段とするための指示が與へられたのであつた。

然るに一九三二年四月二十三日の文學藝術團體の改造に關する共産黨の決議は音樂界にも影響を與へ、遂にロシアプロレタリア音樂家協會は解散して、ソ聯邦作曲家同盟が誕生した。その機關誌は月刊のソヴェエツカヤ・ムーズイカ(ソ聯邦音樂)である。

優秀な音樂専門家を養成するための教育機關としての國立音樂學院(大學程度)がモスクワ、レニングラード、ハリコフ、バクー、キエフ、トビリシ等の諸都市にあり、専門學校程度の教育機關は枚擧に遑がない。

美 術

ソ聯邦美術の展望

ソ聯邦の美術界は、僅かに繪畫の方面でレービン、セロフ、ウルーベリ、ゴロヴィン、スーリコフ等の巨匠を有つてゐただけで、文學に於けるやうな大きな遺

産を有つてゐない。而して革命直後數年間の美術界は美術消費者としての支配階級の没落も一因となつて著しく衰微した。しかし革命の混沌の中にありながらも、進歩的な未來派の人々によつて美術革命の烽火はあげられ、やがて彼等の企圖は次で起つた構成派の運動によつて具體的に發展させられ、將來の産業美術の理論的基礎が與へられた。

新經濟政策時代(一九二一年—一九二六年)の美術は、社會生活の安定の結果、他の凡ゆる藝術部門と同様、寫實主義的傾向に傾き、美術復興の氣運が著しく醸成され、同時に又、各流派の美術團體も組織された。即ち一九二二年には「アフル」(革命ロシア美術協會)が結成され、次いで「四美術」「オスト」「生活」「火の華」等が独自の主張を掲げて現れた。

五ヶ年計畫が開始され社會主義建設が展開を始める再建期(一九二八年)になると群小美術團體は分裂し、指導的地位は「アフル」(アフル)の改稱)によつ

て占められた。最も進歩的な分子を成員とする團體は、反動的傾向と闘ひながら早くからプロレタリア・レアリズムを高唱し、「藝術を大衆の中へ」といふ標語を掲げてゐたが、一九二八年五月の第一四聯合會に於てこの主張を全面的に押し出して、「最も廣汎な勤勞大衆にわかり易いリアリステックな形式で、眞の革命的現實を美術的に抽出しその美術的社會的仕事によつて社會主義建設に積極的に参加する義務が我々プロレタリア革命の美術家の上にあるのだ」と主張してゐる。

尙、この時代の最も顯著な現れの一つとして忘れることの出来ないのは「イゾラム」(「勞働青年美術」)の擡頭である。イゾラムは青年勞働者からなる美術團體で、その活動は文化運動と緊密に結びつき、一切の抽象性を排斥する點に特徴を見出す。二三の誤謬にも拘らず、「イゾラム」の運動はソ聯邦美術への大なる貢獻

を期待された。

然るに一九三二年四月、黨中央委員會によつて發表された文學機關の改造に關する決議は、美術機關の改革をも結果し従來の美術諸問題を解放し、單一の組織としての「ソ聯邦美術家同監」を創設するに至つた。

翻つて、ソ聯邦畫壇現在の動向を見るに、嘗ては個人展や團體との展覽會が次から次へと開催され、畫壇そのものとしては相當の華かさを呈したが、現在ではソ聯邦藝術の本來の使命として、畫家達も各種の建設事業のために動員され、彩管を携へて、工場、農村、鑛山地に赴きソ聯邦の生きた現實の描寫に全精力を傾倒してゐるかの如くである。目下ソ聯邦畫壇に重きを成してゐる人々を擧ぐれば、既に革命前から畫筆を取つてゐた人としては、ベ・コンチャロフスキー、ベ・クヅネツォフ、ブロードスキー等があり、革命後、一家をなした者にゲラシモフ、リヤジュスキー、ボゴロドスキー、ヤーコウレフ等々がある。

映 畫

尙、ソ聯邦美術の重要種目として見逃すことの出来ないのは、漫畫とポスターの特異な存在である。前者は、ブルジョア社會に對する辛辣なる諷刺によつて、後者は教化的宣傳的意義をもつて、共に高く評價されてゐる。

ソ聯邦の彫刻界について言へば、彫刻家達は躍進するソ聯邦の現實に圍繞されながらも、能動的精神の一般的排除の故に、華々しからぬ現状にあることを指摘せざるを得ない。

映畫の目的

國家組織が根本に違ふ建前からソ聯邦映畫の目的もまた之に副うて、他の資本主義國家の映畫と大いに趣きを異にしてゐる。ソ聯邦映畫は全部イデオロギー映畫と稱しても間違ひはあるまい。ソ聯邦では映畫はもつとも大衆生活に縁の深い藝術部門であり、政府は映畫の持つ特性——大衆へのアツピールと普遍性——を利用して國民に對する生産技術の指導、社會主義國家の使命、教育及國策の圓滿遂行を企圖してゐる。

殊に注目すべき最近の現象としては、目下の世界非常時に對處すべくソ聯邦に於ては國防映畫及愛國的映畫が製作プランの中心を占めつゝある事である。

映畫統制機關

從來全聯邦映畫寫眞工業管理局が映畫統制の中心機關であつたがその中から反革命分子を出す等、種々の缺陷を暴露し

たので、聯邦人民委員會はこれを廢止し、一九三八年三月二十三日映畫事業の改善と統制強化の目的を以て、同會議直屬の映畫事業委員會を新設し、その議長にエス・エス・ドウケーリスキイを任命した。映畫事業委員會は二十二の部局よりなり、全聯邦の映畫トラスト、スタジオの全部を部局に編入し、映畫の生産より配給までの一切の指導及び統制に當つてゐる。

主要映畫製作所

- 一、ソユズフィルム
- モスフィルム(モスクワ撮影所)とレンフィルム(レニングラード撮影所)の二大撮影所を有す。
- 二、メジユラブボム・フィルム—モスクワに撮影所を有す。
- 三、ウクライン・フィルム—キエフとオデッサに撮影所を有す。
- 四、ベルゴスキノーレニングラードとミンスクに撮影所を有す。
- 五、ソユズフロニカ—記録映畫専門の製

作所でモスクワに中央撮影所を有す。六、ソユズテフフィルム—技術映畫専門の製作所でモスクワに中央撮影所を有す。

映畫網と觀客數

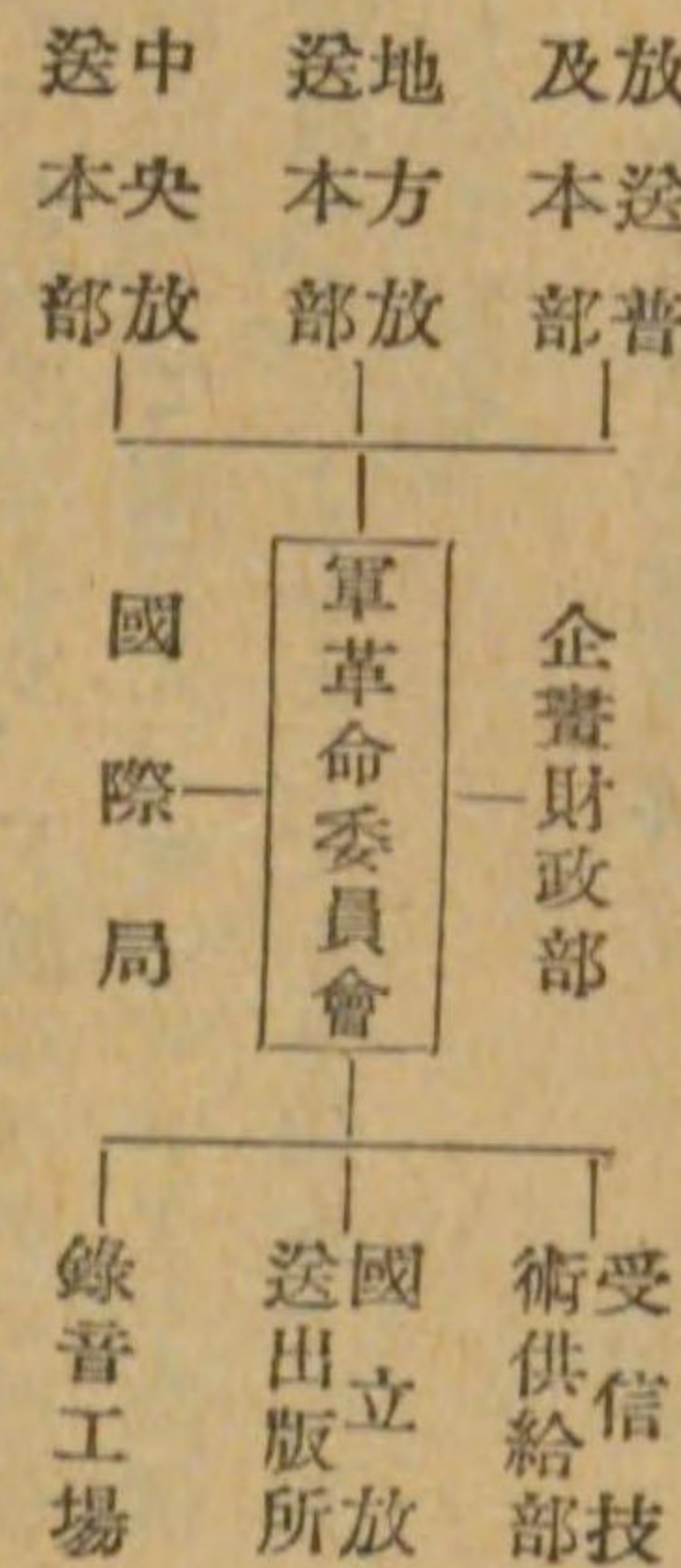
- (一) 映寫裝置數
- 一九三三—三三三三年度—二七、四六七(農村—一七、四七〇)
- 一九三三—三三三三年度—三〇、四六一(農村—一八、九九一)
- 内、トキーイ—四九八(農村—二四)
- 内、トキーイ—一五、二〇二(農村—六、六七〇)
- (二) 各映畫の觀客數
- 「チャパーエフ」—五千萬人
- 「ピョートル一世」—二千三百萬人
- 「十月革命のレーニン」—二千二百萬人
- 「マクシムの青年時代」—二千萬人
- 「マムロク教授」—一千百萬人
- 「アレクサンドル・ニエーフスキー」—六百萬人(一九三八年十二月中)

映 畫 館 及 映 畫 施 設

(年初 現在)

共 和 國 別	映 畫 館			映 畫 施 設 (小型フィルムを除く)			内トーキー	
	1914年	1933年	1938年	1915年	1933年	1938年	1933年	1938年
ソ 聯 邦 全 體	153	551	702	1 412	27 578	28 574	224	11 242
ロシヤ共和國	107	354	423	1 041	19 173	19 095	164	7 439
ウクライナ共和國	35	85	84	224	4 958	5 573	39	2 190
白 露 共 和 國	3	10	12	43	947	979	9	339
アゼルバイジャン共和國	2	14	15	17	447	389	2	188
グルシヤ共和國	3	22	48	29	420	475	5	240
アルメニヤ共和國	—	10	20	6	170	174	2	94
トウルクメン共和國	—	5	8	6	162	230	1	80
ウズベク共和國	1	32	36	25	469	533	—	263
タヂク共和國	—	9	13	—	44	123	—	64
カザフ共和國	2	6	26	20	683	846	2	279
キルギズ共和國	—	4	17	1	105	157	—	66

ラヂオはソ 聯 邦 に 於 て は 最 も 重 大 な る 宣 傳 機 關 の 一 つ で あ つ て 、 そ の 一 切 は 、 聯 邦 人 民 委 員 會 直 屬 の 聯 邦 ラヂオ 委 員 會 が 之 を 掌 握 し 、 其 の 中 心 的 指 導 機 關 は 、 ケ ル ジ エ ン ツ エ フ を 議 長 と す る V R K (軍 革 命 委 員 會) で あ る 。 此 の 指 導 監 督 下 に 中 央 放 送 本 部 、 地 方 放 送 本 部 、 ラヂオ 普 及 本 部 が あ り 、 又 國 際 局 、 企 劃 財 政 部 (會 計) 及 び 、 録 音 工 場 、 國 立 ラヂオ 關 係 出 版 所 、 ラヂオ 機 械 技 術 供 給 部 が 之 に 所 屬 し て ゐ る 。 (次 表 參 照)



ソ 聯 邦 に 於 け る ト ー キ ー 藝 術 映 畫

(年初 現在)

	1935年	1936年	1937年	1938年	1939年 (豫定)
映畫の數	70	104	131	148	190
コピーの數	—	—	10 857	13 987	19 950
一映畫のコピー	—	—	83	94	105

最 近 の 製 作 に か か る 映 畫

(1939年1月1日に於ける)

映 畫 の 題 目	プ リ ン ト の 數
「十月に於けるレーニン」	850
「銃を持つ男」	620
「偉大なる黎明」	600
「マクシムの青年時代」	550
「マクシムの歸還」	470
「ヴィボルグ側」	650
「國境に於て」	500
「ビョートル一世」(第一篇)	600
「ビョートル一世」(第二篇)	800
「アレクサンドル・ネフスキー」	800
「ゴリキーの幼年時代」	570
「マムロク教授」	615

て任命される。V R Kは放送局、中継局の新設計画統制に當りラヂオ商工業を監督し、中央放送本部、地方放送本部、其他各部を指導する。中央放送本部は特別放送を編成する外、一般プログラム計畫、中央放送團體の事業の規程を告示する。地方放送は地方放送本部指導の下に中央グループ、ウラル・シベリスタ・グループ、合同民族グループの三つに區分された、各州各地方各共和国ラヂオ委員会により、各州各地方放送局を通じて行はれてゐる。ラヂオ普及本部はラヂオ網の普及に従事し、ラヂオの發展と關係ある凡ゆる經濟的問題を整理し、又受信機の製作種類をも定める。其他全資本の融通供給、詳細なる資本の分配をなす企劃、財政部の技術的研究事業、ラヂオ機械の供給、共同聴取技術的講習の組織、其他藝術的人員の訓練が、委員会の指導の下に行はれてゐるのである。又地區、各企業、機械トラクター配給所等にある低度の初歩的な中継所もラヂオ委員会によつて組織されて居る。併しながら地方局は

聯邦又は地方のラヂオ委員会の許可を得なければそれ自體の特有放送を爲し得ずその時間も非常に制限されて居る。又地方局は時報及ラヂオ體操並びに政治ニュースは全部中継しなければならず、兒童向放送、ホルホーズ農民向放送は中央局より再放送する事を義務として課せられて居る。此の點に於てもソ聯邦が政治的文化的教育において農民と新しきヂエネレーションを擔ふ兒童に對して如何に注目を拂つてゐるか窺へよう。地方放送全體の一年間の所要時間は一二八、二二八時間（此の中他都市からの中継は二七、〇〇〇時間）で、延人員六千人以上の音楽家藝術家が絶えず此の爲に活躍してゐる。

ソ聯邦のラヂオ聴取者の數字に關する最初の報告は、一九二八年から存在して居り、其の當時約三十五萬と計算されてゐた。一九三五年四月の調によれば二千三百二十三萬であるといふ。しかしこれに關しては制限が置かれねばならない。といふのは聴取者の多くは強力な増幅機と大スピーカーを前にした共同聴取者であり、自己所有の受信セットを有するものは甚だ少く、大企業大工場地帯に於てもせいぜい三十ワット位の放送機を有する中継局を介して無線により送電を受けて居る程度で他は強力受信機から有線によつて各家庭に送られてゐるのである。

聴取者と聴取料

こうした装置はソ聯邦の集團制度にも依るものであらうが、一面受信機の供給不充足、真空管セットの高價にも起因してゐる。個人聴取者は最近の發展を考慮に入れても三百萬には達してゐないと言へよう。尙、此の三百萬といふ數字は非常に高く見積つたもので、一九三六年年鑑に依れば多數の聴取團體を除くと個人聴

取者は約五十萬と言はれて居る。次に聴取料は聴取者の所得と聴取装置の如何によつて段階を設けられてゐる。即ち鑛石式受信機に對しては年五〇哥、真空管受信機に對しては年二四留、俱樂部、公園その他公衆の集合する場所に於ては五〇留で、労働者は一ヶ月一、八留一、二、五留、共營農場員は二留一三留、

事務員は三留一四留の聴取料を支拂つてゐる。尙聴取料は一九三九年一月から三ヶ月分前納となつたが、従來は半年分前納だつたといふから驚く外はない。

放送局網

現在のソ聯邦に於ける放送局網は左表の如くである。

ソ聯邦ラヂオ放送局一覽

放送局所在地(支所)	呼出	電	波			
(名稱放送局)		(キロワ)	(米)			
1 モスクワ(コモンテル)	P B-1	500	1740	15	トルツクウリ	P B-51
2 バク	P B-8	500	1740	16	サラトフ	P B-81
3 ミンスク	P B-10	500	1740	17	ハバロフスク	P B-3
4 ノヴォシビルスク	P B-76	100	1240	18	イガルカ	P B-54
5 ヤクーツク	P B-62	100	1240	19	ウラン・ウデ	P B-85
6 エル・ツエー・ゼー	P B-43	100	1240	20	スタリナバード	P B-63
7 キエフ	P B-87	100	1240	21	クラスノヤルスク	P B-47
8 イルクーツク	P B-14	100	1240	22	アルハンゲリスク	P B-66
9 タシケント	P B-11	100	1240	23	アシハバード	P B-19
10 レニングラード	P B-53	100	1240	24	エレヴァン	P B-21
11 トビリシ	P B-7	100	1240	25	スヴェルドロフスク	P B-5
12 マハチ・カラ	P B-27	100	1240	26	ベトロザヴオドスク	P B-29
13 チェボクサルイ	P B-74	100	1240	27	オイロト・トウーラ	P B-83
				28	ロストフ・ナ・ドヌー	P B-12
				29	チタ	P B-52

スターリン賞受賞者発表

スターリン生誕六十年記念として制定されたスターリン賞の第一回受賞者は一九四一年三月審査発表を見たがこのうち藝術文學の部は左の如くである。

- 音楽
- 一等 マヤコフスキー以下二名
 - 二等 ボガトウイレフ以下四名
- 繪畫
- 一等 グラシモフ以下二名
 - 二等 エフアノフ以下四名
- 彫刻
- 一等 メルクローフ、ムフイナヤ
 - 二等 インガル以下四名
- 建築
- 一等 ザポロトヌイ以下二名
 - 二等 ドウシキン以下七名
- 演劇
- 一等 タラソヴァヤ以下二名
 - 二等 ババノヴァヤ以下四名
- オペラ
- 一等 バルソヴァヤ以下三名
 - 二等 アレクサンドロフスカヤ以下五

名

- バレエ
- 一等 レベシンスカヤ以下二名
 - 二等 ドウジンスカヤ以下四名
- 映畫
- 一等 アレクサンドロフ以下三三名
 - 二等 ベグ・ナザロフ以下五〇名
- 創作
- 一等 トルストイ以下二名
 - 二等 ヴイルタ以下二名
- 詩
- 一等 アセエフ以下二名
 - 二等 チヤムブル以下五名
- 戯曲
- 一等 トレネフ以下二名
 - 二等 ヴルギン以下二名
- 文藝評論
- 一等 グラバリ

以上

ソ連邦造型美術界の新計畫

ソヴィエト造型美術界では一九四一年秋以後の計畫として、彫刻、歴史など

ロマノフ百七十五周年記念

一九四〇年四月十五日はロシア科學の父と呼ばれるロマノフ(一七一—一七六五)の死後百二十五周年記念にあたり黨機關紙ブラウダ、イズベスチヤはじめソ連邦の各新聞雜誌ではソ連一流の科學者のロマノフ禮讚の論文を掲げた記念號を發行した他、國內各所で記念

講演會などを開催、その功績を稱へた。

チャイコフスキー生誕百周年記念

一九四〇年五月七日チャイコフスキー(一八四〇—一八九三)生誕百周年に際し、ソ連各紙はその社説や記念論文で彼を稱讚するとともに、記念日常夜モスクワ大劇場で記念祝賀會を盛大に舉行した。なほ記念事業としてはモスクワ市における記念碑建立計畫をはじめ全集選集出版、國內音樂學校へ彼の名稱附與などをはじめ、記念郵便切手が發行された。

トルストイ博物館復興

一九四二年一月のブラウダ紙によれば、一時ドイツ軍に占領されてゐたトルストイ翁のヤースナヤ・ポリャーナの博物館も復興すべくソ連邦學士院では幹部會を開き、その損害程度を調査してゐたが直ちに復興に着手、今年五月からは再び公開が出来るだらうと報じてゐる。

戦争文學一色の文藝雜誌

最近のソ連文學雜誌「ノーヴィ・ミル」を見ると殆んど戦争報告文學で満たされ、全誌は戦争に關する作品で蔽はれてゐる。殊に四一年第九十合併誌(但し四二年一月十一日印刷廻附のもの)などは戦争に關する寫眞を満載し、一般大衆の抗戰意識の昂揚につとめてゐる有様である。

また最近發行の四一年十一月、十二號合併誌(これも印刷は本年二月末—三月末)も前號同様であるが、あまり惡どい寫眞などはない。

蒙古人民共和國

概説

わが友邦滿洲國および蒙古聯合自治政府統治區域と直接境を接し、地政學的には當然東亞廣域圏の一翼たるべき外蒙古の地が、ソ聯邦の援助の下に蒙古人民共和國の成立を宣言したのは一九二一年である。廣漠たる草原と沙漠の國とのみしか一般世人には知られてゐなかつた外蒙も、かの昭和十四年—一九三九年のノモンハン事件によつて一躍わが國人にその存在に對して深き關心を抱かしめるに至つたのである。

もとより蒙古人民共和國は未だ國際的には承認された國家ではないが、すでに支那の宗主權は及ばず事實においてソ聯邦の一屬領と化し、その社會主義經濟プロツクの一環として政治、經濟、軍事、

社會等全面的にソ聯邦とは不可分の關係にある。この故にわが國も昭和十六年—一九四一年四月十三日モスクワにおいて締結された日蘇條約の附屬聲明において、滿蒙兩國の存在に言及しその領土の保全及び不可侵を相互に尊重することを約したのである。すなはち滿洲國および蒙古人民共和國は日ソ兩國によつて事實上承認せられたと同様の結果に立至つた。かくて前年來懸案のノモンハン地區國境確定委員會の現地畫定も完全に妥結終了をみたのである。

しかるに同年六月二十二日東歐の局面は一變して獨逸の對ソ進撃となり、従つて樞軸三國盟約國とソ聯邦との關係も亦極めて微妙なる影響を與へられることゝなつた。十二月八日つひに大東亞戰爭の勃發をみるに及んで、硝煙は全地球上を

蔽ひ事態は完全に世界戰爭の様相を帯びてきた。すなはち獨ソ戰勃發以來獨逸をその共同の敵とする英國および米合衆國は、ソ聯に對して武器援助、借款を供與などしてきたのであるが、一度大東亞戰爭勃發して米英兩國打倒がわが國によつて宣せらるゝや、しかも緒戦以來敗戦に敗戦を重ねつゝある兩國は、その苦境を打開せんがためにソ聯邦を抱き込んで對日聯合陣營に立たしめ所謂第二戰線を作らんとしてひたすら苦肉の策を弄してゐることは疑ふべくもない。

ヒトラー獨總統が一九四二年夏中にソ聯を殲滅せんと呼號してやまない時、ソ聯が果して米英の吹く笛に躍らされて大東亞戰爭に積極的な役割を演じやうと欲するものであるかどうかは多大の疑問の存するところであるが、いづれにもせよ全南方の制壓將に成らんとしつゝあるわが國にとつては同時に北方に對する注視も一刻も怠り得ない立場にある。

アリウシヤン列島方面よりする米側の攻勢も豫測せらるゝなど北邊水域に對す

る警戒は勿論であるが、北東アジア大陸におけるソ滿、滿蒙の蜿蜒曲節數千キロに及ぶ國境線こそ東亞共榮圈確立上の儼たるバリケードでなければならぬ。もとより日滿は一體、しかしソ蒙また不可分である。滿蒙の關係は日ソの關係であることは公式的現實である。同胞幾萬の血を注いだハルハ草原遙かに、ゴビの彼方の現状如何を認識することはわが國人にとつてまさに刻下の急務であらう。

しかしながらソ聯勢力下に入つてからの外蒙は、ソ聯の秘密政策的立場からしてその自由公開は許されず、外蒙側ソ聯側の發表ならびに研究者等の手に成れる發表資料間に往々數字上の相異矛盾を見出すもの尠からず、遽かに斷定を下し得ないものもある。従つてこゝには能ふ限り最近の資料に據り比較的妥當的な數字を採つて蒙古人民共和國の諸般の情況とその史的發展とを摘録せんと試みた。

ともあれ日ソ兩國は今友好條約の下にあり、獨ソ戰、大東亞戰爭勃發來行惱みの状態にあつた一九四二年度漁業暫定協

約も成立し新任駐ソ大使として佐藤尙武氏は既に任地に赴いてゐる。目下のところ日ソ間に異なる變化は認め難い。これはまた滿蒙關係に就いても同様であると言ひ得る。しかし乍ら革命以來二十年、反日恐日の宣傳に依つてのみ育まれてきた外蒙古人民が果してよく大東亞の安定勢力としての日本を理解してゐるかどうかは徒らに臆斷を許さざるものがあるのである。

總説

位置、面積

外蒙古、すなはち蒙古人民共和國は中央アジアの北邊、東經八十八度より百二十度、北緯四十二度より五十二度の間の地域を占め、北部の大部分はソ聯邦と境を接し、東部は滿洲國バルガに隣接、西部はトウワ人民共和國と境し、南部は蒙疆のシリシヤン、ウランチャップに、さらに西方に至つてはアラシヤン、エンヂンゴル・トルゴト、新疆と接壤して

ある。

以上國境線を通算すれば長さ四千三百キロその總面積は百五十五萬三千五百平方キロである。

地勢

この國は高原地帯に屬し、その平均高度は千二百米乃至千三百米、西部高山においては四千五百米に及ぶものあり、低地と雖も六百米乃至五百米を下らない。平原は主として東南部において僅少の地域を占めてゐる。

主なる山脈は蒙古アルタイ、ゴビアルタイ、サイリユゲム、タンヌ・ウラ、サヤン、ケンテイ、ハンガイ、ボルナイ、ハン・フーヘイ等で、國の西南部に沿うて走つてゐる蒙古アルタイ山脈に高山多く四千米以上の高山にあつては千古の積雪、氷河を頂いて四時消みることがなす。

この間にまた數ヶ所の低地、盆地および湖沼盆地が存在してゐるのであるが、これを概括すれば蒙古人民共和國は地理

的に大體次の九區域に分別し得られる。

- 一、アルタイ山嶽地區(蒙古アルタイ、サイリユゲム、コブド河流域を含む)
- 二、西部湖沼盆地(ウブサイル湖を中心とする盆地、およびコブド水系、ザブヒン水系の downstream 地帯を含む)
- 三、ハンガイ山嶽地帯(ハンガイ山脈、タンヌ・ウラ、サヤン兩山脈の支脈、ハンフーヘイ、ポルナイ等の山脈を包含するところのハンガイ、タンヌ・ウラ、サヤン各山脈間一帯の地域)
- 四、ケンテイの山嶽地帯、
- 五、中央ハルハ高臺(ハンガイの山嶽地帯から東南方、およびケンテイの山嶽地帯から南方へかけて展開してゐる丘陵全部)
- 六、東蒙平原、
- 七、中央低地(ハンガイの山脈地帯および中央ハルハ高臺を南方より區切り、東方サイン・ウスの低地に至るまでを含むところの南部湖沼盆地より成る)
- 八、ゴビアルタイおよび後アルタイゴビ地區(ゴビアルタイの諸山脈と之等の山脈間の低地、およびこの山脈の南方地帯、人民共和國南部邊疆地帯を含む)
- 九、東南部丘陵平原地帯(共和

國東南隅、ゴビアルタイから東部、及び中央盆地の東部から南へかけての地域)次に河川中の主なるものはハンガイ山脈に源を發するセレンガ河で國內を貫流してソ聯のバイカル湖に注いでゐる。その全長九百五十キロ、その支流としてはオルホン、エギンゴル、ハヌイ・ゴル等がある。ケンテイ山脈より出づるものにトラ、ハラ、イロ、アムール水系に屬するオノン、ケルレンの諸川、さらに國の西部および西南部においてはテス、コブド、ザブヒン、バイダリク、トウインゴル等の諸河がある。

また湖沼の最大なるものはコソゴル湖で面積三千平方キロ、次にウブサ・ノール鹹湖の二千五百平方キロで、その他の小湖も數多く存在する。

植物氣候帶

國が極めて峻烈な大陸性氣候を有することとは敢て怪むに足らない。従つて空氣は乾燥し、四季、晝夜の溫度ともにその差激しく、晝夜においては三十度から三十五度、四季においては七十度乃至八十度の溫度振幅をみることも珍しくない。一年平均溫度は零下一七度である。八、九月の頃既に初霜を見、十月から冬に入る。凍らぬ日は一年を通じて七十日乃至八十日、北部ソ聯國境地帯附近は永久凍土帯に屬する。夏季は酷暑で最高氣温三十五度に達する。

降雨量は極めて少く全國平均二百ミリ乃至三百ミリ位、夏季國の北部においては比較的多い。降雪少く、冬季は晴天勝ちで酷暑零下四十度に低下する。風は西北風が多い。

蒙古人民共和国の植物氣候帶は大體これを二つに分けることができる。すなはち一は北部ハンガイ植物氣候帶で降水量二百乃至三百ミリ、黒褐色土壌の草本ステップ地帯で全國土の六〇%を占めてゐる。他は半沙漠的な褐色砂質土壌を有す

るゴビ植物氣候帶で殘餘の四〇%の地域を占め、雨量は前者の半分もない。また山嶽地帯では垂直植物帯もみられる。

蒙古人民共和国經濟の基本をなす牧畜の發展につき支配的意義を有するところの植物帯は、ハンガイ山脈中の高山ステップとゴビの草本性荒原ステップであり、この兩地帯面積は全國土の半ばに達してゐる。植物被覆状況から區別すれば全地帯は大體のやうに配分されてゐる。

- 一、アルプス植物帯 四・八%
- 二、山嶽森林帯 五・一%
- 三、高山ステップ 二六・一%
- 四、ハヤガネ草ステップ 二〇・九%
- 五、荒地ステップ 一〇・六%
- 六、草本性荒原ステップ 二一・四%
- 七、灌木性荒原ステップ 一〇・〇%
- 八、沙漠地 一・一%

人口、住民、都市

蒙古人民共和国の總人口は約八十四萬人、うち本國人七十三萬九千七百人(一九三四年統計資料による)、殘餘は露、支

國人である。男女比率は男三十七萬九百人、女三十六萬八千八百人、人口増加率は〇・六%で甚だ低い。人口密度も極めて低く一平方キロ當り〇・六人である。

住民は北部蒙古族に屬するハルハ蒙古人が大部分を占め全人口の八八%、殘餘の一二%は西部蒙古族とみられる。少數諸民族によつて占められ國の西部地方に住んでゐる。これらはドユルベト、バイト、オリヨト、ザハチン、トルゴイト、ミンギイト、ホトン、アルタイ・ウリヤンハイなどであり、その他にトルコ系少數民族カザク、キルギス、タンヌ・ウリヤンハイ等も西部山間に遊牧生活を營んでゐる。

首都ウランバートルは國內最大の都市で人口約七萬人、それに次いでアルタン・ブラク人口約二萬人、バイントウメン、ツエツェルリグ、ムーレン、ハドハル、デブホランツウ、デルガランツウ等の諸都市がある。ウラン・バートル・ホト(赤色英雄の都・一九二四年改稱)は以前庫倫と支那人と呼ばれた町で、ロシ

ヤ名ではまたウルガともいはれてゐた。中部アイマクの中央に位し政治、産業、交通の中心を成してゐる。

運輸、交通

人民共和国の運輸交通機關としては古來よりの牛、馬、駱駝による運輸ならびに移動、近代的機關としては自動車および鐵道、大衆的交通機關としての自轉車も愛用されてゐる。

【牛、馬、駱駝】牛は荷車を挽く駱駝輸送用であり、馬は騎乗用および駱駝輸送用、駱駝は冬季の挽車、駱駝に用ひられる。これらは本來遊牧を生計の大本とする蒙古人民にとつては個人の移動手段としても交通運輸手段としても缺くべからざるものである。

【自動車】自動車は一九二三年以來外蒙に出現し政府が自動車運輸を國策として採用モンゴルトランスボルト(蒙古運輸)なる國家獨占企業を設立したのは一九二五年であつた。一九二九年ソ蒙合併機關モンゴルトランスに改組されたが、

一九三二年政府の極左政策修正以後ソ聯はこの經營から手を引き現在には完全に外蒙の國營企業となつてゐる。すなはちはじめ政府はモンゴルトランスに國內の運輸獨占權を與へ専らその發展擴充に努めたのであるが、それが荷馬車運輸の衰微を招き却て輸入物資の不足、商品饑饉等を齎したために國民の反對するところとなり、遂にこれを修正し自動車重用主義を擲つて私營の荷馬車、駄載運輸の振興に努めてゐるのである。

しかしながらこれによつてモンゴルトランス自動車運輸の使命は滅却されるものとおもはれず、むしろ駄載運送を含む外蒙全交通機關の中樞神經としてその役割は重加されゆくものとみなければならぬ。現在モンゴルトランスはウランバートルの本社を中心として次の九路線に定期運轉を行つてゐる。

- 一、ウランバートル—アルタン・ブラク間(三七〇キロ)二、同—デルガラント間(一、四六〇キロ)三、同—バイントウメン間(六八〇キロ)

- 四、同—ハトヒル間(八〇四キロ)
- 五、同—ウブルハンガイ間(六五〇キロ)六、同—ザムン・ウデ間(五七六キロ)七、同—ダランツアダガイ間(六〇〇キロ)八、同—デブホラント間(一、一五〇キロ)九、同—ツエツェルリツク間(四三〇キロ)

なほ運輸労働者、運轉手養成のためウランバートルに自動車學校が設けられて居り、モンゴルトランス全従業員の一七三二は蒙古人によつて占められてゐる。

【鐵道】一九三八年六月外蒙における最初の鐵道が敷設された。すなはち首府ウランバートルとナライハ炭礦とを結ぶ四十二キロの線路である。これによつてウランバートルの國營綜合工業は石炭の圓滑な供給をうけ外蒙工業の發展に大きな影響を齎してゐる。

一九三七年着工したソ聯ブリヤート自治共和國の首都ウラン・ウデと外蒙國境キヤフタ間の鐵道二百五十キロは一九三九年二月竣工すでに開通をみ、キヤフタ、ウランバートル間三百五十キロも開

- 【道路】共和國における主要道路は次の路線である。
- 一、チュウヤ國道(デルガラント—ツアガンヌール—コシ・アガチ—ビイスク間、全長八七〇キロ)
- 二、トウキン國道(デブホラント—ハトヒル—ハンガイ—シベリア線—クールトウク驛間、九一〇キロ)
- 三、キヤフタ國道(ウランバートル—アルタン・ブラク—キヤフタ—ウラン・ウデ間、六〇〇キロ)
- 四、ボルヂヤ國道(バイントウメン—エレンツアボ—ボルヂヤ驛間、四八〇キロ)
- 五、カルガン國道(ウランバートル—ウデ—張家口間、一、二〇〇キロ)

は連絡閉鎖されてゐるため現在國際的意義なく、その他はすべてソ聯との連絡幹線でありチュウヤ、キヤフタ、ボルヂヤ、トウシカの國道國境線には約七百臺の自動車配されて輸出入物資の輸送にあつてゐる。

【航空路】航空路はウランバートル—キヤフタ—ソ聯ウラン・ウデ間に定期航空路が開かれ、毎日一往復行はれてゐるが、最近ソ支聯絡ルートとしてウランバートルと甘肅省蘭州との間にも開通された模様である。

【郵電】一八六三年すでにロシア人によりキヤフタ、張家口、北京、天津間の郵便事業が開始されて居り、今世紀に入つてから更に三つのラインを加へて國營に移されたが外國郵便は現在シベリア經由で取扱はれてゐる。帝政ロシア時代外蒙に全長二千三百二十キロの電信を架設したが、一九一九年これを無償で自治共和國政府に譲渡した。また電話は首都ウランバートルほか各主要都市に架設されてゐる。郵便もまた普ねく設置されてゐる。

る。

ラジオはウランバートルに強力な放送局があり、各アイマク中心地にはラジオ中繼放送所が設けられて居り、全國的にラジオ普及運動が行はれてゐる。

【水運】一九二六年六月ソ聯と外蒙自治政府との間にセレンガ河にソ聯國營汽船を航行せしめる協定が成立し、このセレンガ航運局の管理の下に蘇聯ウラン・ウデとセレンガ河上流スーヘ・バートル埠頭間に二百七十九キロの河川航路が開かれてをり、冬季を除いて舟運の便がある。なほコソゴル湖にも夏季は汽船の便が開かれてをり、オルホン、トラ河等にも將來舟運の開拓が期待されてゐる。

産業、經濟

牧畜

外蒙共和國々民生活の根源をなし、またその國民經濟の壓倒的基幹を形成してゐるものは實に牧畜である。

蒙古人の史上に出現以來その絶對的生

活手段としての牧畜業は普く世人に知らるゝところである。すなはちすべての畜産物はアラート(牧羊者)大衆の生活必需品であり、同時に輸入物資獲得の唯一の交換手段でもある。換言すれば外蒙の牧畜を知ることすなはち外蒙人民の生産生活、物質生活を知ることである。外蒙の家畜中主なるものは羊、山羊、牛、馬、駱駝である。

牛は國の東部高臺、ケンテイ山脈の南斜面およびセレンガ沿岸地帯、ハンガイ山脈を中心とする中部以北に最も多く、その系種はブリヤート、キルギス、シベリヤ等の牛と同様中央アジア系の一種で赤、黒、虎毛等多く、肉は良質で肉量も多い。

馬の分布状況もほとんどの牛と同じく、ケンテイの山嶽地帯および北部、中部ハンガイ地區に最も多く、種類は全部同一血統ではなく、西部蒙古のカザツク、バイト民族等の居住地帯にはカザツク、キルギス系の馬が飼養されてゐる。純蒙古馬は背丈は低い均齊がとれ、氣候に對する

抵抗力が強い。従来外蒙において馬は騎乗用および遊牧の移動手段に役立つ外は比較的有益でないものとみられてゐたが、最近輸出されるほかに軍用馬として重要視されてきた。

羊は全家畜中最も重要な地位を占めてゐる。その分布は大體住民の密度に比例し、また多くの種類に分れてゐるが最多數なのはハルハ羊と稱せらるゝもので、背丈高からず、毛は細かく、體は白色で頭部は黒い。分布状態の最高を示してゐるのは矢張りハンガイの山脈地方、アラハンガイ、ウブルハンガイ、およびソゴルからケンテイの山國地域にかけてである。

山羊は比較的平均して分布してをり、種類は中央アジア系、羊に次ぐ重要性を有つて居り搾乳、肉用として役立つ。

駱駝は中部以南の蒙古に多く、就中東ゴビ、南ゴビに壓倒的多數を示し地方輸送上缺くべからざるものである。毛が重要資源であるばかりでなく乳も利用される。

この他に家畜としてサルリク(ヤク)ハイヌイクがある。

一九三四年ソ聯側發表の資料によれば、各家畜別頭數は次の如くである。(單位千頭)

駱駝	五三二・九
馬	一、六三八・二
牛	二、〇六八・〇
羊	一一、九八四・八
山羊	三、八八四・〇

ソ聯側資料によれば一九三九年の家畜總頭數は二千六百九萬五千頭、一世帯當り平均家畜所有頭數百十頭、これをアメリカの一人當り〇・五頭、デンマークの一人當り一頭に比すれば蒙古人民共和國においては一人當り二八・八頭といふ絶對多數を示してゐる。現在の頭數は大體三萬頭前後と推定されるが、一九四〇年における第八回大フルダグは新たに産業五ヶ年計畫を樹立し、一九四一年から一九四五年までに全國の家畜總頭數を五千萬頭に達せしむべく豫定し、なほこの増殖率を以てすれば一九五三年頃には

農業

外蒙に於ける農業は可成り古い時代から行はれてきたが、蒙古人の農耕技術、農具等も極めて幼稚で要するに牧畜の副業的な意味しか有つてゐなかつた。しかしてそれも支那の植民による農業に影響されたもので、支那人農業は清朝時代の外蒙駐兵による屯田開墾、その後十九世

紀末におけるセレンガ下流域における農業移民が最も隆盛を極め耕地面積は六、七萬デシヤチンに達してゐたといはれる。

自治蒙古成立後支那農民の數は一時減じたが、一九二〇年外蒙における支那居留民約十萬のうち農業移民は約五千人に達してゐた。しかし新政府は農業の開発に關し眞面目に考慮し一九二五年の第二次大フルダグにおいて次の如く態度を決定した。「蒙古は牧畜國であつて蒙古人の農業は殆んど見るものがなかつた。

しかし大フルダグはこの新事業が如何に困難なものであらうとも農業發展への誘導を國家の任務として課さんとするものである。そのため税金を免除し、農業従事者を大いに奨励し、現存國營農場を改善しまた新規に國營農場を設置する」

かくして従来殆ど農業を顧みなかつた牧畜蒙古人の農業經營も漸次發展を促進されたが、一九二八年當時政治指導權を獲得した極左派はソ聯に倣つて農業開發五ヶ年計畫を樹立し、一九三三年度にお

ける農業生産量を次の如く豫定した。(單位ブード)

小麥	三、五一〇、〇〇〇
ライ麥	五八五、〇〇〇
黍	二八二、〇〇〇
飼料穀物	一、二七〇、〇〇〇

すなはち此數は外蒙における穀物需要の總量を示すものである。

しかるに極左政策の撤廢とともにこの重農主義は解消され一九三四年第七回大フルダグに於て首相ゲンドウは「農耕業は共和國の自然的諸條件の故に若干の地方にのみ發展し得るもので、牧畜の補助的經濟部門である。國營農場における業態は不良であつた。國營穀物農場及び國營牧場は龐大なる經費を消費しそれを償ひ得ず國家に大損害を與へた」と報告した。かくして農業を以て牧畜の副業たらしめる方針を採用し、共營農場は解散され、國營農場も僅かに一、二ヶ所を残すのみとなつた。以後漸く西歐式近代農耕方法が奨められ、農事試験を専らにし、農器具の研究などが行はれてゐ

二億萬頭に達する可能性ありとしてゐる。

畜産物は獸乳、肉、皮革原料であるが、乳は自家消費用であり肉もまた重要食品である。輸出としては肉用の生畜としてソ聯に大量輸出されて居り、羊毛、皮革の輸出も外蒙經濟に大きな役割を有つてゐる。

牧畜の發展助成に政府は多大の努力を拂つて居り一九三六年獸醫派出所を國內七十五ヶ所に設立、畜舎の建設一九三九年度に十七萬四千四百五十六ヶ、さらに牧草貯藏奨励、近代式草刈機裝備、牧草ステーションの組織等に大當である。

一九三八年における農業従事牧民世帯數は一萬七千戸、一九三九年における耕地面積は一萬九千四百二十ヘクタールである。

外蒙農業は氣候的條件に恵まれず、土壤は未だ形成過程にあり沃土に乏しく、適農地は僅少散在するに過ぎない。主なる農業地區はセレンガ、オルホン下流域に及んでゐる。植物の生育期間は五月から九月までの間、平均百十七日乃至百二十五日でこの期間の平均氣温は一四・一度である。主要作物としては小麥、ライ麥、燕麥、大根、燕青、南瓜、人蔘、二十日大根、薄荷、茴香、葱等が挙げられてゐる。

この他コブド地方平坦地、ドウグリツク河沿岸、パント河、ハラヒラ河、ウラノム廟附近等各地に農耕地が散在してゐるが、之を要するに蒙古人民共和國の穀産物は少量でその總生産高を以てしては國內需要の僅々、三分の一を充すに足らない。その不足分はすべてソ聯の供給